YAESU
The radio

Wide-Coverage Internet Repeater Enhancement System

WiRES-II

取扱説明書

基礎編
この基礎編を読むだけで簡単な交信ができます

お使いになる前に 2
使用上のご注意 2
付属品・オプション 2
安全上のご注意　ー必ずお読みくださいー 3
WiRES-II の特徴 5
セットアップする前の確認 6
セットアップのながれ 8
WiRES-II サーバーのユーザー登録（WiRES ID 番号の取得申請） 9
WiRES-II でインターネット通信を行うために必要な機器 9
HRI-100 インターフェースボックス 10
HRI-100 の接続 11

インストールと基本的な使いかた 12
WiRES-II ソフトウェアのユーザー登録とダウンロード 12
WiRES-II ソフトウェアのインストール 14
WiRES-II の初期設定（サーバー接続） 17
WiRES-II ソフトウエア起動方法 21
WiRES-II のメイン画面の説明 22
ボリュームコントロールの設定 34
簡単な交信（FRG での交信） 38
WiRES-II ソフトウェアの終了方法 43
WiRES-II ソフトウェアのアンインストール 44

運用編

WiRES-II の運用 46
FRG のインターネット通信及び便利な機能 46
SRG のインターネット通信及び便利な機能 54

環境設定編

Property Screen の設定（動作や運用状態を設定） 58
HRI-100 setup 58
Call options 61
General settings 66
Sound settings 70
ID settings 72
Group settings 75
Rejected IDs 78

Audiosetting の設定（Audio 制御用の Sound driver に関する設定） 79
Audiosetting 79

Personal Setting の設定（自局のインフォメーションを設定） 85
Personal setting 85

WiRES 設定情報をバックアップ 88
Export / Import settings 88

ルーム開設編

Round QSO Room の開設 89
Round QSO Room の開設 89
Round QSO Room を開設すると追加される機能 92
Round QSO Room の利用時に便利な機能 99

付録

付　録 102
メニューバーの説明 102
メイン画面 127
キーボードショーカット 128
DTMF Command 表 129
ログリスト一覧 130
Remote monitor で制御できる機能 136
Web monitor で監視できる機能 138
WiRES-II 用語集 140
Q & A 一覧 145
お問い合わせについて 159
定格 159

Ver. 3.510, Rel.0.2

使用上のご注意

このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品をお買い上げになった方のみが、本製品の「使用許諾書」のもとでのみ使用することができます。

このソフトウェアおよびマニュアルの著作権は、八重洲無線株式会社にあります。その目的を問わず八重洲無線株式会社の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製または譲渡することは禁じられています。

八重洲無線株式会社は、このソフトウェアおよびマニュアルの内容に関し、特許権、特許を受ける権利、著作権、商標権、実用新案権、意匠権またはその他の権利を有する場合があります。八重洲無線株式会社は、これらの権利をお客様に譲渡または許諾するものではありません。

八重洲無線株式会社は、このソフトウェアの機能、内容、本ソフトウェア、マニュアル、印刷物、およびハードウェアに関して、本保証規定に規定されていないその他の保証は一切いたしません。

このソフトウェアおよびハードウェアの仕様、機能、内容、およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。

本製品は日本国内専用です。日本国内で使用してください。

本製品を日本国内以外の地域で使用することはできません。ご注意ください。

八重洲無線株式会社およびWiRESは、八重洲無線株式会社の登録商標です。また、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

警告：このプログラムは、著作権法および国際条約によって保護されています。このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製または譲渡することは禁じられています。

付属品・オプション

付属品

梱包品をご確認ください。

WiRES-II コントローラ HRI-100 1
WiRES サーバー使用許諾書 1
保証書 1
RS-232C ケーブル 1
USB シリアルケーブル 1
DATA 端子ケーブル（8 ピン↔ 6 ピンミニ DIN プラグ） 1
モノラルケーブル（サウンドボード用両端 3.5 φプラグ） 2
DC12V 用電源ケーブル 1

不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

オプション

・**NC-72A** AC アダプター
・**NC-86A** AC アダプター

オプションは，当社純正品のご使用をおすすめします
本製品は，当社純正の専用オプションと組み合わせて使用した場合に，最適な性能を発揮するように設計されておりますので，当社純正オプションのご使用をおすすめいたします.
なお，当社純正品以外のオプションを使用が原因で生じた故障や事故などの損害については，弊社では一切責任を負いませんので，ご承知ください.

安全上のご注意 －必ずお読みください－

本製品を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた障害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味

⃠	本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。
❗	本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。

⚠ 警告

本製品の取り付けや使用する際は必ずパソコンメーカーや周辺機器メーカー及びトランシーバーのメーカーが提示している警告･注意の指示に従ってください。

医療用電子機器の近くでは使用しないでください。
医療用電子機器に影響を与える恐れがあります。

本製品を改造しないでください。
火災・感電・故障の原因になります。

指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

電源コードは直接､直流電源に接続してください。
電源コードの延長や継ぎ足しは､火災や故障の原因になります。

機器を接続の際にケーブルやコネクター類は小さなお子さまの手の届かないよう配置してください。
さわってケガをしたり､感電する恐れがあります。

濡れた手で本製品に触れないでください。
電源プラグがコンセントに接続されているときは、感電する恐れがあります。また、故障の原因になります。

風呂場や洗面所など､水分や湿気が多い場所で本製品を使用しないでください。
火災・感電・故障の原因になります。

“煙が出ている”､“変な臭いがする”､“変な音がする”など異常な状態になったら､すぐにパソコン及び周辺機器の電源スイッチを切り､電源プラグを抜いてください。
そのまま使用を続けると､火災になったり感電する恐れがあります。お買い上げいただきました販売店またはサービスにご相談ください。

安全上のご注意　ー必ずお読みくださいー

⚠ 注意

本製品を押入や本棚などの、風通しが悪く狭い場所に押し込まないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

本製品をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。

本製品をジュウタンや毛布の上に置かないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

本製品の上に重い物を置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。

本製品の上に花瓶・化粧品・コップなどの、水の入った容器を置かないでください。
こぼれたり中に入った場合、火災や故障の原因になります。

本製品の上にクリップなどの小さな金属物を置かないでください。
中に入った場合、火災や故障の原因になります。

各種コードの上に重い物を載せたり、無理に曲げたり引っ張ったりしないでください。
コードが傷つき、火災や故障の原因になります。

シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

本製品を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。

長期間ご使用にならない場合には、安全のため本製品から電源を外してください。

万一、内部に異物が入った場合には、本機から電源を外してください。
そのまま使用すると、火災や故障の原因になります。

本製品を移動させるときには、電源コードを電源から外すとともに、各ケーブルや周辺機器などを接続している全てのケーブルを外した上で行ってください。

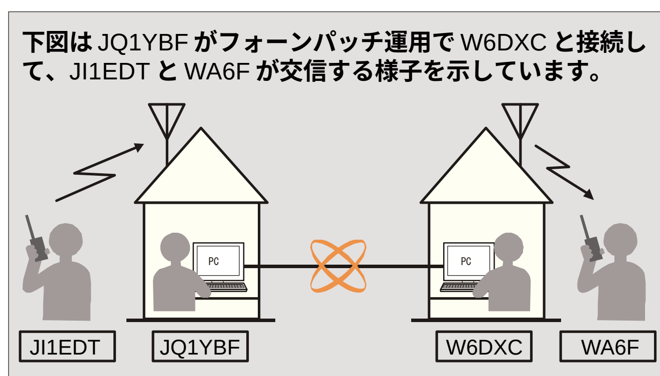
本製品を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形や変色などの原因になります。

WiRES-Ⅱの特徴

WiRES-II（ワイヤーズ）とは、**W**ide-Coverage **I**nternet **R**epeater Enhancement **S**ystemの略称で、アマチュア無線局同士をインターネットで接続して、VHF/UHFのハンディートランシーバーでも世界中のアマチュア無線局と通信をすることができる画期的なシステムです。

WiRES-IIは、通常のインターネット回線とパーソナルコンピューターを用意すれば、従来の無線機をそのまま利用することができますので、新たにWiRES-IIのための無線機を購入する必要はありません。また、インターネットへ接続するための制御方法はDTMF信号を用いているため、DTMF信号を送信できるアマチュア無線機器があれば、手軽にインターネットを介した通信を楽しむことができます。

WiRES-IIには**FRG**と**SRG**というユニークな概念を持っていますので、用途に合わせてグループをつくり、通信を楽しむことができます。



WiRES- Ⅱの通信システム

FRGとSRG

FRG

FRGとは“ Friendly Radio Group ”の略で、「仲の良い友達」というような意味で、八重洲無線のサーバーに登録された通信可能なすべての局を指します。これらの局を呼び出すには、送信時に6桁のDTMF信号を送ることが必要です。一度、インターネット接続が確立すれば、あらかじめ設定画面で設定した時間内（TOT）で、相手局とインターネットを経由して接続されます。一度インターネット接続が確立されると、設定時間内であればDTMF信号を送らなくても相手局とインターネット通信ができます。

複数のFRG局と通信をする場合は、FRGの無線局をグループ化してDTMFの“ B ”,“ C ”,“ D ”のそれぞれのグループにすることもできます（46ページ参照）。

また、従来のV/UHF帯FMモードと同様に、CQ呼び出しをして通信を行うような、いわゆるCQルーム（例#0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局とQSOを楽しむ小規模なRound QSO Roomが設置されていますので、手軽にQSOを楽しむことができます（49ページ参照）。

SRG

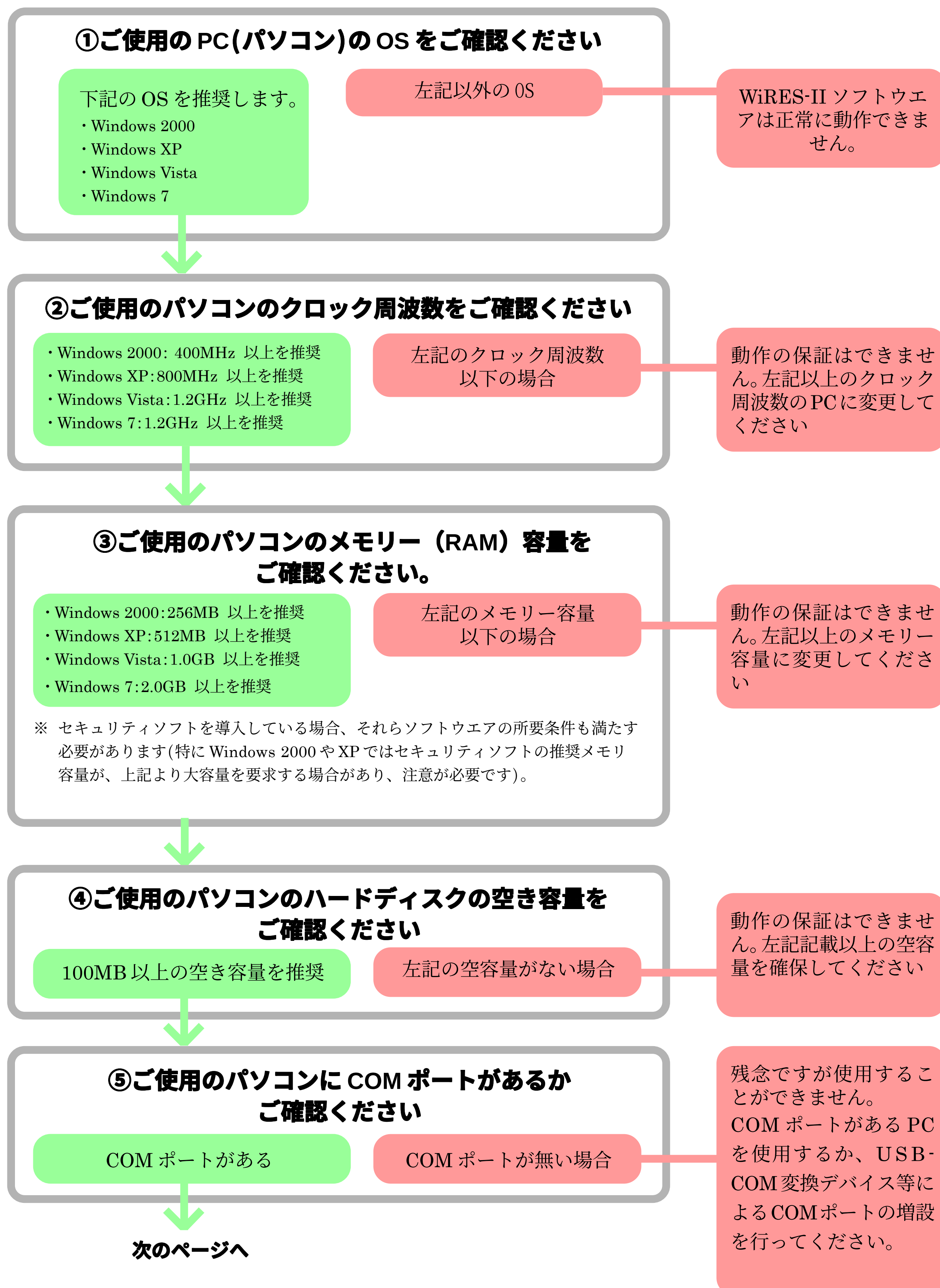
SRGとは“ Sister Radio Group ”の略で、「いつも話ができる姉妹のように、仲の良いグループ」という意味です。FRGは見知らぬ相手局と交信することができますが、SRGは離れた場所にいる仲間とだけ交信することができ、その仲間を最大10局（自局を含む）まで登録することができます（54ページ参照）。

SRGのグループ内では、お互いに同じリストを持つ必要があります。グループ内の局を呼び出すときには、1桁のDTMFを押すかインターネットキー（VX-3, VX-8等）を押すことで簡単にできます。一度インターネット接続が確立したあと、接続をロックする“ LOCK モード ”と通信のたびに接続をリセットする“ UNLOCK モード ”が設定できます。

基礎編

セットアップする前の確認

WiRES-II のセットアップ手順は次のようなながれになります。



セットアップする前の確認（つづき）

⑥ご使用のパソコンにサウンド機能があるかご確認ください

8kHzのサンプリングレートに対応したサウンド機能がある

サウンド機能がない場合 → サウンドカード等を増設してください

⑦ご使用のパソコンのビデオ表示機能をご確認ください

1024x768(XGA)以上の解像度、256色以上に対応するビデオカードとディスプレイを搭載している

左記の条件のビデオ表示機能がない場合 → 動作の保証はできません。左記の表示ができるビデオカードとディスプレイを用意してください

⑧ご使用のパソコンのネットワーク(LAN)機能をご確認ください

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TX等のLAN接続機能もしくは相当のネットワーク接続機能がある

左記機能がない場合 → 残念ですが使用することができません。LANカード等を増設してください

⑨インターネット回線の環境をご確認ください。

光ファイバー(FTTH)，ADSL，CATV等(8Mbps以上の回線速度がある環境)を使用している

左記条件を満たさない場合 → 動作の保証はできません。対応するインターネット回線環境を用意してください

⑩ISP(インターネットサービスプロバイダ)から供給される、IPアドレスをご確認ください

プロバイダーからグローバルIPが供給されている

左記条件を満たさない場合 → プロバイダーからグローバルIPが供給されない場合、運用ができません。グローバルIPが供給できるプロバイダーに変更してください

⑪ネットワーク環境をご確認ください

1. ルーターを使用していない

アドバイス

⑩の条件を満たしていれば運用可能ですが、セキュリティ対策を確実に行って下さい。

2. ルーターを使用している※
回線接続用モデムにルーター機能が内蔵されている物を含む)。

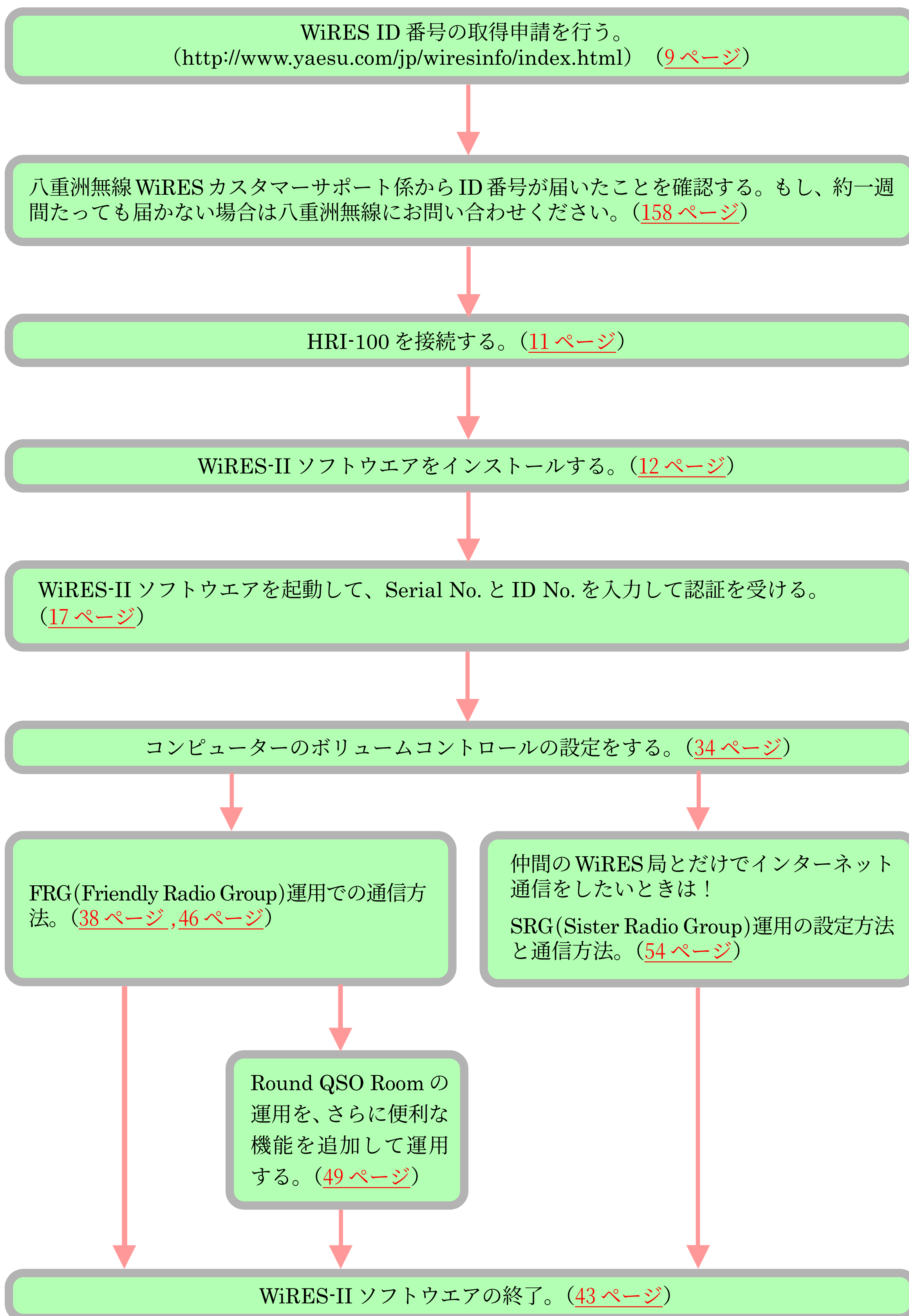
ルーターにアドレス変換機能がない場合 → 運用できません。アドレス変換機能があるルーターを用意してください

※使用しているルーターに、LAN側のPCの40000-50000ポートと外部インターネット回線の間の通信路を確保する機能(アドレス変換機能)がある場合は運用ができます。

1. 全て対応している → 最後まで順調に質問に答えられた方はWiRES-IIをご使用になれます

2. 一部対応している、または全て対応していない → 残念ですが使用することができません

WiRES-Ⅱセットアップのながれ



WiRES- IIサーバーへのユーザー登録 （WiRES ID 番号の取得申請）

WiRESを使用する場合は八重洲無線のWiRES-IIホームページ(http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html）で、「登録およびお問合せ」をクリックして、メールアドレス入力画面によりメールアドレスを登録します。登録すると、各種申請を行うサイトのアドレスが書かれたメールが届きますので「1. WiRES の新規 ID の取得申請（新規開局の申し込み）」のアドレスへアクセスし、必要事項を入力して ID の取得申請を行ってください。登録が完了しますと、「ID 番号登録のお知らせ」をメールにて送付致します。

「ID 番号登録のお知らせ」に記載されております番号がお客様の専用 ID 番号になります。この ID 番号が付与されますと八重洲無線のサーバーを使用することができます。「ID 番号」がないと「WiRES-II サーバー接続のユーザー登録」及び「WiRES-II ソフトウエア」のインストールができませんので、設定を始める前に必ず「サーバー ID 番号」を取得してください。

「ID 番号」は、WiRES サーバーを使用する上で重要なものですので、なくさないように保管してください。

八重洲無線は、アマチュア無線の発展・繁栄のため、できる限り努力してインターネットサーバーの運営・管理を行いますが、法改正、技術革新などの諸般の事情により、将来インターネットサーバーの運営・管理を行えないと判断した場合は、インターネットサーバーの運営を終了することがあります。

WiRES- IIでインターネット通信を行うために必要な機器

WiRES-II を開設するには本接続キット(HRI-100)のほかに、以下の設備が必要になります。

❐ トランシーバー

- ❍ ノード局(基地局)用に、mini-DIN 6pin の DATA 端子がついたトランシーバー
- ❍ アクセス局用に、DTMF 信号送出可能なトランシーバー(DTMF マイクを接続したモービル機でも可)

❐ インターネット回線

- ❍ ADSL 8Mbps 以上の高速インターネット回線を推奨。ただし、プロバイダーからグローバル IP アドレスが供給されることと、UDP:40000 ～ 50000 ポート(Web monitor 機能を使う場合は任意の TCPport1 つ)を使い、インターネット回線と通信できる必要があります(プロバイダーによってはグローバル IP を付与していない場合がございますので、事前にプロバイダーにご確認下さい)。
- ❍ WiRES 1 ノードにつき、1 つのグローバル IP が必要です。
- ❍ ルーターをご利用の場合、UDP ポートの 40000 ～ 50000 をオープンにする必要があります（ルーターの機種によっては同設定が出来ない場合もございます。設定方法はルーターメーカーやプロバイダーへご確認下さい)。
- ❍ 各種ファイアーウォールソフトをインストールされている場合には、WiRES-II のプログラム VSLAN.exe、VSDialup.exe、WiRES-II.exe を使用する場合のポートを設定するか、プログラムに対して外部との通信を許可する設定が必要になります。
- ❍ インターネット回線が安定しない場合には、音声が途切れたり、リンク接続が切断されることがあります。

❐ パーソナルコンピューター

- ❍ Microsoft Windows® 2000/Windows® XP/Windows® Vista/Windows® 7 のオペレーティングシステムを推奨
- ❍ プロセッサ動作クロック(各 OS により推奨するクロックが異なります)
  - ・Windows® 2000 の場合：400MHz 以上　・Windows® XP の場合：800MHz 以上
  - ・Windows® Vista の場合：1.2GHz 以上　・Windows® 7 の場合：1.2GHz 以上
- ❍ ハードディスクの空き容量（ソフトウエアインストール用に 100MB 以上必要）
- ❍ RAM(各 OS により推奨する RAM 容量が異なります）
  - ・Windows® 2000 の場合：256MB 以上　・Windows® XP の場合：512MB 以上
  - ・Windows® Vista の場合：1GB 以上　・Windows® 7 の場合：2GB 以上

  ※：セキュリティソフトを導入している場合、それらソフトウエアの所要条件も満たす必要があります。
- ❍ COM ポート（USB シリアルケーブルによる接続も可能）
- ❍ 1024 × 768 以上の画像解像度(XGA)、256 色以上をサポートするビデオカードとディスプレイを推奨
- ❍ インターネット接続するための LAN 環境（10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-TX もしくは相当機能が必要）
- ❍ 8kHz のサンプリングレート対応サウンドボード(サウンドボードの種類によっては、動作しない物がありますのでご注意下さい)
- ❍ OS、CPU、サウンドボードの種類、他にインストールしてあるソフトウェアによっては正常な動作をしないことや、一部の機能が制限されることがあります。

❐ ソフトウェアー

- ❍ ソフトウェアーのダウンロード、インストール方法につきましては八重洲無線ホームページ(http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html)をご覧下さい。
- ❍ 添付の CD からインストールする場合は、CD 内の setup.exe を実行し、HRI-100 取扱説明書の 14 ページを参照し Setup してください。
- ❍ 付属の USB シリアルケーブルを使用する場合は、添付 CD からドライバーソフトをインストールしてください（インストールマニュアルは、CD 内に収録されています)。
- ❍ ソフトウェアーのダウンロード、インストール時にはサーバー ID 番号とシリアル番号が必要です。

❐ その他

- ❍ 同一の個人コールサインで、複数の WiRES ノードの登録は出来ません。

HRI-100 インターフェースボックス

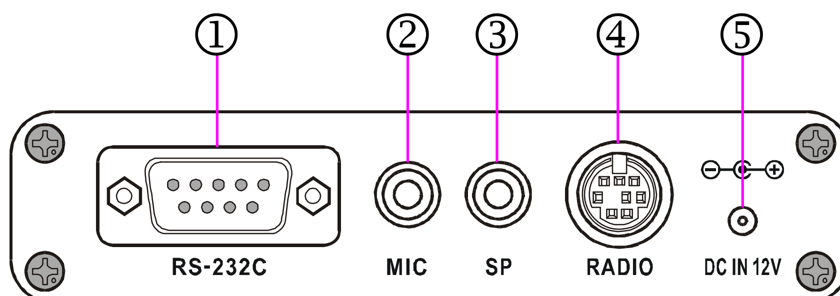
パネル前面



① POWER

HRI-100 の動作状態を表示するランプです。
HRI-100 が動作しているときは、“ 緑色 ” に点灯します。

パネル背面



① RS-232C

インターフェースボックス “ **HRI-100** ” とコンピューター間の制御信号を接続する端子です。
付属の接続ケーブル（RS-232C ストレートケーブル）を使用して、コンピューターの **RS-232C COM** 端子に接続します。

② MIC

無線機からの音声信号をインターネットに出力するための端子です。
付属の接続ケーブル（3.5 Φプラグ付き）を使用して、コンピューター（サウンドボード）の **MIC** ジャックに接続します。

③ SP

インターネットからの音声信号を無線機に出力するための端子です。
付属の接続ケーブル（3.5 Φプラグ付き）を使用して、コンピューター（サウンドボード）の **SPKR** ジャックに接続します。

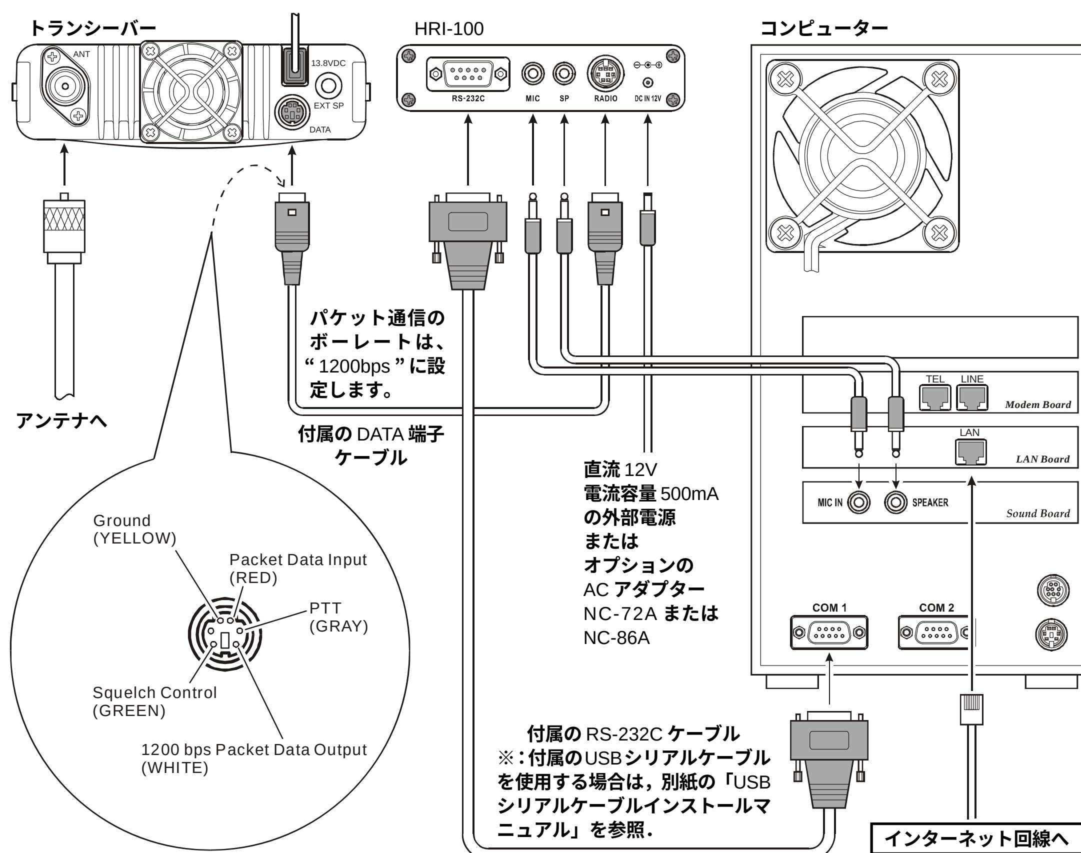
④ RADIO

無線機からの “ 音声信号 ” と “ コントロール信号 ” を接続する端子です。
付属の接続ケーブル（８ピンミニDINプラグ付き）を使用して、無線機のパケット端子（６ピンミニDINのデータ端子）と接続します。接続は、次ページを参考にしてください。
なお、無線機のパケット通信用ボーレートは、“ 1200bps ” に設定してください。

⑤ DC IN 12V

インターフェースボックス “ **HRI-100** ” の電源端子です。
付属の電源ケーブルを使用して、直流 12V、電流容量 500mA の外部電源に接続します。

HRI-100 の接続



FT-8900 と組み合わせた例

例．FT-8900，FT-8800，FT-7800 を使用したときのデーター端子設定

例として、FT-8900/H や FT-8800/H または FT-7800/H をノード局用のトランシーバーとして使用したときのポートレート設定は下記のようになります。

FT-8900,FT-8800 の場合

1. トランシーバーの[**SET**]を押してセットモードにします。
2. メイン側のダイアルツマミをまわし“27 PCKT S”(FT-8800:“27 PKT.SPD”)を選びます。
3. メイン側のダイアルツマミをまわし“1200bps”を選びます。
4. [**SET**]を 0.5 秒以上押して終了です。

FT-7800 の場合

1. トランシーバーの[**BAND/SET**]を 0.5 秒以上押してセットモードにします。
2. ダイアルツマミをまわし“26 PKT.SPD”を選びます。
3. [**BAND/SET**]を押します。
4. ダイアルツマミをまわし“1200bps”を選びます。
5. [**BAND/SET**]を押して確定します。
6. [**BAND/SET**]を 0.5 秒以上押して終了です。

上記以外のトランシーバーを設定する場合は、ご使用のトランシーバーの取扱説明書をご覧ください。

注 意

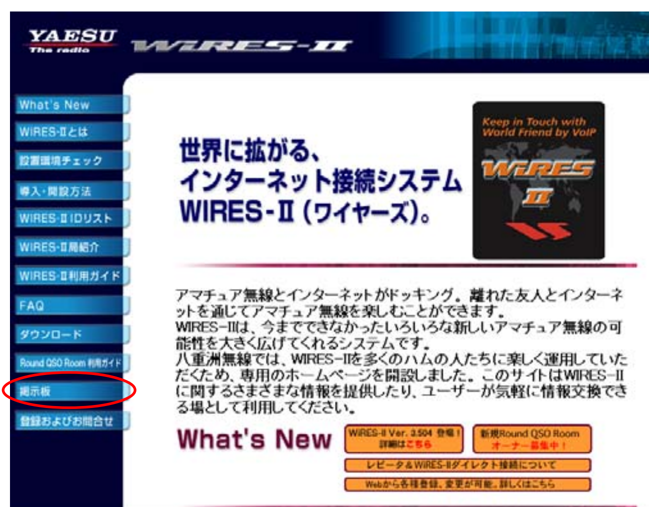
- 付属の USB シリアルケーブルをを使用する場合は，別紙の「USB シリアルケーブルインストールマニュアル」を参照してください．
- USB シリアルケーブルを使用して接続する場合は、HRI-100 を接続する前にコントロールパネルの「デバイスマネージャ」を起動して「ポート COM と LPT」をクリックしてポートが正しく追加されているか確認してください。
- DATA端子の無いトランシーバーをご使用の場合は、サポート外になりますのであらかじめご了承ください。

WiRES-Ⅱソフトウエアのユーザー登録とダウンロード

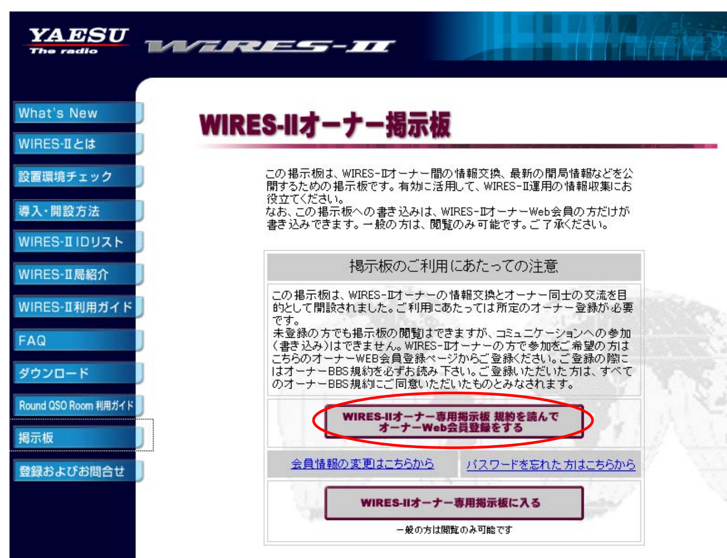
WiRES-II のソフトウェアをインストールするには、八重洲無線から発行される「サーバー ID 番号」が必要になります。「サーバー ID 番号」の取得は、八重洲無線の WiRES-II ホームページ（http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html）から行います。手順については、HRI-100 に添付される「WiRES-II サーバーへのユーザー登録」を参照されるか WiRES-II ホームページをご覧ください。

1. 「サーバーID番号」が届きましたらWiRES-Ⅱソフトウエアのインストールを行います。
WiRES ソフトウェアを八重洲無線のホームページ（http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html）からダウンロードをしてください。

2. ダウンロードサイトを利用するには、「掲示板」（下図参照）をクリックしてWiRES-IIオーナー掲示板を開き、WEB会員登録を行います。登録済みの方は手順 *5.* に進んでください。



3. 「WiRES- Ⅱオーナー専用掲示板規約を読んで会員登録をする」をクリックすると「WiRES- Ⅱオーナー専用掲示板規約」の画面がが開き「規約に同意して会員登録をする」をクリックします。



WiRES-IIソフトウエアのユーザー登録とダウンロード（つづき）

4. 「WiRES-Ⅱオーナー WEB 会員登録」を行ってください。
PASSWORD以外の入力内容は、WiRES ID取得申請時に登録した内容と同じにしてください。
下記の内容を入力し PASSWORD を登録します。

・製品シリアル No.（HRI-100 の底面に貼ってあるシリアル番号）
・WiRES ID（サーバー ID 番号と同じ）
・お名前
・E-mail
・コールサイン
・PASSWORD（半角英数字 8 文字以内で登録）

WIRES-IIオーナーWEB会員登録
登録に当たってのご注意
■オーナー登録には製品シリアルNo.とWIRES IDが必要です。
■お名前以外は、すべて半角英数字でご記入ください。
■PASSWORDは半角英数字8文字以内で登録してください。

製品シリアルNo.		例：1H234567（半角英数字）
WIRES ID		例：0123（半角英数字4桁）
お名前		例：八重洲太郎（全角）
E-mail		例：aa@bb.com（半角英数字）
コールサイン		例：JQ1YBG（半角英数字）
PASSWORD		例：12345abc（半角英数字8文字）

確認

登録内容の変更はこちらから
メールアドレス、パスワードの変更ができます。

5. 登録後、「ダウンロード」（下図参照）をクリックし「WiRES-Ⅱオーナー専用ダウンロードサイト」の画面を開き、WiRES ID と PASSWORD を入力し「ログイン」をクリックします。

YAESU The radio
WIRES-II

What's New
WIRES-IIとは
設置環境チェック
導入・開設方法
WIRES-II IDリスト
WIRES-II局紹介
WIRES-II利用ガイド
FAQ
ダウンロード
Round QSO Room 利用ガイド
掲示板
登録およびお問合せ

WIRES-IIオーナー掲示板

この掲示板は、WIRES-IIオーナー間の情報交換、最新の開局情報などを公開するための掲示板です。有効に活用して、WIRES-II運用の情報収集にお役立てください。
なお、この掲示板への書き込みは、WIRES-IIオーナーWeb会員の方だけが書き込みできます。一般の方は、閲覧のみ可能です。ご了承ください。

掲示板のご利用にあたっての注意

この掲示板は、WIRES-IIオーナーの情報交換とオーナー同士の交流を目的として開設されました。ご利用にあたっては所定のオーナー登録が必要です。
未登録の方でも掲示板の閲覧はできますが、コミュニケーションへの参加（書き込み）はできません。WIRES-IIオーナーの方で参加をご希望の方はこちらのオーナーWEB会員登録ページからご登録ください。ご登録の際にはオーナーBBS規約を必ずお読み下さい。ご登録いただいた方は、すべてのオーナーBBS規約にご同意いただいたものとみなされます。

WIRES-IIオーナー専用掲示板 規約を読んで オーナーWeb会員登録をする

会員情報の変更はこちらから　パスワードを忘れた方はこちらから

WIRES-IIオーナー専用掲示板に入る

一般の方は閲覧のみ可能です

WIRES-IIオーナー専用ダウンロードサイト

このダウンロードサイトを利用するには、WIRES-IIオーナーWEB会員登録（掲示板と共通）が必要です。※会員登録をする

WIRES ID		（半角数字）
PASSWORD		（半角英数字）

ログイン　ログイン情報を保存する

ダウンロードサイトに移り、画面に従いWiRES-Ⅱソフトウェアをダウンロードしてください。

ヒント

● ダウンロードサイトから、wi3510j.EXEをダウンロードして、任意のフォルダに保存してください。

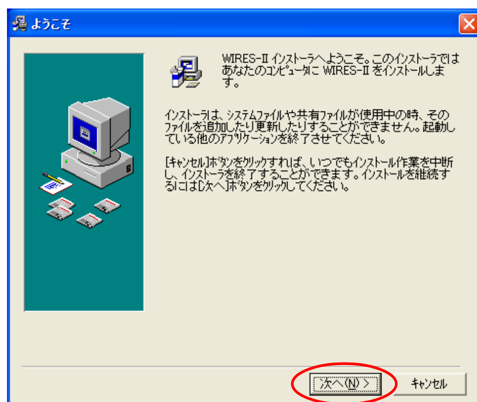
● 任意のフォルダに保存した、wi3510j.EXEをダブルクリックすると自己解凍が起動し、wi3510jフォルダが自動的に作成されます。

WiRES-Ⅱソフトウエアのインストール

1. 任意のフォルダにダウンロードしたWiRES-Ⅱソフトウエアをパソコンにインストールします。
WiRES-Ⅱのソフトウエアを立ち上げている場合は、インストールする前にWiRES-Ⅱを終了してください 。また、他の起動しているアプリケーションも終了してください。
Windows 7 / Windows Vista / WindowsXP / Windows2000 の場合は、コンピューターの管理者権限のあるユーザー（Administrator）でログオンしてください。

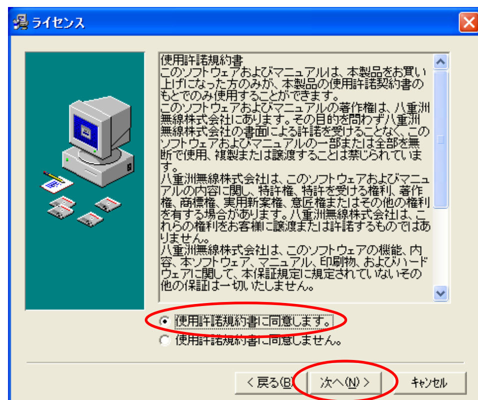
2. wi3510j フォルダの中にある、setup.exeをダブルクリックするとインストールが開始します。

3. 「**ようこそ**」が画面に現れますので 次へ(N) > をクリックします。



4. シリアル番号、WiRES ID の入力画面が表示されます。
すでに登録してあるシリアル番号、WiRES ID を入力します。

5. シリアル番号、WiRES ID が確認できると、「**ライセンス**」が現れます。「使用許諾規約書」の内容を良くお読みいただき、記述内容に同意していただける場合は、“ **使用許諾規約書に同意します。**”を選んで 次へ(N) > をクリックします。 （“ **使用許諾規約書に同意しません。**” を選択すると、インストールを中断し終了します。）



6. WiRES-Ⅱがインストールされているディレクトリを確認します。デフォルトでは、C:￥WiRES-Ⅱですが、変更されている場合はインストール先を指定してください。

7. OK をクリックすると “ インストール開始 ” 画面が表示されます。

注 意

WiRES-II ソフトウエアをインストール前に Windows Update を行なっておくことお勧めします。

注 意

旧バージョンをインストールする必要はありません。新規インストールをするときには、ID, シリアル番号を入力する必要があります。

ﾋﾝﾄ

ｷｬﾝｾﾙ をクリックすると、インストール作業を中断して、インストーラを終了します。

WiRES-IIソフトウエアのインストール（つづき）

8. 次に、接続方法などを選択する画面が現れます。

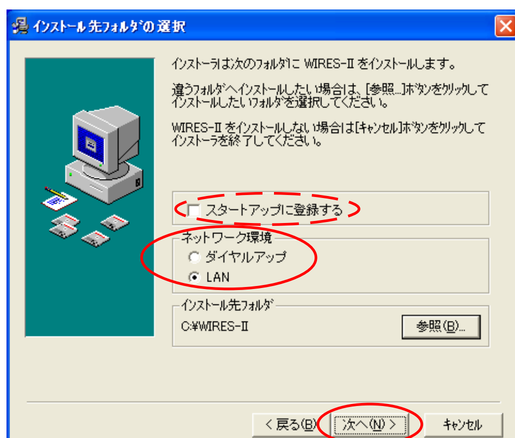
オートスタートの設定

○ コンピューターを立ち上げたときに、WiRES-II プログラムも自動的に立ち上がるようにするには、“ **スタートアップに登録する** ”チェックボックスにチェックを入れます。

使用回線の設定

○ 通常のダイアル電話回線や ISDN などのダイアル回線でお使いになる場合は、“ **ネットワーク環境** ” の “ **ダイアルアップ** ” にチェックを入れます。ADSLなどの常時接続の回線をお使いになる場合は、“ **ネットワーク環境** ” の “ **LAN** ” にチェックを入れます。フレッツ ADSL やフレッツ ISDN の場合も、“ **LAN** ” を選択します。

9. 画面の指示に従って［次へ(N) >］をクリックして行き、WiRES-IIプログラムをインストールします。
インストール先を変更することができますが、「C:\WIRES-II」フォルダーにインストールしておくことをお勧めします。



10. お使いのコンピューターによっては、「Windows の再起動」を要求してくる場合があります。その場合は、Windows を再起動させてください。

11. WiRES-II プログラムのインストールが終了すると、インストールの完了の画面が現れます。［完了(F)］を押してインストーラを終了してください。“ **LAN** ” でセットアップした場合には「VsLAN」アイコンが、“ **DialUp** ” でセットアップした場合は「VsDialUP」アイコンがデスクトップ上にできます。



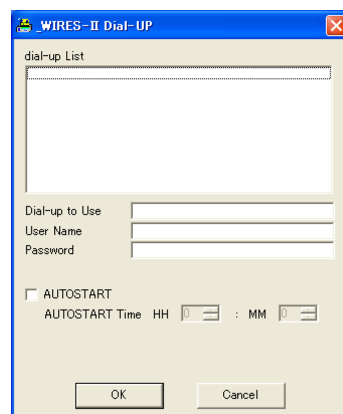
ヒント

ダイアルアップか LAN 接続を変更する場合は、再度 Setup.exe を起動して再インストールを行ないます。

ダイアルアップと LAN 接続を使い分けたい場合は、WiRES-II のフォルダー内に VsLAN.exe（LAN 接続）と VsDialUp.exe（ダイアルアップ接続）がありますので、デスクトップ上にそれぞれショートカットをおくと便利に使い分けることができます。

ヒント

電話回線の自動切断機能



“ **DialUp** ” でセットアップした場合は、「WIRES-II Dial-UP」ウインドの下側にある “ **AUTOSTART** ” の項目にチェックマークを入れると、毎日指定した時間に、電話回線の切断・再接続を自動的に行うことができます。各項目の設定が終わりましたら「OK」ボタンをクリックすると、インターネットに接続されるとともに WiRES-II プログラムが自動的に立ち上がります。

WIRES-Ⅱソフトウエアのインストール（つづき）

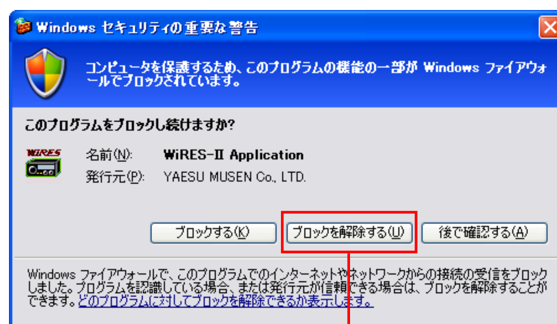
WiRES-II.exe を立ち上げる前のご注意

市販のファイアウォールソフトやルーター

UDP ポートの 40000 ～ 50000 のポート間で制御や音声のやり取り行なっていますので、市販のファイアウォールソフトやルーターを使用している場合は、UDP ポートの送受信とも 40000 ～ 50000 をオープンする設定を行なってください。詳しくは、(147 ページ，149 ページ)をご覧ください。

Windows XP のファイアウォール（SP2 以降の場合）

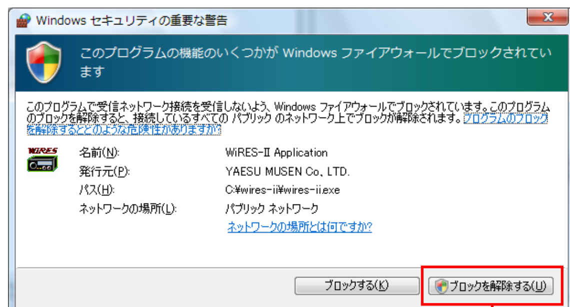
Firewall ソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。右図は Windows Firewall 一例です。



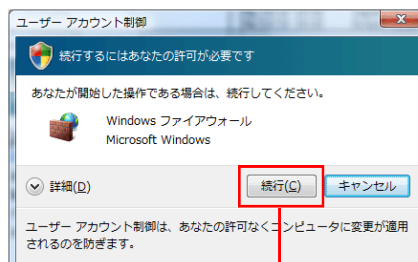
[ブロックを解除する]を選択する

Windows Vista のファイアウォール

Firewall ソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。
下図は Windows Firewall 一例です。



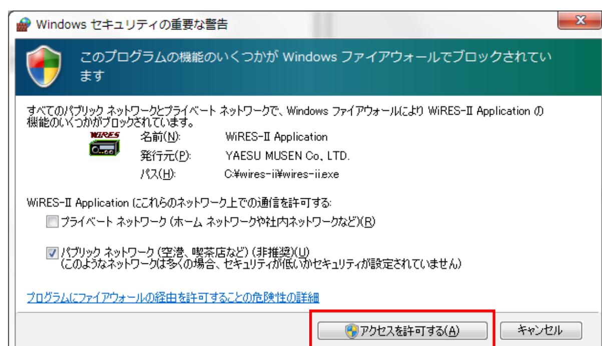
[ブロックを解除する]を選択する



[続行]を選択する

Windows 7 のファイアウォール

Firewall ソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。
下図は Windows Firewall 一例です。

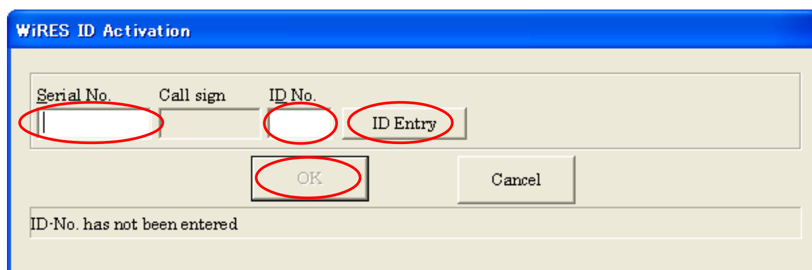


[アクセスを許可する]を選択する

WiRES-II 初期設定(サーバー接続)

八重洲無線のサーバーにアクセスするため、インターネットに接続できる環境にしておきます。

1. ディスクトップ上に表示されているアイコン（「**VsLAN**」または「**VsDialUP**」）をダブルクリックすると、オープニングロゴが表示され WiRES-II を起動します。
   インストール時にスタートアップに登録した場合は、ディスクトップ上にアイコンが表示されませんので、下記を参照に[**全てのプログラム**]から[**スタートアップ**]の中から[**VsLAN**]または[**VsDialUP**]を選択してください。



2. WiRES Activation ウインドウが表示されます。
3. **HRI-100** の製造番号（シリアル番号）を「Serial No.」に、スタンダードから通知された ID 番号を「ID No.」に入力してください。
4. 右隣りにある ID Entry をクリックします。
   自動的に WiRES サーバーに接続されます。
   「サーバー ID 番号」とシリアル番号が「WiRES 使用許諾書」で登録されたものと一致すれば、ダイアログボックスの左下に「ID Entry Complete」と表示され、“ **Call Sign** ”、“ **City** ”、“ **State** ”、“ **Country** ”が自動的に表示されます。

   表示された内容に間違いがないか確認してください。もし登録されたものと一致しない場合は、ダイアログボックスの左下に「Server or ID Not Found」と表示されます。
   この様な場合には、下記のような原因が考えられます。
   ◎ ID 番号と Serial Number が、WiRES server 上で登録されている内容と一致していない。
   ◎ パソコン上で動作しているファイアウォールソフトの設定(UDPの40000～50000port を開放する)が正しく出来ていない)。
   ◎ ネットワーク(LAN)環境にルーターが接続されており、ルーターのファイアウォール設定やアドレス変換設定などが正しく行われていない。

ヒント

“ LAN ” でセットアップした場合は、あらかじめコンピューターをインターネットに接続させ、その後「**VsLAN**」アイコンをダブルクリックして、WiRES-II プログラムを立ち上げます。

“ DialUp ” でセットアップした場合は、「**VsDialUP**」アイコンをダブルクリックすると「**WIRES-II Dial-UP**」ウインドが開きますので、接続先を“ **dial-up List** ”から選び、“ **Dial-UP** ”接続に必要な“ **User Name** ”、“ **Password** ”を入力します。

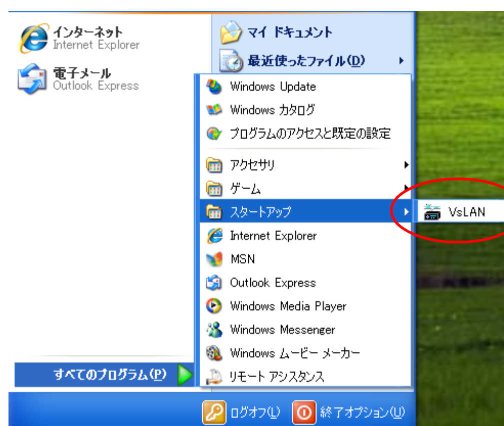
ヒント

Serial No.：
シリアル番号は、インターフェースボックス底面に貼ってある「銘板」に記載されている、8 桁のアルファベットと数字の組み合わせです。

ID No.：
「サーバー ID 番号」は、Web から新規 WiRES ID の取得申請を行って頂きますと数日後に八重洲無線株式会社から「ID 番号登録のお知らせ」が e-mail で送られてきます。

基礎編

セットアップに登録した場合の WiRES-II 初期起動方法



1. [**スタート**]→[**全てのプログラム**]→[**スタートアップ**]で[**VsLAN**] または[**VsDialUP**] を選択します。
2. WiRES Activation ウインドウが表示され、WiRES-II 初期起動画面が表示されます。
3. 上記の手順 *3.* から操作を行なってください。

WiRES-II 初期設定(サーバー接続) (つづき)

WiRES サーバーへの登録が正常に行われると、下記の画面が現れます。「**Serial No.**」と「**ID No.**」の欄はグレーアウトし、「**ICON select**」, 「**Freq**」, 「**SQL Type**」, 「**G.Loc**」, 「**Comment**」, 「**QSL exchange**」, 「**Message**」, 「**Remote control**」の各項目を入力することができます。詳細は下記をご覧ください。

正しく入力できましたら表示されている内容を確認し、OK をクリックします（Cancel をクリックすると設定は反映されません）。

Freq

WiRES-II による運用を行っている運用周波数情報を入力します。入力した情報は ID リスト上に表示されます。

SQL Type

WiRES-II による運用で使用している無線機に設定するトーン / コードスケルチの情報を入力します。入力した情報は ID リスト上に表示されます。トーン / コードの種類は、ToneSQL, DCS, NoTone から選択し、ToneSQL の場合には Tone 周波数、DCS の場合には DCS コードを選択します。

G.Loc

WiRES-II の自局 Node の位置情報を Grid Square Locator 形式及び緯度経度で表示します。表示されている位置情報は Active ID window や Group window 上に表示させる事ができます。

位置情報の登録は、Loc を押すと右図の Location Info window が表示され入力することができます（入力方法は次ページ参照)。

基礎編

ヒント

“**Call Sign**”、“**City**”、“**State**”、“**Country**”が表示されないときは、「サーバーID番号」またはシリアル番号の入力が間違っています。もう一度「サーバーID番号」とシリアル番号を確認してください。

注意

シリアル番号や ID 番号が合っていても“**Call Sign**”、“**City**”、“**State**”、“**Country**”が自動的に表示されない場合は、インターネット回線の不良やファイアウォール / ルーターの設定が確実でない場合があります。再度確認してください。

再度、WiRES サーバーに接続しても“**Call Sign**”、“**City**”、“**State**”、“**Country**”の情報が自動的に表示されない場合は、WiRES カスタマーサポートにお問い合わせください。

ヒント

メニューバーの[**File**] - [**Set default**]を選択すると、WiRES に関する各種設定情報を install 直後の初期状態へ戻すことができます。

詳しくは 103 ページ参照

メニューバーの[**File**] - [**Retry activation**]を選択すると、WiRES の認証を再度行う事ができます。

WiRES の Server 登録情報を変更した場合などに実行します。詳しくは 104 ページ参照

注意

Freq, Tone, GL, Lat, Lon, Comment の欄を含めて最大 80 文字（半角英数字）まで入力することができます．Freq, Tone, GL, Lat, Lon, を全て入力すると、Comment 欄に入力できる文字は約 15 文字になります。

Location Info window

Loc を押すとこの画面が表示され、自局Nodeの位置情報を入力したり、Active ID window や Group window 上への表示設定を行うことができます。下図は緯度情報を入力して OK を押すと、自動的に Grid Square Locator を計算し右図のように Personal settings に表示され、さらに Group Window や Active ID Window に位置情報が表示されます(ここで設定した位置情報は、Ver3.227 より前の Version では Comment 欄に表示されます)。

Location Info
Degree Minute Second
Latitude : 35 37 58 North
Longitude : 139 42 32 East
Grid square locator : PM95UP
Show Latitude & Longitude on list
Show Grid square locator on list
OK Cancel

State Country
TOKYO Japan
G.Loc
Loc PM95UP Lat: 35.37.58N Lon:139.42.32E

緯度経度情報を入力して OK を押すと、自動的に Grid Square Locator を計算し Personal settings に表示されます

画面の説明は下記の通りです。

◎ **Latitude**
緯度情報を度(Degree)、分(Minute)、秒(Second)、北緯/南緯(North/South)で指定します。

◎ **Longitude**
経度情報を度(Degree)、分(Minute)、秒(Second)、東経/西経(East/West)で指定します。
補足：緯度経度情報は、「世界測地系（WGS-84)」のデータである事を確認してから入力される事をお奨めします。

◎ **Grid square locator**
位置情報を Grid Square Locator 形式で表示します。値は緯度情報(Latitude)及び経度情報(Longitude)から自動的に計算されます。

◎ **Show Latitude & Longitude on list**
緯度情報(Latitude)及び経度情報(Longitude)をActive ID windowやGroup window上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

◎ **Show Grid square locator on list**
Grid Square Locator 情報を Active ID window や Group window 上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

◎ OK, Cancel **button**
OK を押すと、設定した位置情報が更新されます。
Cancel を押すと、設定内容が破棄されます。

ヒント

State Country
TOKYO Japan
G.Loc
Loc PM95UP Lat: 35.37.58N Lon:139.42.32E

Lat:
Location Info window画面で設定した自局 Node の緯度情報(Latitude)を表示します。

Lon:
Location Info window画面で設定した自局 Node の経度情報(Longitude)を表示します。

WiRES-II 初期設定(サーバー接続)（つづき）

ICON select

ID リストに表示するアイコンを変更できます。

0～**3** の中からお好みのアイコンを指定することができます。

0： OM（交信しているときは、に変わります）

1： YL（交信しているときは、に変わります）

2： DOG（交信しているときは、に変わります）

3： CAT（交信しているときは、に変わります）

Comment

ID リストの Comment 欄に表示するコメントを入力します。

QSL exchange

チェックボックスにチェックを入れると接続先の WiRES 局で画像を登録している場合、画像を表示することができます。また自分で作成したビットマップ（BMP）画像（QVGA　320 × 240)指定すると、接続した相手の WiRES 局へ自動的に画像を送ることができます。QSL カードを交換する感じで画像を作成してみてください。

Message（MAX 200 Charactors）

他の WiRES 局へ接続したときに表示するメッセージを入力します。また、リストを選択してマウスを右クリック操作により Get Info コマンドをクリックしたときも登録したメッセージが表示されます。簡単な自己紹介を入力しておくとよいでしょう。

Remote control

チェックボックスにチェックを入れると WiRES-II.exe の遠隔操作機能を ON にすることができます。

ON にすると、リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から遠隔操作を行う事が可能になります(逆に OFF 設定時は遠隔操作が出来なくなります)。

なお、遠隔操作を行う際に使うリモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)は、必ず Ver1.500 以降を使用してください。旧 Version では正常に動作しません。

Password

WiRES-II　リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)からリモート操作を行う場合に使用するパスワードをここで設定します。

Port.

WiRES-II　リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から web monitor 機能を利用する時に使う TCP port の番号をここで設定します(40000 ～ 50000 までの偶数番号が指定できます)。

この web monitor 機能により、外部から下記情報を見る事が出来るようになります。なお，詳細は136 ページをご覧ください。

◎ Node Log

◎ Chat Log

◎ Room Log (Round QSO Room 開設時のみ)

◎ Setting(各種設定情報)

注 意

Freq, Tone, GL, Lat, Lon, Comment の欄を含めて最大 80 文字（半角英数字）まで入力することができます．Freq, Tone, GL, Lat, Lon, を全て入力すると、Comment 欄に入力できる文字は約 15 文字になります。

ヒント

WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトとは

別の場所で稼働している WiRES-II system(WIRES-II.exe) を internet 経由で遠隔地から監視、制御をする為のモニタソフトです。

このモニタソフトにより、遠隔地から下記の操作が可能になります。

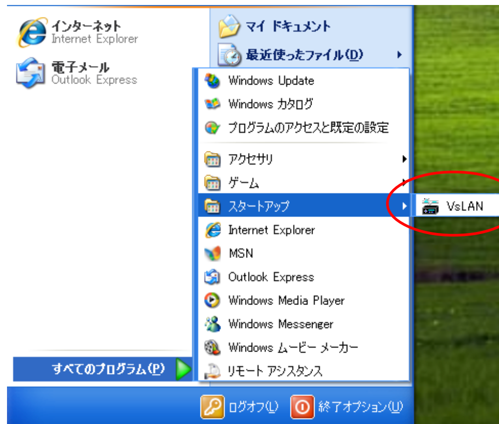
- NET 接続時の通話音声のモニタ
- PTT 制御(送信禁止及び解除)
- WIRES-II.exe の再起動
- Web Monitor 機能

注 意

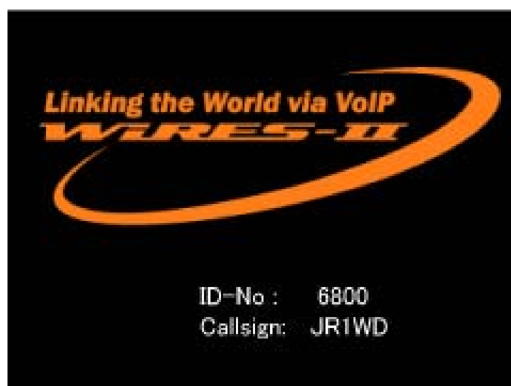
web monitor 機能を使う場合、UDP:40000-50000port 以外に、ここで設定する TCP port でも通信出来るように、PC やルーターのファイアーウォール機能で、指定する TCP port の解放設定を行う必要があります。

WiRES-II ソフトウエア起動方法

1．[**スタート**]→[**全てのプログラム**]→[**スタートアップ**]で[**VsLAN**] を選択します（アナログ電話回線用としてセットアップした場合は、[**VsDialUP**] を選択します)。



2．WiRES-II の起動ロゴ画面が表示され WiRES-II メイン画面が表示されます。
登録してある CALLSIGN、Node 番号が画面の中に表示されます。
WiRES-II メイン画面の説明は次ページをご覧ください。



ヒント

" LAN " でセットアップした場合は、あらかじめコンピューターをインターネットに接続させ、その後「**VsLAN**」アイコンをダブルクリックして、WiRES-II プログラムを立ち上げます。

" DialUp " でセットアップした場合は、「**VsDialUP**」アイコンをダブルクリックすると「**WIRES-II Dial-UP**」ウインドが開きますので、接続先を " **dial-up List** " から選び、" Dial-UP " 接続に必要な " **User Name** "、" **Password** " を入力します。

ヒント

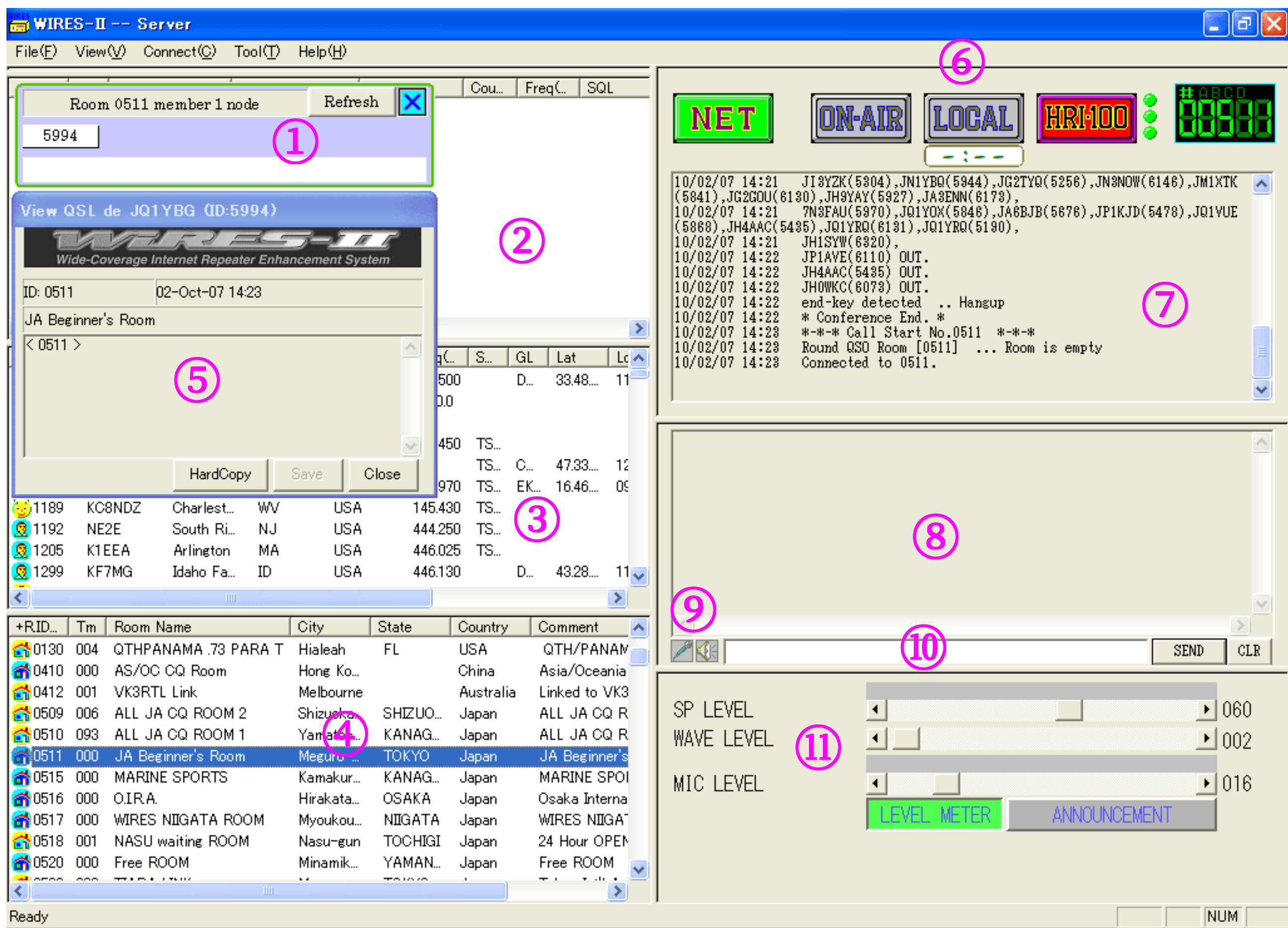
◎ Room を開設すると Room 番号も表示されます。

◎ WiRES-II メイン画面が表示されると、サウンド関連の検出結果を Log window に表示します。
なお、Log 表示の内容は130ページを参照してください。

基礎編

WiRES-Ⅱメイン画面の説明

WiRES-II プログラム（WiRES-II メイン画面）は、11 ブロックで構成されています。



① **Connect ID window**

SRG/FRG の一斉呼び出し[A][B][C][D]時、及び、Round QSO Room 接続時の接続局 list を Popup Window 方式で画面を表示します。

Connect ID Window の下部分（白帯部分）に現在通話中の Node 番号（Node 番号表示が緑色に点灯）のコールサインが表示されます。

Refresh button は Group window の内容を最新の状態に更新します。Connecting Node list 表示に設定している場合などに有効です。

☒(close) button を押すと、Connect ID window を閉じることができます。Connect ID window を再表示したい場合には、[**View**] menu の Connect ID window を選択して呼び出します。なお、Disconnect(切断処理)が行われた場合、Connect ID window は自動的に閉じます。

② **Group Window**

よく Connect する Node 局や Room 局を表示することができます。

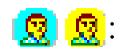
[**File**]→[**Property**]→[**Group settings**]により、Node 局や Round QSO Room 局の情報を選択する事が出来ます。

Window の表示内容はリアルタイムには更新されませんが、定期的に自動更新されます。

次ページの「③」「④」と同様に、各項目名部分をクリックすると、List の並び順を変更できます(ソート表示機能)。ソート指定項目は項目名左側に“＋”もしくは“－”の表示が入ります(“＋”表示 ＝ 昇順 ／ “－”表示 ＝ 降順)。

ヒント

City→State→Country の順にクリックすると、国別で都市別のアルファベット順で Sort することができます。

:

リストのIDの左横には、のアイコンが表示されます。交信しているときは、アイコンがからに変わります。また、Personal ID の ICON SELECT の所で、4種類のアイコンから変更することができます。

0：(OM)　1：(YL)

2：(Dog)　3：(Cat)

なお、アイコンを変更すると、その WiRES 局のアイコンは変更されたものが他局にも表示されます。

WiRES-IIメイン画面の説明（つづき）

WiRES局表示部分を右クリックで選択すると、下記コマンドが実行できます。

[Connect]: 選択した局のIDへ接続要求します。



[Get Info]: 選択したIDの自己紹介画面を表示します。過去に接続した事のある局で画像データを取得した局については、その画像も表示します。

[Window default]: これを選択すると、各window(Group window、Active ID window及び、Round QSO Room window)の表示行数を等間隔（3等分）にします。

◎ [**View**]→[**Group settings**]→[**SRG/FRG/Bookmark list**]
Group settingsで指定したNode局もしくはRound QSO Room局の情報を表示します(オンライン中のNode局のみ表示されます)。この表示指定の時には、ID番号の所が、[G.ID No.]と表示されます。

◎ [**View**]→[**Group settings**]→[**Connecting Node list**]
通話可能状態にある接続先Node局の情報を表示します。
ただし、WiRESのServer上で情報非公開登録であるNode局については、SRG/FRGのGroup局として登録しないと、表示されません。(Group settingsにて設定可能。)
この表示指定の時には、ID番号の所が[C.ID No.]と表示されます。
なお、接続先により表示内容が下記のように変わります。

Node(SRG/FRG)
接続したNode局(1局)の情報が表示されます。

Group call(一斉呼び出し)
接続できた全Node局の情報を表示します(接続できなかったNode局は表示されません)。

Round QSO Room
接続したRound QSO Room内にアクセス中のNode局の情報を表示します。

◎ [**View**]→[**Group settings**]→[**MyRoom access list**]
自局でRound QSO Roomを運用開始状態にしている時のみ表示可能です。
自局Round QSO Roomへアクセス中の全Node局の情報を表示します。この表示指定の時には、ID番号の所が[M.ID No.]と表示されます。WiRES局表示部分を右クリックでNode局選択すると、[Reject], [Mute]のマンドが実行できます（右上の“ヒント”を参照）。

ヒント

Sort(並べ替え)の処理は、下記動作時にのみ行われます。
◎ プログラム起動時
◎ 項目名部分(+Tmなど)をクリックした場合
(Sort項目指定時)
◎ Refresh操作時
◎ MAKE LIST出力動作時
(出力指定したLISTのみ)
[Tm]項の様に、値が頻繁に変動する項目もあります。
これらの値が変動しても、LIST表示位置はSort直後の位置から動かない様になっています。
指定したSort条件で並べ直したい時には、その都度、手動でConnect ID Windowの Refresh buttonをクリックしてRefresh操作するか、項目名部分をクリックする等の操作を行ってください。

ヒント

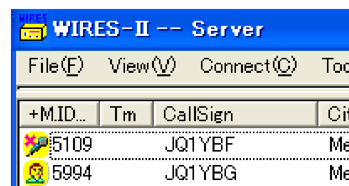
MyRoom access listは[**File**]→[**Round QSO**]をEnableに設定し、WiRES-II.exeを再起動すると、表示されます。再起動せずに設定直後ではMyRoom access listは表示されません。

MyRoom access listの場合は、WiRES局表示部分を右クリックで選択すると、下記コマンドが実行できます。なお、自局でRound QSO Roomを運用開始状態にしている時のみ表示可能です。

[Refresh Group List]: Group windowの内容を最新の状態に更新します。

[Reject]: 自局Round QSO Room内に接続中のWiRES局を右クリックで選択し、このコマンドを選ぶと、Reject（回線切断）されます。MCU/Room-Info画面上の[Remove] buttonと同じ動作をします。なお、Rejectの解除等は、MCU/Room-Info画面から行ってください。

[Mute]: 自局Round QSO Room内に接続中のWiRES局を右クリックで選択し、このコマンドを選ぶと、そのWiRES局をMute状態にする事ができます(MCU/Room-Info画面上の[Mute] buttonと同じ動作です)。Muteした WiRES局のリストID部分に“ ”が表示されます。
Mute状態を解除したい場合は、Mute状態になっているWiRES局を右クリックで選択します。MCU/Room-Info画面上でワイルドカード指定で複数のWiRES局をMuteしている場合には、自局Round QSO Room内で一時的にMuteを解除することができます。Muteを解除したNode局が再接続すると再びMuteされます。



WiRES-Ⅱメイン画面の説明（つづき）

ー Window の項目説明ー

G.ID No： ［**SRG/FRG/Bookmark list**］を選択すると ID 番号の部分に「Group ID No.」が表示されます。SRG/FRG/Bookmark に登録した WiRES 局が表示されます。

C.ID No： ［**Connecting Node list**］を選択すると ID 番号の部分に「Connect ID No.」が表示されます。現在接続している WiRES 局の ID 番号を表示します。

M.ID No： ［**MyRoom access list**］を選択すると ID 番号の部分に「Group ID No.」が表示されます。自分が開設している QSO Room に接続中の Node 局の ID 番号を表示します。

Tm： Round QSO Room に接続中の Node 局数を表示します。

CallSign： 運用ノード局のコールサインが表示されます（Round QSO Room 表示の時は Room Name）。

City： WiRES 局が設置されている市区町村名が表示されます。

State： WiRES 局が設置されている都道府県名が表示されます（海外局は州情報を表示します）。

Country： WiRES 局が設置されている国名が表示されます。

Freq (MHz)： WiRES 局の運用周波数が表示されます。

SQL： WiRES局運用時のトーン/コードスケルチ情報が表示されます。

GL： WiRES 局の位置情報が Grid square locator 形式で表示されます。
例 ： PM95UP

Lat： WiRES局の位置情報の内、緯度情報が表示されます。
表示形式は[aa.bb.ccX]で、それぞれの内容は下記の通り。
aa：Degree(角度) / bb：Minute(分)
cc：Second(秒) / X ：X=N:北緯、X=S:南緯
例 ： 35.38.10N（北緯 35 度 38 分 10 秒）

Lon： WiRES局の位置情報の内、経度情報が表示されます。
表示形式は[aa.bb.ccX]となり、それぞれの内容は下記の通り。
aa：Degree(角度) / bb：Minute(分)
cc：Second(秒) / X ：X=E:東経、X=W:西経
例 ： 139.42.20E（東経 139 度 42 分 20 秒）

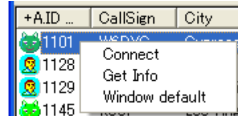
Comment： コメントが表示されます。

WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

③ **Active ID Window**

現在接続可能な無線局をリストで表示します。また、各項目名部分をクリックすると、list の並び順を変更（ソート）できます(ソート表示機能)。ソート指定項目は項目名左側に“＋”もしくは“ - ”の表示が入ります(“＋”表示 ＝ 昇順 ／ “ - ”表示 ＝ 降順)。このリストは適宜更新されます。

WiRES 局を右クリックで選択すると、下記コマンドが実行できます。



[Connect]： 選択した局の ID へ接続要求します。

[Get Info]： 選択した ID の自己紹介画面を表示します。過去に接続した事のある局で画像データを取得した局については､その画像も表示します。

[Window default]： これを選択すると、各 window (Group window、Active ID window 及び、Round QSO Room window)の表示行数を等間隔（3等分）にします。

ー Window の項目説明ー

A.ID No： WiRES 局の ID 番号（Active ID No.）が表示されます。

CallSign： 運用ノード局のコールサインが表示されます。

City： WiRES 局が設置されている市区町村名が表示されます。

State： WiRES 局が設置されている都道府県名が表示されます（海外局は州情報を表示します）。

Country： WiRES 局が設置されている国名が表示されます。

Freq (MHz)： WiRES 局の運用周波数が表示されます。

SQL： WIRES 局運用時のトーン / コードスケルチ情報が表示されます。

GL： WiRES 局の位置情報が Grid square locator 形式で表示されます。
例 ： PM95UP

Lat： WiRES局の位置情報の内､緯度情報が表示されます。
表示形式は[aa.bb.ccX]で､それぞれの内容は下記の通り。
aa：Degree(角度) / bb：Minute(分)
cc：Second(秒) / X ：X=N:北緯、X=S:南緯
例 ：35.38.10N（北緯 35 度 38 分 10 秒）

Lon： WiRES局の位置情報の内､経度情報が表示されます。
表示形式は[aa.bb.ccX]となり､それぞれの内容は下記の通り。
aa：Degree(角度) / bb：Minute(分)
cc：Second(秒) / X ： X=E:東経、X=W:西経
例：139.42.20E（東経 139 度 42 分 20 秒）

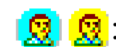
Comment： コメントが表示されます。

ﾋﾝﾄ

Sort(並べ替え)の処理は、下記動作時にのみ行われます。

◎ プログラム起動時
◎ 項目名部分(+A.ID No など)をクリックした場合（Sort 項目指定時）
◎ Refresh 操作時
◎ MAKE LIST 出力動作時（出力指定した LIST のみ）

項目によっては、値が頻繁に変動するものもあります。これらの値が変動しても、LIST表示位置はSort直後の位置から動かない様になっています。

指定した Sort 条件で並べ直したい時には、その都度、手動で Connect ID Window の  button をクリックして Refresh 操作するか、項目名部分をクリックする等の操作を行ってください。

ﾋﾝﾄ

City→State→Country の順にクリックすると、国別で都市別のアルファベット順で Sort することができます。

：
リストのIDの左横には、のアイコンが表示されます。交信しているときは、アイコンがからに変わります。また、Personal ID の ICON select の所で、4 種類のアイコンから変更することができます。

0：(OM) 1：(YL)
2：(Dog) 3：(Cat)

なお、アイコンを変更すると、その WiRES 局のアイコンは変更されたものが他局にも表示されます。

WiRES-IIメイン画面の説明（つづき）

④ **Round QSO Room window**

現在接続可能なRound QSO Roomをリストで表示します。Connect したRound QSO Roomに常駐している全てのノード局を呼び出すことができます。

また、各項目名部分をクリックすると、listの並び順を変更（ソート）できます(ソート表示機能)。ソート指定項目は項目名左側に"＋"もしくは"－"の表示が入ります("＋"表示 = 昇順 / "－"表示 = 降順)。このリストは適宜更新されます。

右クリックで選択すると、下記コマンドが実行できます。

[Connect]: 選択したRound QSO Room局へ接続要求します。

[Get Info]: 管理者のIDなど自己紹介画面と現在接続中のNode局のIDを表示します。Round QSO Room管理者が画像を設定しているときには、その画像も表示されます。

[Window default]: これを選択すると、各window(Group window、Active ID window及び、Round QSO Room window)の表示行数を等間隔（3等分）にします。

ー Windowの項目説明ー

R.ID No: Round QSO RoomのID番号（Round QSO Room ID No.）が表示されます。

Tm: Round QSO Roomに接続中のNode局数を表示します。

Room Name: Round QSO Roomの名称が表示されます。

City: Round QSO Roomを設置している局の市区町村名が表示されます。

State: WiRES局が設置されている都道府県名が表示されます。

Country: Round QSO Roomを設置している局の国名が表示されます。

Comment: コメントが表示されます。

⑤ **View QSL Window**

HardCopy をクリックするとQSLの画像データを保存することができ、Save をクリックすると接続先のID番号とコールサイン、交信日時、メッセージ（半角200文字まで）のテキストを保存することができ、Node局のQSLカードとして交換し保存しておくことができるView QSL機能です。Close をクリックでView QSL Windowを閉じることが可能です。



ヒント

Sort(並べ替え)の処理は、下記動作時にのみ行われます。

◎ プログラム起動時
◎ 項目名部分(+Tmなど)をクリックした場合
　(Sort項目指定時)
◎ Refresh操作時
◎ MAKE LIST出力動作時
　(出力指定したLISTのみ)

[Tm]項の様に、値が頻繁に変動する項目もあります。これらの値が変動しても、LIST表示位置はSort直後の位置から動かない様になっています。

指定したSort条件で並べ直したい時には、その都度、手動でConnect ID Windowの  buttonをクリックしてRefresh操作するか、項目名部分をクリックする等の操作を行ってください。

ヒント

City→State→Countryの順にクリックすると、国別で都市別のアルファベット順でSortすることができます。

リストのIDの左横には、のアイコンが表示されます。Round QSO Roomに接続または常駐しているノード局がいると、アイコンがからに変わります。

基礎編

WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

⑥ **Status indicator**

右側上部のブロックは、自局の無線機とインターフェースボックス " **HRI-100** " の動作状態を表示します。



IDLE NET ： 自局の WiRES-II ソフトウエアーが、インターネット上の他の WiRES 局と接続されていない時、IDLE が表示されます。インターネット上で他の WiRES 局と自局が接続されると、IDLE が NET に変化します。接続中はこの表示を維持します。他の WiRES 局との接続が切断されると、元の IDLE に戻ります。

ON-AIR ON-AIR ON-AIR LOCK ： インターネット上の他の WiRES 局と接続状態にある時(NET表示が出ている時)に、接続中のレピーター局からのPTT制御信号により、自局が送信状態になると、ON-AIR (緑色反転表示）になります。また、この PTT 制御信号が OFF 状態になると ON-AIR に戻ります(なお、LOCAL 通信の時は緑色反転表示にはなりません)。
ON-AIR をマウスでクリックすると、ON-AIR LOCK が点灯し送信禁止状態に移行します。この状態時には一切の送信操作が禁止され、他のNodeやRoom等との接続も全て切断されます。
この操作をすると、Log window に、下記のようなメッセージを表示します。

localhost ON AIR LOCK

LOCAL LOCAL INTERNET ： 自局の使用状況をここに表示します。
表示内容は、HRI-100 と自局の無線機間にて接続される Squelch Control の状態と、接続するインターネット上の他の WiRES 局との通信状況により変化します。具体的な表示内容は下記の通りになります。
LOCAL は自局の無線機が一切使われていない時（つまり BUSY ではない時)、この表示は点灯しません。
LOCAL は自局の無線機の Squelch Control がアクティブ状態になると、この表示が緑色に点灯します。
(a) インターネット上の他の WiRES 局と接続していない(IDLE 表示が消灯)状態で、無線局からの信号を自局無線機が受信している時（LOCAL 通信)。

ヒント

WiRES-II リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から遠隔操作で ON-AIR LOCK 指示をした場合にも、同様に ON-AIR 部が ON-AIR LOCK 表示になり、Log window に、下記のようなメッセージを表示します。

Monitor ON AIR LOCK (xxx.xxx.xxx.xxx)

ON-AIR LOCK 状態の時に、その表示部分をマウスでクリックすると、送信禁止(ON-AIR LOCK)状態を解除され、元の様に回線接続や送信を行える様になります。

ヒント

自局の無線機のスケルチが閉じていて何も受信していない（BUSY ではない）ときは、LOCAL の状態になります。

基礎編

(b) インターネット上の他のWiRES局と接続している(NET表示が出ている)時で、無線局からの信号を自局の無線機が受信していて、接続中のWiRES局へその受信した音声を送出できない時(接続中のWiRES局側が送信中の時など)。
この時、送出したい音声信号は一時的にPCで録音されます。
INTERNET は自局で受信した音声信号を録音せずに、接続中のWiRES局へ直接送出している時、この表示になります。

-:-- ：TOT counterは、自局Nodeの送話もしくは受話可能な残り時間（カウントダウン）を表示します。自局Nodeから接続先Nodeへの送話音声は、３分以上連続して送ることはできません(TX Timeout機能)。

- 2:34 : 残り3:00～1:00の間、残り時間を青色表示します。
- 0:59 : 残り0:59～0:20の間、残り時間を黄色表示します。
- 0:03 : 残り0:19～0:00の間、残り時間を赤色表示します。
- 0:00 : 残り0:00(3分以上経過)になると、赤色点滅表示になります。

また接続先Nodeから送られてくる受話音声も、HRI-100の連続送信防止(ハードウエアタイマー)機能により、送信開始から３分以上経過すると送信されなくなります。

HRI-100 HRI-100 ：WiRES-IIソフトウエアーと、HRI-100との接続状況を表示します。表示内容は下記の通りです。
HRI-100 はHRI-100と正常に通信ができる時、この表示になります。この状態であれば、正常にシステムが動作します。
HRI-100 はHRI-100とパソコンが通信できない時、この表示になります。この状態ではシステムが正常に作動しません。パソコンとHRI-100の接続に間違いが無いかチェックしてください。COM port No.の確認もしてください。

：HRI-100のfirmware上のdataの異常を知らせる為のindicatorです。HRI-100 statusの右側に３種類の状態表示があり、正常な時には全て緑色点灯します。もし赤色点灯が１カ所でもある場合にはHRI-100側が正常に動作していない可能性があります。
HRI-100の電源を入れ直してください。

注 意

WiRES-IIではInternetを伝送路に使う為、音声伝達の遅延が発生します。この遅延を考慮し、普段から通話と通話の間に、数秒程度の間隔(break time)をとる事をお奨めします。
break timeが短いと、特にRound QSO RoomやGroup callによる接続中に、通話と通話の間で音声が途切れず、意図せずに、３分以上の連続送信(音声が送信されない)状態を発生させてしまう事があります)。
TOT counter機能は、HRI-100の連続送信防止(ハードウエアタイマー)機能とは連動していません。
そのため、表示される残り時間と実際の動作に差異が生じる場合があります。

WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

それでも消灯しない場合は、八重洲無線のWiRESカスタマーサポートにご相談ください。WiRESカスタマーサポートの連絡先は158ページに記載されております。

: SRGのときは、現在接続しているWiRES局の接続先番号を表示します。Group settings画面で登録した接続先番号へインターネット回線で接続すると、該当する番号部分が反転表示されます。

: FRGのときは、現在接続しているWiRES局の接続先のID番号を表示します。

: 自分で開設したRound QSO Roomに接続中のNode局の総数を表示します。[**View**]-[**log**]-[**Round QSO**]を選択して(log change機能)、自局Round QSO Room専用log表示モードにした場合のみ表示されます。

⑦ **Log window**

インターネットの（WiRESサーバーとの）接続状態を表示します。WiRES局のコールサイン、ID番号、通信状況、さらにタイムスタンプも随時表示しますので、通信履歴を取るのに便利です。

```
10/02/07 14:21   JI3YZK(5304),JN1YBQ(5944),JG2TYQ(5256),JN3NOW(6146),JM1XTK
(5841),JG2GOU(6130),JH9YAY(5927),JA3ENN(6178),
10/02/07 14:21   7N3FAU(5970),JQ1YOX(5846),JA6BJB(5676),JP1KJD(5478),JQ1VUE
(5868),JH4AAC(5435),JQ1YRQ(6131),JQ1YRQ(5190),
10/02/07 14:21   JH1SYW(6320),
10/02/07 14:22   JP1AVE(6110) OUT.
10/02/07 14:22   JH4AAC(5435) OUT.
10/02/07 14:22   JH0WKC(6073) OUT.
10/02/07 14:22   end-key detected  .. Hangup
10/02/07 14:22   * Conference End. *
10/02/07 14:23   *-*-* Call Start No.0511  *-*-*
10/02/07 14:23   Round QSO Room [0511]  ... Room is empty
10/02/07 14:23   Connected to 0511.
```

⑧ **Chat window**

Chatのメッセージなどをこの画面に随時表示します。
日時、送信元、送信先、チャット内容が表示されます。

```
10/19/07-17:11 5994>0597 こんばんわ
```

SEND CLR

⑨ **Text box**

チャットを行うときの文字を入力するテキストボックスです。文字によるチャット内容の日時、送信元、送信先が表示されます。
WiRES局と接続中に文字を入力して、リターンを押すか、SENDをクリックすれば、そのまま接続先に文字を送ることができます。

ヒント

◎ Round QSO Roomを開設した場合は、メニューバーの[**View**]→[**Log**]に[**Node**]以外の[**Round QSO**]が追加され、Round QSO Roomでの通信履歴を見ることができます。

◎ Round QSO RoomのLog表示のときは、Roomに接続中のNode局数を表示します。

◎ WiRES-II.exeを立ち上げてWiRES-IIメイン画面を表示されると、サウンド関連の検出結果をLog window表示します。
なお、Log表示の内容は130ページを参照してください。

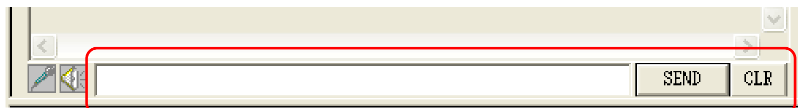
ヒント

Chat windowは半角3000文字まで表示することができます。

WiRES-II メイン画面の説明（つづき）

また、##ID番号(4桁数字)のあとにスペースを前置すると接続の有無にかかわらず、指定した相手に文字を送ることができます。

CLR をクリックすると Chat window の内容を消去することができます。また、DTMFで使用するコマンド(DTMF Command)をここに入力して、リターンを押すか、SEND もしくは CONNECT をクリックすることで、同様の動作をさせることも出来ます。ここで使用できるコマンドは下記の通りです。



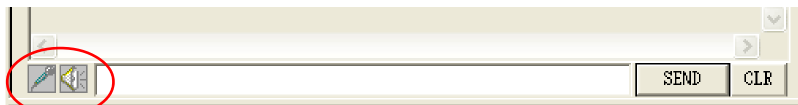
[#0000D / #00000]:	応答コマンド(接続時のみ有効)
[#5555D / #55555 / #05555]:	自動Room接続停止コマンド(未接続時のみ有効)
[#6666D / #66666 / #06666]:	他のWiRES局との接続状況を知らせるコマンド(未接続時のみ有効)
[#7777D / #77777 / #07777]:	CQ(ランダム)接続コマンド(未接続時のみ有効)
[#8888D / #88888 / #08888]:	再接続コマンド(未接続時のみ有効)
[#9999D / #99999 / #09999]:	切断コマンド(接続時のみ有効)(なお、ここでは、* による切断コマンドは使用できません。)

例

接続したいWiRES局のID(例:#5109D)を入力して、CONNECT をクリックすると、接続できます。

⑩ ボイスメモリーのアイコン

Chat window の左下のアイコンは、コンピュータ内のボイスメモリーの動作状況を表示します。



: WiRES-IIが録音状態になったときに、アイコンが黄色 に点灯します。録音が終了すると元のアイコン に戻ります。

- WiRES-IIでは、インターネットを介して相手局に接続されるまでの間「頭切れ」を起こしますので、その間ボイスメモリーに録音を行い「頭切れ」を防止しています。
- 自局がLOCAL通信を行っているときにインターネットを介して他のWiRES局より呼び出しを受けた場合には、その呼び出しを一旦ボイスメモリーに録音し、LOCAL通信が終了した時点で直ちに再生し送信します。

: ボイスメモリーに録音されていた音声信号を再生しているときに、アイコンが黄色 に点灯します。再生が終了すると元のアイコン に戻ります。

- 「頭切れ」を防止するために録音された音声を再生しているとき。
- LOCAL通信を行っているときに録音された、WiRES局からの音声を再生しているとき。

基礎編

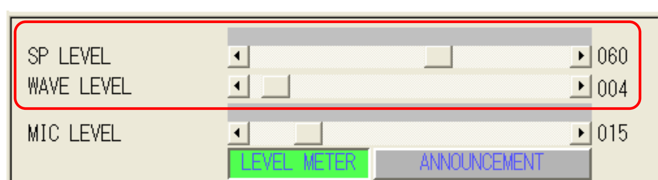
WiRES-Ⅱ メイン画面の説明（つづき）

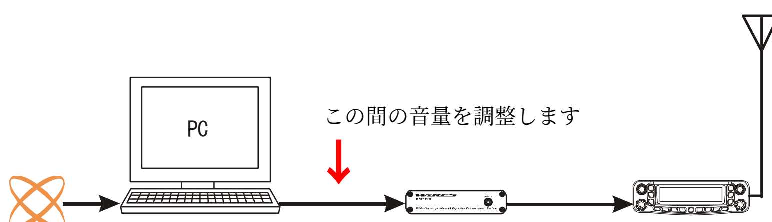
⑪ 右側下部のブロックは、コンピューター（サウンドボード）と HRI-100 間の音量調整を表示します。レベルバーの右横には、0-100 の数字でレベルを表示します。

SP LEVEL 「Default：60」
WAVE LEVEL 「Default：4」

SP LEVELはインターネットを経由して相手から送られてきた音声信号を HRI-100 へ入力し、自局の無線機から送信する音声レベルを調整します。

WAVE LEVEL は接続先の Node や Round QSO Room から Internet経由で送られてくる音声信号や、パソコンが自ら出力するアナウンス等の各種音声等の音量を調整します。
お使いのパソコンによっては、ここの値を調整すると出力レベル全体が調整されてしまう場合があります。
その場合は、34ページの「ボリュームコントロールの設定」を参照し、再度調整を行ってください。
調整方法は、OS によって変わります（下記参照）. 35ページの「ボリュームコントロールの設定」も参照してください。
LEVEL METER になっていると（LEVEL METER の場合はスイッチをクリックしてください）、レベルバーの上面に音量レベルを棒グラフでグラフィック表示します。インターネットに接続した状態で、受信音の音量を調整することができます。





◎ Windows2000/XP の場合
SP LEVEL は OS の MASTER ボリューム(再生)と連動します。
WAVE LEVEL は OS の WAVE レベルと連動します。

> Windows 2000/XP **などの場合には、**SP LEVEL **を初期値(**060**)のレベルにしておき、まずは**WAVE **レベルにて音が歪まない適切な音量に調整し、運用状態に応じて**SP LEVEL**で微調整する事をお奨めします。**

注 意

レベルを上げすぎると、無線機が過変調になり、送信音質が悪化します。

注 意

Windows Vista または Windows 7 の場合には、アプリケーション毎に専用ボリュームがOSから用意され、その専用ボリュームを SP LEVEL にて制御します(OS 全体のマスターボリュームは制御されません)。
音量調整時には、SP LEVEL を初期値のまま、OS のマスターボリュームにて音が歪まない適切な音量に調整しておき、運用状態に応じて SP LEVEL で微調整する事をお奨めします（次ページ参照）。

WiRES-Ⅱメイン画面の説明（つづき）

◎ **Windows Vista または Windows 7 の場合**

SP LEVEL は WiRES software(WiRES-II.exe) 専用の再生ボリュームとして動作します。
WAVE LEVEL のレベルバーは表示されません。

① マウスを右クリックし「音量ミキサー」を選択する。
アプリケーションに WiRES 専用ボリュームが OS に追加され、そのボリュームを SP LEVEL にて制御します(OS 全体のマスターボリュームは制御されません)。

②音量調整は、OS のマスターボリュームにて音が歪まない適切な音量に調整します。
SP LEVEL はさわらずに初期値（060）のままにしておきます。

③運用状態に応じて SP LEVEL で微調整をすることをお奨めします。



① マウスを右クリックし「音量ミキサー」を選択する

③ SP LEVELボリュームを微調整する（WiRES 専用と連動）



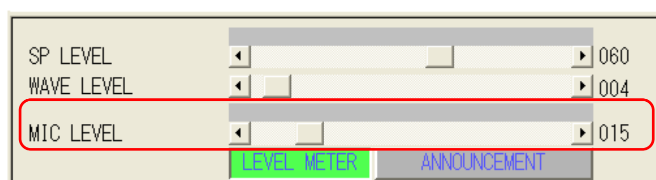
② OS マスターボリュームで音が歪まない適切な音量に調整する

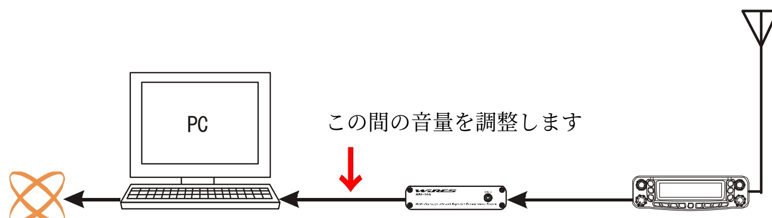
③ WiRES 専用ボリュームを微調整する（SP LEVEL と連動）

MIC LEVEL　「Default：15」

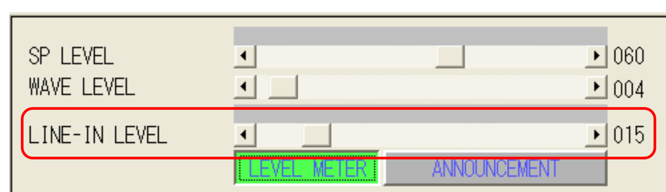
LINE-IN LEVEL　（LINE 入力の表示）　「Default：15」

Audio Settings 内の Voice in select で " MIC " に設定している場合は、無線機で受信した音声信号は、HRI-100 を通過してコンピュータのサウンドカードのMIC LEVELへ入力されます。この入力する音量レベルを調整します。また、Windows のボリュームコントロール画面(録音用)のマイクと連動されており、WiRES で設定した音量レベルが優先されます。





Audio Settings 内の Voice in select で、" LINE-IN " に設定している場合は、LINE-IN 端子からの音声入力を使い音量調整します。



注 意

Other を選択した場合は " Other(IN) " と表示し、ボリューム部分はグレースケールの状態になります。ボリュームの制御はできません。詳細は、81ページを参照してください。

WiRES-Ⅱメイン画面の説明（つづき）

LEVEL METER button（音量レベルのグラフィック表示）

「**Default：ON**(ボタンが緑色の状態)」

レベル調整バーの上にある音量レベルのグラフィック表示を“ON/OFF”にするスイッチです。

LEVEL METER：レベルメーターが動作します。

LEVEL METER：レベルメーターは動作しません。

ONにした場合、右下の[SP LEVEL]と[MIC/LINE-IN LEVEL]のレベル調整バーの上に、音量レベルのグラフィック表示が行われます。

ANNOUNCEMENT

ANNOUNCEMENTを押すと表示がANNOUNCEMENT MUTEに変わり、アナウンス機能を一時停止(MUTE)状態にすることができます。

アナウンスを一時停止(MUTE)状態にしても、General settingsのAnnouncement設定はそのまま保持されます。

ANNOUNCEMENT MUTEをクリックするか、接続断(Disconnect)処理が行われると、アナウンスの一時停止(MUTE)状態が解除され、ボタン表示がANNOUNCEMENTに切り替わり、通常状態に復帰します。

なお、回線接続(Connect)時及び、回線切断(Disconnect)時は、ANNOUNCEMENT MUTEの状態に関わらず、Sound settingsの設定に従った接続(Connect)音や切断音が出力されます。

また、自動接続(Return to resident Round QSO Room)機能が稼働中は、接続断(Disconnect)処理が行われる時にMUTE状態が解除されてしまう為、従来通りGeneral settingsのAnnouncement設定を行い、ANNOUNCEMENT MUTE機能を使わない運用を行う事をお奨めします。

ヒント

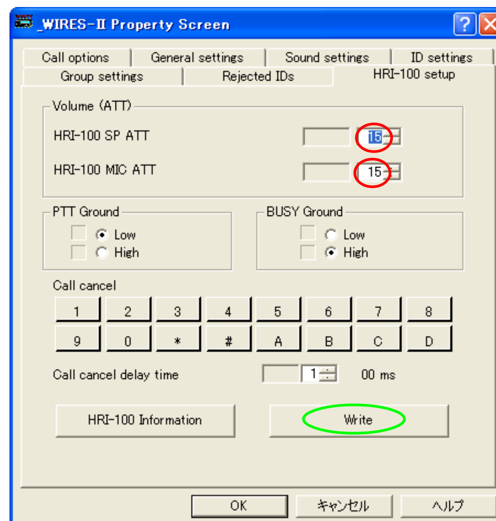
一部のパソコンでは正常に動作しない場合があります。その場合、レベルメータ機能をOFFにしてLEVEL METERの状態でご使用ください。

基礎編

ボリュームコントロールの設定

■ WiRES-II の粗調整

1. 11 ページの " HRI-100 の接続 " を参考に HRI-100 にノード用トランシーバーとパソコンを接続します。
2. ハンディトランシーバーを用意して、ノード用トランシーバーと周波数を合わせ、交信できるか確認します。
3. WiRES-II のアプリケーションを起動します。
   [**File**]→[**Property**]→[**HRI-100 setup**]を開きます。
   ◯ の部分設定を下記の値に設定します。
   HRI-100 SP ATT=15
   HRI-100 MIC ATT=15

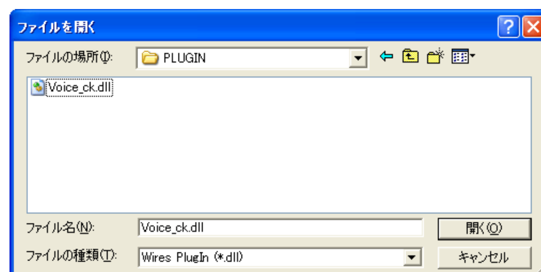


4. WRITE をクリックして確定します。
5. OK をクリックして Property Screen を終了します。

■ WiRES-II ボイスチェックソフト（Voice_ck.dll）のインストール

通信時の音声レベル調整するソフトで、ボリュームコントロールの設定を行ないます。音声レベル調整ソフトのインストールとソフトの使い方を説明します。

1. WiRES-II のアプリケーションを起動します。
2. [**Tool**] - [**Plugin set**] を開くと、WiRES plugin menu の画面が現れますので Add Module をクリックします。
3. 「ファイルを開く」が表示され、WiRES-II のフォルダーの下にある PLUGIN フォルダーをダブルクリックすると「Voice_ck.dll」が表れます。このファイルを選択し、開く(O) をクリックします。



次のページに続く

ヒント

レベルコントロールカーソルの上にレベルメータが表れます。

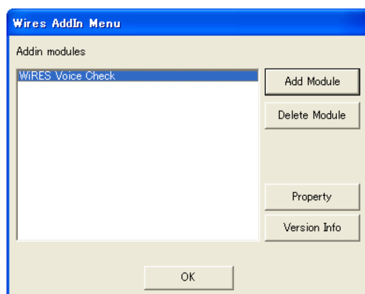
LEVEL METER（緑）: レベルメーターが動作します。

LEVEL METER（灰）: レベルメーターは動作しません。

注 意

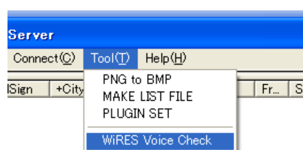
レベルメーターはコンピュータに負担がかかるため、一部のコンピュータで動作しないこともあります。その場合は、レベルメーターの動作を OFF の状態にしてご使用ください。

7. WiRES Voice Checkが表示されていることを確認し、OKを押します。

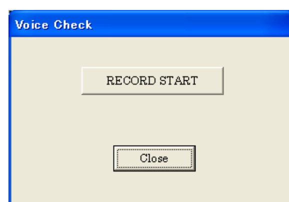


■音声レベル調整ソフトの画面説明

1. [**Tool**]-[**WiRES Voice Check**]を選択するとプログラムが起動します。

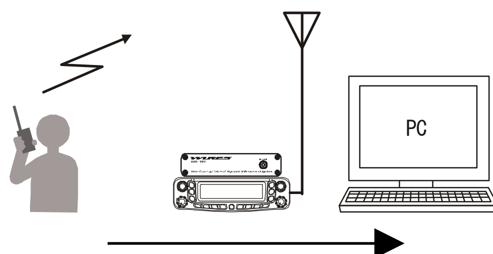


2. 下記のような調整画面が現れます。



■音声レベルの調整

音声レベルの調整はOSによって操作が変わります。
Windows2000/WindowsXPは35ページ～36ページを参照してください。
Windows Vista/Windows7の調整方法は36ページ～37ページを参照してください。
ハンディーなどから喋った音声がWiRES-IIを通して接続先に到達する音声レベルを調整します。
調整を行う前にWiRES-II のノード用無線機とハンディー機などが通信できることを確認してください。



インターネット網への音声レベル調整
(MIC LEVEL)

◎ Windows2000/WindowsXPの調整方法

1. WiRES-IIメイン画面の右下のLEVEL METERが緑に点灯しているか確認します。
2. RECORD STARTをクリックし、録音を開始します。

次のページに続く

注意

ON-AIR LOCK時に音声レベル調整ソフトを起動すると、ON-AIR LOCK状態は解除されます。

ヒント

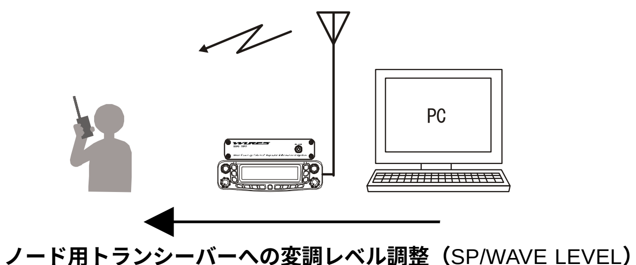
①「MIC LEVEL」のボリュームバーがMAX（100）になっても音量が低く適正レベルに調整出来ない場合は、[**ボリュームコントロールパネル**]-[**オプション**]-[**プロパティー**]-[**録音**]-[**マイクトーンの設定**]の中にあるマイクブーストのチェックボックスにチェックを入れてください（マイクにトーンがないときは、[**オプション**]-[**トーン**]をクリックして「**トーン**」にチェックマークを付けてください）。
②一部の機種でAGC（Automatic Gain Control）機能を持つものがあり，このタイプのものでは音量が調整できない場合があります。適正音量にならない場合にはAGC機能をOFFにしてから再度音量調整をしてみてください。

ボリュームコントロールの設定（つづき）

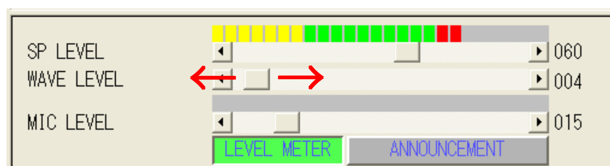
3. ハンディートランシーバのPTTを30秒ぐらい押しながらDTMF 1を押し、その間に「MIC LEVEL」のバーにより録音レベルメーターが赤1つか2つ表示するように調整します。



4. PTTを放すと、Node側のトランシーバーが送信状態になり、録音信号の音声がハンディートランシーバから聞こえてきます。その間に「SP LEVEL」バーは操作せずにデフォルトの“060”に固定しておき「WAVE LEVEL」バーを操作して録音した音（受信音）が歪まない適切な音量レベルに調整してください。



ノード用トランシーバーへの変調レベル調整（SP/WAVE LEVEL）

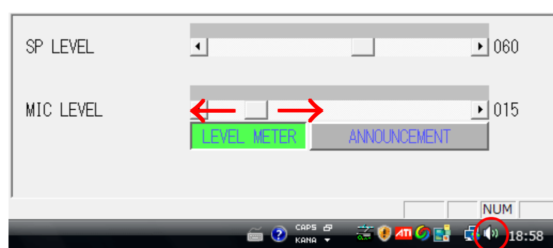


5. [RECORD STOP] をクリックして機能をOFFにします。
6. 録音した信号の送出が全て終了した後、[Close] をクリックしてVoice Checkプラグインを終了します。

これでWiRES-IIの音声レベル調整は全て終了です。

◎ Windows Vista/Windows 7 の調整方法

1. WiRES-IIメイン画面の右下の [LEVEL METER] が緑に点灯しているか確認します。
2. [RECORD START] をクリックし、録音を開始します。
3. ハンディートランシーバのPTTを30秒ぐらい押しながらDTMF 1を押し、その間に「MIC LEVEL」のバーにより録音レベルメーターが赤1つか2つ表示するように調整します。



マウスを右クリックし「音量ミキサー」を選択する

注 意

CPUの処理速度が遅いパソコンをご使用の場合は、レベルメーターをONするとCPUに負担が掛かり、他の機能の性能を低下させることがありますので、調整が終了しましたら [LEVEL METER] にしてレベルメーターの動作を“OFF”にすることをおすすめします。

「WAVE LEVEL」バーを操作してもバーが赤1つか2つ表示するように調整します。

注 意

LINE-INに設定した場合はMIC LEVELの部分がLINE-IN LEVELに変更され、MIC LEVELと同様調整します。

ヒント

①「MIC LEVEL」のボリュームバーがMAX（100）になっても音量が低く適正レベルに調整出来ない場合は、

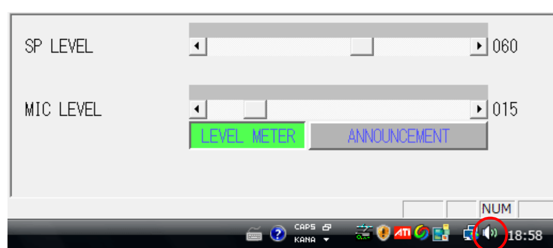
（スピーカーアイコン）- マウス右クリック [**サウンド**] - [**録音：マイク選択**] - [**レベル：マイクブースト選択**] マイクブーストをオンにします。

②一部の機種ではマイクブーストのレベルが選べるものもあります．選べる機種では適正音量になるものを選択してください。

③一部の機種でAGC（Automatic Gain Control）機能を持つものがあり，このタイプのものでは音量が調整できない場合があります。適正音量にならない場合にはAGC機能をOFFにしてから再度音量調整をしてみてください。

ボリュームコントロールの設定（つづき）

4. PTT を放すと、Node 側のトランシーバーが送信状態になり、録音信号の音声がハンディートランシーバから聞こえてきます。その間に「SP LEVEL」バーは操作せずにデフォルトの“ 060 ”に固定し、“ ”をマウスの右クリックで「音量ミキサーを開く」を選択します。「マスターボリューム（デバイス スピーカー）」バーを操作して録音した音（受信音）が歪まない適切な音量レベルに調整してください。



マウスを右クリックし「音量ミキサー」を選択する



① OS マスターボリュームで音が歪まない適切な音量に調整する
② WiRES 専用ボリュームを微調整する（SP LEVEL と連動）

5. RECORD STOP をクリックして機能を OFF にします。
6. 録音した信号の送出が全て終了した後、Close をクリックして Voice Check プラグインを終了します。

これで WiRES-II の音声調整は全て終了です。

MIC 端子からの音声入力が大きすぎて音が歪む場合の設定方法

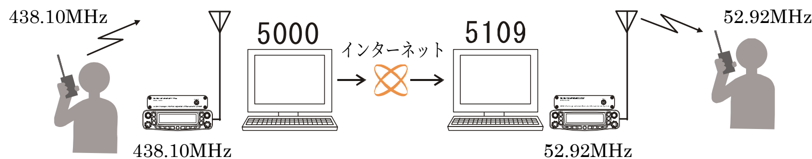
MIC 端子からの音声入力が大きすぎて音が歪む場合、LINE 端子がパソコンにある場合は、マイクアンプの入らない LINE 端子に接続することにより歪みのない音声に調整することができます。パソコンのボリュームコントロールで設定せずに WiRES-II のボリュームコントロールで設定することができます。



1. [**File**]→[**Audio settings**]を開きます。
2. Voice In Select の LINE-IN に[•]を入れて選択します。
3. OK をクリックして Audio settings を終了します。
4. WiRES-II ソフトが再起動されます。
5. [LINE-IN LEVEL]のレベル調整バーで音量を調整することができます。なお音量の調整方法は、31 ページを参照してください。

簡単な交信（FRG での交信）

FRG による通信には大きく分けて２種類あります。
１つは Node 局と Node 局を１対１で接続して交信する方法です。
もう１つは、複数の Node 局が同時に接続でき、その接続中の Node 局間で相互に通話可能になる Round QSO Room を利用する方法です。
Round QSO Room には、CQ 呼び出しをして通信を行うような、いわゆる CQ ルーム(日本国内の代表的なルームでは #0510D)から、気の合う仲間同士で複数の局と QSO を楽しむ小規模なものまで、多種多様に存在しています。
Round QSO Room への出入りは自由な為、これらを使って手軽に QSO を楽しむ事ができます。



■ Node to Node（1 対 1）での交信例

1. HRI-100 の接続を念のためご確認ください（11 ページ参照)。
2. Node 用のトランシーバーの周波数を決めます。
3. Node と交信するハンディトランシーバーを用意します。
4. ハンディトランシーバーを Node と同じ周波数に設定します。
5. ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで相手の ID 番号を押します。
   例えば **5109** に接続したい場合は、[**#**] [**5**] [**1**] [**0**] [**9**] [**D**] と押します。
   WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Call Start No. 5109」と表示されます。



6. ハンディトランシーバーの PTT を放します。
7. WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Connected to 5109」と表示され 5109 Node 局に Connect（接続）されます。また、接続と同時に画面右上に接続してる局の Node 番号が表示され、さらに View QSL が表示されます。

をクリックするとハードコピーすることができます。ペイントソフトを開いて bmp で保存することができます。

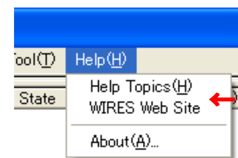


Close をクリックすると View QSL の画面を消去することができます。

8. ハンディトランシーバーの PTT を押して、MIC に向かって相手局を呼び出してみてください。あとは、一般の交信と同様に行ないます。
9. 交信が終了したら、ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで **#9999D**（切断コマンド）と押します。「ピピピピッ」と切断音が鳴り Disconnect（切断）されて交信は終了します。

ヒント

使い方で困ったときは...
他の WiRES 局の Node 番号を知りたいときは、WiRES-II ホームページ(http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html)をご覧ください。
なお、[**Help**] メニューの [**WIRES Web Site**] により、八重洲無線 WiRES ホームページ Web サイトを表示することができます。



例

手順*5.* で“ #6666D ”の DTMF コマンドを送出することにより、接続状況を下記のアナウンスで確認することができます。

自局が JQ1YBG の場合
JQ1YBG が ID.5000 に接続：
This is JQ1YBG WiRES. connected to 5000.
Node が未接続：
This is JQ1YBG WiRES. not connected.
Node との交信不可の場合はアナウンス無し

ヒント

Node to Node で呼び出しをしたとき、相手がインターネットにつながっていない場合や回線がエラーのとき、または Node が使用中のときは「ピーピーピーピーピーッ」と警告音が鳴ります。

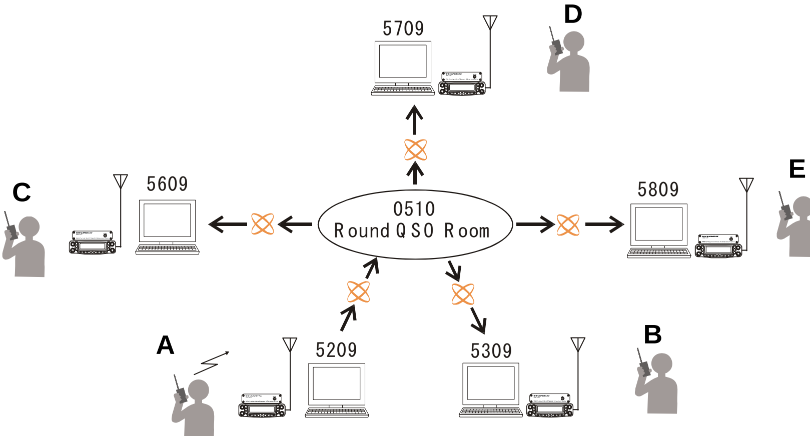
切断コマンドについて

#9999D 以外に **#99999** または **#09999** でも切断コマンドとして動作します。
また、Property Screen の Call options の項目で DTMF* を Disconnect 選択し、Single digit command にチェックを入れると、DTMF の ✱ でも切断コマンドとして動作します。

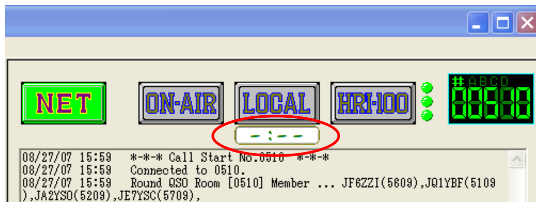
簡単な交信（FRG での交信）（つづき）

■ Round QSO Room での交信

CQ 呼び出しをして通信を行うような、いわゆる CQ ルーム（例#0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局と QSO を楽しむ小規模な Round QSO Room で交信することができます。下図は例として、複数の Node が 0510 Round QSO Room に Connect し、5209Node を利用する **A** 局が CQ を出していると仮定したイラストです。

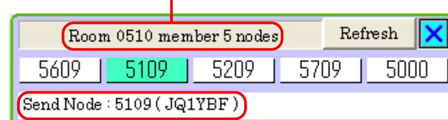


1. HRI-100 の接続を念のためご確認ください（11 ページ参照）。
2. Node 局のトランシーバーの周波数を決めます。
3. Node 局にアクセスするハンディトランシーバーを用意します。
4. ハンディトランシーバーを Node 局と同じ周波数に設定します。
5. ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで接続したい Round QSO Room の ID 番号を押します。例えば JA CQ Room に接続したい場合は **#0510D**（F0510D）と押します。WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Call Start No. 0510」と表示されます。



6. ハンディトランシーバーの PTT を放します。
7. ログリストに「Connected to 0510」と表示され Round QSO Room に Connect（接続）されます。
   また接続と同時に画面左上のConnect ID windowに現在Round QSO Room に Connect してる局の Node 番号が表示されます。さらに View QSL も表示されます。

Round QSO Room **の番号と** Room **に入っている** Node **数を表示**



通話中（緑色に点灯している）の Node **局のコールサインを表示**

8. ハンディトランシーバーの PTT を押して、MIC に向かって「CQ」をだします（-:--に 3 分間の送信可能時間をカウントダウン表示します）。相手局が応答してきたら、一般の交信と同様に行ないます。
9. 交信が終了したら、ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで **#9999D**（切断コマンド）と押します。「ピピピピッ」と音が鳴り Disconnect（切断）され交信は終了します。

ヒント

Round QSO Room には複数の Node が接続することができます。5209Node を介して **A** 局が CQ を出すと、各ノードに **A** 局の音声が届きます。

例

手順5.で“ #6666D ”の DTMF コマンドを送出することにより、接続状況を下記のアナウンスで確認することができます。

自局が JQ1YBG の場合

JQ1YBG が ID.0510 に接続：
This is JQ1YBG WiRES. connected to 0510.
JQ1YBG が未接続：
This is JQ1YBG WiRES. not connected.
Node との交信不可はアナウンス無し

例

[**General settings**] → [**Announcement**(**Room logon node info**)] にチェックを入れると、Round QSO Room へ接続した際にログオン中の Node 局数をアナウンスする機能が追加されます。

自局が JQ1YBG，接続先 ID.0510，Room に Node が 5 局 Connect している場合

This is JQ1YBG WiRES connected to 0510 5 Nodes.

ヒント

Refresh button は Group window の内容を最新の状態に更新します。Connecting Node list 表示に設定している場合などに有効です。
(close) button を押すと、Connect ID window を閉じることができます。

基礎編

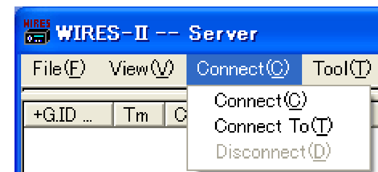
WiRES 局に接続する

WiRES 局にコネクトする場合は 5 種類の方法があります。

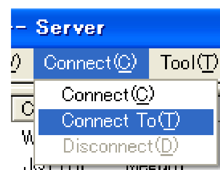
① トランシーバーの DTMF キーでコネクトしたい WiRES 局の ID 番号（例 .#1101D）を送出して Connect する。

DTMF キーで接続コマンドを入力
[#]→[1]→[1]→[0]→[1]→[D]

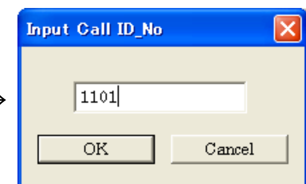
② Group window※, Active ID window または Round QSO Room window からコネクトしたい WiRES 局を選択し、コネクトメニューの[**Connect**]→[**Connect**]をクリックして Connect する。



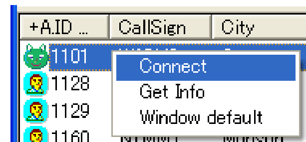
③ コネクトメニューの[**Connect**]→[**Connect To**]をクリックしテキストボックスにコネクトしたい WiRES 局の ID 番号（例. 1101）を入力して Connect する。



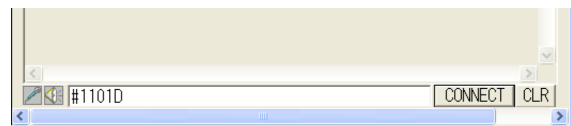
→



④ Group window※, Active ID window または Round QSO Room window からコネクトしたい WiRES 局を右クリックして、Connect のコマンド画面から Connect する。



⑤ チャット機能のテキストボックスにコネクトしたい WiRES 局の ID 番号（例. #1101D）を入力し、CONNECT または SEND をクリックして Connect する。



※：Group window は SRG/FRG/Bookmark list 表示のときのみ

WiRES 局を切断する

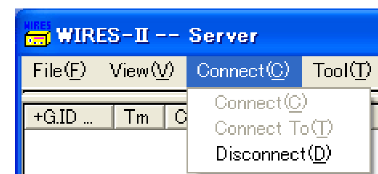
WiRES 局をディスコネクトするには 3 種類の方法があります。

① トランシーバーの DTMF キーで切断コマンドを入力して Disconnect します。
（∗は Property Screen の Call options の項目で DTMF を Disconnect 選択し、Single-digit command をチェックを入れると切断コマンドとして動作）。

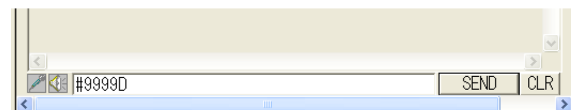
DTMF キーで切断コマンドを入力
[#]→[9]→[9]→[9]→[9]→[D]

その他の切断コマンド　#99999, #09999, ＊

② コネクトメニューの[**Connect**]-[**Disconnect**]をクリックして Disconnect する。



③ チャット機能のテキストボックスに切断コマンドを入力し、SEND をクリックして Disconnect する（∗の切断コマンドは受け付けません）。



簡単な交信（FRG での交信）（つづき）

チャット機能

チャット機能として Connect 先に文字を送ることができます。チャット機能は FRG 以外の通信（SRG 通信やローカル通信）でも使用することができます。

◎文字の送り方

Connect の状態でテキストボックスに文字を入力し、Enter を押すか、SEND をクリックすると、そのまま Connect 先に文字を送ることができます。

ヒント ##ID 番号(4桁半角数字)のあとにスペースを前置するとConnect の有無にかかわらず、指定した相手とチャットすることができます。
例　##5709　こんばんわ

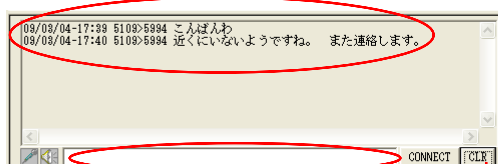
◎ Chat window の消去

CLR をクリックすると CHAT WINDOW の内容を消去することができます。

◎ Chat window でコマンドを操作する

DTMF で使用するコマンド (DTMF Command: 例 #9999D) をここに入力して、Enter を押すか、SEND または CONNECT をクリックすることで、同様の動作をさせることも出来ます（129 ページ参照）。

文字によるチャット内容の日時、送信元、送信先が表示されます



チャットを行うときの文字を入力するテキストボックスです。

Connect の状態では SEND
Disconnect の状態では CONNECT

CLR をクリックするとテキストボックスの内容を消去

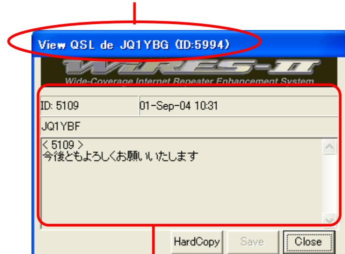
View QSL 機能

接続先の ID 番号とコールサイン、交信日時、メッセージ（半角 200 文字まで）を QSL カードとして交換し保存しておくことができます。さらに、自分で作成したビットマップ（BMP）画像（QVGA 320 × 240）を作成して、オリジナルの QSL カードとして作成することもできます。カード交換をする感じで接続した相手の WiRES 局へ自動的に画像を送ることができます。

[**File**]→[**Personal ID**]→[**QSL exchange**] を開き、テキストボックスでファイル名を入力し右の ... をクリックして保管場所を指定することができます。
また QSL exchange のチェックボックスにチェックを入れると、接続先の WiRES 局の QSL 画像が表示されます（Raund QSO Room に常駐している場合は Round QSO Room の View QSL を表示）。
また、ご自分で QSL 画像を作成し登録しておくと、画像を表示することができます。

- HardCopy をクリックすると画面のハードコピーをとることができます。ペイントソフトを開いて bmp で保存することができます。
- Save をクリックすると接続先の ID 番号とコールサイン、交信日時、メッセージを TXT で、また画像は bmp で保存することができます。保存先は bmp と同じ場所所に保管されます。
- Close をクリックすると View QSL の画面を消去することができます。

自局のコールサインと ID 番号



接続先のコールサインと ID 番号、接続先のメッセージ、交信日時

QSL exchange のチェックボックスにチェックを入れない場合



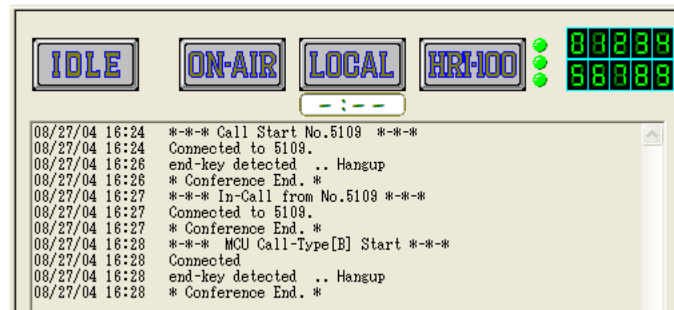
デフォルトの QSL 画像（起動ロゴ画面と同じ画像があらかじめ表示される）



ご自分で QSL 画像を作成した場合

ログリストに表示されるいろいろな情報

ログリストには、Connect/Disconnect のに関するいろいろな情報が表示されます。おもな表示については以下のとおりです。詳しくは、付録のログリスト一覧表をご覧ください。ログリストを見ることにより現在の状況を知ることができます。



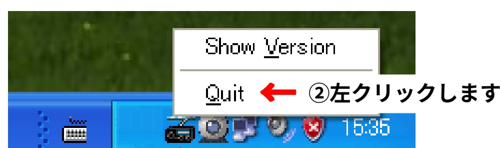
- Call Start No.5109：5109 への Connect 要求
- Call Start No.5109 (SRG:1)：SRG1 番の 5109 へ Connect 要求
- In-Call from No.5109：5109 からの呼び出し
- In-Call from No.5109 (SRG:1)：SRG1 番の 5109 から呼び出し
- Connected to 5109：5109 への Connect 成立
- end-key detected .. Hangup：Connect の切断
- Conference End.：Connect の切断完了
- Socket Connection Canceled [ ] Code=0：Connect 先が他の WiRES-II 局と Connect 中で接続できない
- Socket Communication timeOut..Hangup：相手もしくは自局のインターネット接続のトラブル
- No Answer from Called PC：オンラインになっているが Connect 先のコンピュータからの応答がない
- No Entry ON ILS Server：Connect 先がオフラインのときまたはサーバーに登録されていないとき
- call to Rejected ID_No [5109]：reject List に登録した局を呼び出したとき
- Call Failed：Connect 不成立
- MCU Call-Type [B]：FRG B で一斉呼び出し開始、一斉呼び出しをした WiRES 局の ID 番号をメイン画面左上の Connect 先ディスプレイに表示

なお, この表示以外に「Room を開設」したり「リモコン＆音声モニターソフト (wiresmon.exe) で WiRES-II へアクセス」した場合は、WiRES-II のログ画面に出てくるメッセージが追加されます．詳しくは，付録のログリスト一覧表をご覧ください。

WiRES-II ソフトウエアの終了方法

WiRES-II ソフトウエアを終了する場合は、下記の手順で行います。

1. タスクバーの中にある、「VsDialUP」アイコン" " または「VsLAN」アイコン " " を右クリックし、ポップアップメニューを表示させます。
2. ポップアップメニューの中の " **Quit** " を左クリックします。
タスクバーの中にある、「VsDialUP」アイコン" " または「VsLAN」アイコン " " が消えます。



①右クリックし、ポップアップメニューを表示

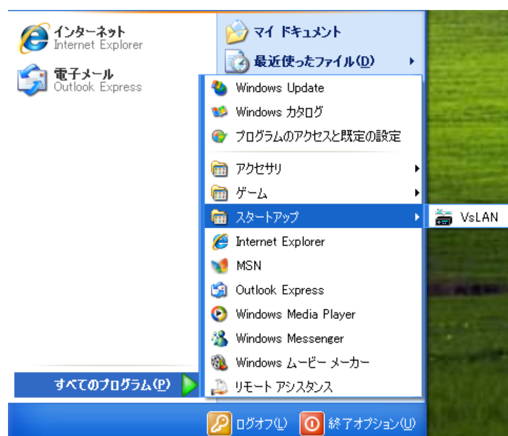
3. メニューバーの[**File**]→[**Exit**]で WiRES-II メイン画面が閉じ、WiRES-II ソフトウエアを終了することができます。
4. WiRES-II ソフトウエアを再度立ち上げる場合は、デスクトップ上の「VsDialUP」アイコンまたは「VsLAN」アイコンをダブルクリックします。

ヒント

手順 3 のかわりに WiRES-II メイン画面の右上にある " " ボタンをクリックしても WiRES-II ソフトウエアを終了することができます。

WiRES-II ソフトウエアを起動する

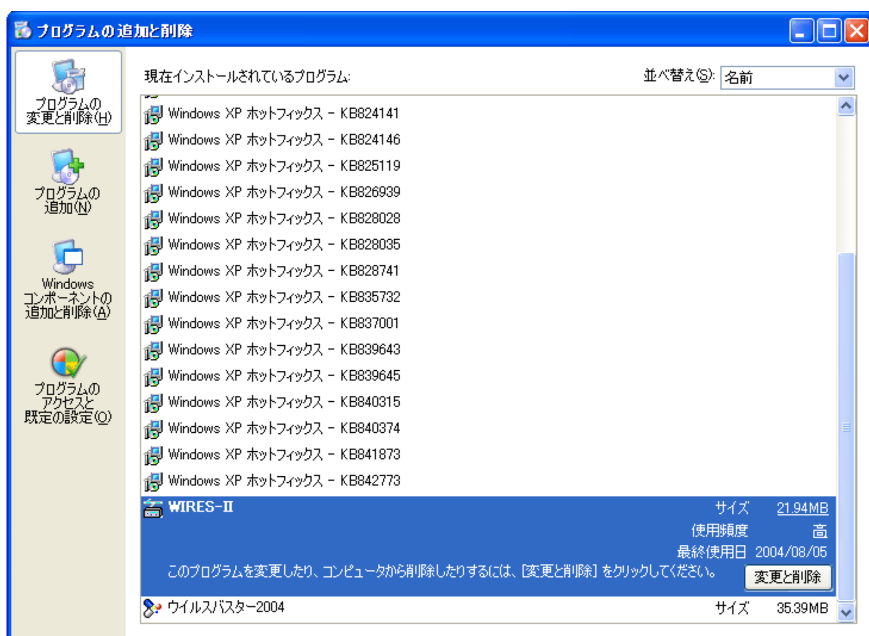
ディスクトップ上に表示されているアイコン（「VsLAN」または「VsDialUP」）をダブルクリックして WiRES-II を起動すると、WiRES Activation ウインドウが表示されます。
セットアップに登録してある場合は、[**スタート**]→[**全てのプログラム**]→[**スタートアップ**]でアイコンを選択して WiRES-II を起動してください。



基 礎 編

WIRES-IIソフトウエアのアンインストール

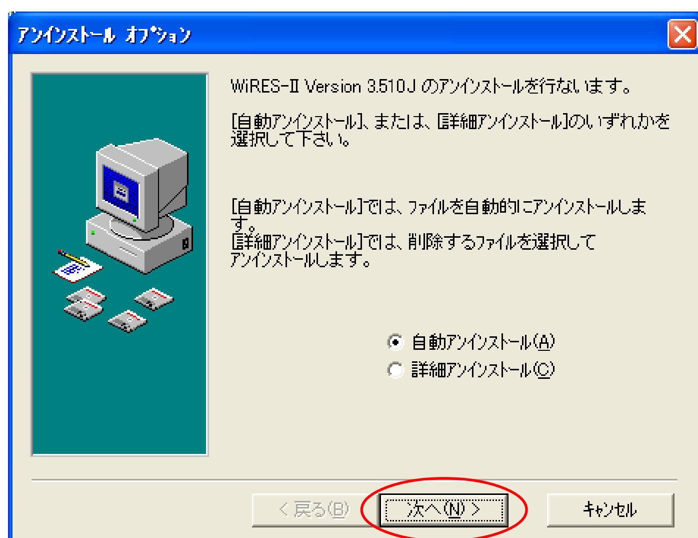
1. [**スタート**]→[**設定**]→[**コントロールパネル**]でコントロールパネル開き、[**アプリケーションの追加と削除**]アイコンをダブルクリックします。
追加と削除の一覧でWiRES-IIを選択し、変更と削除をクリックします。



2. 初期化中 Wise Uninstall Wizard... が表示されます。

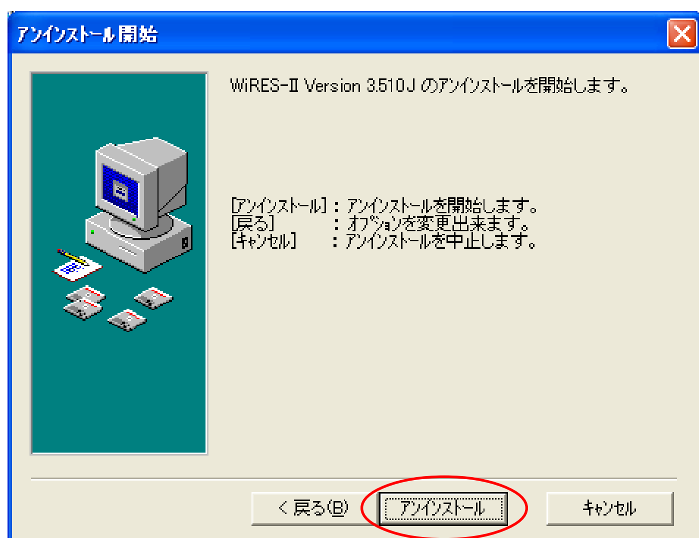


3. アンインストール画面が表示され、削除を確認するメッセージが表示されます。[**自動アンインストール**]を選択し、次へ(N) >をクリックします。



WIRES-Ⅱソフトウエアのアンインストール（つづき）

4. アンインストール開始画面が表示され、［アンインストール］をクリックします。



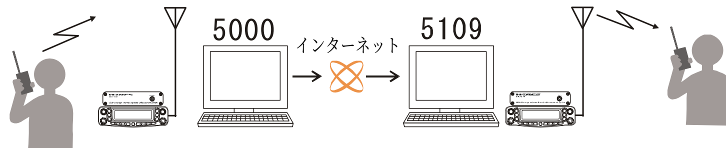
5. アンインストールが完了しましたと表示されたら、［OK］をクリックします。

5 ページの「WiRES-II の特徴」でも説明しましたように WiRES-II には，FRG 通信と SRG 通信の２種類の通信方式があります。ご自分の運用スタイルに合った通信方式をお選びください。また、この通信方式以外に HRI-100 を接続したまま、インターネットを経由しないで通信する方法（ローカル通信）も説明します.

FRG のインターネット通信及び便利な機能

FRG とは " Friendly Radio Group " の略で、「仲の良い友達」というような意味で、八重洲無線のサーバーに登録された通信可能なすべての局を指します。これらの局を呼び出すには、あらかじめ WiRES 局に割り当てられた ID 番号の前後に＃と D をつけ（＃ ID 番号　D）6 桁の DTMF 信号を送ると、インターネットを介して通信することができます。一度インターネット接続が確立されると、設定時間内であれば DTMF 信号を送らなくても相手局とインターネット通信ができます（[**Property**] →[**General settings**] →[**TOT**] で時間を設定可能（Default：10 分））。
複数の決まった FRG 局を一斉に呼び出して交信したい場合は、FRG の無線局をグループ化して DTMF の " **B** ", " **C** ", " **D** " のそれぞれのグループにして呼び出すこともできます。
また、従来の V/UHF 帯 FM モードと同様に、CQ 呼び出しをして通信を行うような、いわゆる CQ ルーム（例 #0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局と QSO を楽しむ小規模な Round QSO Room を利用して通信を楽しむこともできます。さらに、Round QSO Room は接続さえすれば Room の出入りは自由なため、手軽に Room 利用者と QSO を楽しむことができます。

■ Node to Node（1 対 1）での交信（個別呼び出し）



1. HRI-100 の接続を念のためご確認ください（11 ページ参照）。
2. Node 局のトランシーバーの周波数を決めます。
3. Node 局にアクセスするハンディトランシーバーを用意します。
4. ハンディトランシーバーを Node 局と同じ周波数に設定します。
5. ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで相手の ID 番号を押します。
   例えば八重洲無線東京営業所に接続した場合は **#5109D** と押します。
   WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Call Start No. 5109」と表示されます。
6. ハンディトランシーバーの PTT を放します。
7. WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Connected to 5109」と表示され 5109 Node 局に Connect（接続）されます。また、接続と同時に画面右上に接続してる局の Node 番号が表示され、さらに View QSL が表示されます。



8. ハンディトランシーバーの PTT を押して、MIC に向かって相手局を呼び出してみてください。あとは、一般の交信と同様に行ないます。
9. 交信が終了したら、ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで **#9999D**（切断コマンド）と押します。「ピピピピッ」と音が鳴り Disconnect（切断）され交信は終了します。

ヒント **ローカル通信**
インターネットを経由しない通信
WiRES-II では，インターネットへの接続を DTMF 信号で制御していますので，DTMF 信号を含まない信号を受信したときには，通常の無線機として動作します．特別な操作は必要ありません．
ただし，FRG 通信で Connect されている場合は，インターネット経由で通信します．

例
「サーバーID 番号 " 1234 "」の局を呼び出すときには，送信の初めに " **#1234D** " を送出します．将来，サーバーID 番号が " 56789 " のように 5 桁になった場合は，最後の " **D** " は不要となり，" **#56789** " と送出します（送出する DTMF 信号は，必ず " **#** " を含めた 6 桁となります）.

ヒント
Node to Node で呼び出しをしたとき、相手がインターネットにつながっていないとき回線がエラーのとき、または Node が使用中のときは「ピーピーピーピーピッ」と警告音が鳴ります。

ヒント
#9999D 以外に **#99999** または **#09999** でも切断コマンドとして動作します。
また、Property Screen の Call options の項目で DTMF* を Disconnect 選択し、Single-digit command にチェックを入れると、DTMF の * でも切断コマンドとして動作します。

運用編

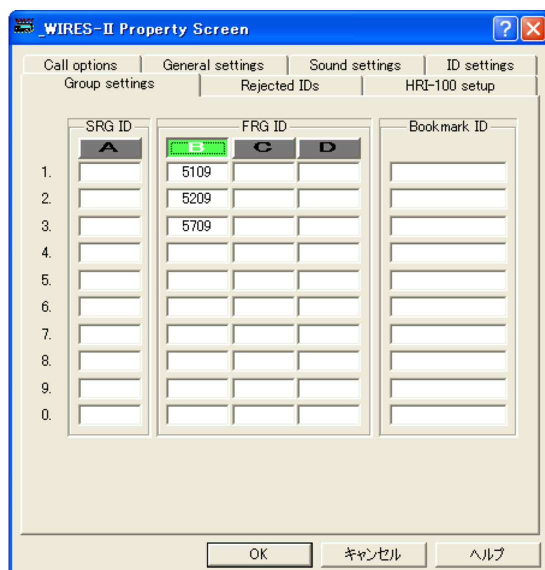
■ FRG のグループ一斉呼び出しによる交信

● FRG グループの登録

［**File**］→［**Property**］により「**Property Screen**」の画面が現れます。
「**Property Screen**」の「**Group settings**」を選択し、特にアクセス頻度の高い局を“**B**”, “**C**”, “**D**”の３つのグループに分けて、呼び出したい局の ID 番号をテキストボックスに登録します。
各グループには、最大 10 局まで登録することができます。

例としてグループ“**B**”に、下記の ID 番号を登録します。

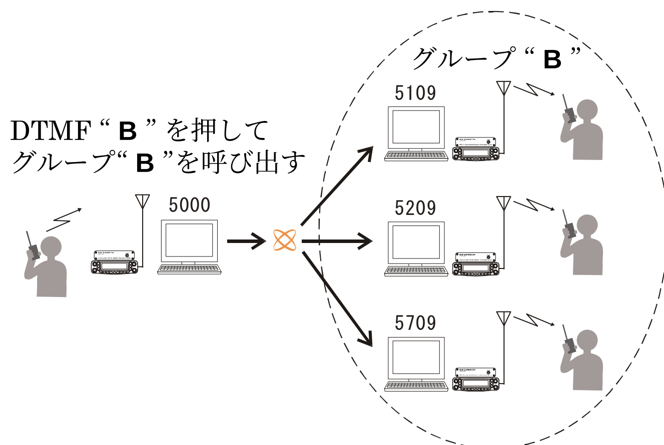
1. テキストボックス“1”に“**5109**”を入力します。
2. テキストボックス“2”に“**5209**”を入力します。
3. テキストボックス“3”に“**5709**”を入力します。
4. Group ID 局を Group window の SRG/FRG/Bookmark list 上に表示したい場合には, [B] をクリックして [B] にします。
5. [OK] ボタンを押し、入力を確定します。



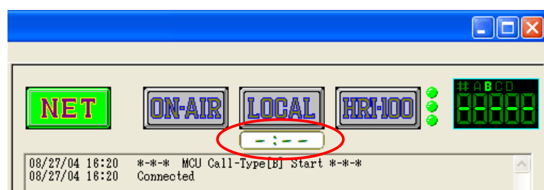
運用編

● FRG グループの一斉呼び出し

送信時に、呼び出したいグループのDTMF信号（“**B**”, “**C**”または“**D**”）を送出すると、そのグループに登録されている全ての局を一斉に呼び出すことができます。操作は、下記の手順で行なってください。

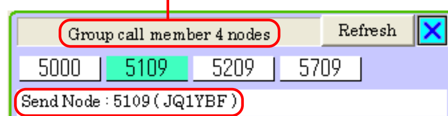


1. HRI-100 の接続を念のためご確認ください（11 ページ参照）。
2. Node 局用のトランシーバーの周波数を決めます。
3. Node 局にアクセスするハンディトランシーバーを用意します。
4. ハンディトランシーバーを Node 局と同じ周波数に設定します。
5. ハンディトランシーバーのPTTを押したまま、DTMFキーでグループの DTMF 信号（“**B**”, “**C**” または “**D**”）を送出します。
例えばグループ **B** を一斉呼び出ししたいときは、**B** と押します。



6. ハンディトランシーバーの PTT を放します。
7. WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「MCU Call-Type

FRG Group グループと Node 数を表示



通話中（緑色に点灯している）の Node 局のコールサインを表示

「[B] Start」と表示され、グループ **B** に登録されている Node 局を一斉に呼び出し（Connect）します。
呼び出しを完了すると「Connected」とログリストに表示し、さらに画面左上にグループ呼び出しした局のNode番号が表示されます。
8. ハンディトランシーバーのPTTを押して、MICに向かって相手局を呼び出してみてください（[- : - -]に3分間の送信可能時間をカウントダウンします）。
あとは、一般の交信と同様に行ないます。
9. 交信が終了したら、ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで **#9999D**（切断コマンド）と押します。「ピピピピッ」と音が鳴り Disconnect（切断）され交信は終了します。

ヒント

一度グループ呼び出しをして Connect している場合は TOT の設定時間が経過するまで継続されます。. グループの中で最も短い TOT 設定をしている局の値が採用されます。

ヒント

[Refresh] button は Group window の内容を最新の状態に更新します。Connecting Node list 表示に設定している場合などに有効です。
[X]（close）button を押すと、Connect ID window を閉じることができます。

ヒント

#9999D 以外に **#99999** または **#09999** でも切断コマンドとして動作します。
また、Property Screen の Call options の項目で DTMF* を Disconnect 選択し、Single-digit command をチェックを入れると、DTMF の * でも切断コマンドとして動作します。

■ Round QSO Room での交信

● Round QSO Room 接続時に便利な機能

現在ほとんどの WiRES 局は FRG 方式による交信で楽しんでいます。FRG 方式でもっともポピュラーな設定例を説明します。
WiRES-II は、デフォルトの設定でも十分通信を楽しむことができますが、さらに設定を追加することにより、よりいっそう便利な運用を楽しむことができます。

ここで説明するような設定を行なうと、下記の機能が追加されます。

◎ Round QSO Room に接続中、別の Node 局から接続要求を受けたとき、接続中の Round QSO Room から切断（disconnect）し、自動的に接続要求を受けた Node 局に接続したり、この局と QSO が終了すると、元々接続していた Round QSO Room に自動的に再接続する機能が追加されます。

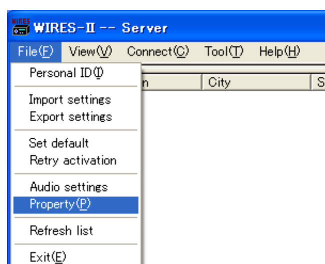
◎ Round QSO Room に Connect 中は，接続時間の制限をなくすことができます。

◎ #66666 や #6666D または #06666 のコマンドを送出すると、接続状況以外にログオン中の Node 局数をアナウンスする機能が追加されます。

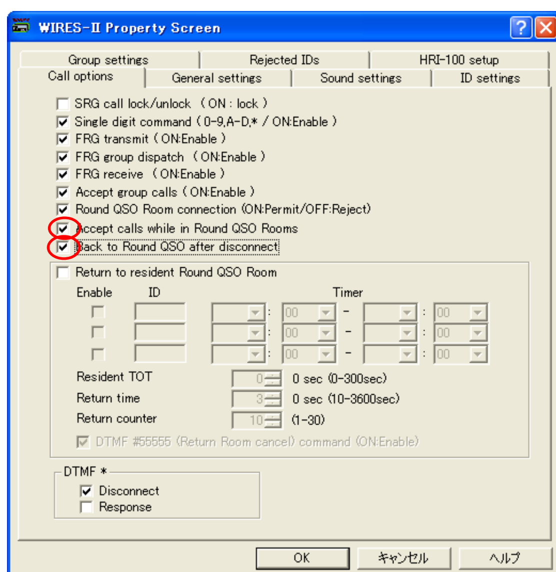
◎ Connect Request や Round QSO IN/OUT などのアナウンスを送出することができます。

◎ Log Window や Chat Window に表示される接続情報や Chat メッセージを TXT ファイルで保存することができます。

1. メニューバーにある [**File**] を開き、メニューから [**Property**] を選びます。
2. Property Screen ウインドウが表示されますので、[**Call options**] を選択します。



3. [**Call options**] の設定画面で ◯ の部分に [✔] を入れます。
4. [OK] を押します。



次ページに続きます。

注 意

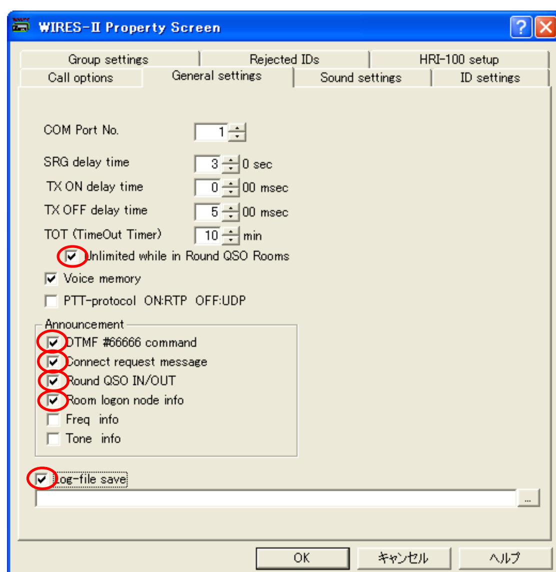
ここでは OS が WindowsXP であることを前提に説明をしておりますので、あらかじめご了承ください。

ヒント

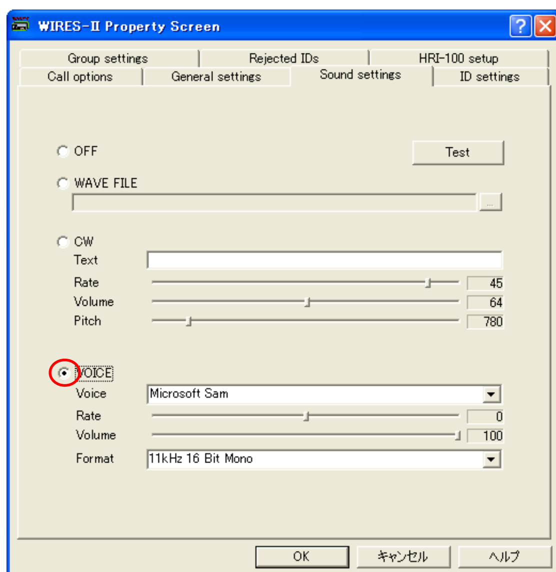
「**Accept calls while in Round QSO Room**」に [✔] を入れると、Round QSO Room へ接続中に、別の Node 局から接続要求を受け付けます。

「**Back to Round QSO after disconnect**」に [✔] を入れると、Accept calls while in Round QSO Rooms の設定が ON であることが条件で、Round QSO Room で待機中に別の Node 局から接続要求があったため、Round QSO Room から抜けて、その Node 局と交信し、交信が終了したため接続を切断（Disconnect）すると自動的に元々接続していた Round QSO Room へ再接続します。

5. [**General settings**]を選択します。
6. [**General settings**]の設定画面で ◯ の部分に[✔]を入れます。
7. 「Log-file save」のテキストボックスにファイル名を入力し、[...]をクリックして、保存場所を指定します。
8. [OK] を押します。



9. [**Sound settings**]を選択します。
10. [**Sound settings**]の設定画面で ◯ の VOICE に[●]を入れます。
11. [OK] を押します。



なお、設定追加した機能の詳細は次ページに記載されております。

注 意

Windows 2000 で音声アナウンスを利用するには、マイクロソフトのサイトより、Microsoft Speech SDK 5.1をダウンロードしてインストールする必要があります。

運用編

FRG のインターネット通信及び便利な機能（つづき）

設定追加した機能の詳細は下記のようになります。

●Accept calls while in Round QSO Rooms

Round QSO Room へ接続中に、別の Node 局から接続要求を受け取ったら、Round QSO Room の接続を切断して、接続要求を受けた Node 局と自動的に接続します。

なお、Round QSO Room に接続中で、どの局も送信していないときにのみ動作します。

●Back to Round QSO after disconnect

別の Node 局から接続要求を受け付けて、その Node 局と通信した後、リンクを切断した際に自動的に接続していた Round QSO Room へ再接続します。

●Unlimited while in Round QSO Rooms

Round QSO Room 接続中は接続時間を制限しません。

（Node 局と Node 局同士 1 対 1 での運用は、デフォルトが 10 分になります。）

●Announcement（DTMF #66666 command）

DTMF コマンドに反応して ID アナウンスを送出します。

（“ Connected to **** ” といったアナウンスを送出します。）

●Announcement（Connect request message）

Connect Request を受け取った時のアナウンスを送出します。

（“ Connect request from **** ”といったアナウンスを送出します。）

●Announcement（Round QSO IN/OUT）

Round QSO Room の IN/OUT 時のアナウンスを送出します。

（ONに設定すると、“ ****IN/****OUT ” といったアナウンスを送出します。）

●Announcement（Room logon node info）

Round QSO Room へ接続した際にログオン中の Node 局数をアナウンスする機能が追加されます。

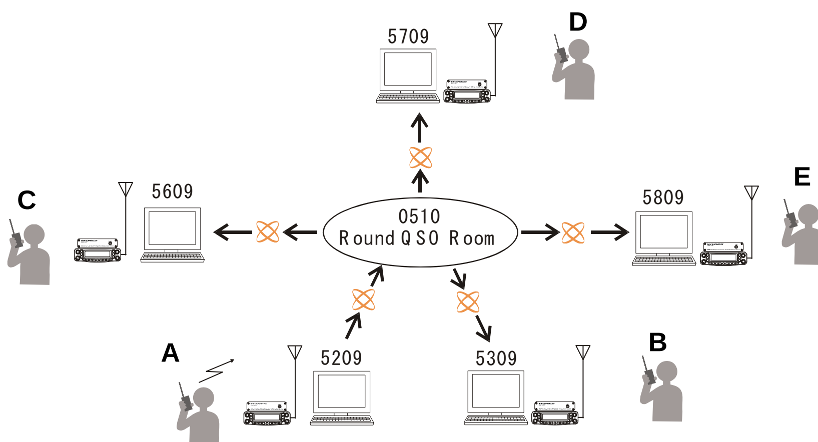
（“ Connected to **** ** Nodes ” といったアナウンスを送出します。）

●Log-file save

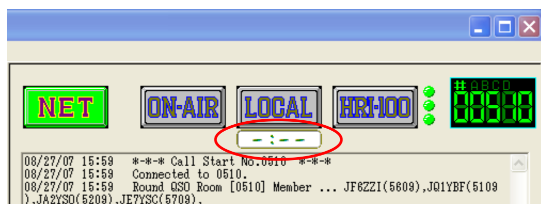
チェックを入れると接続情報を表示するログ画面とチャット内容を保存することができます。テキストボックスでファイル名を入力して右にある [...] をクリックして保存場所を指定します。

● Round QSO Room での交信

CQ 呼び出しをして通信を行うような、いわゆる CQ ルーム（例#0510D）や、気の合う仲間同士で複数の局と QSO を楽しむ小規模な Round QSO Room で交信することができます。下図は例として、複数の Node が 0510 Round QSO Room に Connect し、5209Node を利用する **A** 局が CQ を出していると仮定したイラストです。



1. HRI-100 の接続を念のためご確認ください（11 ページ参照）。
2. Node 局用のトランシーバーの周波数を決めます。
3. Node 局にアクセスするハンディトランシーバーを用意します。
4. ハンディトランシーバーを Node 局と同じ周波数に設定します。
5. ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで接続したい Round QSO Room の ID 番号を押します。例えば JA CQ Room に接続したい場合は #0510D と押します。WiRES-II のメイン画面右上にあるログリストに「Call Start No. 0510」と表示されます。



6. ハンディトランシーバーの PTT を放します。
7. ログリストに「Connected to 0510」と表示され Round QSO Room に Connect（接続）されます。
   また接続と同時に画面左上に現在 Round QSO Room に Connect してる局の Node 番号が表示され、さらに View QSL が表示されます。

ヒント

Round QSO Room には複数の Node が接続することができます。5209Node を介して **A** 局が CQ を出すと、各ノードに **A** 局の音声が届きます。

ヒント

手順 *5.* で“ #6666D ”の DTMF コマンドを送出することにより、接続状況を下記のアナウンスで確認することができます。
（例：自局が JQ1YBG，接続先 ID： 0510，Room に Node が 5 局 Connect している場合）
Node が接続：
This is JQ1YBG WiRES. connected to 0510 5 Nodes.
Node が未接続：
This is JQ1YBG WiRES. not connected.
Node との交信不可：
アナウンス無し

8. ハンディトランシーバーの PTT を押して、MIC に向かって「CQ」をだします（ - : - - に3分間の送信可能時間をカウントダウン表示します)。相手局が応答してきたら、一般の交信と同様に行ないます。
9. 交信が終了したら、ハンディトランシーバーの PTT を押したまま、DTMF キーで **#9999D**（切断コマンド）と押します。「ピピピピッ」と音が鳴り Disconnect（切断）され交信は終了します。

ヒント

Refresh button は Group window の内容を最新の状態に更新します。Connecting Node list 表示に設定している場合などに有効です。
(close) button を押すと、Connect ID window を閉じることができます。

ヒント

#9999D 以外に **#99999** または **#09999** でも切断コマンドとして動作します。
また、Property Screen の Call options の項目で DTMF* を Disconnect 選択し、Single-digit command をチェックを入れると、DTMF の * でも切断コマンドとして動作します。

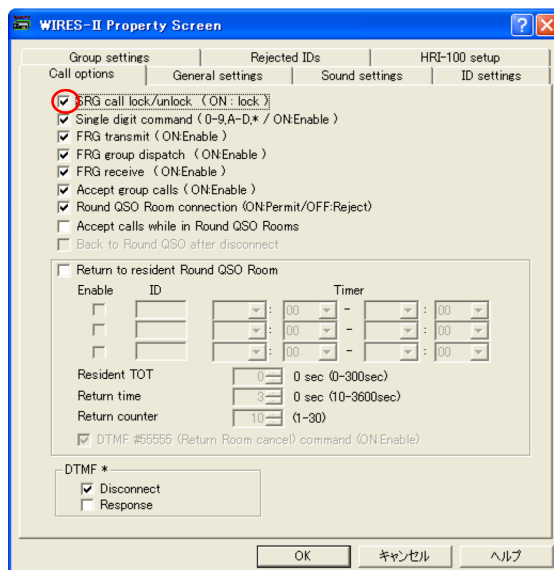
SRG のインターネット通信及び便利な機能

SRG とは“ Sister Radio Group ”の略で、「いつも話ができる姉妹のように、仲の良いグループ」という意味です。最大 10 局（自局を含む）までの相手局を登録することができます（登録方法は下記参照）。SRG のグループ内では、お互いに同じリストを持つ必要があります。グループ内の局を呼び出すときには、1 桁の DTMF を押すことで簡単にできます。

●通信前の準備

一度、WiRES 接続が確立したあと、接続をロックする“ LOCK モード ”と通信のたびに接続する“ UNLOCK モード ”が設定できます（初期値は“ UNLOCK モード ”に設定してあります）。

なお LOCK の切り換えは、
[**File**]→[**Property**]により「**Property Screen**」の画面が現れます。「**Property Screen**」の「**Call options**」を選択し、一番上の「**SRG call lock/unlock**」に[✔]を入れると“ LOCK モード ”として動作します（61 ページ参照）。



注 意

SRG 個別呼び出し後の操作は，ＳＲＧ の設定によって“ＬＯＣＫ モード ”または“ UNLOCK モード ”の違いにより動作が異なります.

ヒント

“ LOCK モード ”について

●“ LOCK モード ”では，一度接続が確立されるとそれ以後，あらかじめ設定された時間内の通信は，DTMF を送信する必要はありません．すべての通信がインターネットに接続されます.

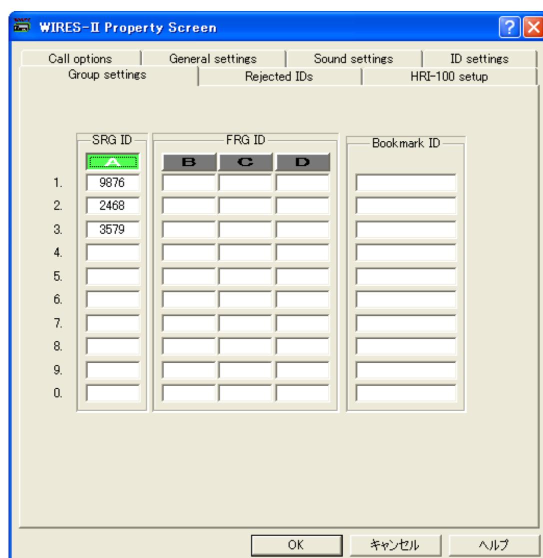
●“ UNLOCK モード ”では，送信の都度同じ DTMF 信号を送信する必要があります.

“ LOCK モード ”については，61 ページを参照してください.

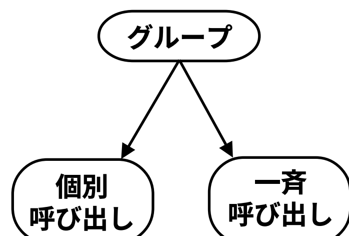
● SRG グループの登録

［**File**］→［**Property**］により「**Property Screen**」の画面が現れます。「**Property Screen**」の「**Group settings**」を選択し、グループの ID 番号を「SRG ID」の“０”～“９”のテキストボックスに登録します。登録する仲間全ての局と同じ設定にしてください. 例として下記を参照してください。

1. テキストボックス“１”に“**9876**”を入力します。
2. テキストボックス“２”に“**2468**”を入力します。
3. テキストボックス“３”に“**3579**”を入力します。
4. Group ID 局を Group window 上に表示したい場合には、［A］をクリックして［A］にします。
5. 「**OK**」ボタンを押し、入力を確定します。



グループ呼び出しのフロー



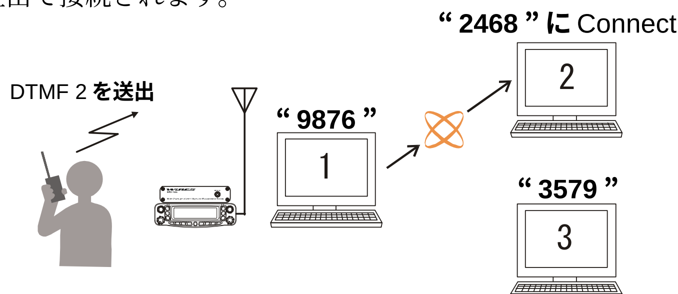
個別呼び出し：SRG ID を登録した０～９のいずれかの DTMF を送出（56 ページ参照）

一斉呼び出し：A の DTMF を送出（56ページ参照）

SRG のインターネット通信及び便利な機能（つづき）

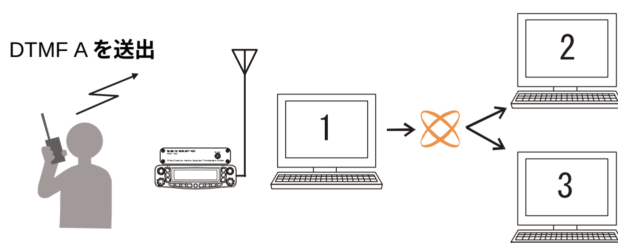
●個別呼び出し

2番に登録した“ **2468** ”のID番号の局を呼び出したい場合はトランシーバーのPTTを押しながら2のDTMF信号を送出すると、インターネット経由で接続されます。



●一斉呼び出し

トランシーバーのPTTを押しながらDTMF信号の“ **A** ”を送出すると、SRGに登録されている全ての局を一斉に呼び出すことができます。



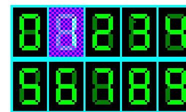
●一斉呼び出しをされて、応答するとき

“ UNLOCK モード ” のとき・・・送信の初めにDTMF信号の“ **A** ”を送出してから話します。
（Default）

“ LOCK モード ” のとき・・・ DTMF信号を送出せず、そのまま送信して話します。

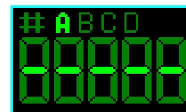
例

個別呼び出しで呼ばれると、



画面右上に接続先のDTMF番号が表示されます（1番が表示されている例）。

一斉呼び出しで呼ばれると、



画面右上に“ **A** ”と表示されます。

ヒント **ローカル通信**

インターネットを経由しない通信

WiRES-IIでは、インターネットへの接続をDTMF信号で制御していますので、DTMF信号を含まない信号を受信したときには、通常の無線機として動作します。特別な操作は必要ありません。

ただし、SRG通信でConnectされている場合は、インターネット経由で通信します。

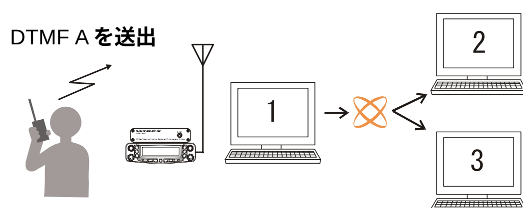
運用編

一斉呼び出しから個別呼び出しに変更する

DTMF信号の“ **A** ”を送出することで、SRGに登録されている全ての無線局に一斉応答することができますが、応答するときにDTMF信号の“ **#0000D** ”または“ **#00000** ”を送出することで、最初にアクセスしてきた局に「1対1」で接続することができます。

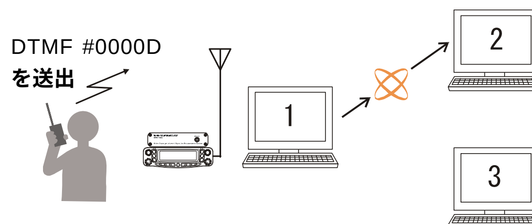
その後の通信は“ FRG通信のLOCKモード ”となり、それ以後はあらかじめ設定したロック時間の間は接続状態を維持されます。送信時にDTMF信号の送出は不要となり、PTT操作だけで通信を行うことができます。

設定時間内に接続を中止（disconnect）する場合は“ **#99999** ”または“ **#9999D** ”を送出します。



一斉呼び出し

⇒



1対1の個別呼び出しに変更

SRGのインターネット通信及び便利な機能（つづき）

VX-7のインターネットキーでSRG（UNLOCKモード）を運用する

インターネットキーを利用すると、送信の始めに毎回DTMFキーを押して送出する必要が無く、快適に運用することができます。例としてVX-7を使用したときの運用方法を説明します。

1. VX-7の［⊗］を押しながら電源を入れます（ディスプレイに“ ”が表示されます)。
2. ［⊗］を押したままDIALを左右どちらかにまわし、交信したい相手のSRG番号を表示させ［⊗］を離します。
3. PTTスイッチを押して確定します。
4. PTTスイッチを押してをSRG番号を自動的にDTMFの信号で送出後、受信状態にします。
5. PTTスイッチを押しながらマイクに向かって話します（PTTスイッチを押すたびにDTMF信号が送出されます)。

FRG通信とSRG通信を同時に行う

FRG通信でConnectの状態になっているときにDTMF信号の“ **A** ”を送出すると，相手局のSRG局を一斉に呼び出すことができます．この場合は送信の初めに，つねにDTMF信号の“ **A** ”を送出します．

たとえば，サーバID番号“ **#2400D** ”からサーバID番号“ **#3200D** ”局をFRG接続で呼び出し，接続後にサーバID番号“ **#2400D** ”の局からDTMF信号の“ **A** ”を送出すると，サーバID番号“ **#3200D** ”の局に設定されているすべてのSRG局と通信をすることができます．

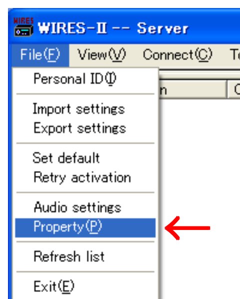
たとえば，DTMF信号“ **#2345D** ”で「IDナンバー」“ 2345 ”の局を呼び出し，接続後にDTMF信号“ **A** ”を送出すると，「IDナンバー」“ 2345 ”の局のSRGに接続された無線局を一斉に呼び出すことができます．

運用編

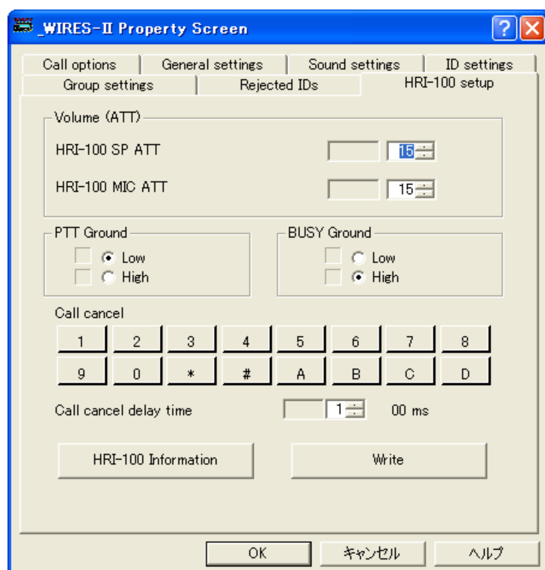
Property Screen の設定

各種の動作状態や運用状態などを設定する画面です。
WiRES-II メイン画面が表示されている状態で、ツールバーにある「**File**」をクリックし、その中にある「**Property**」をクリックするとこの画面が現れます。

インターフェースボックス“ **HRI-100** ”と無線機間、“ **HRI-100** ”とコンピューター間の、接続条件などを設定するホルダーです。



HRI-100 setup



Volume（ATT）

● **HRI-100 SP ATT（音声レベルのアッテネーター）**　「**Default：15**」

パソコンのSP端子から出力される音声を**HRI-100のSP端子へ入力**し、HRI-100内を通ってRadio端子に出てくる音声信号を自局無線機(MiniDin端子のMIC入力等)へ送る事で、無線機から音声が送信されます。
この流れで**無線機から送信される音声信号の音量**をHRI-100内部で調整する事が出来ます。
通常は初期値のままで構いませんが、画面右下にあるVolume Control(SP LEVEL/WAVE LEVEL)で調整しきれない場合に値を調整してみてください。(音量調整はAttenuator(減衰)方式ですので、数字を大きくすると減衰量が大きくなり、音量が小さくなります。)

● **HRI-100 MIC ATT**
（インターフェースレベルのアッテネーター）　「**Default：15**」

自局無線機で受信された音声をHRI-100のRadio端子へ入力し、HRI-100内を通ってHRI-100のMIC端子に出てくる音声信号をパソコンのMIC端子もしくはLINE-IN端子へ入力すると、パソコン上でdata化され、接続先Node等へdataとして送られます。
この流れで無線機で受信した音声信号の音量をHRI-100内部で調整する事が出来ます。
通常は初期値のままで構いませんが、画面右下にあるVolume Control(MICLEVEL/LINE-IN LEVEL)で調整しきれない場合に、ここの値を調整してみてください。

ヒント

数値が大きいほど
→ATT大きくなる
数値が小さいほど
→ATT小さくなる

注意

レベルを上げすぎると（数値を小さくしすぎると)、無線機が過変調になり、音質が悪くなったりします。また、レベルを下げすぎると（数値を大きくしすぎると)、DTMF信号の認識ができなくなる事がありますのでご注意ください。

例として、下記の症状が出る場合は調整すると効果があります。
例1:LINE-IN入力端子から信号入れても音量過大になる場合
例2:MIC入力端子から信号入れても音量が小さすぎる場合
(音量調整はAttenuator(減衰)方式ですので、数字を大きくすると減衰量が大きくなり、音量が小さくなります。)

PTT Ground（送信切替信号の設定）「Default：Active Low」

無線機の**PTT**端子の極性（“Active Low”または“Active High”）にあわせて設定します。
無線機とインターフェースボックス“**HRI-100**”を接続した後、無線機の電源を“ON”にしたときに、無線機が送信状態になる場合はこの設定を変更してください。

BUSY Ground（受信切替信号の設定）「Default：Active High」

無線機の**BUSY**端子の極性（“Active Low”または“Active High”）にあわせて設定します。
無線機とインターフェースボックス“**HRI-100**”を接続した後、無線機の電源を“ON”にしてスケルチを“OFF”にして（**SQL**ツマミを反時計方向にまわしきったとき）、WiRESメイン画面の「**BUSY**」が“グレー”になる場合は、「**BUSY**」表示が“緑色”になるように設定を変更してください。

Call cancel（呼び出しキャンセルスイッチ“ 0 - 9 , A , B , C , D , * , # スイッチ”）

受信したDTMF信号を無効にするスイッチです。

WiRES-IIでは、送信の初めにDTMF信号を送出することにより接続先のNodeを指定しますが、このスイッチで特定したDTMF信号を受信したときには、Connect動作を無効にすることができます。たとえば、SRGの「一斉呼び出し」(DTMF信号の“A”で行う呼び出し操作）を受け付けたくないときには、 A のスイッチをクリックして、スイッチが押し込まれた状態にします。この状態では、DTMF信号の“A”を受信してもConnect動作は行われず、SRGの「一斉呼び出し」は無効になります。同様に、SRG番号“9”の無線局の個別呼び出しを受け付けたくないときには、 9 のスイッチをクリックして、スイッチが押し込まれた状態にします。

Call cancel delay time 「Default：100ms」

上記のスイッチで、送信の初めに送られてくるDTMF信号を無効にした場合、次に送られてくるDTMF信号が有効になるまでの時間を設定します。設定できる時間は、“100ms（0.1秒）”から“1000ms（1秒）”までです。通常は、初期値（Default）のままで使用します。

HRI-100 Information Button

インターフェースボックス“**HRI-100**”のメモリーに書き込まれている、“**HRI-100 setup**”ホルダーの設定内容を確認するボタンです。
このボタンをクリックすると、インターフェースボックス“**HRI-100**”のメモリーに書き込まれている現在の状態をグレーアウトしている部分に表示します。なお、 0 - 9 , A , B , C , D , * , # **スイッチ**表示部は、有効に設定されている場合は“○”、無効に設定されている場合は“×”が表示されます。

Write Button

“ **HRI-100 setup** ” ホルダーの設定内容を、インターフェースボックス“ **HRI-100** ” のメモリーに書き込むボタンです。

“ **HRI-100 setup** ” ホルダー内の各項目値を「設定」または「変更」した際には必ず、このボタンを押して設定値をインターフェースボックス“ **HRI-100** ” のメモリーに書き込んでください。

書き込みが行われると、グレーアウトした部分に書き込んだ内容が表示されます。なお、0 - 9 , A , B , C , D , * , # **スイッチ**表示部は、有効に設定されている場合は “ ○ ”、無効に設定されている場合は “ × ” が表示されます。

OK **Button**

Property Screen の設定画面を終了します。

キャンセル **Button**

Write をクリックする前に キャンセル をクリックすると、設定した内容は反映されず Property Screen の設定画面を終了します。

ヘルプ **Button**

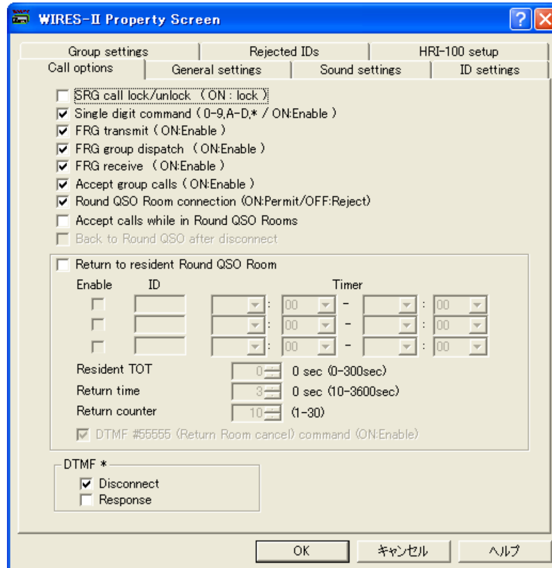
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

注 意

HRI-100 setup を行なう前に、他の Property Screen を設定して、まだ OK をクリックしていない状態で キャンセル をクリックすると、他の Property Screen の設定内容は反映されず、キャンセルされますのでご注意ください。

Call options

WIRES-II 無線局の呼出方法などを設定するホルダーです.



SRG call lock/unlock（SRG の接続後の状態を選択）「Default：OFF」

SRG（Sister Radio Group）に登録された局間での，個別通信の方式を切り替えます.

ON ：通信モードを“LOCK モード”にする。

OFF：通信モードを“UNLOCK モード”にする。

“LOCK モード”

SRG無線局を呼び出すためのDTMF信号は，最初に呼び出すときにのみ必要で，一度接続が確立した後はDTMF信号の送出は必要ありません.“LOCKモード”では, インターネット接続がタイムアウトタイマー（TOT :“**General settings**”ホルダーで設定します. 67 ページ参照）により自動的に切断されるか，切断コマンドである「**#9999D**」の送出により強制的に接続を切断するまでは，接続先の切り替えや，新たな接続を行うことはできません.

“UNLOCK モード”

SRG 無線局を呼び出すための DTMF 信号を，送信の初めに毎回送出する必要があります.“UNLOCK モード”では，通話の最中でも，送信の初めに違う番号の DTMF 信号を送出することにより，通信ごとに接続先を簡単に切り替えることができます．例えば，SRG 番号“**3**”の無線局と交信した直後に，DTMF 信号の“**4**”を送出すると，瞬時にSRG番号“**4**”の無線局と接続をすることが可能です．また，DTMF信号の“**A**”を送出することで，一斉呼び出しも可能です.

注 意

SRG call lock/unlock の設定は，登録する仲間全ての局で，同じ設定にしてください.

ヒント

#9999D 以外に **#99999** または **#09999** でも切断コマンドとして動作します。

また、Property Screen の Call option の項目で DTMF* を Disconnect 選択し、Single-digit command をチェックを入れると、DTMF の * でも切断コマンドとして動作します。

環境設定編

例 VX-7 のインターネットキーで SRG（UNLOCK モード）を運用する

インターネットキーを利用すると、送信の始めに毎回 DTMF キーを押して送出する必要が無く、快適に運用することができます。例として VX-7 を使用したときの運用方法を説明します。

1. VX-7 の［ ］を押しながら電源を入れます（ディスプレイに“ ”が表示されます）。
2. ［ ］を押したまま DIAL を左右どちらかにまわし、交信したい相手の SRG 番号を表示させ［ ］を離します。
3. PTT スイッチを押して確定します。
4. PTT スイッチを押してを SRG 番号を自動的に DTMF の信号で送出後、受信状態にします。
5. PTT スイッチを押しながらマイクに向かって話します（PTT スイッチを押すたびに DTMF 信号が送出されます）。

Single digit command
（一桁コマンドの使用設定）「Default：ON」

SRG [0]-[9]、グループ呼び出し**[A]-[D]**、**[＊]**など１桁のコマンドを自局無線機で受信した際の動作をここで規定します。
(チェックボックスにチェックマークを入れるとON(Enable)設定です。)

ON： １桁コマンドを有効にする。
OFF： １桁コマンドを無効にする。

なお、OFF にすると、**[＊]**での切断コマンドが使用できなくなるため、#9999D または#99999、#09999で切断します。また、SRG呼び出し（**0**-**9**)、SRG,FRG の一斉呼び出し(**A**-**D**)も使用できなくなります。

FRG transmit（FRG の接続を有効にする）「Default：ON」

FRG（Friendly Radio Group）の「個別呼び出し」コマンドを自局無線機で受信した際の動作をここで規定します。

ON： #0001D のような FRG による呼び出しを有効にする。
OFF： FRG による呼び出しを無効にする。

FRG の「個別呼び出し」を ON にすると、WiRES のホームサーバーに登録されている全ての WiRES 無線局の中から１局を選んで呼び出すことができます。
呼び出しは、「**#＊＊＊＊D**」または「**#＊＊＊＊＊**」の６桁の DTMF 信号で行います。
詳しい使用方法は，46 ページの「FRG の個別呼び出し」の項目をご覧ください.

FRG group dispatch
（FRG のグループ呼出しコマンドを有効にする）「Default：ON」

Group settings 内の“**FRG ID**”ホルダーで登録した，FRG グループの「一斉呼び出し」コマンド(**B**-**D**)を自局無線機で受信した際の動作をここで規定します。

ON： 一斉呼び出しコマンドを有効にする。
OFF： 一斉呼び出しコマンドを無効にする。

設定が ON の時には、“**B**”,“**C**”,“**D**”のいずれか１つのグループに登録されている全ての無線局を一斉に呼び出すことができます．なお，グループ番号（“**B**”,“**C**”,“**D**”）はDTMF信号の“**B**”,“**C**”,“**D**”に対応しており，送信の初めにDTMF信号の“**B**”キーを送出するとグループ“**B**”に登録されている無線局が一斉に呼び出されます．詳しい使用方法は，47 ページの「FRG のグループ呼び出し」の項目をご覧ください.

FRG receive（インターネットサーバーからの FRG 呼び出しを受ける）「Default：ON」

他の WiRES 局から、Internet経由で FRG 呼び出しを受けた際の動作をここで規定します。

ON： 他の WiRES 局からの自局 ID 宛の呼び出しを受け付ける。
OFF： 他の WiRES 局からの自局 ID 宛の呼び出しを受け付けない。

OFF 設定でも、SRG、FRG リストに登録されている局からの呼び出しは受け付けます。
ただし、Reject IDs に登録してある局からの呼び出しに対しては、設定に関わらず全て拒否されます。

ヒント

声やノイズをコマンドとして受け付けてしまう様な場合、OFF にすると誤動作防止に効果があります。

Accept group calls
（インターネットサーバーからの一斉呼び出しを受ける）「Default：ON」
他の WiRES 局から、Internet 経由で、SRG,FRG グループの「一斉呼び出し」コマンド(A-D)による呼び出しを受けた時の動作を設定します。
ON：　この呼び出しを受け付ける。
OFF：この呼び出しを受け付けない。

Round QSO Room connection (ON:Permit/OFF:Reject)
（Round QSO Room への接続要求の可否）「Default：ON」
Round QSO Room への接続要求を受け取った際の動作を設定します。
ON(Permit)：Round QSO Room へ接続する。
OFF(Reject)：Round QSO Room に接続しない。

Accept calls while in Round QSO Rooms
（別の Node 局からの接続要求の可否）「Default：OFF」
Round QSO Room へ接続中に、別の Node 局から接続要求を受け取った時の動作を設定します。
ON：　別の Node 局からの接続要求を受け付ける。
(Round QSO Room との接続を切断してから、Node局と接続する。)
OFF：別の Node 局からの接続要求を受け付けない。
(Round QSO Room との接続を維持する。)
なお、Round QSO Room チェックイン時、どの局も送信していないときにのみ動作します。

Back to Round QSO after disconnect　「Default：OFF」
Accept calls while in Round QSO Rooms 設定が ON で、別の Node 局から接続要求を受け付けて、その Node 局と交信した後、接続を切断(Disconnect)した後の動作を設定することができます。
ON：　もともと接続されていた Round QSO Room へ再接続します。
OFF：Round QSO Room への再接続は行いません。

Return to resident Round QSO Room
（指定した Round QSO Room へ自動接続する）「Default：OFF」
指定した Round QSO Rooms へ自動接続させる為の機能です。
ON：　指定した Round QSO Room へ自動接続する機能を動作させます。
OFF：指定した Round QSO Room へ自動接続する機能を動作させません。
パソコンの画面上でチェックボックスを操作する以外に、DTMF の #5555D(#55555 または #05555)コマンドでも状態を変更する事ができます。
DTMF の #5555D コマンドにより、状態を OFF から ON に変更した場合、Resident Room ID & Timer の各設定も全て Enable(ON)状態になります。

注 意
Return to resident Round QSO Room機能を使っている場合には、条件により設定が無効になります。詳細は、Resident Round QSO Room 接続の条件について help を参照してください。

ヒント
Resident Room ID & Timer で指定された時間内に、指定された Round QSO Room へ接続すると自動接続状態となります。(Connect コマンドによる手動接続時でも、指定時間内であれば自動接続状態となります。)
逆に、それ以外の接続は全て通常接続となります。

Call options（つづき）

Resident Room ID & Timer
（自動接続したい Round QSO Room の ID 番号と、接続時間帯を最大３カ所まで設定可能）「 Default：OFF」

自動接続したい Round QSO Room の ID 番号と、接続させておく時間帯(Timer)を最大 3 カ所まで設定する事が出来ます。Enable チェックボックスへ " レ点 " を入れると設定した Round QSO Room へ希望の時間に自動接続することができます。

ON:　指定した時間帯に設定した Round QSO Room へ自動接続を行います。

OFF:　自動接続は行われません。

自動接続が出来なかった(return to room No.$ [XXXX] count over. が log 上に出た)場合には、自動的にこのチェックは外れます。(OFF 状態に移行します。)

再度自動接続させたい場合、パソコンの設定画面上でチェックを入れるか、DTMF の #5555D(#55555 または #05555)コマンドを使い、Return to resident Round QSO Room 機能自体を ON にしてください。

☑ Return to resident Round QSO Room

Enable	ID	Timer				
☑	0510	13	00	-	17	00
☑	0511	17	00	-	18	00
☑	0509	18	00	-	23	30

ID

自動接続したい Round QSO Room の ID 番号を指定します。

最大 3 カ所設定でき、同じ時間帯で複数の接続先を指定する事も可能です。

Timer（StartTime　-　EndTime）

自動接続させる時間帯を 5 分単位で指定します。

最大 3 カ所設定でき、同じ接続先で複数の時間帯を指定する事も可能です。

24 時間、常に自動接続させたい場合には、00:00　-　24:00　を指定します。

Resident TOT（通話中監視時間の設定）

「parameter=0~300 / **Default：0 sec**」

Resident Room ID & Timer で設定した Round QSO Room へ接続すると、Disconnect 操作(DTMF コマンド等)や通信路トラブル等が無ければ、Timer の指定時間内は接続を維持します。

Timer の指定時間を過ぎたら、まず、INTERNET 点灯状態にならないか監視し、監視時間内に INTERNET 点灯状態にならなければ自動接続を解除(Disconnect)します。この監視時間を設定することができます。

もし、監視時間内に INTERNET 点灯状態になった場合には、通話中であると判断し、自動接続を解除せず、接続状態を維持します(Resident TOT = 0 [sec]の場合は除く)。

INTERNET 点灯状態から、LOCAL 消灯に戻った所で、再度監視を行います。

注 意

最大３つの接続先を設定できますが、自動接続実行時に条件が重なる場合、上の行の指定を優先します。

ヒント

Resident Room ID & Timer の使用例として HELP に詳しく記載しておりますので Resident Room ID & Timer の HELP を参照してください。

ヒント

３つの設定個所の内、接続先が 1 箇所だけ Enable(ON)の状態だった場合は、#5555D (#55555 または #05555) コマンドを使い一旦 OFF に設定し、再度 #5555D で ON に設定すると、３つの設定がすべて ON の状態になります。

環境設定編

ヒント

INTERNET が点灯になると、Resident TOT のタイマーはリセットされます。また、Local が消灯になった状態で Resident TOT で設定した時間が続いたら接続が解除 (Disconnect) されます。

Call options（つづき）

Return time（自動接続を実行するまでの待機時間の設定）

「parameter=10~3600 / **Default：30 sec**」

Return to resident Round QSO Room の設定が ON の時、IDLE 状態になってから、自動接続を実行するまでの待機時間をここで設定します。長い時間を設定する際には、下記数値を参考にしてください。

5 分 ＝ 300sec	30 分 ＝ 1800sec
10 分 ＝ 600sec	40 分 ＝ 2400sec
15 分 ＝ 900sec	50 分 ＝ 3000sec
20 分 ＝ 1200sec	60 分 ＝ 3600sec

Return counter（自動接続の実行回数設定）

「parameter=1~30 / **Default：10** 」

Return to resident Round QSO Room の設定が ON の時の自動接続実行回数をここで設定します。

指定した回数の自動接続を実行しても、接続が出来なかった(return to room No.$ [XXXX] count over. が log 上に出た)場合には、自動的に Resident Room ID & Timer 内の該当する接続設定のチェックを外します(OFF 状態に移行します)。

OFF状態になった自動接続設定を再度機能させたい場合、パソコンの設定画面上でチェックを入れるか、DTMF の #5555D(#55555 または #05555)コマンドを使い、Return to resident Round QSO Room 機能自体を ON にしてください。

DTMF #55555(Return Room cancel)command

（Round QSO Roomの自動接続をON/OFFする設定）「Default:ON」

DTMF の #5555D(#55555 または #05555)コマンドの動作を ON/OFF します。

Return to resident Round QSO Roomを停止/再稼働させる為のDTMFコマンドの動作を下記の通り設定します。

ON：　DTMF #55555 コマンドを有効にする。(受け付ける)

OFF：DTMF #55555 コマンドを無効にする。(受け付けない)

DTMF （DTMF の＊キーの動作を選択）「Default：Disconnect」

DTMF の＊キーの動作を選択します。初期値は、#9999D や #99999 もしくは #09999 と同じ切断要求 “ Disconnect ” として動作します。“ Response ” を選択すると、SRG で呼び出しをうけたとき、＊を前置して応答します。また、SRG グループ呼び出しを受けた場合、＊を前置して応答すると呼び出しをした ID の局へ応答し、その後は LOCK になり通常の交信を行うことができます。

OK Button

このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button

このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ Button

このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

注 意

Return time で短い時間を設定すると、接続が出来なかった場合にエラー音を繰り返し送信する事となり、あまり好ましくありません。
Return counterの設定とあわせ、他局に迷惑がかからない程度の適切な値を指定するようにしましょう。

注 意

Return counterで接続回数を多めに設定すると、接続が出来なかった場合にエラー音を繰り返し送信する事となり、あまり好ましくありません。

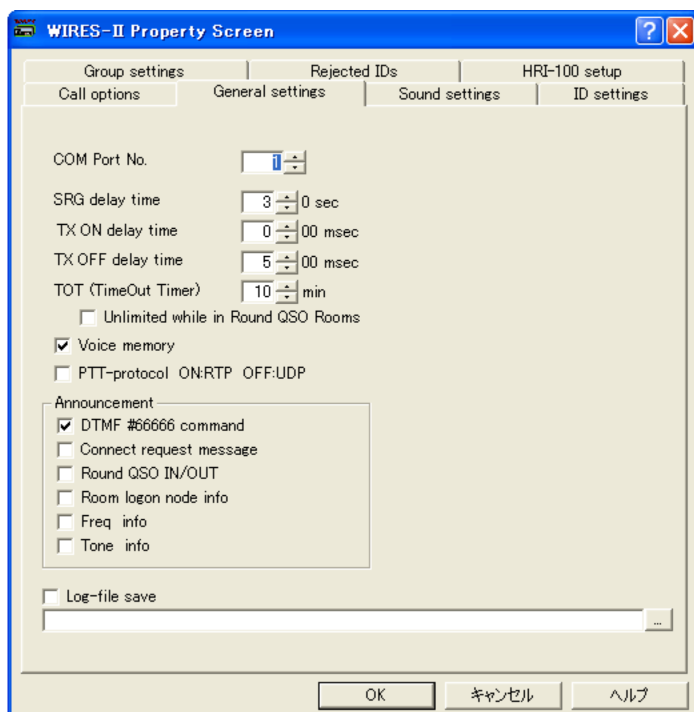
Return timeの設定とあわせ、他局に迷惑がかからない程度の適切な値を指定する様にしましょう。

ヒント

３つの設定個所の内、接続先が１箇所だけ Enable(ON)の状態だった場合は、#5555D (#55555 または #05555)コマンドを使い一旦 OFF に設定し、再度 #5555D で ON に設定すると、３つの設定がすべて ON の状態になります。

General settings

WIRES-II の接続条件等を設定するホルダーです。



COM Port No.（COM ポートの設定） 「parameter=1~256 / **Default：1**」

インターフェースボックス“ **HRI-100** ”を接続したパソコンの「COM Port」番号を選択します。

注 意

[OK] を押した時に、COM Port **番号の右側に“ **** Invalid COM port. **” と表示される場合には、設定が正しくない可能性があります。**
また、WiRES **ソフトウエア(**WiRES-II.exe**)起動直後や、**COM Port **の設定を変更した際に、“** COM: # # # Invalid Port No or Port was already open **”(**# # # **は** COM Port **の番号)というメッセージが** log **画面上に表示される場合があります。このメッセージが表示される場合も、**COM Port **の設定が正しくない可能性があります。**
これらのエラーが出る場合には、OS **のデバイスマネージャー画面から、**COM Port **番号を調べ、正しく設定する様にしてください。**
WiRES **ソフトウエア(**WiRES-II.exe**)のメイン画面右上にある、「HRI-100」の表示が赤色に点灯する場合には、パソコンと** HRI-100 **の間で通信が出来ていません。**
この場合には、COM Port **番号の他に、**HRI-100 **の電源、パソコンと** HRI-100 **との接続なども確認してください。**

SRG delay time

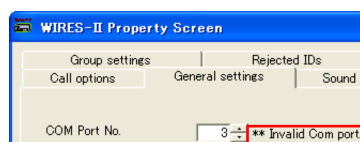
(“ UNLOCK ” モード時による Connect 状態の保持時間の設定)

「parameter=10~300 /**Default：30sec(30 秒)**」

SRG 通信で通話モードが“ UNLOCK モード ”のとき、無線機からの「送信コマンド」がなくなっても、設定した時間だけ Connect 状態を保持します。この時間内に送信を再開すると、DTMF 信号がなくてもいままでつながっていた相手局と Connect 状態を保持し続けます。設定できる時間は“ 10 秒 ” から“ 300 秒 ” までです。

注 意

COM Port 番号の右側に“ ** Invalid COM port. ”と表示される場合には、設定が正しくない可能性があります。OS のデバイスマネージャー画面から、COM port 番号を調べ、HRI-100 が接続される COM port を正しく設定する様にしてください。



環境設定編

TX ON delay time（頭切れ防止時間の設定）

「parameter=0~3000 /**Default：0ms(0 秒)**」

無線機を送信状態にさせた後、インターネットから受け取った音声やアナウンス、ID などを出力し始めるまでの遅延時間を設定します(頭切れ防止)。会話やアナウンス、ID などの最初が頭切れするような場合には、設定時間を長くします。
設定できる時間は“0ms（0 秒）”から“3000ms（3 秒）”までです。

TX OFF delay time（切断時間の設定）

「parameter=100~3000 /**Default：500ms(0.5 秒)**」

無線機の PTT が“OFF”になってからの「送信ディレイ時間」を設定します。
インターネット経由の「送信コマンド」がなくなっても、設定した時間だけ自局の無線機は送信状態を保持します。会話の最後が途切れるような場合は、設定時間を長くします。設定できる時間は“100ms（0.1 秒）”から“3000ms（3 秒）”までです。

TOT（Time Out Timer）（FRG/SRG ロック時間の設定）

「parameter=5~60 /**Default：10min(10 分)**」

FRG 通信や Round QSO Room での NET 接続状態を継続する時間を設定します。
また、SRG 通信でも、通話モードが“LOCK モード”のとき、連続して通話できる時間を設定します。
設定した時間が過ぎると、自動的に disconnect(切断)されます。
設定できる時間は“5 分”から“60 分”までです。なお、通話モードの選択は“Call Options”ホルダーで行います（65 ページ参照）。

Unlimited while in Round QSO Rooms
（Round QSO チェックイン時の時間制限解除）

「**Default：OFF（Limited）**」

Round QSO Room へ接続時の TOT(Time Out Timer)による時間制限機能の動作を設定します。

ON(Unlimited)：　Round QSO Room接続中は接続時間を制限しません。

OFF(Limited)：　Round QSO Room接続中でも接続時間を制限をします。

Voice memory（ボイスメモリー機能を使わない）　「**Default：ON**」

コンピューター内のボイスメモリーの動作を“ON/OFF”するスイッチです。
ボイスメモリーの動作を“ON”にすると（チェックボックスにチェックマークを入れると）、無線局がローカル動作しているときにインターネットを介して他の無線局から呼び出しを受けると、一時的に内容を録音し、ローカル動作が終了した時点で録音した内容を再生します。通常はこの状態（ボイスメモリー“ON”）で使用します。

注 意

HRI-100 にも TOT 機能と同様なハードウエアタイマー機能がついており、無線機の連続送信が 3 分以上続くと自動的に PTT を OFF にして受信状態に戻ります。連続送信が 3 分以上にならないようにご注意ください。

注 意

TOT 機能は、Unlimited while in Round QSO Rooms の設定が OFF(limited)設定になっている場合のみ有効です。

TOT 機能や Unlimited while in Round QSO Rooms機能は Return to resident Round QSO Room 機能を使用すると、条件により設定が無効になります。詳細は、Resident Round QSO Room 接続の条件について help を参照してください。

PTT-protocol ON:RTP OFF:UDP
（UDP/RTP コントロール）「Default：OFF（UDP）」

PTT コマンドのプロトコルを切り替えるスイッチです。

OFF(UDP)：処理負荷の軽い“ UDP: User Datagram Protocol ”で動作

ON(RTP): 送受信切替のタイミングを優先的に処理する“ RTP: Realtime Transport Protocol ”で動作。

通常は、チェックボックスにチェックマークが入っていない“ **UDP** ”で使用しますが、PTT コマンドが遅い場合には、“ **RTP** ”に切り替えます。なお、“ **RTP** ”に切り替えると、まれに音声が途切れる場合がありますので、その場合は、“ **UDP** ”に戻してください。

Announcement（DTMF #66666 command）
（ID アナウンス送出設定）「Default：ON」

DTMF の #66666 コマンドの動作を ON/OFF します。
ON に設定すると、DTMF コマンドに反応して ID アナウンスを送出します。

注 意
#66666 コマンドを一度送出すると、20秒間は再送出できません。再度送出するときは 20 秒経過してから送出してください。

Announcement（Connect request message）
（コネクトリクエストのメッセージを出力）「Default：OFF」

Connect Request を受け取った時のアナウンス送出を ON/OFF します。
ON に設定すると、“ Connect request from ＊＊＊＊ ” といったアナウンスを送出します。

Announcement（Round QSO IN/OUT）
（Round QSO Room 利用時にチェックイン / アウトの ID アナウンスを出力）
「Default：OFF」

Round QSO Room の IN/OUT 時のアナウンス送出を ON/OFF します。
ON に設定すると、“ ＊＊＊＊IN/＊＊＊＊OUT ” といったアナウンスを送出します。

Announcement (Room logon node info)　「default = off」

Round QSO Room へ接続した際にログオン中の Node 局数をアナウンスする機能が追加されます。
(この設定は、NET 接続時(Sound settings で Voice 指定時)、#66666 コマンド実行時及び、ID settings で Voice ID 指定時のアナウンス内容にそれぞれ影響します。)

OFF：Round QSO Room と Node の接続によるアナウンスの差はありません。
(例:“ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 0510. ”)

ON：接続した Round QSO Room にログオン中の Node 局数をアナウンスに追加します。(下記は 3 局 logon 時の例)
(例:“ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 0510. 3 Nodes. ”)

ヒント
Announcement 機能は、Microsoft Speech がインストールされている時のみ動作します。なお、このアナウンス音声の音量は、Sound settings の Voice の Volume 調整バーにて行います。

環境設定編

General settings（つづき）

Announcement (Freq info)　「default = off」

アナウンスに周波数情報を追加する機能です。

(この設定は、NET接続時(Sound settingsでVoice指定時)、#66666コマンド実行時及び、ID settingsでVoice ID指定時のアナウンス内容にそれぞれ影響します。)

OFF: 周波数情報をアナウンス内容に付加しません。
(例:" This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx. ")

ON: 周波数情報をアナウンス内容に付加します。
(例:" This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx. 438.02MHz. ")

Announcement (Tone info)　「default = off」

アナウンスにトーン / コードスケルチ情報を追加する機能です。

(この設定は、NET接続時(Sound settingsでVoice指定時)、#66666コマンド実行時及び、ID settingsでVoice ID指定時のアナウンス内容にそれぞれ影響します。)

OFF: TONE情報をアナウンス内容に付加しません。
(例:" This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx. ")

ON: TONE情報をアナウンス内容に付加します。
(例:" This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx.88.5Hz. ")

Log-file save（ログ画面とチャット内容を保存）「Default：OFF」

チェックを入れると接続情報を表示するログ画面とチャット内容を保存することができます。テキストボックスでファイル名 OK て右にある ... をクリックして保存場所を指定します。

Button

このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル **Button**

このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ **Button**

このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

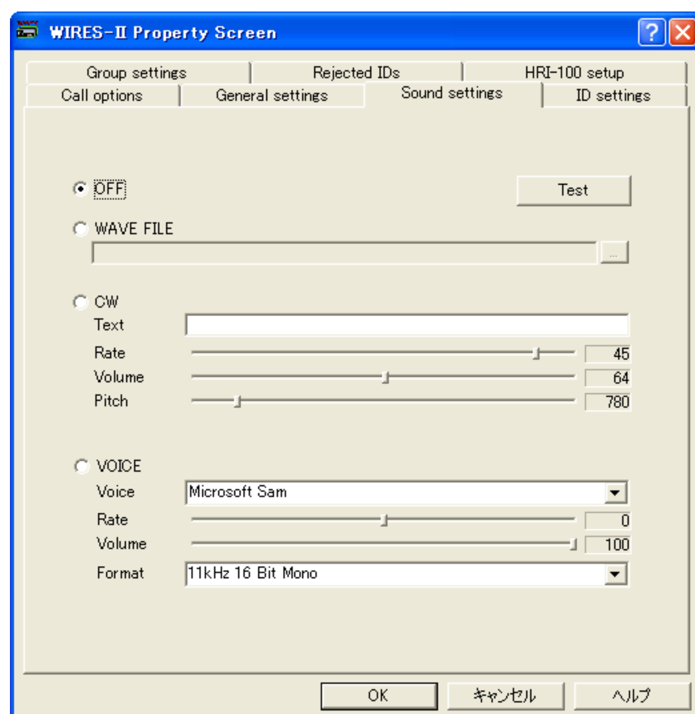
ヒント

AnnouncementのFreq infoとTone infoをONにするとアナウンスに周波数とTONE情報を追加することができます。

例: " This is JQ1YBG WiRES. Connected to xxxx. 438.02MHz and 88.5Hz. "

Sound settings

Connect 時の出力音声の形式の選択と、各音声形式の細かいパラメータを設定します。なお、各音声形式毎の細かいパラメーター(CW pitch とか Voice の音量など)は ID settings の選択音声にも影響します。



Test（音または音声の出力確認）

設定した WAV，CW，VOICE の内容を音声出力して確認することができます(無線機から送信される音声を確認したい時に使用します)。
なお、Test ボタンによる再生は、IDLE 状態時のみ動作します。別の WiRES 局と接続中には動作いたしません。

OFF（接続時の音または音声の送信禁止）「Default：OFF」

接続時の CW ID の音または WAV，VOICE の音声を送信しないようにできます。ただし、切断時の音、接続コマンドが受け付けられなかった時のエラー音(接続先Nodeが、通話中もしくはインターネット接続してない状態の時など)を消すことはできません。

WAVE FILE（インターネット接続確認音）

WiRES では、Node や Round QSO Room との接続が確立したことを音で確認することができます。この項目は、そのときに送出する、「接続確認音」を選択します。
「接続確認音」は自局の無線機にのみ送出され、接続先の無線局には送出されません。
「接続確認音」は、パソコンに登録されている“ WAV ファイル ”であれば、どのような音（例えば自局のコールサイン）でも使用できます。
右端のボタン（...）を押すと file 選択画面が開きますので、希望の WAV ファイルが登録してあるディレクトリを選び、選択します。

環境設定編

CW（接続時にモールス符号で送信）

CW（モールス符号）により接続時に送信することができます。
自分が接続した場合、または相手が接続した場合は " TEXT " に入力したテキストを CW で送信します。[**初期設定：OFF**]

Text： 送信する文字を入力します。下記の文字(全て半角)にのみ対応します(全角で入力すると正常な符号が出ません)。
記号：[space] " $ ' ( ) + , - . / : = ? @
数字(0-9)、アルファベット文字(A-Z)

Rate： CW のスピードを可変できます。
（切断音などのスピードも変わります）

Volume： CW の送信音量を調整します。

Pitch： CW 音のトーンピッチを可変することができます（切断音などのトーンピッチも変わります）。

VOICE（接続時に音声で送信）

接続時に音声によるアナウンスを送信します。

●自分が接続操作をした場合

" This is 登録してあるコールサイン WiRES. Connected to 相手の ID "

●相手が接続した場合

" This is 登録してあるコールサイン WiRES. Connect from 相手のID "

Voice： 音声の種類を選択します

Rate： 音声のスピードを可変できます

Volume： 音声の音量を可変できます

Format： 音のビットレートを確認できます

[OK] **Button**

このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

[キャンセル] **Button**

このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

[ヘルプ] **Button**

このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

注 意

● CW の Rate,Volume,Pitch の設定値は、ID settings内の CW ID の出力にも影響します。

● CW の送信は第 3 級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

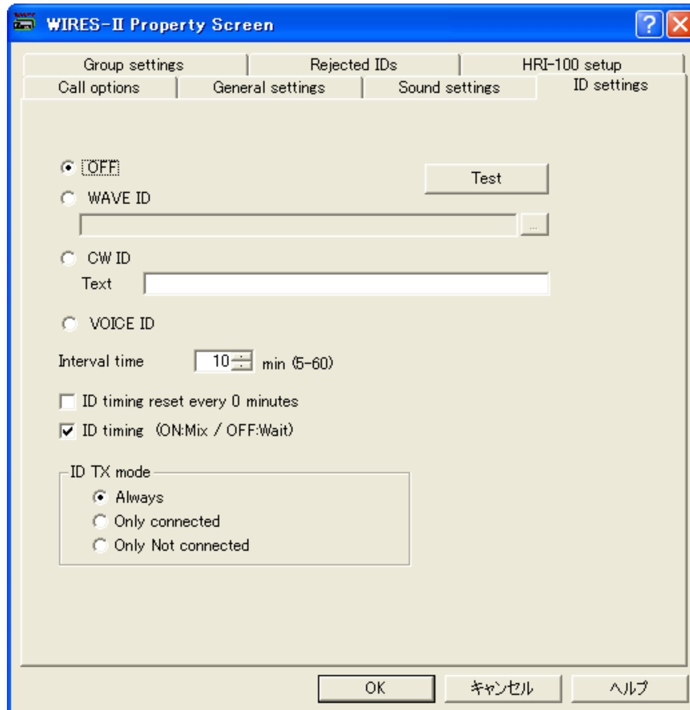
注 意

● Voice, Rate, Volume, Format の各設定値は、ID settings内の VOICE ID の出力にも影響します。

● Voice は Microsoft Speech がインストールされている場合のみ有効です。Windows XP/Vista/7は、OS標準の音声合成機能にて運用可能です。
Windows 2000では音声アナウンスを利用するには、Microsoft Speech SDK 5.1 をダウンロードしてインストールする必要があります。

ID settings

定期的に ID を送出する機能に関しての設定を行います。



Test ボタン（音または音声の出力確認）

設定した WAVE ID,CW ID,VOICE ID の内容を音声出力して確認することができます(無線機から送信される音声を確認したい時に使用します)。なお、Test ボタンによる再生は、IDLE状態時のみ動作します。別の WiRES 局と接続中には動作いたしません。

OFF（ID 送出の送信禁止）「Default：OFF」

定期的に ID を送出する機能を動作させない時に選択します。

WAVE ID（Wave File での ID 送出供給）

定期的に送出する ID を Wave File で供給する場合に選択します。
ここで使う音声データは、パソコンに登録されている " WAV ファイル " であれば、どのような音（例えば自局のコールサイン）でも使用できます。
右端のボタン（...）を押すと file 選択画面が開きますので、希望の WAV ファイルが登録してあるディレクトリを選び、選択します。

CW ID（CW での ID 送出供給）

定期的に送出する ID を CW で送出する場合に選択します。

TEXT：送信する文字を入力します。下記の文字(全て半角)のみ対応します(全角で入力すると正常な符号が出ません)。

記号:[space] " $ ' ( ) + , - . / : = ? @

数字(0-9)、アルファベット文字(A-Z)

なお、Rate,Volume,Pitch の各パラメータは、Sound settings の CW 設定に準じます(必要であれば、Sound settings の CW 設定を変更してください)。

注 意

この機能を使用する際には、Node を運用する周波数において、他局に混信を与えない様に、細心の注意を払って運用を行って下さい。

注 意

CW の送信は第 3 級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

環境設定編

ID settings（つづき）

VOICE ID（VOICE での ID 送出供給）

定期的に送出するIDをアナウンス(Voice)で送出する場合に選択します。

なお、Voice, Rate, Volume,Format の各パラメータは、Sound settings の Voice 設定に準じます(必要であれば、Sound settings の Voice 設定を変更してください)。

出力される内容は ID コマンド（DTMF の #66666）と同じものが出力されます。

- 自局が JQ1YBG の時の例 -

未接続時 ：“ This is JQ1YBG WiRES. Not connected. ”
接続時の例（Node to Node）：
“ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 5109. ”
接続時の例（Room に Node が 3 局 Connect している場合）※:
“ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 0510 3 Nodes. ”

※：[**General settings**]→[**ANNOUNCEMENT**(**Room logon Node info**)]を設定すると Round QSO Room へ接続した際にログオン中の Node 局数をアナウンスすることができます。

Interval time（ID 送出間隔の設定）

「parameter=5~60 /**Default**：**10 min**」

ID の送出間隔を 5 分毎〜 60 分毎まで 1 分単位で設定します。

ID timing reset every 0 minutes

（ID 送出 PC 時計連動機能） 「**Default**：**OFF**」

IDの送信タイミングをパソコン内蔵時計と連動させる機能について設定します。

OFF ： 時計と連動しない。
ON ： 時計と連動させる。

OFF 設定では、設定完了直後もしくは、WiRES software(WiRES-II.exe)起動直後にタイマーをリセットし、その時刻から Interval time が経過する時刻毎に ID を送信します。

ON 設定では、毎時 00 分 00 秒から数えて、Interval time が経過する時刻毎に ID を送信します。

ID timing （自局の送信音声に重ねて ID を送信）「Default：MIX」

ID を送信する時刻に自局が送信中だった場合の ID 送信動作について、下記のどちらかに設定します。

OFF（Wait）: 自局の送信が終了するまで待ってから ID を送信する。
ON（Mix）: 送信時刻になったら、自局の送信音声に重ねて ID を送信する。

なお、信号受信中等の理由により、無線機の SQL が開いた状態になり(LOCAL 緑点灯状態時)、送信ができない場合には、この設定に関わらず、SQL が閉じて送信できる状態になるまで ID 送信を待ちます。

注 意

Voice は Microsoft Speech がインストールされている場合のみ有効です。Windows XP/Vista/7 では、OS 標準の音声合成機能にて運用可能です。Windows 2000 では音声アナウンスを利用するには、Microsoft Speech SDK 5.1を ダウンロードしてインストールする必要があります。

例

Interval time ＝ 10 min で、ID timing reset every 0 minutes ＝ ON に設定すると

毎時 00 分，10 分，20 分，30 分, 40分, 50分にそれぞれID を送信します。

ID settings（つづき）

ID TX mode （IDの送出設定）「**Default**：**Always**」

IDを送信するタイミングが来た時の、他のWiRES局との接続状態による ID 送信機能の動作について設定します。

Always:接続状態に関わらず ID を送信する。

Only connected: 接続中(NET 点灯時)のみ ID を送信する。(未接続(IDLE 表示)時には ID 送信機能を停止します。)

Only Not connected: 未接続(IDLE 表示)状態時のみ ID を送信する。(接続中(NET 点灯時)にはID送信機能を停止します。)

OK Button

このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button

このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ Button

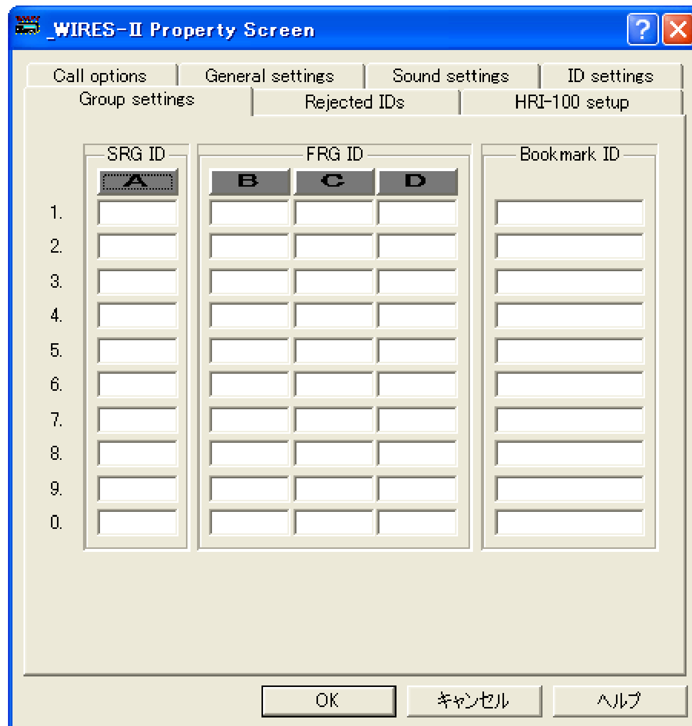
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

環境設定編

Group settings

SRG(Sister Radio Group)や FRG(Friendly Radio Group)の ID list の設定と、Group Window にさらに表示したい局の list(Bookmark ID list)の設定等をおこないます。

なお、Group settings で指定した内容を Group window 上に表示する為には、Group window 設定を SRG/FRG/Bookmark list にしておく必要があります。



ヒント

SRG(Sister Radio Group)とは、「いつも話ができる姉妹のように、仲の良いグループ」という意味です。最大 10 局（自局を含む）までの相手局を登録することができます。SRG のグループ内では、お互いに同じリストを持つ必要があります。グループ内の局を呼び出すときには、1 桁の DTMF を押すことで簡単にできます。一度インターネット接続が確立したあと、接続をロックする“ LOCK モード ”と通信のたびに接続をリセットする“ UNLOCK モード ”が設定できます。

環境設定編

SRG ID(SRG 登録画面)

SRG（Sister Radio Group）の登録を行うホルダーです。最大 10 局（自局を含む）まで登録することができます。

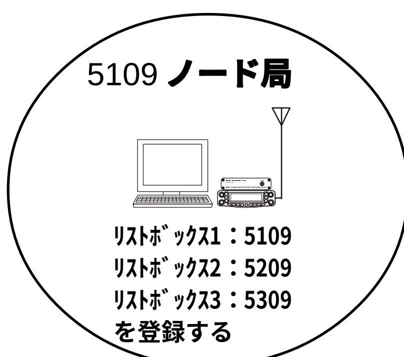
リストボックスに、登録したい WiRES-II 無線局の「サーバー ID 番号」を入力します。

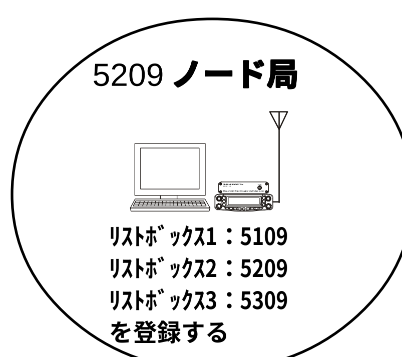
例として、リストボックス“ 1 ”に「サーバー ID 番号“ 5109 ”」、リストボックス“ 2 ”に「サーバー ID 番号“ 5209 ”」、リストボックス“ 3 ”に「サーバー ID 番号“ 5309 ”」を入力する場合は、

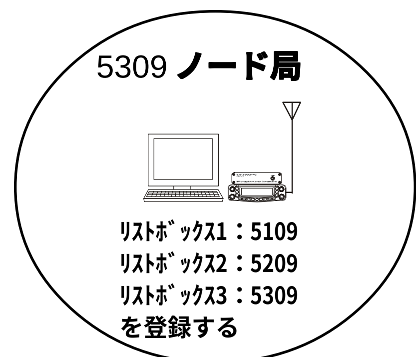


1. リストボックス“ 1 ”に“ 5109 ”を入力します。
2. リストボックス“ 2 ”に“ 5209 ”を入力します。
3. リストボックス“ 3 ”に“ 5309 ”を入力します。
4. [OK] ボタンを押し、入力を確定します。

同様に SRG を運用する仲間のリストボックスにも同じ番号を入力します。







なお、リストボックスの番号がSRG個別呼び出し時の「アクセス番号」になります。
例えば、リストボックス“1”に登録した無線局を呼び出すときは、送信時に、トランシーバーからDTMF信号の“1”を送出することで呼び出すことができます。また、送信時に、トランシーバーからDTMF信号の“A”を送出することで、SRGに登録されている全ての無線局を一斉に呼び出すことができます。

A Button

SRGの各Listに指定した局をGroup window上に表示するかどうかを設定します。ボタンが押されると、緑色反転表示 A になります。この状態にすると、そのGroupID局がGroup window上に表示されます。(ボタンが押されていないとGroup window上には表示しません。)

FRG ID(FRGのグループ登録画面)

FRGグループの中で、アクセス頻度の高い無線局を“B”,“C”,“D”の3つのグループに分けて登録することができます。各グループには最大10局の無線局を登録することができます。
リストボックスに、サーバーに登録されている無線局の「サーバーID番号」を入力します。
たとえばグループ“B”に「サーバーID番号“5209”」、「サーバーID番号“5309”」、「サーバーID番号“5609”」の無線局を登録する場合は、

1. “B”列のリストボックス“1”に“5209”を入力します。
2. “B”列のリストボックス“2”に“5309”を入力します。
2. “B”列のリストボックス“3”に“5609”を入力します。
3. OK ボタンを押し、入力を確定します。

FRG ID

B	C	D
5209		
5309		
5609		

なお、サーバーに登録されている無線局の「サーバーID番号」は、八重洲無線のホームページ（http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html）で公開していますので、そちらを参照してください。

“**Call Options**”ホルダーの“**FRG group dispach**”機能を“有効”に設定すれば、送信の初めに各グループに対応するDTMF信号(“B”,“C”,“D”)を送出することで、そのグループに登録されている無線局を一斉に呼び出すことができます。

「**FRG group dispach**」の設定は62ページの項目をご覧ください。
また、FRGグループの一斉呼び出しの運用は47ページをご覧ください。

B C D Button

FRGの各Listに指定した局をGroup window上に表示するかどうかを設定します。ボタンが押されると、緑色反転表示 B になります。この状態にすると、そのGroupID局がGroup window上に表示されます。(ボタンが押されていないとGroup window上には表示しません。)

ヒント

FRGとは“Friendly Radio Group”の略で、「仲の良い友達」というような意味で、八重洲無線のサーバーに登録された通信可能なすべての局を指します。これらの局を呼び出すには、送信時に6桁のDTMF信号を送ることが必要です。一度、インターネット接続が確立すれば、あらかじめ設定画面で設定した時間内で相手局とのインターネット接続がロック状態となり継続されます。一度インターネット接続が確立されると、設定時間内であればDTMF信号を送らなくても相手局とインターネット通信ができます。

複数のFRG局と通信をする場合は、FRGの無線局をグループ化してDTMFの“B”、“C”、“D”のそれぞれのグループにすることができます。たとえば、トランシーバーのDTMF“B”を押すと、あらかじめB列のリストボックスに登録してあるBグループを一斉に呼びだすことができます。

Book mark ID（Book mark ID の登録画面）

Group window 上に追加表示したい WiRES 局 ID の番号や条件を入力します。

ID 番号の条件は下記のように指定できます。

- ・個別 指定 ：“ 5109 ” → 5109 を Group window 上に表示
- ・複数 指定 ：“ 5209,5309,5609 ” → 5209 5309 5609 を Group window 上に表示
- ・範囲 指定 ：“ 6800-6999 ” → 6800 ～ 6999 までの局を Group window 上に表示
- ・“ ? ” 指定 ： “ 10?0 ” → 1000 1010 . . . 1080 1090 を Group window 上に表示

Bookmark ID

5109
5209,5309,5609
6800-6999
10?0

OK **Button**

このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル **Button**

このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

ヘルプ **Button**

このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

Rejected IDs

接続拒否したいWiRES局のID番号もしくはその条件をList上に入力します。

_WIRES-II Property Screen

Call options | General settings | Sound settings | ID settings
Group settings | Rejected IDs | HRI-100 setup

1.	5109	11.	
2.	5209,5309,5609	12.	
3.	6800-6999	13.	
4.	10?0	14.	
5.		15.	
6.		16.	
7.		17.	
8.		18.	
9.		19.	
10.		20.	

OK キャンセル ヘルプ

ID番号の条件は下記のように指定できます。

- 個別 指定 ：" 5109 " → 5109との接続を拒否する。
- 複数 指定 ：" 5209, 5309, 5609 " → 5209 5309 5609との接続を拒否する。
- 範囲 指定 ：" 6800-6999 " → 6800～6999までの局との接続を拒否する。
- " ? " 指定 ：" 10?0 " → 1000 1010 . . . 1080 1090との接続を拒否する。

OK Button

このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

キャンセル Button

このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

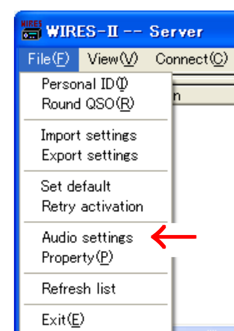
ヘルプ Button

このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

ヒント

自分で開設したRound QSO Roomへの接続拒否は、Round QSO Room reject ID機能を使用してください。（93ページ参照）

Audio settings の設定



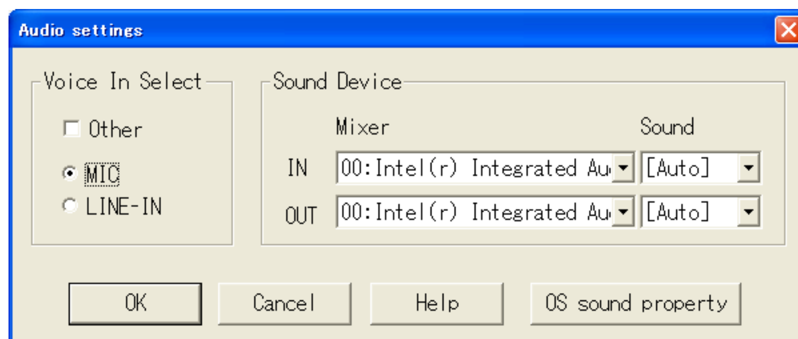
Audio 制御用の Sound driver に関する設定を行います。

設定変更時には、WiRES software(WiRES-II.exe)を再起動する必要があります。

Windows Vista/7 の環境では、Audio settings 内の設定内容を確定させる前に、OS のサウンド設定画面([OS sound property]ボタンから呼び出せる画面)を閉じる必要があります。

(OS のサウンド設定画面を開いている時には、設定が反映されません。)

Audio setting



Voice In Select（Node 無線機からの音声入力端子の設定）

「**Default：MIC**」

Voice In Select
Other
MIC
LINE-IN

無線機からの音声信号を入力する端子を選択します。さらに、[MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL]のレベル調整バーで制御する端子も同様に切り替えます。

Other (default = off)

サウンドデバイスの制御方法を設定します。

音源設定及び音量調整は 81 ページ参照してください。

Other = ON の時は、

OS のサウンド機能にて入出力端子選択及び音量調整を行います。

この設定の時には、[SP LEVEL]、[WAVE LEVEL]及び、[MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL]のレベル調整バーによる制御を一切行いません。

OS のサウンド機能にて各種設定を行ってください。

Other = OFF (default) の時は、

WiRES software(WiRES-II.exe)の機能で入出力端子選択及び音量調整を行います。

この設定の時には、Voice in select 機能と Sound device 機能の設定で、入出力端子を選択し、WiRES software(WiRES-II.exe)の Volume control 機能にて音量を調整します。

この設定の時には、入力端子を下記から選択します。

MIC を選択する

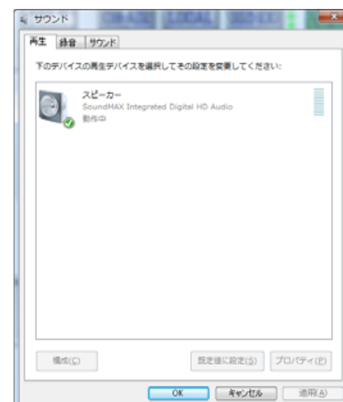
MIC 端子からの音声入力を使います。

LINE-IN を選択する

LINE-IN 端子からの音声入力を使います。

注 意

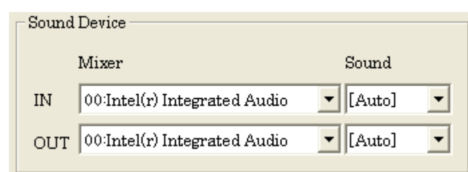
- 設定変更時には、WiRES software(WiRES-II.exe)を再起動する必要があります。
- Windows Vista/7 の環境では、Audio settings 内の設定内容を確定させる前に、OS のサウンド設定画面([OS sound property]ボタンから呼び出せる画面)を閉じる必要があります。



ヒント

複数のサウンドデバイスが実装されているパソコン環境では、HRI-100 と接続されているサウンドデバイスが正しく選択される様に、Sound device の設定も確認してください。

Sound Device（パソコン上のサウンドデバイスの設定）
HRI-100と接続する、パソコン上のサウンドデバイスを選択します。
複数のサウンドデバイスが実装されているパソコン環境では、適切に設定を行う必要があります。



Mixer
WiRES software(WiRES-II.exe)から、音量を制御したいサウンドデバイス(HRI-100と接続されるサウンドデバイス)を選択します。

IN（入力デバイス設定）
無線機からの音声信号を入力する録音端子(MIC端子やLINE-IN端子)があるサウンドデバイスを選択します。
この設定は、Voice in select設定の影響を受けます。
先にVoice in select機能にて、MIC端子か、LINE-IN端子を選択してからこの設定を行います。

OUT（出力デバイス設定）
無線機へ音声信号を出力したい再生端子(SP端子)があるサウンドデバイスを選択します。

Sound（**default = Auto**）
音声の入力端子及び出力端子を選択します。
(HRI-100と接続されるサウンドデバイスを選択します。)
通常は、Autoのままで構いません。(Mixer設定に従い動作します。)

[OS sound property] **button**
このボタンを押すと、OSのサウンド設定画面を呼び出します。
Voice in select機能のOther設定がONの場合など、このボタンからOSの設定画面を呼びだして各種設定を行うことが出来ます。

[OK] **button**
OKボタンを押すと、変更した設定内容が反映されます。

[Cancel] **button**
キャンセルボタンを押すと変更した設定は反映されません。

[Help] **button**
このボタンを押すと表示されているシートのヘルプ画面を参照することができます。

注 意
Voice in select機能のOther設定がＯＮの場合には、Sound device機能は設定できません。(Mixer部に、[System default]と表示されます。)

この場合には、OSのサウンド機能にて各種設定を行って下さい。

ヒント
Sound設定はごくまれに、Mixer設定が正しく行われていても、音声入力もしくは出力が正常に行えない(音声が通らない)場合があります。
Autoの設定で、正常に音声入力もしくは出力ができない場合、ここの設定を変更する事で正常に動作する場合があります。

注 意
Windows Vista/7の環境では、Audio settings内の設定内容を確定させる前に、OSのサウンド設定画面を閉じてください。

OSのサウンド設定画面を開いている時には、設定が反映されません。

注 意
設定変更時には、WiRES software(WiRES-II.exe)を一旦終了しますので、再起動してください。

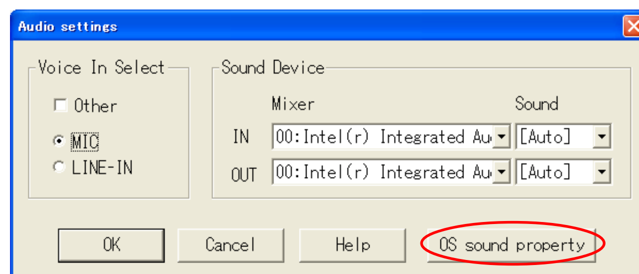
VsLANやVsDialupを使用していれば、自動的に再起動が行われます。

WiRES-II ソフト側からサウンド制御をしたくないとき（Other による設定 WindowsXP 編）

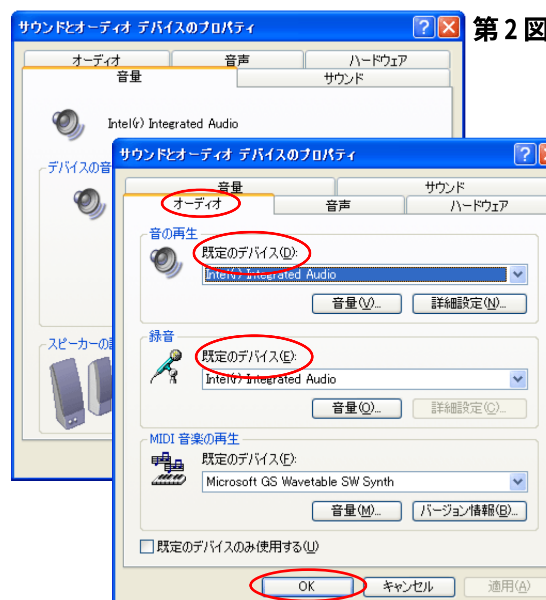
Voice In Select の MIC/LINE-IN を使用せずに Other にチェックを入れた場合には、WiRES-II 側からのサウンド制御をせず、直接 OS のサウンド機能を使用して入出力端子選択及び音量調整を行います。この設定にした場合は、WiRES-IIの[SP LEVEL]、[WAVE LEVEL]及び、[MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL]のレベル調整バーによる制御を一切行えません。OSのサウンド機能にて各種設定を行ってください。OSのサウンド機能はバージョンによって設定方法が変わります。例として WindowsXP、WindowsVista の環境で音源設定と音量調整を行う方法を説明します。

音源設定は下記の手順で行います。

1. Audio settings 画面の OS sound property をクリックします（第 1 図参照）。
   OS のサウンド画面が開きます（第 2 図参照）。
2. 「オーディオ」タブを選択します。
3. 「音の再生」と「録音」の「既定のデバイス」を選択して OK をクリックしてサウンド画面を閉じます（第3図参照）。
4. Audio settings 画面の Voice In Select の Other をレ点を入れると Sound Device がグレースケールになり、OK をクリックします（第 4 図参照）。
5. WiRES-II Message 画面が開き OK を押します（第 5 図参照）。
   WiRES software(WiRES-II.exe)の再起動が行なわれます。
   ヒント VsLAN もしくは VsDialUP が動作してない場合は、WiRES-II.exe を終了した後、手動で再起動をしてください。
6. 次に音量調整を行います。
   82 ページを参照してください。

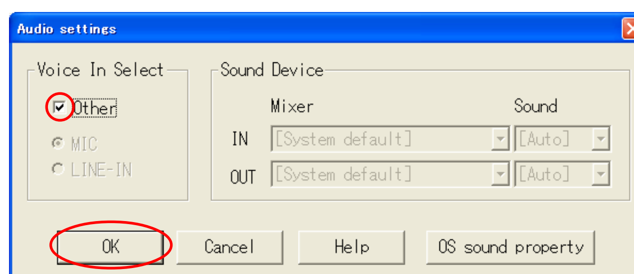


第 1 図

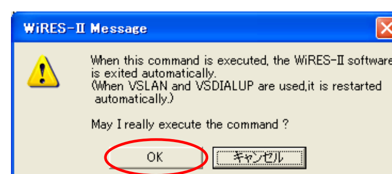


第 2 図

第 3 図



第 4 図



第 5 図

環境設定編

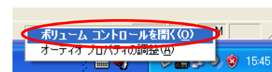
Audio setting（つづき）

WiRES-II ソフト側からサウンド制御をしたくないとき

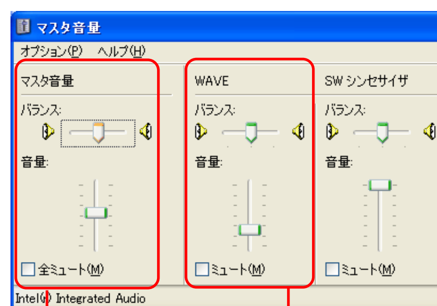
(Other による音量調整 WindowsXP 編)

音量調整は下記の手順で行います。

1. タスクバーの通知領域にある“ ”を右クリックして、「ボリュームコントロールを開く」をクリックします（第 6 図参照)。
2. OS の「マスタ音量」画面が開きます（第 7 図参照)。
   調整方法は右記のように行います。
   ① OS マスターボリュームを真中に設定します。
   ② WAVE ボリュームで音が歪まない適切な音量に調整します。
   ﾋﾝﾄ 状況に応じてOSマスターボリュームで音量を微調整します。



第 6 図



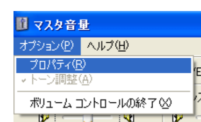
第 7 図

① ボリュームを真中に設定する

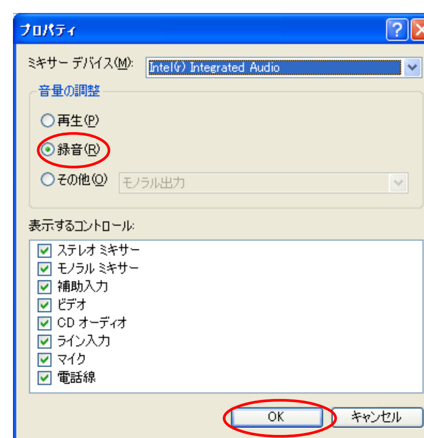
② 音が歪まない適切な音量に調整する。

MIC 側音量調整

1. 「マスタ音量」画面の [**オプション**] - [**プロパティ**] を選択すると、「プロパティ」画面が開きます（第 8 図参照)。
2. 「プロパティ」画面の「録音」を選択し、[OK] をクリックします（第 9 図参照)。
3. 「録音コントロール」画面が開きます（第 10 図参照)。
4. マイクまたはライン入力を選択します。
   マイクのレベルはこのバーにより調整します（第 10 図参照)。



第 8 図



第 9 図



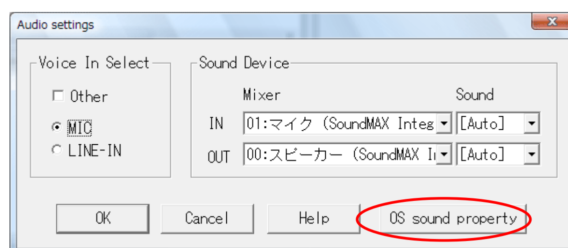
第 10 図

WiRES-II ソフト側からサウンド制御をしたくないとき（Other による設定 Windows Vista 編）

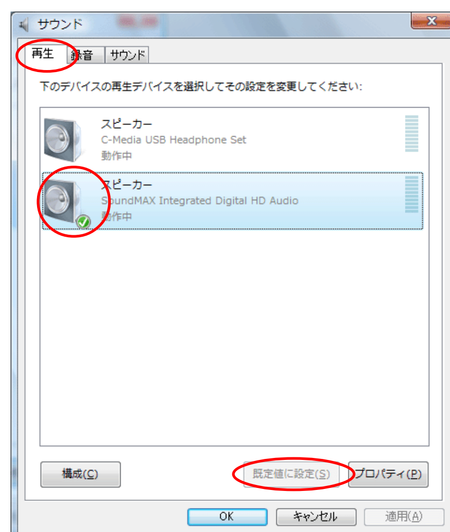
Windows Vista の音源設定は下記の手順で行います。

1. Audio settings画面の OS sound property をクリックします（第 1 図参照）。
   OS のサウンド画面が開きます。
2. 「再生」タブを選択します。
3. 再生デバイスを選択して 既定値に設定(S) をクリックします（第 2 図参照）。
4. 「録音」タブを選択します。
5. 録音デバイス選択して 既定値に設定(S) をクリックします（第 3 図参照）。
6. OK をクリックするとサウンド画面を閉じます。
7. Audio settings 画面の Voice In Select の Other をレ点を入れると、Sound Device がグレースケールになり、OK をクリックします（第 4 図参照）。
8. WiRES-II Message 画面が開き OK をクリックします（第 5 図参照）。
   WiRES software(WiRES-II.exe)の再起動が行なわれます。

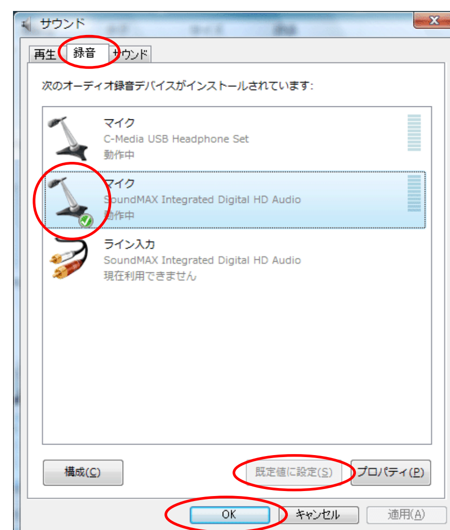
   ヒント VsLAN もしくは VsDialUP が動作してない場合は、WiRES-II.exe を終了した後、手動で再起動をしてください。
9. 次に音量調整を行います。
   84 ページを参照してください。



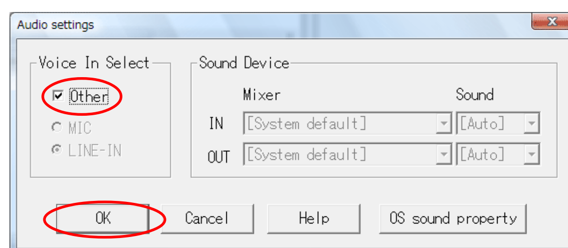
第 1 図



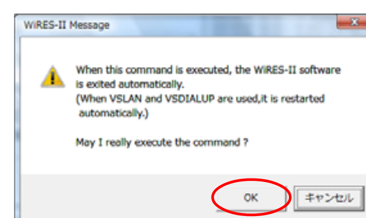
第 2 図



第 3 図

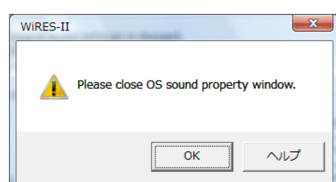


第 4 図



第 5 図

注 意 手順 6．の OK をクリックせずに、サウンド画面を開いた状態で手順7. へ進もうとすると下図のエラーメッセージ画面が表示されます。必ずサウンド画面を閉じてから手順7. へ進んでください。



Audio setting（つづき）

WiRES-II ソフト側からサウンド制御をしたくないとき

（Other による音量調整 Windows Vista 編）

音量調整は下記の手順で行います。

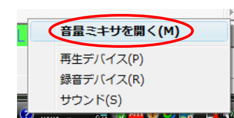
再生側音量調整

1. タスクバーの通知領域にある“ ”を右クリックして、「音量ミキサを開く」をクリックします（第6図参照）。
2. OS の「音量ミキサ」画面が開きます（第7図参照）。
   調整方法は右記のように行います。
   ① WiRES専用ボリュームを真中に設定します。
   ② OS マスターボリュームで音が歪まない適切な音量に調整します。

ヒント　状況に応じて WiRES 専用ボリュームで音量を微調整します。

MIC 側音量調整

1. タスクバーの通知領域にある“ ”を右クリックして、「録音デバイス」をクリックします（第8図参照）。
   OS の「サウンド」画面が開きます（第9図参照）。
2. 「録音」の選択されている既定のデバイスをクリックして、プロパティ(P) をクリックします。
3. 「マイクのプロパティ」画面が開きます（第10図参照）。
4. 「レベル」タブを選択し　マイクレベルバーを表示させます。
   マイクのレベルはこのバーにより調整します（第11図参照）。

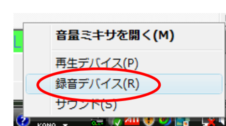


第6図



第7図

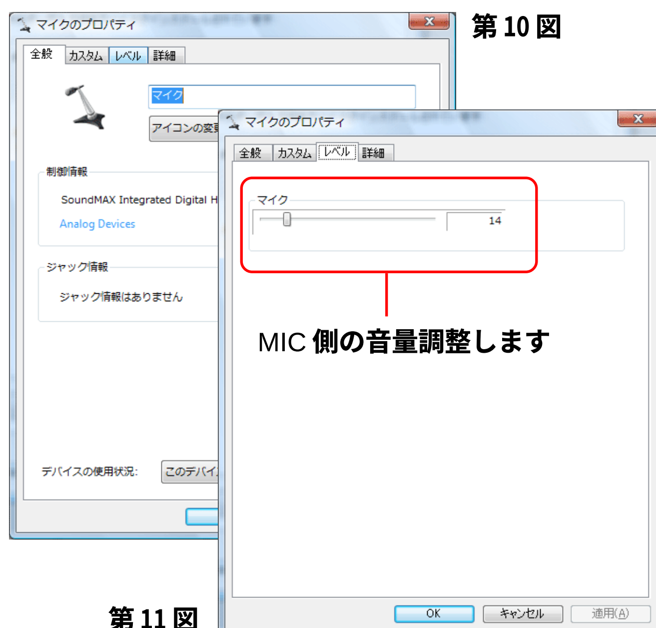
① OS マスターボリュームで音が歪まない適切な音量に調整する
② WiRES 専用ボリュームを真中に設定する



第8図



第9図



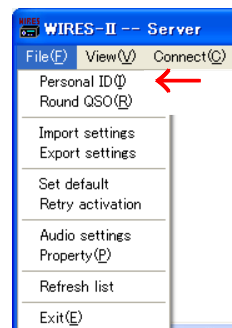
第10図

第11図

Personal settings の設定

各種のインフォメーション等を設定する画面です。
WIRES-II メイン画面が表示されている状態で、ツールバーにある「**File**」をクリックし、その中にある「**Personal ID**」をクリックするとこの画面が現れます。

公開する情報を入力するホルダーです。



Personal setting

Personal settings

Serial No. Call sign ID No. City State Country
JQ1YBG Meguro-ku TOKYO Japan
ICON select Freq MHz SQL Type NoTone G.Loc Loc Lat: 00.00.00N Lon:000.00.00E
Comment
QSL exchange (SIZE : QVGA 320 x 240 bmp)
Message (MAX 200 Charactors)
Remote control
Password Port.(TCP 40000-50000 , EVEN)
46080
OK Cancel
ID number validated

Serial No.

初期設定時（WiRES Activation 入力時）に登録した HRI-100 のシリアル番号が表示されます。

Call sign

サーバーに登録されているコールサインが自動的に表示されます。

ID No.

初めて起動した時に入力した自分の ID 番号が表示されます。

City, State, Country

最初にサーバーへの登録が完了すると、サーバーに登録されている都市名(City)(State)、国名(Country)が自動的に表示されます。

ICON Select

ID リストに表示するアイコンを変更できます。

0～**3** の中からお好みのアイコンを指定することができます。

0： OM（交信しているときは、に変わります）

1： YL（交信しているときは、に変わります）

2： DOG（交信しているときは、に変わります）

3： CAT（交信しているときは、に変わります）

注 意

Ver.3.100 以降をご使用の局のみ指定したアイコンが表示されます。

環境設定編

Freq

WiRES-II による運用を行っている運用周波数情報を入力します。
入力した情報は ID リスト上に表示されます。

SQL Type

WiRES-II による運用で使用している無線機に設定するトーン / コードスケルチの情報を入力します。入力した情報は ID リスト上に表示されます。トーン / コードの種類は、ToneSQL, DCS, NoTone から選択し、ToneSQL の場合には Tone 周波数、DCS の場合には DCS コードを選択します。

G.Loc

WiRES-II の自局 Node の位置情報を Grid Square Locator 形式及び緯度経度で表示します。表示されている位置情報は Active ID window や Group window 上に表示させる事ができます。

位置情報の登録は、Loc を押すと右図の Location Info window が表示され入力することができます。

Location Info window

Loc を押すとこの画面が表示され、自局 Node の位置情報を入力したり、Active ID window や Group window 上への表示設定を行うことができます。下図は緯度情報を入力して OK を押すと、自動的に Grid Square Locator を計算し右図のように Personal settings に表示され、さらに Group Window や Active ID Window に位置情報が表示されます(ここで設定した位置情報は、Ver3.227 より前の Version では Comment 欄に表示されます)。

緯度経度情報を入力して OK を押すと、自動的に Grid Square Locator を計算し Personal settings に表示されます

画面の説明は下記の通りです。

◎ **Latitude**

緯度情報を度(Degree)、分(Minute)、秒(Second)、北緯 / 南緯(North/South)で指定します。

◎ **Longitude**

経度情報を度(Degree)、分(Minute)、秒(Second)、東経 / 西経(East/West)で指定します。

◎ **Grid square locator**

位置情報を Grid Square Locator 形式で表示します。値は緯度情報(Latitude)及び経度情報(Longitude)から自動的に計算されます。

注 意

Freq, Tone, GL, Lat, Lon, Comment の欄を含めて最大 80 文字（半角英数字）まで入力することができます. Freq, Tone, GL, Lat, Lon, を全て入力すると、Comment欄に入力できる文字は約 15 文字になります。

ヒント

Lat:

Location Info window画面で設定した自局 Node の緯度情報(Latitude)を表示します。

Lon:

Location Info window画面で設定した自局 Node の経度情報(Longitude)を表示します。

ヒント

緯度経度情報は、「世界測地系（WGS-84)」のデータである事を確認してから入力される事をお奨めします。

◎ **Show Latitude & Longitude on list**
緯度情報(Latitude)及び経度情報(Longitude)をActive ID windowやGroup window上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

◎ **Show Grid square locator on list**
Grid Square Locator 情報を Active ID window や Group window 上に表示させる場合には、ここにチェックを入れます。

◎ OK , Cancel **button**
OK を押すと、設定した位置情報が更新されます。
Cancel を押すと、設定内容が破棄されます。

Comment
ID リストの Comment 欄に表示するコメントを入力します。

QSL exchange
チェックボックスにチェックを入れると接続先の WiRES 局で画像を登録している場合、画像を表示することができます。また自分で作成したビットマップ（BMP）画像（QVGA　320 × 240)指定すると、接続した相手の WiRES 局へ自動的に画像を送ることができます。QSL カードを交換する感じで画像を作成してみてください。

Message（MAX 200 Charactors）
他の WiRES 局へ接続したときに表示するメッセージを入力します。また、リストを選択して Get Info をクリックしたときも登録したメッセージが表示されます。簡単な自己紹介を入力しておくとよいでしょう。

Remote control Password
WiRES-II　リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)からリモート操作を行う場合に使用するパスワードをここで設定します。

Remote control　Port.
WiRES-II　リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から web monitor 機能を利用する時に使う TCP port の番号をここで設定します (40000 〜 50000 までの偶数番号が指定できます)。

注 意　この機能を使う場合、UDP:40000-50000port 以外に、ここで設定する TCP port でも通信出来るように、PC やルーターのファイアーウォール機能で、指定する TCP port の解放設定を行う必要があります。

この web monitor 機能により、外部から下記情報を見る事が出来るようになります。なお、詳細は 136 ページをご覧ください。
◎ Node Log
◎ Chat Log
◎ Room Log (Round QSO Room 開設時のみ)
◎ Setting (各種設定情報)

OK **Button**
このボタンを押すと設定が反映されます。

Cancel **Button**
このボタンを押すと設定は反映されません。

注 意
Freq, Tone, GL, Lat, Lon, Comment の欄を含めて最大 80 文字（半角英数字）まで入力することができます. Freq, Tone, GL, Lat, Lon, を全て入力すると、Comment欄に入力できる文字は約 15 文字になります。

ヒント

WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトとは

別の場所で稼働している WiRES-II system(WIRES-II.exe) を internet 経由で遠隔地から監視、制御をする為のモニタソフトです。

このモニタソフトにより、遠隔地から下記の操作が可能になります。

- NET 接続時の通話音声のモニタ
- PTT 制御 (送信禁止及び解除)
- WIRES-II.exe の再起動
- Web Monitor 機能

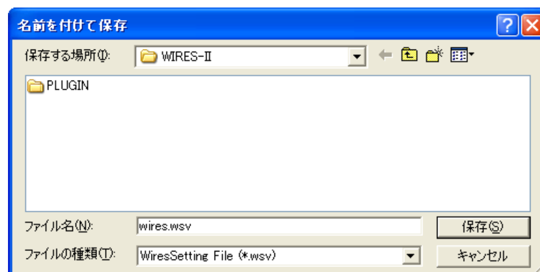
Export / Import settings

Windows Registry 内に登録されている WiRES に関する各種設定情報を file に保存したり、保存した file の設定情報の内容を Windows Registry 上に書き込み、一括設定をする機能です。
一通り Property など各種設定が終了しましたら、[Export settings] でバックアップを取っておくことをおすすめします。
なお、保存できる内容は下記の通りです。

◎ Personal settings の設定内容
◎ Audio settings の設定内容
◎ Property screen の下記設定内容
- HRI-100 setup
- Group settings
- Rejected IDs
- Call options
- General settings
- Sound settings
- ID settings

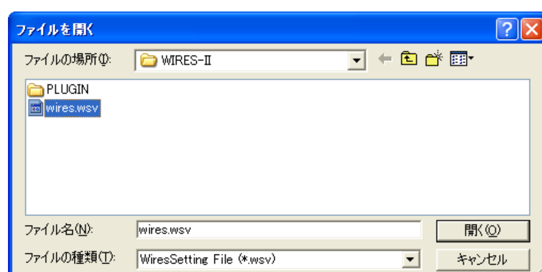
◎ Font 設定情報
◎ Group window 表示選択情報
◎ Make list file の設定内容(HTML header / footer 情報除く)
◎ Plugin で取り込むプログラムモジュール名情報
(プログラムモジュール自体の設定内容は含まれません。)
◎ Round QSO Room settings設定内容(Round QSO Room開設時のみ)
◎ MCU/Room-Info 設定内容(Round QSO Room 開設時のみ)

[**File**]→[**Export settings**]



WiRES に関する Windows Registry 情報を file(.wsv) に保存します。
テキストボックスにファイル名を入力して 保存(S) をクリックします。

[**File**]→[**Import settings**]
WiRESに関する各種設定情報を登録したfile(.wsv)を選択して、Windows Registry へ読み込みます。
開く(O) をクリックすると、各種設定情報を Import する事が出来ます。
WiRES software(WiRES-II.exe)の再起動が行なわれます。



→



注 意

下記内容については保存されません。
- 各window 毎のソート条件
- Status bar チェック状態(起動時、常に ON)
- Log 選択(Node log / Room log)状態 (起動時、常に Node log)
- Make list file 機能の HTML header / footer 情報(この部分は、別fileに保存されます。)

注 意

下記項目に関して、file 内の情報と Windows Registry 情報が一致しない場合、file の設定情報の読み込みができません。
＊ ID 番号と Serial Number

注 意

VsLAN もしくは VsDialUP が動作してない場合は、WiRES-II.exe が終了します。

ヒント

WiRES を初期状態に戻すには！
[**File**]→[**Set default**]
WiRES に関する各種設定情報をインストール直後の初期状態へ戻します。
(103 ページ参照)

WiRES の再認証をするには！
[**File**]→[**Retry activation**]
WiRES の認証を再度行う事ができます。WiRES の Server 登録情報を変更したしたいときに使用します。
(104 ページ参照)

環境設定編

Round QSO Room の開設

Round QSO Room は、井戸端会議のようにひとつの Room へ多数の局がチェックインして自由に会話できるシステムです。
既に多数の Round QSO Room が開設されています。弊社で設置している Round QSO Room を下記に紹介しておきます。なお、WiRES-II ホームページの Round QSO Room リストで現在開設されている Round QSO Room の最新情報を確認することができますのでご覧ください。

◎ #0100D： CQ WORLD WIDE
◎ #0200D： CQ AMERICA
◎ #0400D： CQ APAC（Asian Pacific）
◎ #0500D： CQ JAPAN
◎ #0700D： CQ EUROPE

（2012 年 1 月現在）

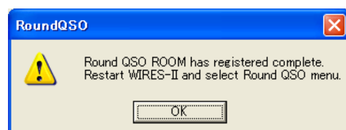
Round QSO Room の開設

1. WiRES-II ホームページ（http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html）で、「登録およびお問合せ」をクリックして、メールアドレスを登録します。登録すると、各種申請を行うサイトのアドレスが書かれたメールが届きますので、「2. Round QSO Room ID の取得申請」のアドレスへアクセスし、必要事項を入力して ID の取得申請を行ってください。
2. Round QSO Room の ID が届きましたら、WiRES-II ホームページから RoundQSO.exe ファイルをダウンロードして、適当なフォルダに保存してください。
3. WiRES-II アプリケーションを必ず終了して、保存した RoundQSO.exe を起動します。
4. Round QSO Room Setup プログラムが起動しますので、WiRES ID、登録してある HRI-100 の Serial No.、今回発行された Round QSO Room の ID 番号を入力し、REGISTER ボタンをクリックします。



認証が完了すると、下のラインに Round QSO Room Entry Complete と表示されます。

さらに下記 Window も表示されます。OK を押して、Round QSO Room Setup プログラムを終了します。もしも、登録できない場合は、ID, Serial No. などをご確認ください。



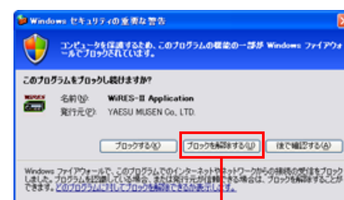
次ページに続きます。

注 意

Round QSO Room オーナー登録をしていない方は、Round QSO Room setup をすることができません。オーナー登録をしてから Setup を行ってください。

ヒント

Firewall ソフトによる通信ブロックのメッセージが出たときは、ブロックを解除してください。下図は Windows Firewall（XP SP2 以降）の例です。



ここを選択する

ルーム開設編

Round QSO Room の開設（つづき）

5. WiRES-II アプリケーションを起動して初期設定を行います。
［**File**］→［**Round QSO**］を選択すると下記の画面が表示されます。

Round QSO Room settings
① ID No.　Room name ②　③ Maximum stations 10 (2-249) ④ Enable
Comment ⑤
⑥ Confidential ID
⑦ QSL exchange　(SIZE : QVGA 320 x 240 bmp)
Message (MAX 200 Charactors)
⑧
OK　Close

① ID No.：Round QSO Room Setup で設定した、すでに登録されている ID が表示されます
② Room name：　名称を半角英数字 20 字以内でご記入ください（20 字以上入力しても WiRES-II のリストには表示されません）
③ Maximum stations：　最大許容チェックイン局数を入力（2から249局まで）
④ Enable/Disable：　Room をスタートするときは Enable、一時的に停止するときは Disable をクリックします。
⑤ Comment：　Room リストに表示されるコメントを記入します
⑥ Confidential ID：　チェックを入れると一時的に List 上から非表示にできます
⑦ QSL exchange：　Roomへ接続してきたIDへ登録した画像を送信します。　画像の登録方法はPersonal ID と同様です。
⑧ Message：Roomへ接続してきたWiRES局へ送るメッセージを入力します。

6. ENABLE をクリックすると Round QSO Room をスタートします。
7. 以上の登録が終了したら OK をクリックして終了です。しばらくすると、WiRES-II Round QSO Room のリストに表示されます。

ヒント

Round QSO Room のリストは、すべてホームページで掲載します。ただし、海外への公開を希望されない方は、E-mail であらかじめご連絡ください。

wires@yaesu.com

ヒント

● 自局で Round QSO Room を開設すると［**View**］→［**Group window**］→［**MyRoom access list**］で Round QSO Room へアクセス中の全Node局の情報を表示します。Group windowの表示内容はリアルタイムに更新されませんが、定期的に自動更新されます。

● Round QSO Room settings の［Enable］ボタンをクリックして選択を変えたときはWiRES-IIの再起動が必要です。

Round QSO Roomの開設（つづき）

運用上のご注意(重要)

1．Round QSO Roomでは、チェックインしている局のすべてが送信状態になります。そのため、多くの局が利用している状況では、チェックインしているWiRES局が連続送信に近い状態になることがあります。また、HRI-100はハードウェアで連続送信3分のタイマー機能があります。すぐに応答するとWiRESではそのまま、送信状態になることもあります。そのため、従来のQSOよりも多少長めにブレーキングタイムを取ってQSOしていただくよう、Roomオーナー様からも利用者に対してご案内していただくようお願いします。

2．開設しているオーナー様ご自身も自分のRound QSO Roomへチェックインすることができます。

3．Round QSO Roomを動作しているときは、Roomオーナー様ご自身が随時、監視して問題が生じたときには、停止するようにしてください。監視できないときには、一時停止するよう心がけてください。

4．運用日時などは、あらかじめWiRES掲示板などで告知してください。

5．Round QSO Roomは、Roomオーナー様が設置しているWiRES-IIアプリケーションが起動しているコンピュータ内で同時に動作します。単独では、動作しないことをご了承ください。

6．インターネット回線の状況、Roomチェックイン人数、コンピュータの負荷などにより音声品質の劣化、WiRES-IIプログラムの動作が不安定になることがあります。最初は、最大10局程度に設定して、少しずつ増やしていき、最大許容局数を設定することをお勧めします。

7．Round QSO RoomのID番号は一時的に非公開にすることができますが、SRG,FRGリストに登録してある場合は、Round QSO Roomリストに表示されます

8．ご利用者同士のトラブルにつきましては、当社は一切関知いたしませんので、あらかじめご了承ください。

9．チェックインしている局のスケルチトラブルや、WiRES運用中であることを知らないローカル局がでてくるとチェックインしているすべてのWiRES局が送信状態になり迷惑がかかります。このような場合、Roomオーナー様はまず、Round QSO Roomから問題となるIDをRoomのReject（[View]-[MCU/Room -Info]）から一時的に停止し、禁止することができます。なお、この場合、問題となる局に対して、禁止した旨をCHATなどにより知らせておくようにしてください。

10．Round QSO Roomの開設登録を解除したいときには、お手数ですがWiRESカスタマーサポートセンターまでお知らせください。

八重洲無線株式会社　WiRESカスタマーサポート
〒140-0002　東京都品川区東品川2-5-8　天王洲パークサイドビル 11F
TEL：03-6711-4045

Round QSO Roomを開設すると追加される機能

Round QSO Room を開設すると 5 種類の機能が追加されます。この機能は、自局で開設しているRoomを監視しやすいように用意された機能です。この機能設定画面は、Round QSO Room を開設設定した時にのみ表示されます。

追加される機能

① Round QSO Roomの各種設定を行います。・・・[**File**]→[**Round QSO**]

② Round QSO Room に接続している WiRES 局の情報表示や各種設定をします。・・・[**View**]→[**MCU/Room-Info**]

③ Round QSO Room へアクセス中の Node 局情報を表示します。
・・・[**View**]→[**Group window**]→[**MyRoom access list**]

④ Round QSO Room の運用状況(他局からの Room 接続 / 切断、Reject 動作、自局 Room 内の chat メッセージなど)を表示します。
・・・[**View**]→[**Log**]→[**Round QSO**]

⑤ Round QSO Room にログオンしている Node 局の総数 / 接続中の NodeID を html 形式、xml 形式、CSV 形式で出力する設定画面です。
・・・[**Tool**]→[**Make list file**]→[**MyRoom logon ID**]

追加される機能の詳細

①[**File**]→[**Round QSO**]

Round QSO Room の初期設定画面と同じ画面です。
各種の内容を変更したいときに設定します。
[ID No]以外の項目を変更することができます。

ヒント

Comment 欄は最大 80 文字(半角英数字)まで入力することができます.

Round QSO Room を開設すると追加される機能（つづき）

②[**View**]→[**MCU/Room-Info**]
運用中の自局 Round QSO Room に接続している WiRES 局の情報表示や各種設定をします。

・ Remove **Button /** Mute **Button**
画面左下のテキストボックスに、自局 Round QSO Room に接続している WiRES 局の ID を入力し、[**Remove**]ボタンをクリックすると、その ID 局との接続を強制的に切断します。また、[**Mute**]ボタンをクリックした時、その WiRES 局の音声配信を中止します。

・[**Round QSO Room reject ID**]
運用中の自局 Round QSO Room へ接続させたくない WiRES 局の ID 番号やその条件を入力します。

・[**Round QSO Room reject remove ID list**] **「Default:OFF」**
上記 Remove 操作を行うと、このチェックボックス下のテキストボックス(Remove ID list)にその ID 番号が自動的に入力されます。それらの ID 局を REJECT するかどうかをここで設定します。)
OFF:Remove ID list 上の Node 局を REJECT しない。(再接続許可)
ON :Remove ID list 上の Node 局を REJECT する。(再接続拒否)

・[**Round QSO Room mute ID list**]
このテキストボックスには、自局 Room 内において、音声配信をさせたくない(一時的に配信停止させたい)WiRES 局の ID や、その条件を入力します。ここで指定した WiRES 局から自局 Room 内に音声が送られてきても、配信されません。
なお、[**Mute**]ボタンにより ID 番号を指定すると、自動的にこの list 上に追加されます。

・[**Log-file save**(**Round QSO Room**)] **「Default:OFF」**
チェックを入れると Round QSO Room 専用ログに表示される情報を保存することができます。テキストボックスでファイル名を入力して右にある[...]をクリックして保存場所を指定します。(通常 Node の log 保存とは別 file を指定します。)

・ SAVE **Button**
このボタンを押すと設定が反映されます。

・ Close **Button**
このボタンを押すと設定画面を閉じます。

ヒント

□の詳細は下記のようになります。

D：Mute 設定中の局を表します。
X：Room に新しく Connect してきた局を表します。
P：現在 PTT を押して通話している局を表します。

ヒント

[Round QSO Room reject ID], [Round QSO Room reject Remove ID list], [Round QSO Room Mute ID list] の ID 番号の条件は下記のように指定できます。

個別 指定:
" 5109 " → 5109 との接続を REJECT または MUTE する。

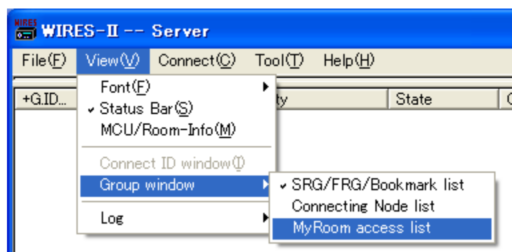
複数 指定:
" 5109,6800,6900 " → 5109 6800 6900 との接続を REJECT または MUTE する。

範囲 指定:
" 6800-6999 " → 6800 〜 6999 までの局との接続を REJECT または MUTE する。

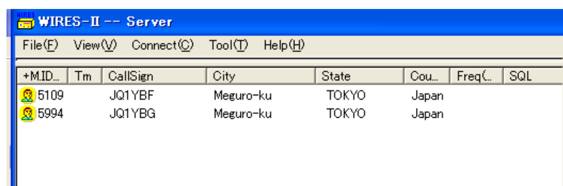
" ? " 指定:
" 10?0 " → 1000 1010 . . . 1080 1090 との接続を REJECT または MUTE する。

Round QSO Room を開設すると追加される機能（つづき）

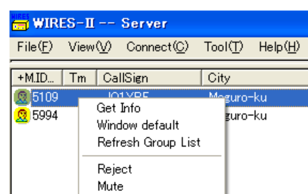
③ ［**View**］→［**Group window**］→［**MyRoom access list**］
Round QSO Room へアクセス中の Node 局情報を表示します。



この表示指定の時には、ID番号の所が、下記のような表示になります。各項目名部分をクリックすると、Listの並び順を変更できます(ソート表示機能)。ソート指定項目は項目名左側に“＋”もしくは“－”の表示が入ります(“＋”表示 ＝ 昇順 ／ “－”表示 ＝ 降順)。このリストは適宜更新されます。



WiRES 局をマウスで右クリックすると、下記コマンドが実行できます。



［Get Info］: 選択した ID の自己紹介画面を表示します。過去に接続した事のある局で画像データを取得した局については、その画像も表示します。

［Window default］: これを選択すると、Group window / Active ID window / Round QSO Room window(ルームを開設した場合)の表示行数を等間隔（3 等分）にします。

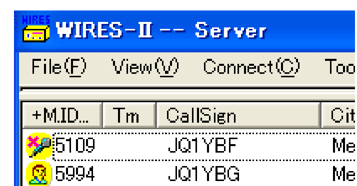
［Refresh Group list］: Group windowの内容を最新の状態に更新します。

［Reject］: 自局Round QSO Room内に接続中のWiRES局を右クリックで選択し、このコマンドを選ぶと、Reject（回線切断）されます。MCU/Room-Info 画面上の［Remove］ button と同じ動作をします。なお、Reject の解除等は、MCU/Room-Info 画面から行ってください。

［Mute］: 自局Round QSO Room内に接続中のWiRES局を右クリックで選択し、このコマンドを選ぶと、そのWiRES局をMute状態にする事ができます(MCU/Room-Info画面上の［Mute］ button と同じ動作です)。Mute した WiRES 局のリスト ID 部分に“ ”が表示されます。
Mute状態を解除したい場合は、Mute状態になっている WiRES 局を右クリックで選択します。なお、Mute 状態の詳細な設定については、MCU/Room-Info 画面から行ってください。

ヒント

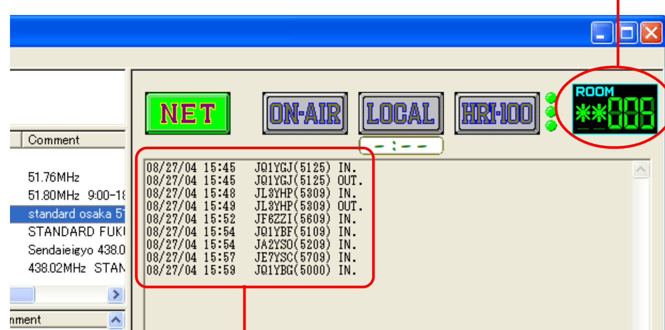
Muteするとリスト ID部分にアイコンが表示されます。
MCU/Room-Info 画面上でワイルドカード指定で複数の WiRES 局を Mute している場合には、自局 Round QSO Room 内で一時的に Mute を解除することができます。Mute を解除した Node 局が再接続すると再び Mute されます。



④[**View**]→[**Log**]→[**Round QSO**]

自局で開設しているRound QSO Roomの運用状況(他局からのRoom接続 / 切断、Reject 動作、自局 Room 内の chat メッセージなど)を表示します。

Log を Round QSO に切り換えた場合
（Room に 5 局 Node が Connect している時の表示）

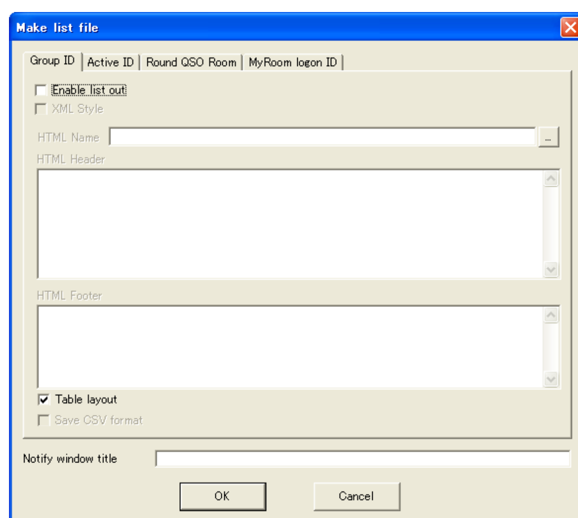


Round QSO Room の運用状況を表示

なお、表示される内容は、古い物から順番に消えていきます。またプログラムを再起動すると起動前の内容は表示されなくなります。

⑤[**Tool**]→[**Make list file**]→[**MyRoom logon ID**]

このタブ sheet 内は、自分で開設している Round QSO Room にログオンしている Node 局の情報を html 形式，xml 形式もしくは CSV 形式で出力する設定画面です。
下記項目が data として出力されます。



“ Tm ”:　自分で開設中のRoomに接続中のNode局総数を出力します(xml 時では出力されません)。
“ NodeList ”：接続中の NodeID をスペース区切りで出力します。

・[Enable list out]
ここにチェックを入れると、data 出力機能が動作します。

・[XML Style]
[Enable list out]にチェックを入れ、さらに[XML Style]にチェックを入れると、XML 形式でスタイルシートを作成することが可能になります。

ヒント
Round QSO Log の内容を保存したい場合には、[**View**]→[**MCU/Room-Info**]のLog-file save(Round QSO Room)機能を使います。

ヒント
xml形式を選択し、サンプルのスタイルシート(MyRoom.xsl)で出力を行うと、Node局総数を含むMake Listを出力することができます。

・[HTML Name / XML Name]
HTML Name: 保存したいdataのファイル名を指定します（拡張子はhtml）。
XML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子はxml）。

・[HTML Header / XML Header]
HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
XML Header: xml 形式でスタイルシート情報を入力します。
スタイルシートは98 ページ参照

・[HTML Footer / XML Footer]
HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
XML Footer: 空欄にしてください。

・[Table layout]
html 出力の形式を選択します。xml 形式では選択不可能です。
チェックした場合には、テーブルレイアウト(<tr><td>タグ使用)形式で出力します。
チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

・[Save CSV format]
ここにチェックすると、html形式またはxml形式の他にカンマ区切りテキスト(csv)形式のfileも出力します。file名はName部で指定したhtmlまたはxmlの拡張子をcsvに変更したものになります。

・[Notify window title]
Make list file 機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。
通常は空欄のままにしておきます。

・ OK **Button**
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・ キャンセル **Button**
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

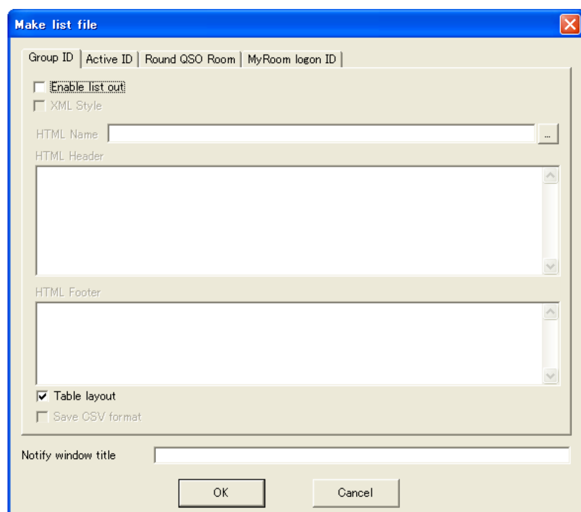
ヒント

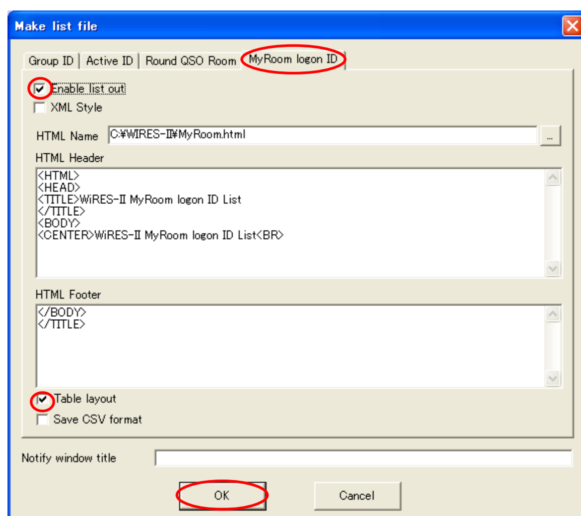
xmlでTableレイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル(MyRoom.xsl）はTableレイアウト構成です。

ルーム開設編

例 Make List を html 形式で作成する方法

自分で開設している Round QSO Room にログオンしている Node 局の情報を html 形式で出力することができます。html 形式に出力する方法を例をあげて説明します。





My Room Logon List

TM	Node List
007	5000 5109 5209 5309 5609 5709 5809

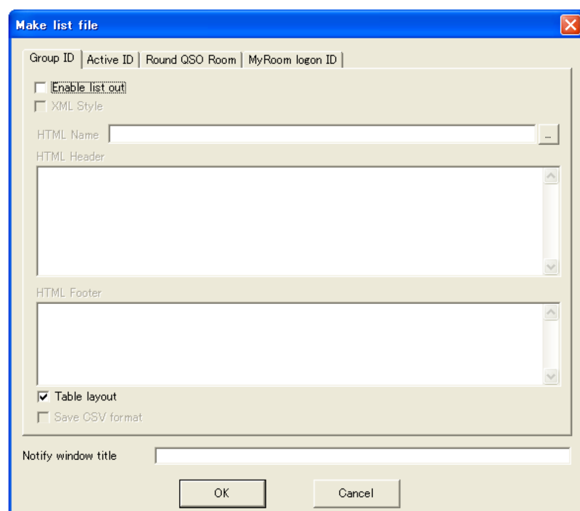
・
・
・

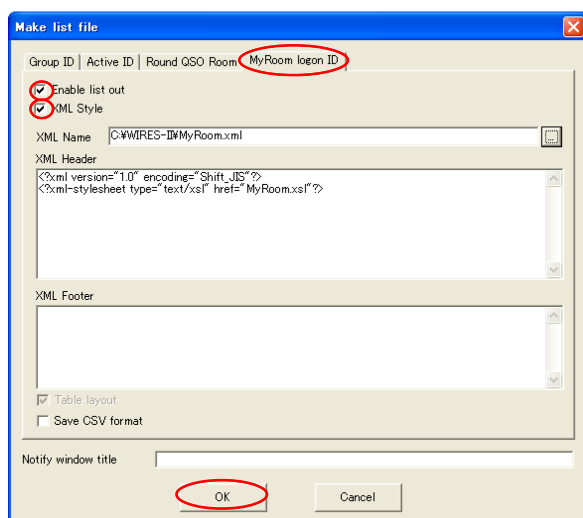
1. WiRES-II ソフトウェアを起動します。
2. ［**Tool**］→［**Make list file**］ を開くと、左図の画面が表示されます。
3. ［MyRoom logon ID］を選択します。
4. ［Enable list out］に［✔］を入れ data 出力機能を ON にます。
5. ［Name］に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し［...］をクリックします。
   例として、C:\WIRES-II\MyRoom logon ID.html を入力します。
6. ［HTML Header］に MyRoom logon ID List のタイトルになる部分を html のコマンドタグを入力します。
   例として、
   <HTML>
   <HEAD>
   <TITLE>WIRES-II MyRoom logon ID List
   </TITLE>
   <BODY>
   <CENTER>WIRES-II MyRoom logon ID List
   と入力します。
7. ［HTML Footer］に html のコマンドタグを入力します。
   例として、
   </BODY>
   </TITLE>
   と入力します。
8. ［Table layout］に［✔］か入っているか確認します。
   テーブルレイアウト形式で出力され、見やすい List が自動的に生成されます。
9. ［OK］をクリックすると、Make List が生成されます。
   ［NAME］で指定したファイルをダブルクリックすると Internet Explorer などの web ブラウザが起動し、生成された MyRoom logon ID List が表示されます。

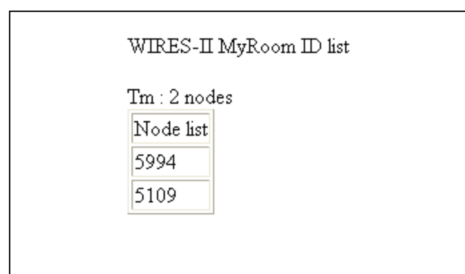
ヒント ［Save CSV Format］にも［✔］を入れると、同時にカンマ区切りテキスト（csv）形式の file も出力します。

例 Make List を xml 形式で作成する方法

自分で開設している Round QSO Room にログオンしている Node 局の情報を xml 形式で出力することができます。xml 形式に出力する方法を例をあげて説明します。







WIRES-II MyRoom ID list

Tm : 2 nodes

Node list
5994
5109

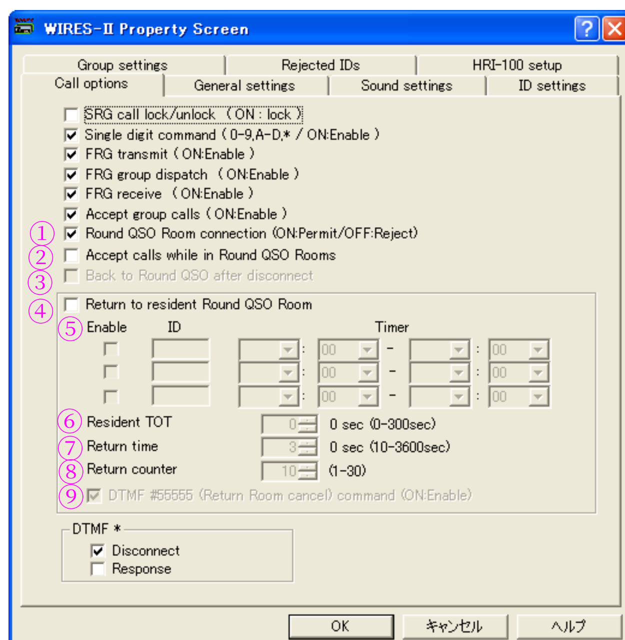
1. WiRES-II ソフトウェアを起動します。
2. [**Tool**]→[**Make list file**] を開くと、左図の画面が表示されます。
3. [Active ID]を選択します。
4. [Enable list out]に[✔]を入れ、data 出力機能を ON にます。
5. [XML Style]に[✔]を入れ、xml 形式を選択します。
6. [Name]に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し[...]をクリックします。例として、C\WIRES-II\MyRoom.xml を入力します。
7. [XML Header]に呼び出したいスタイルシートの情報を入力します。
   例として、
   <?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
   <?xml-stylesheet type="text/xsl" href="MyRoom.xsl"?>
   と入力します。
8. [XML Footer]は空欄にします。
9. [OK]をクリックすると、Make List が生成されます。
   [Name]で指定したファイルをダブルクリックすると Internet Explorer などの web ブラウザリストが起動し、生成された My Room logon ID List が表示されます。

ヒント [Save CSV Format]にも[✔]を入れると、同時にカンマ区切りテキスト(csv)形式の file も出力します。

ルーム開設編

Round QSO Room 利用時に便利な機能

Call options　［File］→［Property］→［Call options］



① **Round QSO Room connection　「Default: ON」**
Round QSO Roomへの接続要求を受け取った際の動作をここで規定します。
ON:　Round QSO Room へ接続する。
OFF: Round QSO Room に接続しない。

② **Accept calls while in Round QSO Rooms　「Default: OFF」**
Round QSO Room へ接続中に、別の Node 局から接続要求を受け取った時の動作をここで規定します。
ON: 別の Node 局からの接続要求を受け付ける。
　　(Round QSO Roomとの接続を切断してから、Node局と接続する。)
OFF: 別の Node 局からの接続要求を受け付けない。
　　(Round QSO Room との接続を維持する。)
なお、Round QSO Room チェックイン時、どの局も送信していないときにのみ動作します。

③ **Back to Round QSO after disconnect　「Default: OFF」**
Accept calls while in Round QSO Rooms 設定が ON で、別の Node 局から接続要求を受け付けて、その Node 局と通信した後、リンクを切断した後の動作をここで規定します。
ON:　自動的に接続していた Round QSO Room へ再接続します。
OFF: Round QSO Room への再接続は行いません。

④ **Return to resident Round QSO Room　「Default: OFF」**
指定した Round QSO Room へ自動接続させる為の機能を設定します。
ON: Round QSO Room へ自動接続する機能を動作させます。
OFF: Round QSO Room へ自動接続する機能を動作させません。
この設定は、パソコン画面上でチェックボックスを操作する以外に、DTMF の #55555 コマンドでも状態を変更する事ができます。
DTMF の #55555 コマンドにより、状態を OFF から ON に変更した場合、Resident Room ID & Timer の各設定も全て Enable(ON)状態になります。

ルーム開設編

Round QSO Room 利用時に便利な機能（つづき）

⑤ **Resident Room ID & Timer　「Default：OFF」**

自動接続したい Round QSO Room の ID 番号と、接続させておく時間帯(Timer)を最大 3 カ所まで設定する事が出来ます。Enable チェックボックスへ " レ点 " を入れると設定した Round QSO Room へ希望の時間に自動接続することができます。

ON：　指定した時間帯に設定した Round QSO Room へ自動接続を行います。

OFF：自動接続は行われません。

自動接続が出来なかった(return to room No.$ [XXXX] count over. が log上に出た)場合には、自動的にこのチェックは外れます。(OFF状態に移行します。)

再度自動接続させたい場合、パソコンの設定画面上でチェックを入れるか、DTMF の#5555D(#55555 または#05555)コマンドを使い、Return to resident Round QSO Room 機能自体を ON にしてください。

ID

自動接続したい Round QSO Room の ID 番号を指定します。

最大 3 カ所設定でき、同じ時間帯で複数の接続先を指定する事も可能です。

Timer（StartTime - EndTime）

自動接続させる時間帯を 5 分単位で指定します。

最大 3 カ所設定でき、同じ接続先で複数の時間帯を指定する事も可能です。

24 時間、常に自動接続させたい場合には、00:00 - 24:00 を指定します。

⑥ **Resident TOT　「Default：0 sec」**

Resident Room ID & Timer で設定した Round QSO Room へ接続すると、Disconnect 操作(DTMF コマンド等)や通信路トラブル等が無ければ、Timer の指定時間内は接続を維持します。

Timer の指定時間を過ぎたら、まず、INTERNET 点灯状態にならないか監視し、監視時間内に INTERNET 点灯状態にならなければ自動接続を解除(Disconnect)します。この監視時間を設定することができます。もし、監視時間内に INTERNET 点灯状態になった場合には、通話中であると判断し、自動接続を解除せず、接続状態を維持します(Resident TOT = 0 [sec]の場合は除く)。

INTERNET 点灯状態から、LOCAL 消灯に戻った所で、再度監視を行います。

⑦ **Return time　「Default: 30sec」**

Return to resident Round QSO Room 設定が ON の時、IDLE 状態になってから、自動接続を実行するまでの待機時間をここで設定します。

長い時間を設定する際には、下記数値を参考にしてください。

5 分 = 300sec	30 分 = 1800sec
10 分 = 600sec	40 分 = 2400sec
15 分 = 900sec	50 分 = 3000sec
20 分 = 1200sec	60 分 = 3600sec

ヒント

3 つの設定個所の内、接続先が 1 箇所だけ Enable(ON)の状態だった場合は、#5555D (#55555 または#05555)コマンドを使い一旦 OFF に設定し、再度#5555D で ON に設定すると、3 つの設定がすべて ON の状態になります。

ヒント

INTERNET が点灯になると、Resident TOT のタイマーはリセットされます。また、Local が消灯になった状態で Resident TOT で設定した時間が続いたら解除(Disconnect)されます。

注 意

Return time で短い時間を設定すると、接続が出来なかった場合にエラー音を繰り返し送信する事となり、あまり好ましくありません。

Return counterの設定とあわせ、他局に迷惑がかからない程度の適切な値を指定するようにしましょう。

⑧ **Return counter** 「**Default：10**」

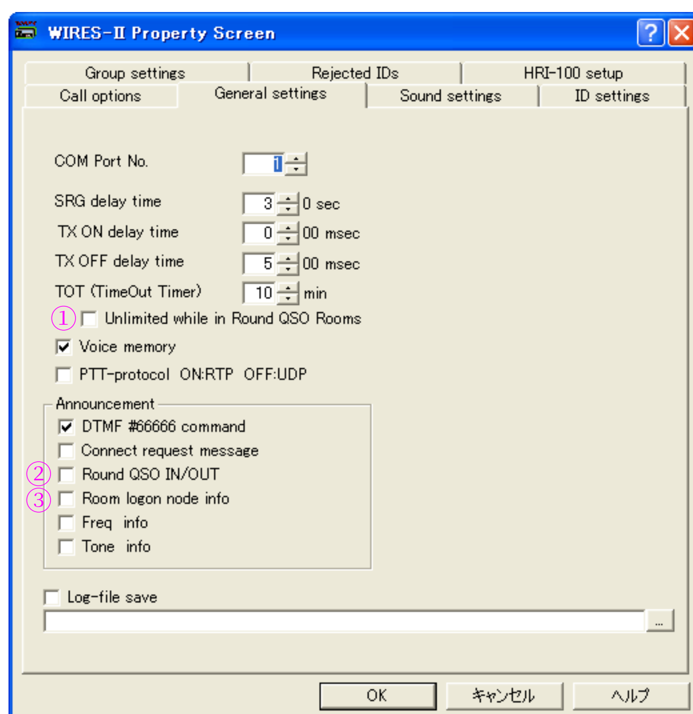
Return to resident Round QSO Room 設定が ON の時の自動接続実行回数をここで設定します。指定した回数接続を試みても接続が確立できなかった場合には、そこで自動接続機能を一時的に停止します。(一時停止状態に移行した後、DTMF の #55555 コマンド機能で再度自動接続機能を動作させる事が可能です)。

⑨ **DTMF #55555（Return Room cancel）command** 「**Default: ON**」

DTMF の #55555 コマンドの動作を ON/OFF します。

ON に設定した場合、DTMF の #55555 コマンドを受信すると、Return to resident Round QSO Room 機能を一時的に停止します。また停止時にこのコマンドを受信すると機能を再稼動させることができます（トグル動作）。ただし接続時（NET時）は使えません。OFF設定時は、DTMF の #55555 コマンドを無効にします。

General settings ［File］→［Property］→［General settings］



① **Unlimited while in Round QSO Rooms** 「**Default：OFF**」

Round QSO Room へ接続時の TOT（Time Out Timer）による時間制限機能の動作をここで規定します。

ON： Round QSO Room 接続中は接続時間を制限しません。

OFF：Round QSO Room 接続中でも接続時間を制限をします。

② **Announcement（Round QSO IN/OUT）** 「**Default：OFF**」

Round QSO Room の IN/OUT 時のアナウンス送出を ON/OFF します。ONに設定すると、“ ****IN/****OUT ” といったアナウンスを送出します。Announcement機能は、Microsoft Speechがインストールされている時のみ動作します。なお、このアナウンス音声の音量は、Sound Settings の Voice の Volume 調整バーにて行います。

③ **Announcement（Room logon node info）** 「**Default：OFF**」

Round QSO Room へ接続した際にログオン中の Node 局数をアナウンスする機能が追加されます。

注 意

Return counterで接続回数を多めに設定すると、接続が出来なかった場合にエラー音を繰り返し送信する事となり、あまり好ましくありません。

Return timeの設定とあわせ、他局に迷惑がかからない程度の適切な値を指定する様にしましょう。

ヒント

３つの設定個所の内、接続先が１箇所だけ Enable（ON）の状態だった場合は、#5555D（#55555 または #05555）コマンドを使い一旦 OFF に設定し、再度 #5555D で ON に設定すると、３つの設定がすべて ON の状態になります。

例

Room logon Node info

自局がJQ1YBG，接続先ID：0510，Room に Node が５局 Connect している場合

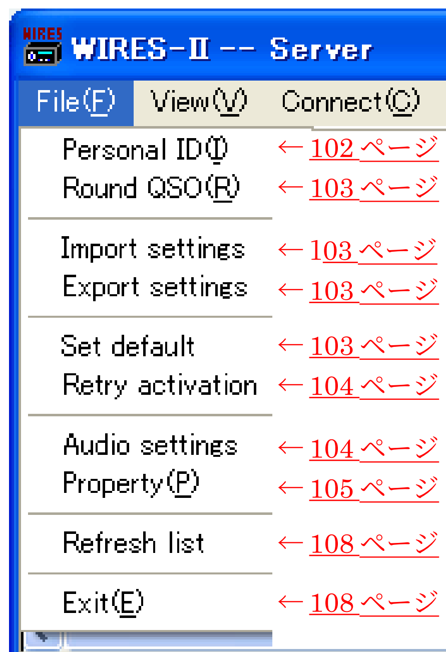
This is JQ1YBG WiRES connected to 0510. 5 Nodes.

ルーム開設編

メニューバーの説明



ファイルメニュー



[**File**]→[**Personal ID**]

公開する情報を入力するホルダーです。

「Freq」,「SQL Type」,「G.Loc」,「Comment」,「ICON select」,「QSL exchange」,「Message」,「Remote control」,「Remote Password」,「Remote Port」を入力することができます。詳しくは、18ページを参照してください。

Personal settings

Serial No.　Call sign　ID No.　City　State　Country

JQ1YBG　Meguro-ku　TOKYO　Japan

ICON select　Freq　MHz　SQL Type　NoTone　G.Loc　Loc　Lat: 00.00.00N　Lon:000.00.00E

Comment

QSL exchange　(SIZE : QVGA 320 x 240 bmp)

Message (MAX 200 Charactors)

Remote control

Password　Port.(TCP 40000-50000 , EVEN)　46080

OK　Cancel

ID number validated

キーボードショートカット

File:
[Alt]→[F]

Personal ID:
[Alt]→[F]→[I]

注意

Round QSO(R)は、Round QSO Roomを開設すると追加されます(95ページ参照)。

メニューバーの説明（つづき）

［**File**］→［**Round QSO**］

Round QSO Room の各種設定を行います。
なお、この設定画面は、Round QSO Room を開設設定した時にのみ表示します。
設定内容は、「ID」,「Room name」,「Maximum stations」,「Enable」,「Disable」,「Comment」,「Confidential ID」,「QSL exchange」,「Message」です。詳しくは、95 ページを参照してください。

キーボードショートカット

Round QSO:
[Alt] → [F] → [R]

［**File**］→［**Import settings**］

WiRES に関する各種設定情報を登録した file(*.wsv) を選択して、Windows Registry へ読み込みます。
下記項目に関して、file 内の情報と Windows Registry 情報が一致しない場合、file の設定情報の読み込みができません。
＊ ID 番号と Serial Number

［**File**］→［**Export settings**］

WiRES に関する Windows Registry 情報を file(*.wsv) に保存します。

［**File**］→［**Set default**］

WiRES に関する各種設定情報をインストール直後の初期状態へ戻します。
なお、下記設定値については、初期化されません。

◎ Personal settings の下記設定値
[Serial No.], [Callsign], [ID No.], [City], [State], [Country]
◎ HRI-100 setup 内の全ての設定値
◎ Volume バーの下記設定値
[SP LEVEL], [WAVE LEVEL] [MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL]
◎ Make list file 機能の Header/Footer 情報
(この部分は、別 file に保存されます)。

注 意

Set default について
Round QSO Room を運用していた場合、それらの設定情報(Round QSO Room settings や MCU/Room-Info の値など) も全て初期化されます。
再度、Round QSO Room を運用したい場合には、取扱説明書の「Round QSO Room の開設」を参照し ROUNDQSO.exe による認証作業) から全てやり直してください。
なお、この設定情報の初期化を実行する際には、WiRES software(WiRES-II.exe) の再起動が必要になります。

[**File**]→[**Retry activation**]

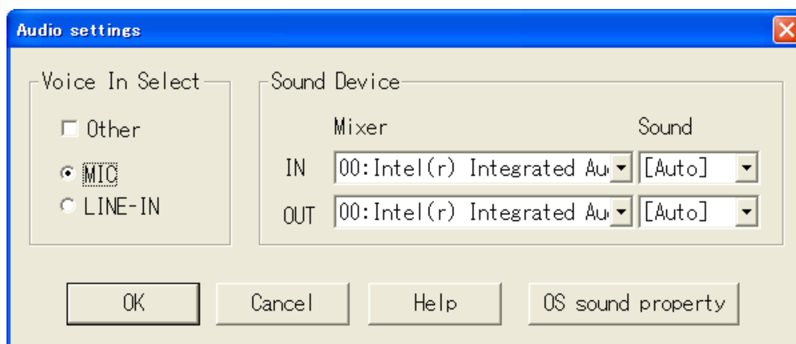
WiRES の認証を再度行う事ができます。WiRES の Server 登録情報を変更した場合などに実行します。
このコマンドを実行すると、WiRES software(WiRES-II.exe)の再起動時に WiRES Activation(認証)画面が現れ、WiRES の再認証を行う事が出来ます。
なお、このコマンドを実行すると、下記設定値のみ更新され、それ以外の各設定値はそのまま維持されます。

◎ Personal settings の下記設定値
[Serial No.],[Callsign],[ID No.],[City],[State]，[Country]

◎ Round QSO Room settings の下記設定値
[Room ID No.]

[**File**]→[**Audio settings**]

Audio 制御用の Sound driver に関する設定を行います。



Voice in select

無線機からの音声信号を入力する端子を選択します。
さらに、[MIC LEVEL / LINE-IN LEVEL]のレベル調整バーで制御する端子も同様に切り替えます。詳しくは79ページを参照してください。

Sound Device

HRI-100 と接続する、パソコン上のサウンドデバイスを選択します。
複数のサウンドデバイスが実装されているパソコン環境では、適切に設定を行う必要があります。詳しくは80ページを参照してください。

注 意

Retry activation について
Round QSO Room を運用していた場合、このコマンド操作により Round QSO Room の ID 番号と運用状態のみが解除されます。
(Round QSO Room settings や MCU/Room-Info の値などの各設定値は、このコマンドでは消去されません)。
再度、Round QSO Room を運用したい場合には、取扱説明書の「Round QSO Room の開設」を参照し ROUNDQSO.exeによる認証作業)から全てやり直してください。
なお、このコマンドを実行する際には、WiRES software (WiRES-II.exe)の再起動が必要になります。

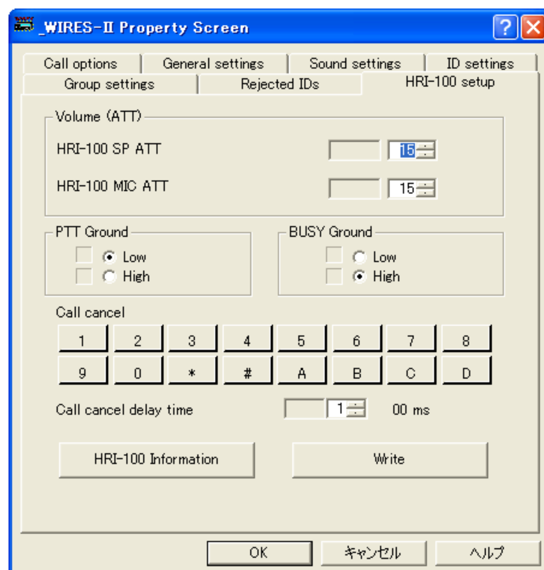
注 意

設定変更時には、WiRES software(WiRES-II.exe)を再起動する必要があります。
Windows Vista/7 環境では、Audio settings 内の設定内容を確定させる前に、OS のサウンド設定画面([OS sound property]ボタンから呼び出せる画面)を閉じる必要があります。
OS のサウンド設定画面を開いている時には、設定が反映されません。

［**File**］→［**Property**］

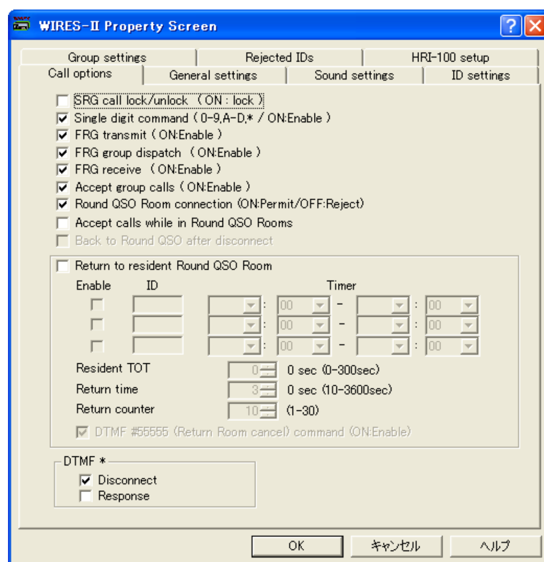
［**File**］→［**Property**］→［**HRI-100 setup**］

HRI-100 の各種動作に必要なパラメータを設定します。
詳しくは、58 ページを参照してください。



［**File**］→［**Property**］→［**Call options**］

WiRES 無線局の呼出方法などを設定するホルダーです。
詳しくは、61 ページを参照してください。



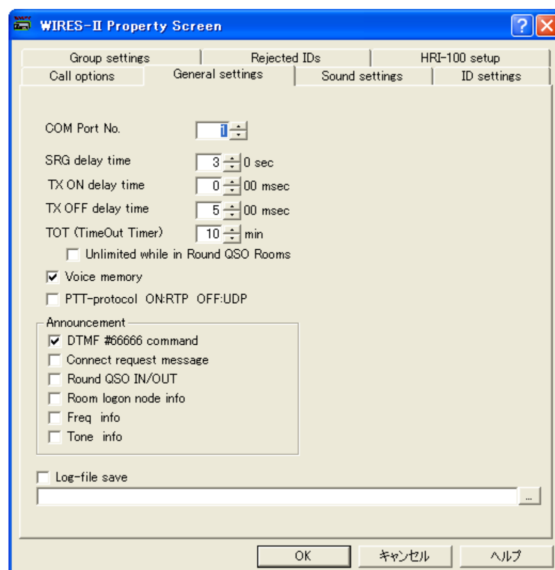
キーボード
ショートカット

Property:
[Alt] → [F] → [P]

付録

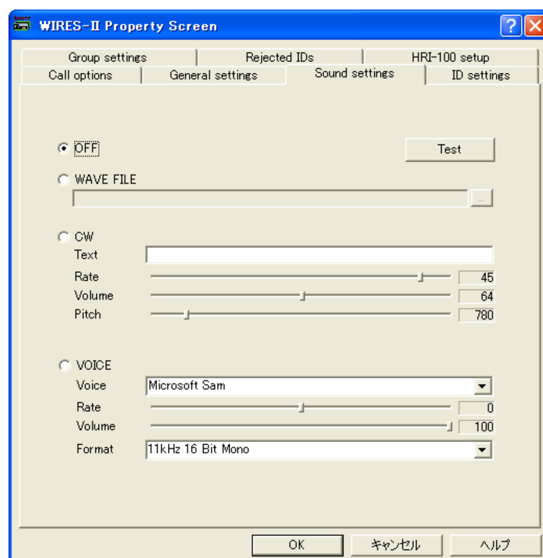
［**File**］→［**Property**］→［**General settings**］

WiRES-II の接続条件等を設定するホルダーです。
詳しくは、66 ページを参照してください。



［**File**］→［**Property**］→［**Sound settings**］

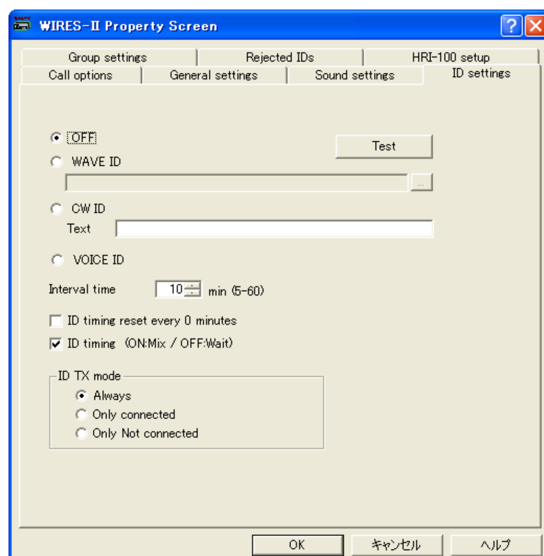
Connect時の出力音声の形式の選択と、各音声形式の細かいパラメータを設定します。なお、各音声形式毎の細かいパラメーター（CW pitch や Voice の音量など）は ID settings の選択音声にも影響します。
詳しくは、70 ページを参照してください。



[**File**]→[**Property**]→[**ID settings**]

定期的に ID を送出する機能に関しての設定を行います。

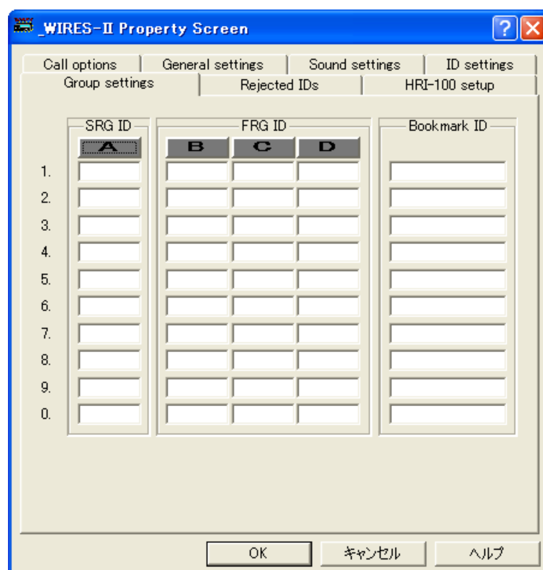
詳しくは、72 ページを参照してください。



[**File**]→[**Property**]→[**Group settings**]

SRG(Sister Radio Group)や FRG(Friendly Radio Group)の ID list の設定と、Group Window にさらに表示したい局の list(Bookmark ID list)の設定等をおこないます。

詳しくは、75 ページを参照してください。



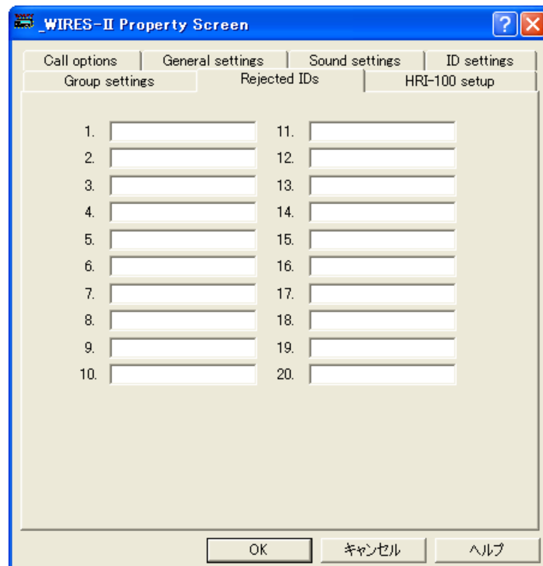
付録

メニューバーの説明（つづき）

[**File**]→[**Property**]→[**Rejected IDs**]

接続拒否したいWiRES局のID番号もしくはその条件をlist上に入力します。

詳しくは、78ページを参照してください。



[**File**]→[**Refresh list**]

IDリストは、数分毎にリストをリフレッシュしていますが、最新のリストを取得することができます。起動時や、一度リフレッシュすると一定時間を経過しないと、リストをリフレッシュすることはできません。

[**File**]→[**Exit**]

WiRES-II server プログラム(WiRES-II.exe)を終了します。

ヒント

ID番号の条件は下記のように指定できます。

- 個別 指定:
  "5109" → 5109との接続を拒否する。
- 複数 指定:
  "5109,6800,6900" → 5109 6800 6900との接続を拒否する。
- 範囲 指定:
  "6800-6999"→6800～6999までの局との接続を拒否する。
- "?"指定:
  "10?0":1000 1010 ...1080 1090との接続を拒否する。

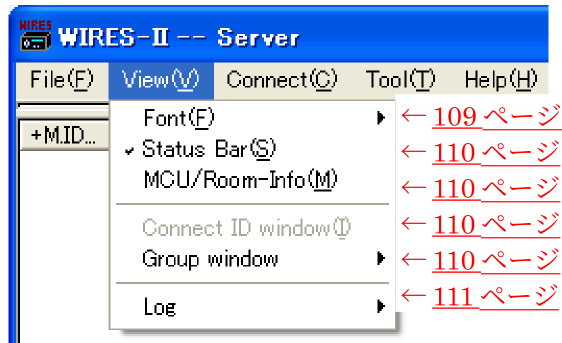
キーボードショートカット

Exit:
[Alt]→[F]→[E]

付録

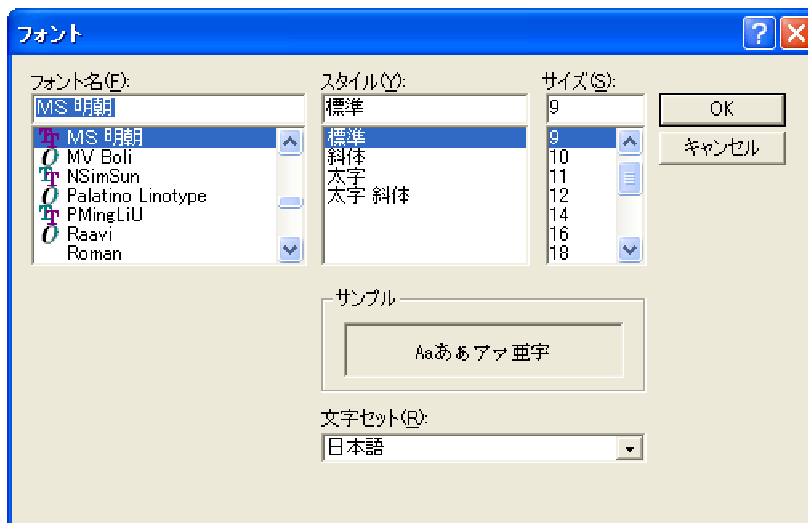
メニューバーの説明（つづき）

ビューメニュー



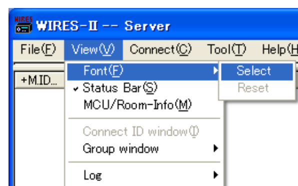
[**View**]→[**Font**]

各ID list(Group window、Active ID window、Round QSO Room window)の表示文字の書体(Font)を変更できます。
さらに、log画面、chat履歴画面、chat文字入力用テキストボックスや、QSL exchange画面の接続先情報などの書体(Font)も同時に変更されます。



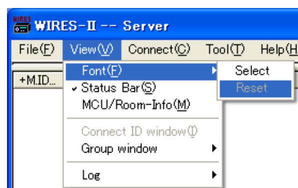
[**View**]→[**Font**]→[**Select**]

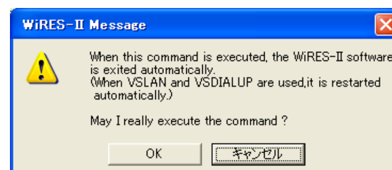
選択すると、Font設定画面が開きます。ID List画面等で使う書体やその大きさ等を変更する事ができます。



[**View**]→[**Font**]→[**Reset**]

OK をクリックすると、Font設定を初期状態に戻す事が出来ます。
WiRES software(WiRES-II.exe)の再起動が行なわれます。





キーボードショートカット

View:
[Alt]→[V]

Font:
[Alt]→[V]→[F]

注意

MCU/Room-Info(M)は、Round QSO Roomを開設すると追加されます。

注意

フォントサイズを大きくしすぎると、見づらくなることがありますので、画面解像度にあわせてフォントサイズを選択してください。

フォントサイズを大きくしすぎると、QSL exchangeの表から文字が収まらずに欠けることがあります。

フォントを変更すると下記の部分も変更されます。
・Chat入力テキストボックス
・Chat履歴
・Log

ヒント

VsLANもしくはVsDialUPが動作してない場合は、WiRES-II.exeを終了した後、手動で再起動をしてください。

付録

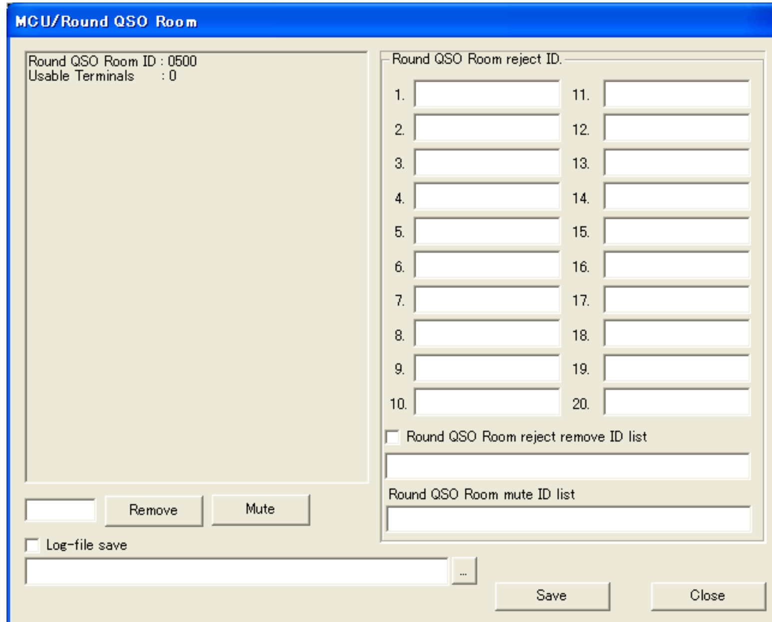
メニューバーの説明（つづき）

[**View**]→[**Status Bar**]

Status Barにレ点を入れると画面下部のステータスバーに状態や簡単な説明文を表示します。

[**View**]→[**MCU/Room-Info**]（Room 開設時のみ）

運用中の自局 Round QSO Room に接続している WiRES 局の情報表示や各種設定をします。詳細は93 ページを参照してください。



[**View**]→[**Connect ID window**]

Round QSO Room 接続時もしくは、SRG/FRG の一斉呼び出し[**A**][**B**][**C**][**D**]による接続が確立した時、その接続局の ID list が pop up window 形式で画面上に表示されます。

このConnect ID windowの表示が下記のような理由で閉じられていた場合に、ここの View メニューを使い表示させる事が可能です。

- CLOSE 操作によって Connect ID window を閉じた場合
- WiRES software（WiRES-II.exe）が画面上で最小化状態時に接続（Connect）操作が実行され、Connect ID windowが表示できなかった場合

なお、Round QSO Room や一斉呼出による接続が行われていない場合、ここのメニューは使用できません。

[**View**]→[**Group window**]→[**SRG/FRG Bookmark list**]

Group settings で指定した Node 局もしくは Round QSO Room 局の情報を表示します。

[**View**]→[**Group window**]→[**Connecting Node list**]

接続先の Node 局や、接続先の Round QSO Room 局に接続中の Node 局情報などを表示します。

[**View**]→[**Group window**]→[**MyRoom access list**]（Room 開設時のみ）

自局 Round QSO Room へアクセス中の Node 局情報を表示します。

キーボード ショートカット

Status Bar:
[Alt] → [V] → [S]

MCU/Room-Info:
[Alt] → [V] → [M]

ヒント

この設定画面は、自局にて Round QSO Room を開設設定した時にのみ表示する事ができます。

ヒント

Node Log の内容を保存したい場合：General settings の Log-file save 機能（Node）を使います。

Round QSO Log の内容を保存したい場合には：[**View**]→[**MCU/Room-Info**]の Log-file save（Round QSO Room）機能を使います。

付録

メニューバーの説明（つづき）

［**View**］→［**Log**］→［**Node**］

通常のNode運用時の情報(WiRESサーバーとの接続状況、呼出や通信の状況、chatのメッセージ等)を表示します。

［**View**］→［**Log**］→［**Round QSO**］（Room開設時のみ）

自局で開設しているRound QSO Roomの運用状況(他局からのRoom接続 / 切断、Reject動作、自局Room内のchatメッセージなど)を表示します。

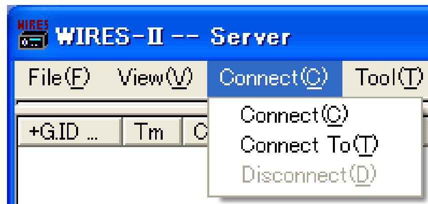
ヒント

表示される内容は、どちらを選択した場合でも、古い物から順番に消えていきます。またプログラムを再起動すると起動前の内容は表示されなくなります。

付録

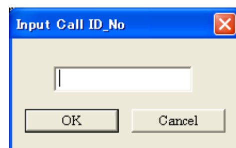
メニューバーの説明（つづき）

コネクトメニュー



［**Connect**］→［**Connect**］
ID リスト中にある ID を選択して“ Connect ”をクリックすると指定した ID へ接続要求します。

［**Connect**］→［**Connect To**］
接続先の ID を入力する画面が表示されます。
接続先のID番号を指定して［OK］をクリックすると接続要求することができます。途中で止める場合は、“ Cancel ”をクリックします。



［**Connect**］→［**Disconnect**］
接続中の相手先と切断します。

キーボードショートカット

Connect:
[Alt] → [C]

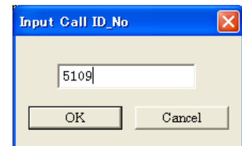
Connect:
[Alt] → [C] → [C]

Connect To:
[Alt] → [C] → [T]

Disconnect:
[Alt] → [C] → [D]

例

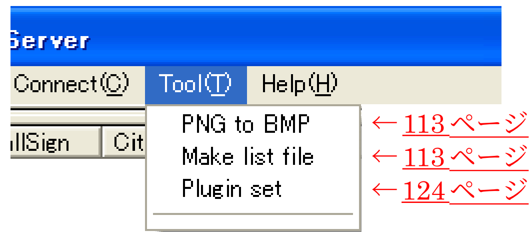
5109 を“ Connect ”したい場合は、下記のように入力し［OK］をクリックします。



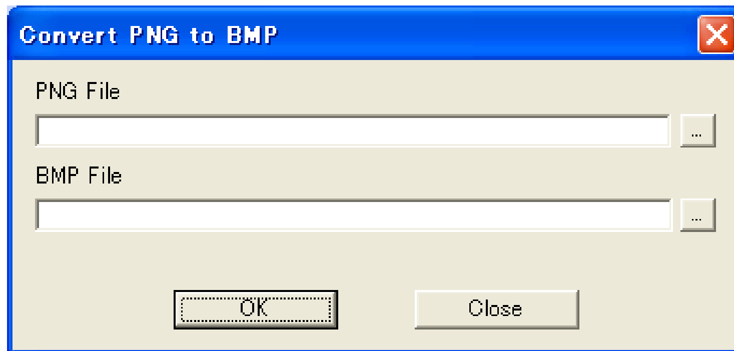
付録

メニューバーの説明（つづき）

ツールメニュー



［**Tool**］→［**PNG to BMP**］



QSL Exchange 機能により接続先 Node から送られてきた画像は、PNG形式で保存されます。このPNG形式の画像を、BMP(ビットマップ)形式に変換する事ができます。
PNG File テキストボックスに変換したい PNG ファイルを指定します。
BMP File テキストボックスには、生成したい BMP ファイル名を指定します。
それぞれ指定したら、OK をクリックすると、変換が行われます。

［**Tool**］→［**Make list file**］

Group window、Active ID window及び、Round QSO Room window 上に表示されているオンライン局の情報をhtml(HyperText Markup Language)形式(テーブルレイアウト形式かタブ区切り形式)もしくは、xml(eXtensible Markup Language)形式で出力します。また、個別にカンマ区切りテキスト(csv)形式の data の出力も可能です。
なお、出力 data の順序は、list 画面で指定する sort(並べ替え)条件の影響をそのまま受けます(画面表示と同じ順序で出力されます)。
Group window は［**Group ID**］を選択、Active ID window は［**Active ID**］を選択、Round QSO Room window は［**Round QSO Room**］を選択します。詳細は122 ページ参照してください。

キーボードショートカット

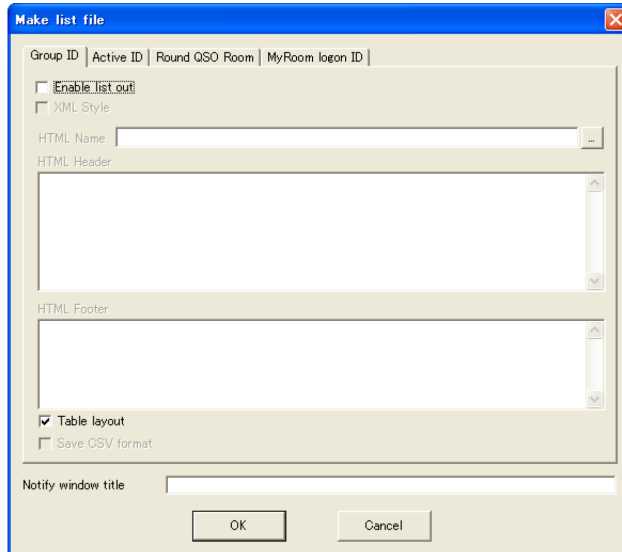
Tool:
[Alt] → [T]

付録

メニューバーの説明（つづき）

[**Tool**]→[**Make list file**]→[**Group ID**]

このタブsheet内は、Group ID windowの情報出力用の設定画面です。下記項目が data として出力されます。
“ ID No. ”,“ Tm ”,“ Callsignもしくは RoomName ”,“ City ”,“ State ”, “ Country ”, “ Freq(MHz) ”, “ SQL ”, “ GL ”, “ Lat ”, “ Lon ”, “ Comment ”



・[Enable list out]
ここにチェックを入れると、data 出力機能が動作します。

・[XML Style]
[Enable list out]にチェックを入れ、さらに[XML Style]にチェックを入れると、XML 形式でスタイルシートを作成することが可能になります。

・[HTML Name / XML Name]
HTML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子は html）。
XML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子は xml）。

・[HTML Header / XML Header]
HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
XML Header: xml形式で使用するスタイルシート情報を入力します。

・[HTML Footer / XML Footer]
HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
XML Footer: 空欄にしてください。

・[Table layout]
html出力の形式を選択します。xml出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
チェックした場合には、テーブルレイアウト(<tr><td> タグ使用)形式で出力します。
チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

ヒント

[Notify Window Title]
Make list file機能により出力されるデータファイルが更新された事を他のアプリケーションに通知する事ができます。通常は空欄のままにしておきます。

注 意

MyRoom logon ID は、Round QSO Room を開設すると追加されます。

ヒント

サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートは122 ページ参照）。

ヒント

xml で Table レイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル（Group.xsl）は Table レイアウト構成です。

付録

・[Save CSVformat]
ここにチェックすると、html形式またはxml形式の他にカンマ区切りテキスト(csv)形式のfileも出力します。file名はName部で指定したhtmlの拡張子をcsvに変更したものになります。

・[Notify window title]
Make list file機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。
通常は空欄のままにしておきます。

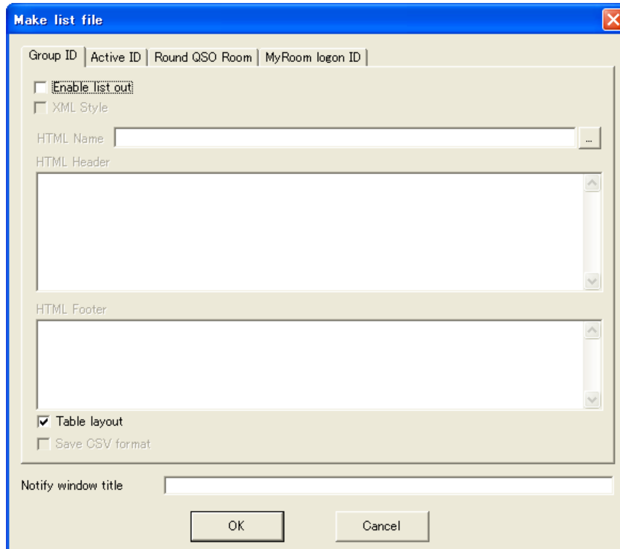
・ OK **Button**
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・ キャンセル **Button**
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

[Tool]→[Make list file]→[Active ID]

このタブsheet内は、Active ID windowの情報出力用の設定画面です。下記項目がdataとして出力されます。

“ID No.”, “Callsign”, “City”, “State”, “Country”, “Freq(MHz)”, “SQL”, “GL”, “Lat”, “Lon”, “Comment”



・[Enable list out]
ここにチェックを入れると、data出力機能が動作します。

・[XML Style]
[Enable list out]にチェックを入れ、さらに[XML Style]にチェックを入れると、XML形式でスタイルシートを作成することが可能になります。

・[HTML Name / XML Name]
HTML Name: 保存したいdataのファイル名を指定します（拡張子はhtml）。
XML Name: 保存したいdataのファイル名を指定します（拡張子はxml）。

・[HTML Header / XML Header]
HTML Header: html形式で出力する際のdataの先頭に書きたいHTMLタグを入力します。
XML Header: xml形式で使用するスタイルシート情報を入力します。

・[HTML Footer / XML Footer]
HTML Footer: html形式で出力する際のdataの後方に書きたいHTMLタグを入力します。
XML Footer: 空欄にしてください。

・[Table layout]
html出力の形式を選択します。xml出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
チェックした場合には、テーブルレイアウト(<tr><td>タグ使用)形式で出力します。
チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

注意

MyRoom logon IDは、Round QSO Roomを開設すると追加されます。

ヒント

サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートは122ページ参照）。

ヒント

xmlでTableレイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル（Active.xsl）はTableレイアウト構成です。

付録

メニューバーの説明（つづき）

・[Save CSV format]
ここにチェックすると、html 形式または xml 形式の他にカンマ区切りテキスト(csv)形式の file も出力します。file 名は Name 部で指定した html または xml の拡張子を csv に変更したものになります。

・[Notify window title]
Make list file 機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。
通常は空欄のままにしておきます。

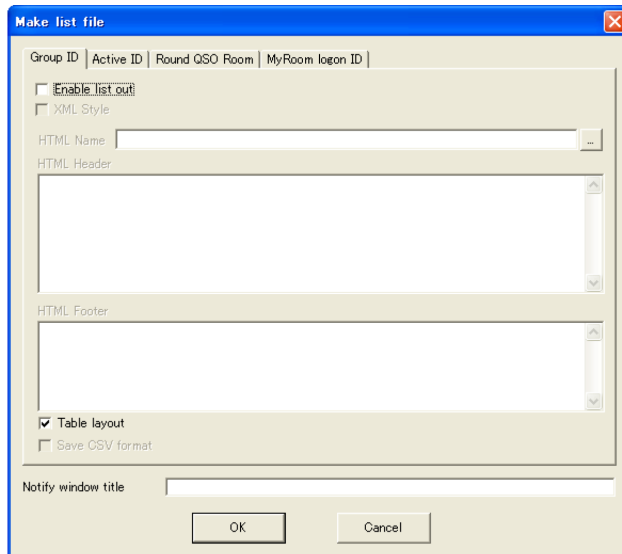
・ OK **Button**
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・ キャンセル **Button**
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

付録

[Tool]→[Make list file]→[Round QSO Room]

このタブ sheet 内は、Round QSO Room Window の情報出力用の設定画面です。下記項目が data として出力されます。
“ID No.”, “Tm”, “RoomName”, “City”, “State”, “Country”, “Comment” が出力されます。
なお、各項目毎の設定方法はどちらのタブでも同じで、下記の通りになります。



- [Enable list out]
  ここにチェックを入れると、data 出力機能が動作します。
- [XML Style]
  [Enable list out] にチェックを入れ、さらに [XML Style] にチェックを入れると、XML 形式でスタイルシートを作成することが可能になります。
- [HTML Name / XML Name]
  HTML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 html）。
  XML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 xml）。
- [HTML Header / XML Header]
  HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
  XML Header: xml形式で使用するスタイルシート情報を入力します。
- [HTML Footer / XML Footer]
  HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
  XML Footer: 空欄にしてください。
- [Table layout]
  html出力の形式を選択します。xml出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
  チェックした場合には、テーブルレイアウト (<tr><td> タグ使用) 形式で出力します。
  チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

注 意

MyRoom logon ID は、Round QSO Room を開設すると追加されます。

ヒント

サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートは122 ページ参照）。

ヒント

xml で Table レイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル（Room.xsl）は Table レイアウト構成です。

メニューバーの説明（つづき）

・[Save CSV format]
ここにチェックすると、html形式またはxml形式の他にカンマ区切りテキスト(csv)形式のfileも出力します。file名はName部で指定したhtmlまたはxmlの拡張子をcsvに変更したものになります。

・[Notify window title]
Make list file機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。
通常は空欄のままにしておきます。

・OK **Button**
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

・キャンセル **Button**
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

付録

[Tool]→[Make list file]→[MyRoom logon ID]

このタブ sheet 内は、自分で開設している Round QSO Room にログオンしている Node 局情報出力用の設定画面です。
下記項目が data として出力されます。
“Tm”: 自分で開設中の Room に接続中の Node 局総数を出力します（html 方式のみ）。
“NodeList”：接続中の NodeID をスペース区切りで出力します。

- [Enable list out]
ここにチェックを入れると、data 出力機能が動作します。
- [XML Style]
[Enable list out] にチェックを入れ、さらに [XML Style] にチェックを入れると、XML 形式でスタイルシートを作成することが可能になります。
- [HTML Name / XML Name]
HTML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 html）。
XML Name: 保存したい data のファイル名を指定します（拡張子 xml）。
- [HTML Header / XML Header]
HTML Header: html 形式で出力する際の data の先頭に書きたい HTML タグを入力します。
XML Header: xml形式で使用するスタイルシート情報を入力します。
- [HTML Footer / XML Footer]
HTML Footer: html 形式で出力する際の data の後方に書きたい HTML タグを入力します。
XML Footer: 空欄にしてください。
- [Table layout]
html出力の形式を選択します。xml出力の形式ではグレーアウトになり選択不可能です。
チェックした場合には、テーブルレイアウト (<tr><td> タグ使用) 形式で出力します。
チェックしない場合、タブ区切り形式で出力します。

注 意

MyRoom logon ID は、Round QSO Room を開設すると追加されます。

ヒント

xml 形式を選択してサンプルのスタイルシート (MyRoom.xsl) で出力を行うと、Node 局総数を含む Make List を出力することができます。

ヒント

サンプルのスタイルシートを使用することができます（スタイルシートは97 ページ参照）。

ヒント

xml で Table レイアウトにしたい時には、スタイルシート上で指定します。サンプルのスタイルシートファイル (MyRoom.xsl) は Table レイアウト構成です。

・[Save CSV format]
ここにチェックすると、html形式またはxml形式の他にカンマ区切りテキスト(csv)形式の file も出力します。file 名は Name 部で指定した html または xml の拡張子を csv に変更したものになります。

・[Notify window title]
Make list file機能により出力されるデータファイルが更新されたことを他のアプリケーションに通知することができます。
通常は空欄のままにしておきます。

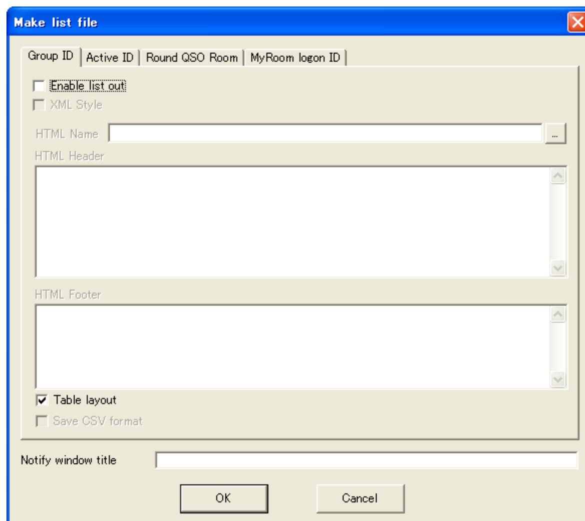
・ OK **Button**
このボタンをクリックすると設定が反映されます。機能を設定した場合や変更した場合は必ずクリックしてください。

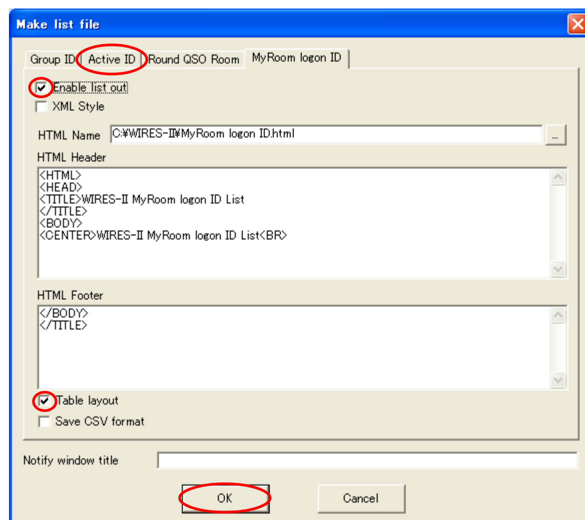
・ キャンセル **Button**
このボタンを押すと変更した設定は反映されません。

付録

例 Make List を html 形式で作成する方法

Active ID List，Round QSO Room List 及び，Group List のオンライン局の情報を html 形式で出力することができますが、ここでは Active ID List を html 形式に出力する方法を例をあげて説明します。





WIRES-II Active ID List

ID No	CallSign	City	State	Country	Freq (MHz)	SQL	QL	Lat	Lon	Comment
1128	K7OC	Tucson	AZ	USA	***	***	***	***	***	146.34/.94 Repeater - Tucson, AZ
1129	WA6RQD	Oceanside	CA	USA	446.86	TSQ 151.4Hz	***	***	***	Node Owners Mail List. wires_voip@yahoogroups.com
1173	NE2E	New York City	NY	USA	441.450	TSQ 123.0Hz	***	***	***	New York City, Ny
1192	NE2E	South River	NJ	USA	444.250	TSQ 123.0Hz	***	***	***	Wide area linked system.
1205	K1EEA	Arlington	MA	USA	446.025	TSQ: 79.7Hz	***	***	***	Somerville, MA
1251	WD4DRT	Port Richey	FL	USA	444.250	***	***	***	***	Welcome to Port Richey, Florida
1270	KC5BSC	Eros	LA	USA	***	***	***	***	***	Location, Monroe, La 32.5090N, 92.1190W EM32vu
1288	N1WPN	Haverhill	MA	USA	***	TSQ 100.0Hz	***	***	***	Salem NH
1328	K6HRO	Danville	CA	USA	439.900	***	***	***	***	HRO HQ Simplex
1329	KF4SCN	Woodbridge	VA	USA	438.500	***	***	***	***	***
1340	K1HRO	Salem	NH	USA	438.500	***	***	***	***	***
1348	K7MKG	Cheyenne	WY	USA	146.430	***	***	***	***	splx 146.43 & 433.25(Tn100.5)
1350	WA5BGO	Austin	TX	USA	***	***	***	***	***	***
1362	KE6YJC	Fresno	CA	USA	443.200	TSQ 141.3Hz	***	***	***	Testing
4104	VR2JC	Hong Kong	***	China	***	***	***	***	***	***
4114	VK3RTL	Melbourne	***	Australia	438.600	TSQ 91.5Hz	***	***	***	WIRES-II / EchoIRLP Linked to #04120
5002	JH0ODI	Ueda-city	NAGANO	Japan	438.84	TSQ 88.5Hz	***	***	***	***
5005	JJ0KDA	Nagano-city	NAGANO	Japan	***	***	***	***	***	***
5007	JA0GXY	Niigata-city	NIIGATA	Japan	***	***	***	***	***	438.28MHz NIIGATA CITY
5008	JH0YNV	Kitaazumi-gun	NAGANO	Japan	438.44	***	***	***	***	438.44MHz 24H 10W Ikeda-town
5010	JA0GTA	Nagano-city	NAGANO	Japan	1292.22	TSQ 88.5Hz	***	***	***	Linked to the JP0YCU Repeater 1292.22MHz FM
5011	JR0QWN	Niigata-city	NIIGATA	Japan	433.0	***	***	***	***	Furumachi local, 438.18MHz, 24h
5014	JA0FCF	Iida-city	NAGANO	Japan	432.20	***	***	***	***	FM IIDA-city NAGANO

・
・
・

1. WiRES-II ソフトウェアを起動します。
2. ［**Tool**］→［**Make list file**］ を開くと、左図の画面が表示されます。
3. ［Active ID］を選択します。
4. ［Enable list out］に［✔］を入れ data 出力機能を ON にます。
5. ［Name］に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し［...］をクリックします。
   例として、C\WIRES-II\activeID.html を入力します。
6. ［HTML Header］に Active ID List のタイトルになる部分を html のコマンドタブを入力します。
   例として、
   <HTML>
   <HEAD>
   <TITLE>WIRES-II Active ID List</TITLE>
   <BODY>
   <CENTER>WIRES-II Active ID List
   と入力します。
7. ［HTML Footer］に html のコマンドタブを入力します。
   例として、
   </BODY>
   </TITLE>
   と入力します。
8. ［Table layout］に［✔］か入っているか確認します。
   テーブルレイアウト形式で出力され、見やすい List が自動的に生成されます。
9. ［OK］をクリックすると、Make List が生成されます。
   ［Name］で指定したファイルをダブルクリックすると Internet Explorer 等の web ブラウザーソフトを起動し、生成された Active ID List が開き確認することができます。

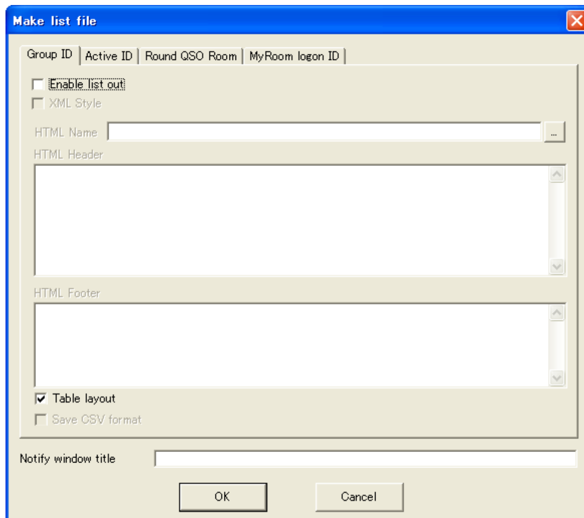
ヒント ［Save CSV format］にも［✔］を入れると、同時にカンマ区切りテキスト (csv) 形式の file も出力します。

付録

メニューバーの説明（つづき）

例 Make List を XML 形式で作成する方法

Active ID List，Round QSO Room List 及び，Group List のオンライン局の情報を xml 形式で出力することができますが、ここでは Active ID List を xml 形式に出力する方法を例をあげて説明します。



Make list file

Group ID | Active ID | Round QSO Room | MyRoom logon ID

Enable list out

XML Style

XML Name C:¥WIRES-II¥active.xml

XML Header

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<?xml-stylesheet type="text/xsl" href="Active.xsl"?>

XML Footer

Table layout

Save CSV format

Notify window title

OK Cancel

WIRES-II Active ID list

ID	CallSign	City	State	Country	Freq	SQL	GL	Lat	Lon	Comment
1101	W6DXC	Cypress	CA	USA	438.500		DM03XT	33.48.01N	118.02.02W	
1128	WD7F	Tucson	AZ	USA	146.94	TSQ 110.9Hz	DM42OH	32.17.34N	110.47.28W	146,94 + 227,74 + 4
1145	K6JP	Los Angeles	CA	USA	1200.0					
1160	N1MMT	Monson	MA	USA						
1173	NE2E	New York City	NY	USA	441.450	TSQ 123.0Hz				New York City, Ny
1181	XE3AXB	Turtla Gut.	Chiapas	Mexico	147.970	TSQ 100.0Hz	EK36KS	16.46.00N	093.07.00W	NODO 1181 CHIAPAS
1189	KC8NDZ	Charleston	WV	USA	145.430	TSQ 107.2Hz				4 Qso Use Room 0111 (www.qsl.net/kc8ndz)
1192	NE2E	South River	NJ	USA	444.250	TSQ 123.0Hz				Wide area linked system.
1205	K1EEA	Arlington	MA	USA	446.025	TSQ 79.7Hz				Somerville, MA
1251	WD4DRT	Port Richey	FL	USA	147.1500	TSQ 146.2Hz				
1299	KF7MO	Idaho Falls	ID	USA	446.130		DN33XL	43.28.00N	112.01.59W	Bonneville County - Simplex
1316	KE4YUW	Hialeah	FL	USA	444.225	TSQ 67.0Hz				WWW.PIRATARADIOCLUB.COM
1329	KF4BCH	Woodbridge	VA	USA	438.500					
1341	KB0OC	Mounds View	MN	USA	145.510	TSQ 107.2Hz				
1344	KF0RS	Overland Park	KS	USA	147.550	TSQ 151.4Hz				24/7 KC Metro area

・
・
・

1. WiRES-II ソフトウェアを起動します。
2. ［**Tool**］→［**Make list file**］ を開くと、左図の画面が表示されます。
3. ［Active ID］を選択します。
4. ［Enable list out］に［✔］を入れ、data 出力機能を ON にます。
5. ［XML Style］に［✔］を入れ、xml 形式を選択します。
6. ［Name］に希望のディレクトリを選び、ファイル名を入力し［...］をクリックします。
   例として下記のように入力します。
   C\WIRES-II\active.xml
   この部分を変更
   他の List の場合は赤文字部分を変更してください。
   Group ID List の場合は Group
   Round QSO Room List の場合は Room
   MyRoom logon ID list の場合は MyRoom
7. ［XML Header］に呼び出したいスタイルシートの情報を入力します。
   例として下記のように入力します。
   <?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
   <?xml-stylesheet type="text/xsl" href="Active.xsl"?>
   この部分を変更
   Active.xsl は標準添付されているスタイルシートのサンプルファイルです。また、赤文字の部分を変更だけで他の List にも対応できます。
   Group ID List の場合は Group
   Round QSO Room List の場合は Room
   MyRoom logon ID list の場合は MyRoom
8. ［XML Footer］は空欄にします。
9. ［OK］をクリックすると、Make List が生成されます。
   ［Name］で指定したファイルをダブルクリックするとInternet Explorer等のソフトが起動し、生成されたActive ID Listが開き確認することができます。

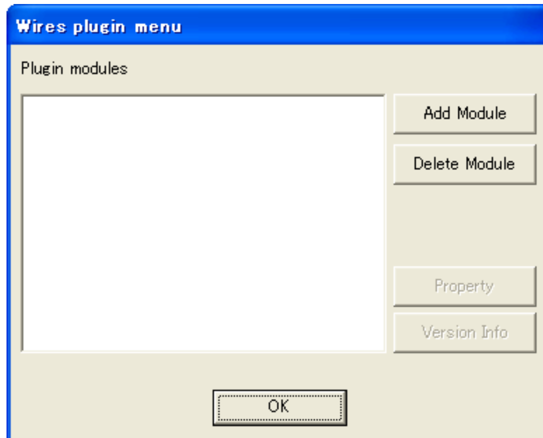
注 意

xml形式による表示結果は、使用する web ブラウザーソフトによって異なる場合があります。

付録

［**Tool**］→［**Plugin set**］

WiRES-II.exe 専用の拡張プログラムの動作設定を行います。

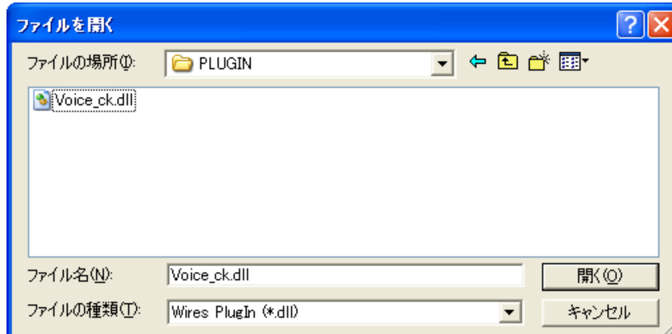


ここでは、「WiRES-II ボイスチェックソフト」例に説明します。

- Add Module **Button**

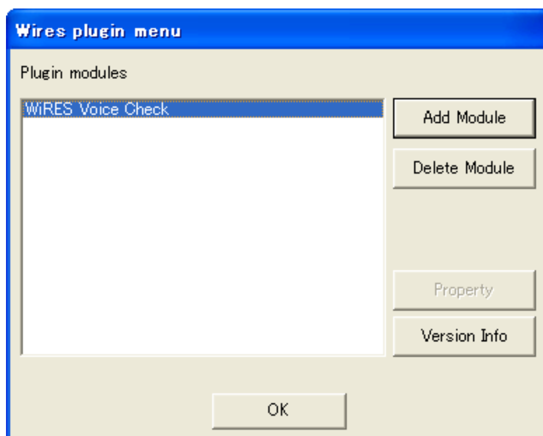
WiRES-II.exe を拡張するプログラムソフトを本体プログラムに取り込みます。取り込み方法は次のように行ないます。

1. Add Module をクリックします。
2. 「ファイルを開く」が表示され、「Voice_ck.dll」をファイルから選択し、開く(O) をクリックします。



プログラムが取り込まれると、Plugin modules 画面内にプログラム名が表示されます。

3. OK をクリックします。



次のページに続く

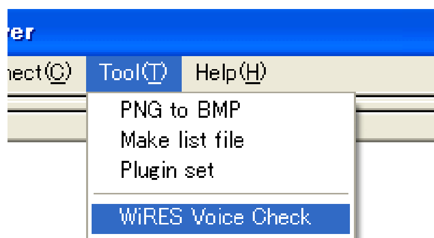
ヒント

拡張プログラムソフトの詳細は随時、八重洲無線の WiRES ホームページで紹介します。
http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html

付録

メニューバーの説明（つづき）

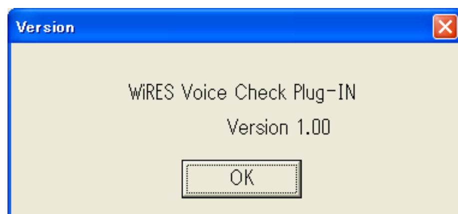
4. [**Tool**]→[**WiRES Voice Check**]を選択するとプログラムが起動します。



- Delete Module **Button**
拡張プログラムを本体プログラムから切り離します。

- Property **Button**
Add Moduleで本体プログラムに取り込んだプラグインソフトの各種設定を行います。取り込んだプラグインソフトをAddin modules画面内から選択し、このボタンを押すと、そのプラグインソフトに関する設定画面が表示されます。(設定項目が存在しないプラグインソフトの場合には何も機能しません。)

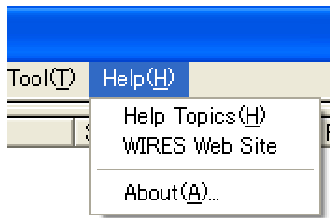
- Version Info **Button**
本体プログラムに取り込んだプラグインソフトのバージョン情報を表示します。



付録

ヘルプメニュー

［**Help**］

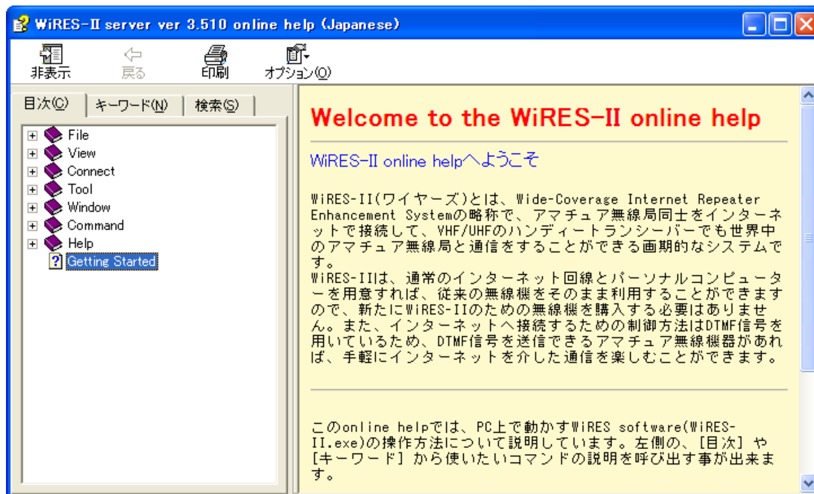


［**Help**］→［**Help Topics**］

ヘルプは、WiRES-II のすべての機能について、画面上で解説を確認できるようにしたものです。

WiRES-II の機能や操作方法がわからないときや、操作中に困ったときなどにご利用ください。

目次、キーワード、テキスト検索と 3 種類の検索方法があります。目的や状況に応じて使い分けると、より効率的にヘルプを利用することができます。



［**Help**］→［**WiRES Web Site**］

ブラウザーソフト（Internet Explorer 等）を使い、八重洲無線の WiRES ホームページの Web サイトを表示します。

http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html

［**Help**］→［**About**］

WiRES software 及び、HRI-100 の firmware のバージョンを表示します。

キーボードショートカット

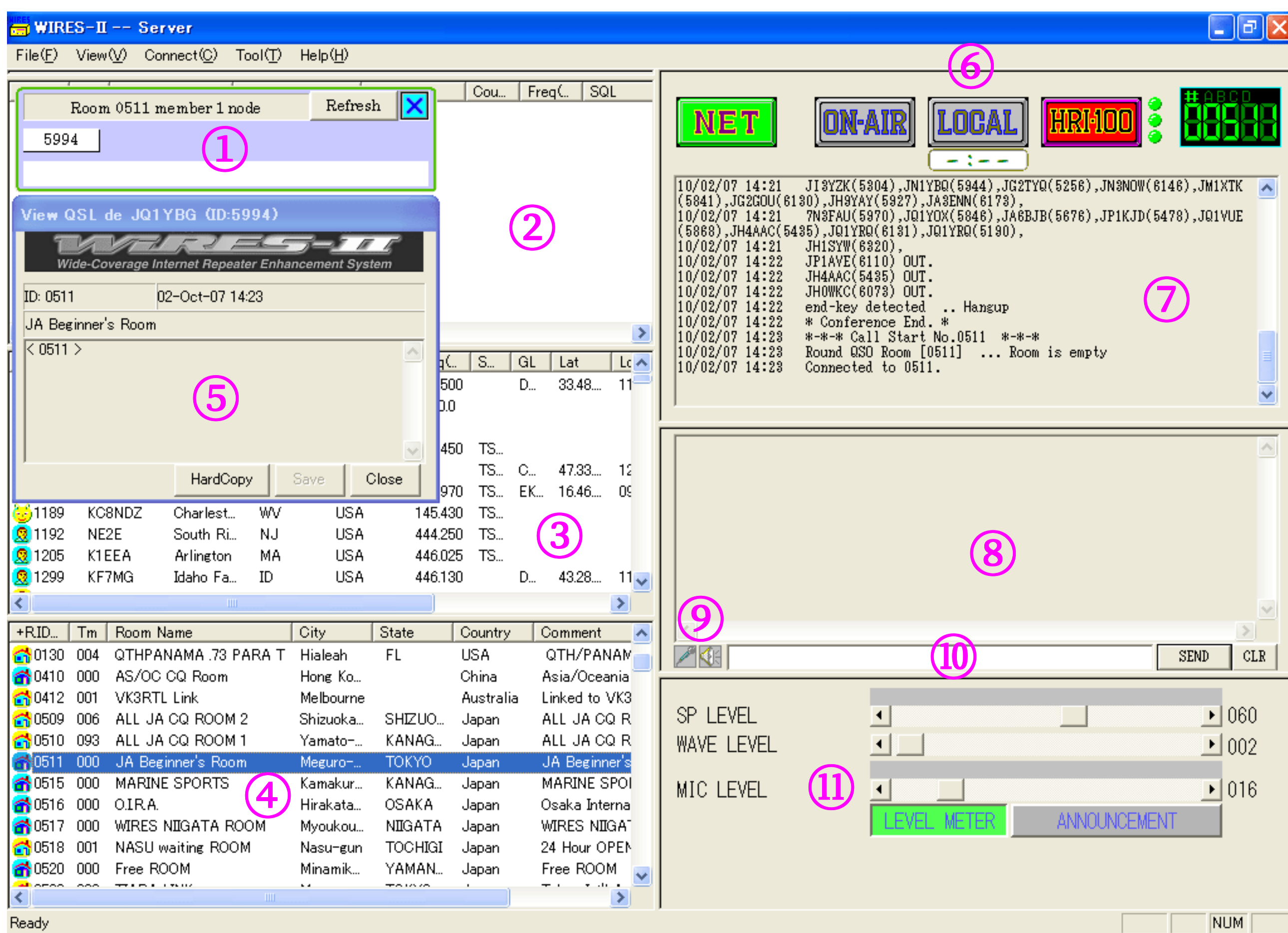
Help:
[Alt] → [H]

Help Topics:
[Alt] → [H] → [H]

About:
[Alt] → [H] → [A]

付録

メイン画面一覧表 (詳細は 22 ページ参照)



① SRG/FRG の一斉呼び出し [A] [B] [C] [D] 時に表示。Round QSO Room 接続時のノード番号とノード局のコールサインを表示。インターネットへ音声送出中のノードは緑色に表示。Refresh をクリックで「② Group Window」の画面を更新。☒をクリックで Connect ID window を閉じる。

② Group Window は SRG/FRG Bookmark list、Connecting Node list、My Room Access list(Room を開設時)を表示可能。下記の「③④」と同様に、リストの並び順を変更（ソート）可能。このリストは適宜更新されます。

③ Active ID Window は、現在接続可能な Node 局をリストで表示。各項目名部分をクリックでリストの並び順を変更（ソート）可能。このリストは適宜更新されます。

④ Round QSO Room Window は、現在接続可能な Round QSO Room をリストで表示。Connect すると Round QSO Room に接続中のノード局を一斉に呼び出すことが可能。各項目名部分をクリックすると、リストの並び順を変更（ソート）可能。このリストは適宜更新されます。

⑤ 「Hard Copy」をクリックで QSL の画像データ保存、「Save」をクリックで接続先の ID 番号とコールサイン、交信日時、メッセージ（半角 200 文字まで）を保存、Node 局の QSL カードとして交換し保存しておくことができる View QSL 機能。「Close」をクリックで View QSL 画面を閉じることが可能。

⑥ 自局の無線機とインターフェースボックス“ **HRI-100** ”の動作状態を表示。ON-AIR を押すと表示が ON-AIR LOCK に変わり接続中止と ON-AIR を禁止をすることが可能。-:-- 3 分間の TOT Counter で自局 NODE の送話、受信可能な残り時間をカウントダウン。

⑦ Log Window はインターネットの（WiRES サーバーとの）接続状態等を表示。

WiRES 局のコールサイン、ID 番号、通信状況、さらにタイムスタンプも随時表示、通信履歴を取るのに便利（Room 開設時には開設 Room 専用の Log 表示も可能)。

⑧ Chat Window は Chat のメッセージなどをこの画面に随時表示。日時、送信元、送信先、チャット内容が表示。

⑨ コンピューター内のボイスメモリーの動作状況を表示。

⑩ チャットを行うときの文字を入力するテキストボックス。

⑪ コンピューター（サウンドボード）と HRI-100 間の音量調整を表示。レベルバーの右横には、0 ～ 100 の数字でレベルを表示します。LEVEL METER のときはレベルメーターが ON。LEVEL METER を押すと、表示が LEVEL METER に変わりレベルメーターは OFF。
ANNOUNCEMENT を押すと、表示が ANNOUNCEMENT MUTE に変わり General settings で設定した Announcement を一時的にミュート。

付録

キーボードショートカット一覧表

File	[Alt] → [F]	
Personal ID	[Alt] → [F] → [I]	初期設定や公開する情報を入力するホルダーです。
Round QSO	[Alt] → [F] → [R]	Round QSO Room の各種設定を行なう画面です。(QSO Room を開設設定した時にのみ)。
Property	[Alt] → [F] → [P]	各種の動作状態や運用状態などを設定します。
Exit	[Alt] → [F] → [E]	WiRES-II server プログラム(WiRES-II.exe)を終了します。
View	[Alt] → [V]	
Font	[Alt] → [V] → [F]	リスト表示のフォントを変更します
Status Bar	[Alt] → [V] → [S]	画面下部のステータスバーに状態や簡単な説明文を表示します。
MCU/Room-Info	[Alt] → [V] → [M]	運用中の自局 Round QSO Room に接続している WiRES 局の情報表示や各種設定
Connect ID window	[Alt] → [V] → [I]	Round QSO Room 接続時もしくは、SRG/FRG の一斉呼び出し[A][B][C][D]による接続が確立した時、その接続局の ID list が pop up window 形式で画面上に表示されます。
Connect	[Alt] → [C]	
Connect	[Alt] → [C] → [C]	ID リスト中にある ID を選択して“Connect”をクリックすると指定した ID へ接続要求をします。
Connect To	[Alt] → [C] → [T]	接続先の ID を入力する画面が表示され、ID 番号を指定して“OK”をクリックすると接続要求をします。
Disconnect	[Alt] → [C] → [D]	接続中の相手先と切断します。
Tool	[Alt] → [T]	拡張機能の設定ができます。
Help	[Alt] → [H]	
Help Topics	[Alt] → [H] → [H]	help を表示します。
About	[Alt] → [H] → [A]	WiRES software 及び、HRI-100 の firmware のバージョンを表示します。

DTMF Command 一覧表

次の DTMF 信号を受信すると、WiRES-II は以下のような動作をします。

#0000D #00000	RESPONSE command	SRG呼び出しを着信したときにこのコマンドで応答すると、SRG の呼び出し元の ID に対して応答することができます。
#5555D #55555 #05555	RETURN ROOM cancel command	RETURN TO RESIDENT ROUND QSO ROOM 機能(Round QSO Roomへの自動接続機能)を一時的に停止させるコマンドです。 自動接続の場合、PCの設定画面上でチェックを入れるか、DTMF コマンド（#55555）を使い、3 つの Return to resident Round QSO Room を ON にすることができます。
#6666D #66666 #06666	ID command	他の WiRES 局との接続状況を知らせるコマンドです。(このコマンドは、Microsoft Speech がインストールされている時のみ有効です。XP 以降は標準実装)。 このコマンドを受信すると、下記のようなアナウンス音声と確認音を送出します。 (自局が JQ1YBG、接続先 ID：0510 の時) 未接続時:“ This is JQ1YBG WiRES. Not connected. ” 接続時の例(1 対 1 場合)： “ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 0510. ” 接続時の例(Room 場合)※： “ This is JQ1YBG WiRES. Connected to 0510. 3 nodes. ” 自局側の Node と交信不可：アナウンス音声、 (電波が届かない状態)　　確認音送出無し
#7777D #77777 #07777	CQ command	オンラインリスト表示している中からランダムに選択した WiRES 局の ID へ接続要求します。
#8888D #88888 #08888	RECONNECT command	直前に接続していた WiRES 局の ID へ再接続します。ただし、直前の接続が一斉呼び出しによる場合は、一斉呼び出しの前に接続していた ID へ再接続します。
#9999D #99999 #09999 ＊	DISCONNECT command	接続を切断するときのコマンドです。 切断すると「ピピピピッ」と切断音を出して知らせます。ただし、＊は Call options 設定が下記の場合のみ有効です。 (DTMF ＊で Disconect を選択している場合で、かつ、Single-digit command を ON(Enable)にしている場合)。

※：［**General settings**］→［**ANNOUNCEMENT**（**Room logon node info**）］にチェックを入れた場合、上記例のように Round QSO Room へ接続した際にログオン中の Node 局数をアナウンスする機能が追加されます。チェックを入れない場合は、上記例の“1 対 1”のアナウンスと同じ内容になります。

付録

ログリスト一覧

XXXXXX(####) IN.

接続中のRound QSO Roomに接続してきたNode局の情報。

XXXXXX(####) OUT.

接続中のRound QSO Roomから切断したNode局の情報。

***localhost* ON AIR LOCK**

WiRES-II.exeのメイン画面上から、ON-AIR LOCK状態を設定した。

***localhost* ON AIR UNLOCK**

WiRES-II.exeのメイン画面上から、ON-AIR LOCK状態を解除した。

***localhost* ON AIR LOCK (Plugin)**

プラグインソフトの起動によるON-AIR LOCK状態が設定された。

***localhost* ON AIR UNLOCK (Plugin)**

起動中のプラグインソフトが終了され、ON-AIR LOCK状態が解除された。

Call Change Start(SRG:#)

SRGのGroup呼び出し(A呼び出し)による接続中に、その中の１局(SRG No.#)を個別に呼び出した。(#= 1-9,0のいずれか)

Call Failed (code=xx)

Connect不成立の場合のエラーメッセージ。(code=xx)の内容は下記の通り。

00:無効なDTMFを受け付けた。
　　例:FRG Group Dispatchを外してBの一斉呼出した場合
01:再接続(#88888)に有効なIDが記憶されていない。
　　例: WiRES-II.exe起動直後に#88888コマンド実行した場合
02:Reject list登録局を呼び出そうとした。
　(“call to Rejected ID_No [XXXX]”が出る場合)
03:呼出したID局がオフラインか、もしくは未登録局だった。
　(“No Entry ON ILS Server”が出る場合)
04:Round QSO Room ConnectionをReject(接続拒否)している時に、Roomへ接続しようとした。
　(“DO NOT CONNECT ROUND QSO ROOM No.XXXX” が出る場合)
05:IDが１つも設定されていないGroup(A,B,C,D)を一斉呼出しようとした。
06:通信データエラー。
08:接続処理が完了できなかった。
　　例: SRGlist上の未使用１桁番号を呼出した場合
09:呼び出し先の局が、他局と接続中(busy)の為に接続できなかった。
　(“Socket Connection Canceled [ ] Code=0”)が出る場合
10:八重洲無線株式会社設置のserverと通信できなかった。
　(このcodeが出る場合、ネットワークトラブル(firewallやルーターの設定ミス、機器の故障等)が起こっているか、あるいは、八重洲無線株式会社設置のWiRES-II用サーバーがメンテナンス等で停止している等が考えられます。)
11:呼出先の局から応答が返ってこない。
　(“No Answer from called PC”が出る場合。)
12:PCの音源ボードの異常等の理由により、録音終了処理を完了できなかった。
　(このcodeが出る場合、PCの音源ボードに何らかの不具合が発生している可能性があります。)
13:相手局からの音声受信開始応答が来なかった。
14:画像dataの送信が完了できなかった。
　(回線品質が悪い等の理由で、画像data転送完了前にタイムアウト等で接続が切れた場合)
15:画像dataの受信が完了できなかった。
　(回線品質が悪い等の理由で、画像data転送完了前にタイムアウト等で接続が切れた場合)

ログリスト一覧（つづき）

Call Start No.XXXX

ID:XXXX局へConnect要求した。

Call Start No.XXXX (SRG:#)

ID:XXXX局へSRGによるConnect要求した。(#= 1-9,0のいずれか)

call from Rejected ID_No[XXXX]

Reject(接続拒否)設定しているNode No.XXXX局から接続要求を受け取った。

(この場合、接続は許可されない(Reject動作))

call to Rejected ID_No[XXXX] (Call Failed (code=02))

Reject(接続拒否)設定しているNode No.XXXX局へ接続要求を出そうとした。
(この場合、呼び出し動作は実行されない。)

Connected to XXXX.

ID:XXXX局との接続が確立した。

Conference End.

Connectionの切断処理が完了した。

Connect Request From XXXX

ID:XXXX局からの呼び出しを受けたが、接続中等の理由により対応できなかった。

COM:### Invalid Port No or Port was already open

COM Port No.で設定したCOM Port No. ### が別のアプリケーションに使用されているか、そもそも設定したCOM Port自体が存在しない。
(WiRES-II.exe起動時及び、COM Port設定を変更した時に表示)

DO NOT CONNECT TO ROUND QSO ROOM No.#### (Call Failed (code=04))

Round QSO Room connectionがOFF(Reject)に設定されている時に、Round QSO Roomへの接続要求コマンドを受けた。(接続動作は実行されない。)

end-key detected .. Hangup

Connectionの切断処理を実行した。

Group Call From (XXXX). Reject

Reject(接続拒否設定)局から一斉呼び出しによる接続要求を受け取った。
(この場合、接続は許可されない。(Reject動作))

In-Call from No.XXXX

ID:XXXX局からの呼出を受けた。

In-Call from No.XXXX (SRG:#)

ID:XXXX(SRG No.#)局からのSRGによる呼出をうけた。
(#= 1-9,0のいずれか。SRG ID登録外のNode局から呼ばれた場合は X 表示)

MCU Call-Type[#]

SRG/FRG # (# = A-Dのいずれか)によるGroup呼出を開始した。

MCU-Call Type[#] from [XXXX]

SRG/FRG # (# = A-Dのいずれか)によるGroup呼び出しを受けた。

No Answer from called PC. (Call Failed (code=11))

Connect要求先のNode局のPCから応答が無かった。

ログリスト一覧表（つづき）

No Entry On ILS Server. (Call Failed (code=03))

Connect要求先のNode局のPCがオフラインであるか、もしくはそのID番号がServer登録されていない。

Outside Call In Round QSO from No.XXXX

Round QSO Room接続中に、Node No.XXXX からFRG呼び出しを受けた。

Outside Call In Round QSO from No.XXXX(SRG:#)

Round QSO Roomに接続中に、Node No.XXXXからSRG呼び出しを受けた。
(#= 1-9,0のいずれか。SRG ID登録外のNode局から呼ばれた場合はX表示)

Outside MCU Call In Round QSO from No.XXXX

Round QSO Roomに接続中に、Node No.XXXXからGroup呼び出しを受けた。

return to room No.$ [XXXX] count over.

Return to resident Round QSO Room機能による自動接続実行回数が、Return counterの設定値を越えた。
(設定No.$の自動接続機能が停止された。)

TX Timeout(over 3min).

接続中の連続送話状態が３分以上継続した。
(3分経過すると、接続先NodeもしくはRound QSO Roomへの音声送出を中止
します。)

return to room No.$ [XXXX] last ## count.

Return to resident Round QSO Room機能による自動接続処理を行った。
(設定No.$、Node No.XXXXへ接続要求した。## countは残りの接続実行可能回数。(Return counterで設定))

Round QSO Room [####] Member ... xxxxxx(####),xxxxxx(####)
Round QSO Room [####] ... Room is empty

接続先Round QSO Roomに接続中のNode局情報表示。(接続局不在の時は"Room is empty"表示する。)

Socket Connection Canceled [] Code=0 (Call Failed (code=09))

Connect要求先のNode局から、Connect要求を拒否された。(別のNode局と接続中の場合や、Reject設定されている場合等)

Socket Communication timeOut..Hangup

接続先Nodeもしくは自局Nodeの接続処理がタイムアウトした。(接続が維持できなくなった)

There are no controls associated with the selected line.(Volume)

音量制御出来る音源デバイスが見つからなかった。
※このエラーが出る環境では、WiRESからの音量制御ができません。ただし、Voice in select機能のOther設定をONに設定する事でまれに運用可能になる場合もあります。

ログリスト一覧（つづき）

◎サウンド関連で表示するログリスト

Number of sound devices

検出された Sound Device の数

Set Mixer Device

Sound device にて設定した Mixer デバイス情報
Input:入力用 Mixer device の ID Number
Output:出力用 Mixer device の ID Number
[参考]
設定が初期値の場合(Audio settings の設定を１度も変更していない時)、WiRES software は、音源 device の自動検出処理を行い、１つめに検出された音源を制御します。自動検出処理が行われた場合、ここの値は、-1 になります。
音源を外した場合など、Audio settings で設定した音源が検出できない場合にも、自動検出処理が行われます。
１つしか音源を実装していない PC では、この状態でも動作しますが、複数の音源を実装している PC では、正常に動作しない場合があります。この場合には、Audio settings の設定内容を確認してください。
Audio settings で設定を行った場合には、設定した音源 device の ID Number を表示します。

Input Mixer No=#: $$$ (Type=%%%)

= 実際に選択された入力用 Mixer device の ID Number
$$$ = 制御 vol 名
%%% = Voice in select の指定情報(Mic/Line)

Output Mixer No=#: $$$

= 実際に選択された出力用 Mixer device の ID Number
$$$ = 制御 vol 名

Set Sound Device

Sound device にて設定した Sound デバイス情報
Input : 入力用 Sound device の ID 設定
Output: 出力用 Sound device の ID 設定
(Auto=Auto 指定時 / Set:# (# は手動選択時の指定 ID Number))

Input Sound = # : $$$

= 実際に選択された入力用 Sound device の ID Number
$$$ = device 名

Output Sound = # : $$$

= 実際に選択された出力用 Sound device の ID Number
$$$ = device 名

Input/Output Sound Device = System default

Voice in select 機能の Other 設定を ON に設定した。
この表示が出ている時には、OS のサウンド機能にて音量等の調整を行って下さい。

ログリスト一覧（つづき）

◎リモコン＆音声モニターソフト使用時に表示するログリスト

Browser connected from [xxxxx] IP:xxx.xxx.xxx.xxx

webブラウザーによるアクセス(Web Monitor機能)を受け付けた。
([xxxxx] : Remote control元のwebブラウザーの情報)
(IP:xxx.xxx.xxx.xxx : Remote control元のIPアドレス)

***Monitor* Connected (xxx.xxx.xxx.xxx)**

リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から接続(Connect)され、Remote control状態になった。
((xxx.xxx.xxx.xxx)部はRemote control元のIPアドレス)

***Monitor* Disconnected (xxx.xxx.xxx.xxx)**

リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)との接続が切断(Disconnect)された。
((xxx.xxx.xxx.xxx)部はRemote control元のIPアドレス)

***Monitor* ON AIR LOCK (xxx.xxx.xxx.xxx)**

リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から、ON-AIR LOCK状態を設定された。
((xxx.xxx.xxx.xxx)部はRemote control元のIPアドレス)

***Monitor* ON AIR UNLOCK (xxx.xxx.xxx.xxx)**

リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から、ON-AIR LOCK状態を解除された。
((xxx.xxx.xxx.xxx)部はRemote control元のIPアドレス)

***Monitor* Voice ON (xxx.xxx.xxx.xxx)**

接続中のリモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)から音声モニター機能の使用を開始した。
((xxx.xxx.xxx.xxx)部はRemote control元のIPアドレス)

***Monitor* Voice OFF (xxx.xxx.xxx.xxx)**

接続中のリモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)からの音声モニター機能の使用が停止された。
((xxx.xxx.xxx.xxx)部はRemote control元のIPアドレス)

◎ Room 開設用ログリスト

自局で開設しているRound QSO Roomの管理log画面(Round QSO Room log)に表示される内容。

XXXXXX(####) IN.

自局Round QSO RoomへNode局が接続(Connect)した。

XXXXXX(####) OUT.

自局Round QSO Room接続中のNode局が切断(disconnect)した。

XXXXXX(####) Node Mute.

Node局(####)からの音声配信を禁止(Mute)した。
(Muteボタン操作や、MyRoom access list(Group window)上からのMute操作などを行うと表示されます)。

XXXXXX(####) Node Mute released.

Node局(####)の音声配信禁止(Mute)設定を解除した。
(MyRoom access list(Group window)上からMute操作を行い、Mute設定を解除すると表示されます。)

XXXXXX(####) Node Remove.

Node局(####)を強制切断(Disconnect)した
(Removeボタン操作や、MyRoom access list(Group window)上からのReject操作などを行うと表示されます。)

ログリスト一覧（つづき）

XXXX>#### test

自局 Round QSO Room 内での chat 履歴。

XXXXXX(####) TX Timeout(relay stopped.)(over 3min).

連続送信が３分以上続いた為、該当 Node 局からの音声配信を中止(Mute)した。

Connect Request From XXXX Reject.

自局 Round QSO Room への接続拒否(Reject)設定をしている局からの接続要求を受けた。
(接続拒否(Reject)の処理を行い、上記メッセージを log に出力します。)

Connect Request From XXXX but connect MAX.

自局 Round QSO Room へ接続中の Node 局数が上限値(Maximum stations の設定値)に到達している状況で、さらに別の Node 局から接続要求を受けた。
(上限値を越える場合、接続拒否(Reject)の処理を行い、上記メッセージを log に出力します。)

Mute ID list update [XXXX,####],[None]

Mute ID list の情報が更新された。(Mute/Save ボタン操作時や、MyRoom access list(Group window)からの Mute 操作時)
(該当する Node 局が存在しない場合には、“None”表示。)

Reject remove ID list update [****: XXXX,####,...]**

Reject remove ID list の情報が更新された。(Remove/Save ボタン操作時及び、MyRoom access list(Group window)からの Reject 操作時)
Reject remove ID list チェックボックスの設定により、
[Permit: XXXX,####,...] : OFF(接続許可)設定
[Reject: XXXX,####,...] : ON(接続拒否)設定
(XXXX 部、#### 部に該当する Node 局の ID 番号を表示する。該当する Node 局が存在しない場合には、"None" 表示。)

付録

Remote monitor で制御できる機能

WIRESMON.EXE(WiRES-II リモコン＆音声モニターソフト)で、遠隔地から下記の操作を制御することができます。

- NET 接続時の通話音声のモニター
- 接続先の表示
- PTT 制御(送信禁止及び解除)
- WIRES-II.exe の再起動
- web monitor 機能

なお、詳細は WIRESMON.EXE(WiRES-II リモコン＆音声モニターソフト)に添付されている取扱説明書（WIRESMONI1500j.TXT）または八重洲無線株式会社の WiRES ホームページをご覧ください。

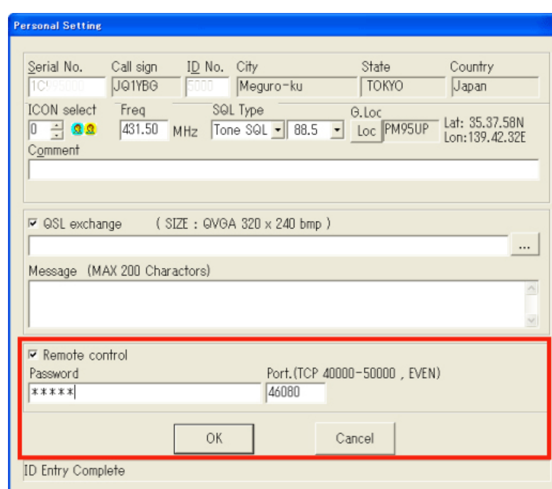
注 意

Password は Remote monitor と WiRES-II 本体と同じ内容になっている事を確認してください。

Port. は Remote monitor と WiRES-II 本体が同じ 46080 になっているか確認してください。40000 ～ 50000 であれば違う Port. を指定することもできます。

◎ WiRES-II 本体の設定

1. あらかじめ WiRES-II.EXE を立ち上げ [**File**] - [**Personal settings**] で Personal settings 画面にします。
2. 赤枠内の Remote control にチェックを入れ、Password と Port. を入力し、 OK をクリックします。



◎ WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトのインストールとの設定

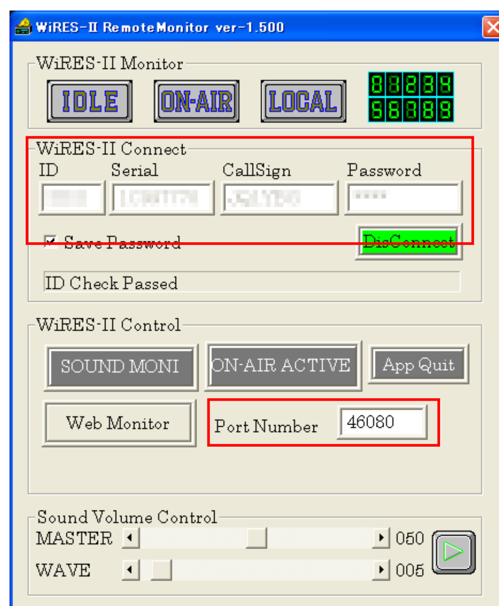
WiRES-II 本体と違うパソコンに WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトをインストールしてください。

1. ダウンロードサイトから、wiresmon1500j.zipをダウンロードして、任意のフォルダに保存します。
2. 任意のフォルダに保存した、wiresmon1500j.zip をダブルクリックして開き、ファイル内に見えているwiresmon フォルダを任意のフォルダへコピー(展開)します。
  （Windows2000 環境では、zip ファイルの展開ツールを別途ご用意ください。）
  これでインストールは完了です。

インストールされるファイル

WIRESMON.EXE：WiRES-II remote monitor 本体
WIRESMON.INI：WiRES-II remote monitor 環境設定 file
(初回起動時、WIRESMON.EXE により自動生成されます。)
WIRESMON1500j.TXT：WiRES-II remote monitor manual(当 text file)

3. wiresmon フォルダ内に展開された、WIRESMON.EXEを起動すると、WiRES-II Remote Monitor の画面が開きます。
4. Personal settings で入力した Password、Port.、ノード局のシリアル番号、ID 番号、コールサインの情報をあらかじめ入力しておきます。Save Password にチェックを入れると、パスワードを保存することができます。
5. モニタソフトの終了は、画面右上の“ ”をクリックします。
6. WiRES-IIリモコン＆音声モニターソフトの使い方は次ページを参照してください.



◎アンインストール

上記のインストールされるファイルと wiresmon フォルダを削除してください。

付録

Remote monitor で制御できる機能　(つづき)

◎ OS が Windows 2000 / XP の場合

① WiRES-II Monitor
接続先の表示をします。

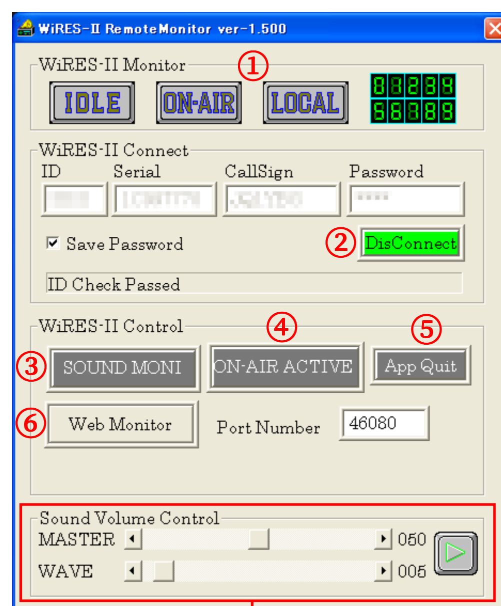
② [Connect / Dis Connect] Button
あらかじめ決めてある Node 局を Connect/ または Dis Connect することができます。

③ [SOUND MONI] Button
NET 接続時の通話音声のモニターをします。

④ [ON-AIR ACTIVE] Button
PTT 制御(送信禁止及び解除)をします。

⑤ [App Quit] Button
WiRES-II.exe の再起動をします。

⑥ [Web Monitor] Button
Web ブラウザー（Internet Explorer 等）で表示します。



モニタソフトを動かしているパソコンのモニタ音声レベルを調整します。

MASTER: モニタソフト用パソコン上のマスターボリュームを調整します。

WAVE: モニタソフトパソコン上の WAVE 音声のボリュームを調整します。

注 意

Sound Volume Control のレベル調整は、あくまでもモニタソフト上で再生音のレベル調整であるため、WiRES-II 本体側の音声レベルには影響しません。

WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトは Node to Node 専用です。Round QSO Room には使用できません。

この注意事項は，Windows Vista/7 も同様です。

◎ OS が Windows Vista / 7 の場合

① WiRES-II Monitor
接続先の表示をします。

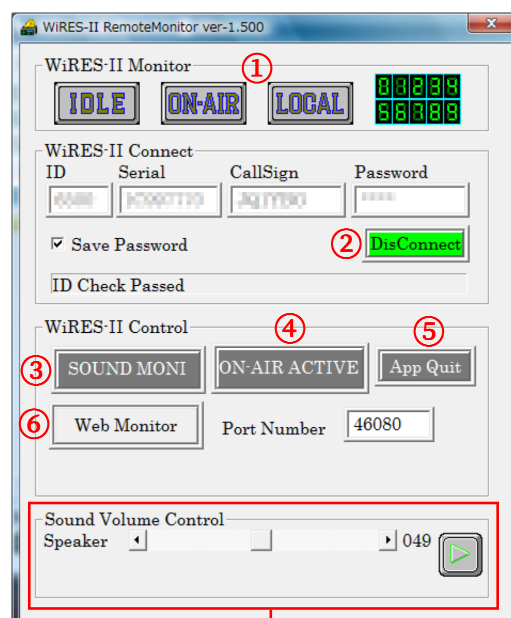
② [Connect / Dis Connect] Button
あらかじめ決めてある Node 局を Connect/ または Dis Connect することができます。

③ [SOUND MONI] Button
NET 接続時の通話音声のモニターをします。

④ [ON-AIR ACTIVE] Button
PTT 制御(送信禁止及び解除)をします。

⑤ [App Quit] Button
WiRES-II.exe の再起動をします。

⑥ [Web Monitor] Button
Web ブラウザー（Internet Explorer 等）で表示します。



モニタソフトを動かしているパソコンのモニタ音声レベルを調整します。

Speaker: WiRES monitor software (WiRESMON.exe) 専用の再生ボリュームとして動作します。

ヒント

Windows Vista/7 の場合には、アプリケーション毎に専用ボリュームが OS から用意され、その専用ボリュームを Speaker にて制御します(OS 全体のマスターボリュームは制御されないので、あらかじめ OS 全体のマスターボリュームは調整しておく必要があります。)

Web monitor で監視できる機能

WIRESMON.EXE(WiRES-II リモコン＆音声モニターソフト)で､別の場所で稼働しているWiRES-II system を internet 経由で遠隔地から監視や各設定の確認をすることができます。
Remote Monitor の Web Monitor をクリックすと Internet Explorer 等が立ち上がりメニュー画面が表示されます。

例として Settings をクリックすると Personal settings 画面が表示されの監視することができます。
なお、詳細は WIRESMON.EXE(WiRES-II リモコン＆音声モニターソフト)に添付されている取扱説明書（WIRESMONI1500j.TXT）または八重洲無線の WiRES ホームページをご覧ください。



メニュー画面



Personal settings **画面**

この web monitor 機能により、監視や設定の確認をする事ができる内容は下記のようになります。

◎ Node Log
◎ Room Log (Round QSO Room 開設時のみ)
◎ Chat Log
◎ Audio settings
- Voice in select
- Mixer In
- Sound In
- Mixer Out
- Sound Out

◎ Settings(各種設定情報)

＊ Personal settings の下記設定内容
- ID-No
- Callsign
- City/State/Country
- Freq
- SQL Type/Tone
- Grid square locator
- Grid square locator On list
- Latitude
- Logitude
- Latitude&Longitude On list
- Comment
- QSL exchange/Image name
- Message
- Remote Control

(Serial No./Remote control の password /port(TCP)の内容は出力されません。)

ヒント

◎ Node Log
自分の Node 局のログ画面をリアルタイムで監視することができます。
◎ Room Log
Roomのログ画面をリアルタイムで監視することができます。
◎ Chat Log
自分の Node の Chat 画面をリアルタイムで監視することができます。
◎ Settings
自分の Node 局の各設定状況を確認することができます。

付録

Web monitor で監視できる機能（つづき）

* **Group settings の下記設定内容**
  - ・SRG-list
  - ・FRG-B/FRG-C/FRG-D
  - ・Bookmark ID
* **Rejected IDs の設定局 ID list**
* **Sound settings の下記設定内容**
  - ・Sound ... OFF / WAVE[FILE 名] / CW[text] / VOICE の選択状態表示
  - ・CW Rate
  - ・CW Volume
  - ・CW Pitch
  - ・Voice Volume
  - ・Voice Rate
* **ID settings の下記設定内容**
  - ・Sound ... OFF / WAVE[FILE 名] / CW[text] / VOICE の選択状態表示
  - ・Interval time
  - ・ID timing reset every 0 minutes
  - ・ID timing
  - ・ID TX mode
* **HRI-100 setup の下記設定内容**
  - ・HRI-100 SP ATT
  - ・HRI-100 MIC ATT
  - ・PTT Ground
  - ・BUSY Ground
  - ・Call cancel
  - ・Call cancel delay time
* **Call options の下記設定内容**
  - ・SRG call lock/unlock (ON:lock)
  - ・Single digit command (0-9,A-D,* / ON:Enable)
  - ・FRG transmit (ON:Enable)
  - ・FRG group dispatch (ON:Enable)
  - ・FRG receive (ON:Enable)
  - ・Accept group calls (ON:Enable)
  - ・Round QSO Room connection
  - ・Accept calls while in Round QSO Rooms
  - ・Back to Round QSO after disconnect
  - ・Return to resident Round QSO Room
    No=Enable/ID/Start-End (Resident Round QSO Room ID & timer)
  - ・Resident TOT
  - ・Return time
  - ・Return counter
  - ・DTMF #55555 (Return Room cancel) command
  - ・DTMF * Disconnect
  - ・DTMF * Response
* **General settings の下記設定内容**
  - ・COM Port No.
  - ・SRG delay time
  - ・TX ON delay time
  - ・TX OFF delay time
  - ・TOT (TimeOut Timer)
  - ・Unlimited while in Round QSO Rooms
  - ・Voice memory
  - ・PTT-protocol ON:RTP OFF:UDP
  - ・Announcement (DTMF #66666 command)
  - ・Announcement (Connect request message)
  - ・Announcement (Round QSO IN/OUT)
  - ・Announcement (Room logon Node info)
  - ・Announcement (Freq info)
  - ・Announcement (Tone info)
  - ・Log-file save/Log-file name
* **Round QSO settings の設定内容（Round QSO Room 開設時のみ）**
* **MCU/Room-Info の設定内容（Round QSO Room 開設時のみ）**

WiRES-Ⅱ用語集

A

Active ID Window
画面左の真ん中のWindowには、WiRESサーバーと接続されているIDの一覧が表示されます。この画面ではオンラインになっているすべての局を表示します。
また、各項目名部分をクリックすると、Listの並び順を変更できます(Sort表示機能)。
Sort指定項目は項目名左側に“+”もしくは“-”の表示が入ります。
(“+”表示 = 昇順 / “-”表示 = 降順)

Announcement (#66666コマンドのIDアナウンスを送出するON/OFF)
DTMFの#66666コマンドの動作をON/OFFします。
ONに設定すると、DTMFコマンドに反応してIDアナウンスを送出します。

Announcement (Connect Request MSG)
Connect Requestを受け取った時のアナウンス送出をON/OFFします。
ONに設定すると、“Connect request from ****” といったアナウンスを送出します。

Announcement (Round QSO IN/OUT)
Round QSO RoomのIN/OUT時のアナウンス送出をON/OFFします。
ONに設定すると、“****IN/****OUT” といったアナウンスを送出します。

B

Bookmark ID
Group window上に追加表示したいWiRES局IDの番号や条件をテキストボックス内に入力します。
ID番号の条件は下記のように指定できます。
* 個別 指定 :“5109”→ 5109をGroup window上に表示
* 複数 指定 :“5109,6800,6900”→ 5109 6800 6900をGroup window上に表示
* 範囲 指定 :“6800-6999”→ 6800～6999までの局をGroup window上に表示
* “?”指定 :“10?0” : 1000 1010 ... 1080 1090をGroup window上に表示

C

Chat Window
文字によるチャット内容の日時、送信元、送信先が表示されます。
(半角英数字3000文字(全角漢字で1500文字)まで表示可能)。
なお、表示される内容は古い物から順番に消えていきます。またプログラムを再起動すると起動前の内容は表示されなくなります。
ここの内容を保存したい場合には、General settingsのLog-file save機能を使います。

Call options
WiRES無線局の呼出方法などを設定するホルダーです。

COM PORT No.
インターフェースボックス“HRI-100”を接続したコンピュータの「COM Port」番号を選択します。
WiRESメイン画面の「HRI-100」が赤色に点灯するときは、有効なCOMポートを設定してください。

Connect ID list
SRG/FRGの一斉呼び出し[A][B][C][D]時、及び、Round QSO Room接続時の接続局listを画面左上の領域にPOPUPで表示します。
表示される接続局の内の1局が送信すると、その局のIDを緑色反転表示します。

Convert PNG to BMP
QSL exchange機能により接続先Nodeから送られてきた画像は、PNG形式で保存されます。このPNG形式の画像を、BMP(ビットマップ)形式に変換する事ができます。

CW ID
定期的に送出するIDをCWで送出する場合に選択します。
TEXT：送信する文字を入力します。（欧文・数字・記号のみ）
なお、Rate,Volume,Pitchの各パラメータは、Sound settingsのCW設定に準じます。(必要であれば、Sound settingsのCW設定を変更してください。)
注意:CWの送信は第3級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

E

Export settings
WiRESに関するWindows Registry情報をfile(*.wsv)に保存します。

F

Font
各ID list(Group window、Active ID window、Round QSO Room window)の表示文字の書体(FONT)を変更できます。

G

Group Window
Group Window表示設定で指定されたNode局やRound QSO Room windowに接続しているNode局が表示されます。
また、各項目名部分をクリックすると、listの並び順を変更できます(Sort表示機能)。
Sort指定項目は項目名左側に“+”もしくは“-”の表示が入ります。
(“+”表示 = 昇順 / “-”表示 = 降順)

Group settings
ここでは、SRG(Sister Radio Group)やFRG(Friendly Radio Group)のID listの設定と、Group Windowにさらに表示したい局のlist(SRG/FRG/Bookmark ID list:SRG/FRGも含む)の設定等をおこないます。

H

HRI-100 SETUP
この画面では、HRI-100の各種動作に必要なパラメータを設定します。

I

ID settings
定期的にIDを送出する機能に関しての設定を行います。

Import settings
WiRESに関する各種設定情報を登録したfile(*.wsv)を選択して、Windows Registryへ読み込みます。
下記項目に関して、file内の情報とWindows Registry情報が一致しない場合、fileの設定情報の読み込みができません。
＊ ID番号とSerial Number

L

Log Window
WiRESサーバーとの接続状況やWiRES局の呼出や通信の状況などをこの画面に随時表示します。
なお、表示される内容は古い物から順番に消えていきます。またプログラムを再起動すると起動前の内容は表示されなくなります。
ここの内容を保存したい場合には、General settingsのLog-file save機能を使います。
なお、Round QSO Roomを開設している場合には、Round QSO Room管理用のlog画面に切り替える事も出来ます。切替は、View-Logのlog changeから行います。

M

Make List File
Group window、Active ID window及び、Round QSO Room window上に表示されているオンライン局の情報をhtml形式(テーブルレイアウト、もしくはタブ区切り)もしくはxml形式で出力します。
また、カンマ区切りテキスト(csv)形式で出力する事も可能です。
なお、出力dataの順序は、list画面で指定するsort(並べ替え)条件の影響をそのまま受けます。(画面表示と同じ順序で出力されます。)

MCU/Round QSO Room Info
運用中の自局 Round QSO Room に接続している WiRES 局の情報表示や各種設定をします。
(なお、この設定画面は、Round QSO Room を開設設定した時にのみ表示します。)

P

Personal settings
初期設定や公開する情報を入力するホルダーです。

PTT-Protocol
PTT コマンドのプロトコルを切り替えるスイッチです。

OFF(UDP) ： 処理負荷の軽い " UDP: User Datagram Protocol " で動作
ON（RTP) ： 送受信切替のタイミングを優先的に処理する " RTP: Realtime Transport Protocol " で動作。

通常は、チェックボックスにチェックマークが入っていない " UDP " で使用しますが、PTT コマンドが遅い場合には、" RTP " に切り替えます。なお、" RTP " に切り替えると、まれに音声が途切れる場合がありますので、その場合は、" UDP " に戻してください。

Q

QSL exchange
チェック BOX にチェックを入れると接続先の WiRES 局で画像を登録している場合、画像を表示することができます(View QSL window 機能)。
また自分で作成したビットマップ（BMP）画像（QVGA 320 × 240)を指定すると、接続した相手の WiRES 局へ自動的に画像を送ることができます。QSL カードを交換する感じで画像を作成してみてください。
なお、あまり大きな画像を設定すると、NET 接続に時間がかかる場合があります。
また、チェック BOX にチェックを入れた場合で、file を指定しなかった場合、起動ロゴに使用されている画像が使われます。

R

Rec & Play Indicator
Chat Window の左下のアイコンで、音声信号の録音、再生の状態を表示します。

Refresh List
ID リストは、数分毎にリストをリフレッシュしていますが、最新のリストを取得することができます。
起動時や、一度リフレッシュすると一定時間を経過しないと、リストをリフレッシュすることはできません。

Rejected IDs
接続拒否したい WiRES 局の ID 番号もしくはその条件を入力します。
ID 番号の条件は下記のように指定できます。

* 個別 指定 ： " 5109 " → 5109 との接続を拒否する。
* 複数 指定 ： " 5109,6800,6900 " → 5109 6800 6900 との接続を拒否する。
* 範囲 指定 ： " 6800 - 6999 " → 6800 ～ 6999 までの局との接続を拒否する。
* " ? " 指定 ： " 10?0 " ： 1000 1010 ... 1080 1090 との接続を拒否する。

Round QSO Room rejected ID
運用中の自局 Round QSO Room へ接続させたくない WiRES 局の ID 番号やその条件を入力します。
ID 番号の条件は下記のように指定できます。

* 個別 指定 ： " 5109 " → 5109 との接続を拒否する。
* 複数 指定 ： " 5109,6800,6900 " → 5109 6800 6900 との接続を拒否する。
* 範囲 指定 ： " 6800-6999 " → 6800 ～ 6999 までの局との接続を拒否する。
* " ? " 指定 ： " 10?0 " ： 1000 1010 ... 1080 1090 との接続を拒否する。

Round QSO Room rejected Remove ID list
上記Remove操作を行うと、このチェックボックス下のテキストボックス(Remove ID list)にそのID番号が自動的に入力されます。それらのID局をREJECTするかどうかをここで設定します)。
OFF ： Remove ID list上のNode局をREJECTしない。(再接続許可)
ON ： Remove ID list上のNode局をREJECTする。(再接続拒否)

Round QSO Room log change
自局でRound QSO Roomを開設している場合に、log windowに表示する情報表示の内容を切り替えます。

Round QSO Room settings
Round QSO Roomの各種設定を行います。
(なお、この設定画面は、Round QSO Roomを開設設定した時にのみ表示します)。

Round QSO Room Window
画面左下のWindowには、Round QSO RoomのIDが一覧表示されます。
また、各項目名部分をクリックすると、listの並び順を変更できます(Sort表示機能)。
Sort指定項目は項目名左側に“＋”もしくは“－”の表示が入ります。
(“＋”表示 ＝ 昇順 ／ “－”表示 ＝ 降順)

S

Sound Level Control
このレベルバーの調整により、コンピュータのサウンドカードの入出力音声の音量レベルを調整します。レベルバーの横には、0 - 100のレベルが数字で表示されます。

Sound settings
Connect時の出力音声の形式の選択と、各音声形式の細かいパラメータを設定します。なお、各音声形式毎の細かいパラメーター(CW pitchとかVoiceの音量など)はID Settingsの選択音声にも影響します。

SRG delay time
SRG接続でUNLOCK MODEの時internet上のWiRES局との接続状態(NETの状態)をPTT OFF状態のまま維持する時間を設定します。PTT OFFの状態が連続してこの設定時間以上続くと、自動的に接続を切断して、IDLE状態に移行します。

Status Bar
画面下部のステータスバーに状態や簡単な説明文を表示します。

Status Indicator
画面右側の部分で、WiRES softwareの通信状態を表示します。

T

TOT
FRG通信やRound QSO Roomでのインターネット接続を継続する時間を設定します。
またSRG通信でも通話モードが“LOCKモード”のとき、連続して通話できる時間を設定します。設定した時間が過ぎると、自動的にインターネット回線は切断されます。

TX on delay time
無線機を送信状態にさせた後、internetから受け取った音声を出力し始めるまでの遅延時間を設定します(頭切れ防止)。

TX off delay time
無線機のPTTがOFFになってからの送信遅延時間を設定します。
インターネット経由の送信コマンドが無くなっても、設定した時間だけ送信状態を保持します。
会話の最後が途切れるような場合には、設定時間を長くします。

WiRES-Ⅱ用語集（つづき）

U

Unlimited while in Round QSO Rooms

Round QSO Room へ接続時の TOT(Time Out Timer)による時間制限機能の動作をここで規定します。

ON(Unlimited) ： Round QSO Room 接続中は接続時間を制限しません。
OFF(Limited) ： Round QSO Room 接続中でも接続時間を制限をします。

なお、RETURN TO RESIDENT ROUND QSO ROOM 機能を使用している場合、条件により設定が無効になります。

V

VOICE ID

定期的に送出する ID をアナウンス(Voice)で送出する場合に選択します。
なお、Voice,Rate,Volume,Format の各パラメータは、Sound settings の Voice 設定に準じます(必要であれば、Sound settings の Voice 設定を変更してください)。
出力される内容は DTMF の #66666 コマンドと同じものが出力されます。
(自局が JQ1YBG の時の例)
未接続時 ： " This is JQ1YBG WiRES. Not connected. "
接続時の例 ： " This is JQ1YBG WiRES. Connected to 0510. "
注意:VOICE は Microsoft Speech がインストールされている場合のみ有効です。

Voice in select

無線機からの音声信号を入力する端子を選択します。
さらに、[MIC/LINE-IN LEVEL]のレベル調整バーで制御する入力デバイスも同様に切り替えます。
MIC ： MIC 端子からの音声入力を使います。
LINE-IN ： LINE-IN 端子からの音声入力を使います。

Voice memory

コンピューター内のボイスメモリーの動作を " ON/OFF " するスイッチです。
ボイスメモリーの動作を " ON " にすると（チェックボックスにチェックマークを入れると）、無線局がローカル動作しているときにインターネットを介して他の無線局から呼び出しを受けると、一時的に内容を録音し、ローカル動作が終了した時点で録音した内容を再生します。通常はこの状態（ボイスメモリー " ON "）で使用します。

W

WAVE ID

定期的に送出する ID を Wave File で供給する場合に選択します。
ここで使う音声データは、コンピュータに登録されている " WAV ファイル " であれば、どのような音（例えば自局のコールサイン）でも使用できます。右端のボタンを押すと file 選択画面が開きますので、希望の WAV ファイルが登録してあるディレクトリを選び、選択します。

Web monitor

リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)を起動し、[Web Monitor]ボタンを押すと、Remote monitor 用 PC 上で Web ブラウザーソフト(Internet Explorer 等)が起動し、ブラウザーソフト上から WiRES software(WiRES-II.exe)の稼働状態(log)や設定値(パラメータ)を確認する事が出来るようになります。

WiRES Plugin Menu

WiRES-II.exe 専用のプラグインソフトの動作設定を行います。

Q＆A一覧

接続，インストール編

Q1： ケーブルはWiRES-Ⅱキットに付属していますか？
Q2： LAN接続なのにDIAL UPでインストールしてしまいました。
Q3： HRI-100の電源として市販のDC12VのACアダプターを使用できますか？
Q4： 無線機側で何か設定する必要はありますか？

初期設定編

Q5： WIRES画面のHRI-100のインジケーターが点灯します。
Q6： WIRES画面のHRI-100インジケーター横のエラーインジケーターが赤く点灯します。
Q7： WIRES画面のLOCALインジケーターが トランシーバーの受信の有無に関係なく連続点灯します。
Q8： トランシーバーがPTTに関係なく連続送信になります。
Q9： WIRES個人登録ができません。
Q10：Propertyで設定した内容が反映されません。
Q11：グローバルIPが1つで、2台のHRI-100同時に使うことができますか？
Q12：SRG,FRGにIDを登録したけど左側にリストが出ません。
Q13：ルーターの設定方法はどのようにすればよいですか？
Q14：ファイアウォールソフトの設定方法はどのようにすればよいですか？
Q15：ルーターを設定しても使用できません。
Q16：ケーブルテレビでも使用できますか？
Q17：固定IPが必要ですか？

運用編

Q18：通話中、相手局からの電波が切れてします。
Q19：頻繁に通話の後ろが途切れます。
Q20：音声が途切れてしまう、または声が聞こえません。
Q21：AさんからBさんへは呼び出し可能、しかしBさんからAさんを呼び出すことができません。
Q22：呼び出し時に、相手からの応答が無く[MCU Call Canceled]というメッセージが表示される。
Q23：呼び出し時に、相手からの応答が無く[Socket Connection Canceled[ ]Code=0]というメッセージが表示される。
Q24：呼び出し時に相手からの応答が無く[No answer from called PC]と表示されます。
Q25：相手局から音が小さいまたは過変調になっていると言われました。
Q26：相手局の音が小さいまたは大きすぎる。
Q27：他のWiRES-Ⅱ局同士のQSOがそのままそのまま聞こえてきます。
Q28：WiRES-Ⅱを使用していない局が勝手に一斉呼び出しをしてしまいます。
Q29：交信途中でリンクが切れてしまいます。
Q30：Comment欄に日本語は使用できますか？
Q31：WiRES-Ⅱの運用周波数はどこにすれば良いのでしょうか？
Q32：ローカルのWiRES-Ⅱ局と同じ周波数で運用することはできますか？
Q33：リモコン＆音声モニターソフトver1.200(wiresmon.exe)以前はWiRES-IIソフト(wires-II.exe ver3.300)以上に使用することができますか？
Q34：リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe ver1.400)でWiRES-Ⅱへアクセスしたら，ログ画面に新しいメッセージが追加されました詳細は？

登録編

Q35：自宅と転勤先でそれぞれID登録を行いたいのですが可能ですか。
Q36：旧VerのWiRESソフトで運用できますか？

Q & A

接続，インストール編

Q1 ケーブルは WiRES- II キットに付属していますか？

A HRI-100 と PC を接続する RS-232C ケーブルと MIC/SP ケーブル、HRI-100 とトランシーバー間を接続するパケット（DATA）ケーブル、DC 電源ケーブルを付属しています。ただし、DATA 端子の無いトランシーバーに接続する場合、トランシーバーに合わせてケーブルを作成してください。ただし、トランシーバー内部からスケルチ信号を取り出す場合、各自の責任において行ってください。また、技適機種により免許されている場合は、改造に伴い TSS の保証認定にて変更申請が必要になることもあります。詳細は , 改造した内容をお話の上、TSS へお問い合わせください。 COM 端子のない PC については、市販の USB シリアルコンバーターを利用することも可能ですが、当社のサポート外ですので、各メーカーにお問い合わせください。

Q2 LAN 接続なのに DIAL UP でインストールしてしまいました。

A 再度、インストールし LAN 接続を選択してください。

Q3 HRI-100 の電源として市販の DC12V の AC アダプターを使用できますか？

A 電圧、電流など異なる場合、本体に損傷を与えたり、正常に動作しないことがありますので、使用することはできません。安定化電源または、オプション専用電源 NC-72A をご使用ください。

Q4 無線機側で何か設定する必要はありますか？

A 使用する無線機によって設定が必要になることもあります。特にオールモード機では、以下のことにご注意ください。

- WiRES-II インターフェイス(HRI-100)に FT-857、FT-897 を接続する場合は、同機のモードは「FM」、メニューモード“ No.022 CW AUTO MODE ”は「OFF」の状態でご利用ください。この機能が「ON」になっていると、無変調になり、サイドトーンの音がします。
- WiRES-II インターフェイス(HRI-100)に FT-817 を接続する場合は、同機のモードを「PKT」の状態でご利用ください。FM モードのままでは、無変調になります。

初期設定編

Q5 WiRES 画面の HRI-100 のインジケーターが赤色に点灯します。

A HRI-100 の電源は入っていますか。 シリアルケーブルは抜けていませんか。
General Setting タブの“ COM Port No. ”は合っていますか。
以上を確認の上、設定を変更したときは、[WRITE] をクリックして、一度 WiRES ソフトを再起動してください。

Q6 WiRES 画面の HRI-100 インジケーター横のエラーインジケーターが赤く点灯します。

A WiRES 画面の [**File**]→[**Property**] で各種設定画面を表示して、HRI-100 Setup タブの左下にある HRI-100 Information をクリックしてください。設定を確認して ,WRITE をクリックして OK にして、右上の X をクリックすると WiRES ソフトが再起動します。

Q7 WiRES 画面の LOCAL インジケーターが トランシーバーの受信の有無に関係なく連続点灯します。

A 無線機のスケルチが開いていませんか。
スケルチが閉じても解消しないときは、WiRES画面の [**File**] - [**Property**] で各種設定画面を表示して HRI-100 setup の BUSY Ground の項目を LOW の場合は HIGH、HIGH の場合は LOW に変更してください。設定後は、[WRITE] をクリックしたあと [OK] をクリックして設定画面を閉じてください。

付録

Q & A（つづき）

Q8 トランシーバーが PTT に関係なく連続送信になります。

A WiRES 画面の[**File**]→[**Property**]で各種設定画面を表示して HRI-100 Setup タブの PTT の項目が LOW の場合は HIGH、HIGH の場合は LOW に変更してみてください。

Q9 WIRES 個人登録ができません。

A WiRES Activation の入力画面の下に Server or ID Not Found、ID unmatch などのエラーが出るときは、登録したシリアル番号と 4 桁の ID 番号をもう一度確認してください。
入力後 ID ENTRY をクリックしましたか？
また、インターネット接続ができていない場合や,ルーターをご使用の場合のルーターの設定やPC の ファイアーウォール機能により通信が制限されている場合も、登録できないことがあります。後述のルーター、ウィルス対策ソフトの設定に関する説明も参照してください。

Q10 Property で設定した内容が反映されません。

A 各設定値を変更した場合は必ず、OK または WRITE をクリックしてください。

Q11 グローバル IP が 1 つで、2 台の HRI-100 同時に使うことができますか？

A WiRES-II 1-Node につきグローバル IP が 1 つ必要になります。

Q12 SRG,FRG に ID を登録したけど左側にリストが出ません。

A Group settings の登録画面で ID を入力後、OK をクリックし、[**View**]→[**Group window**]→[**SRG/FRG/Bookmark list**]を選択しましたか？

Q13 ルーターの設定方法はどのようにすればよいですか？

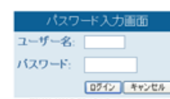
A WiRES-II の運用を行う為には、稼働させる PC がネットワークの UDP ポート 40000 － 50000 を使い、インターネット回線との通信ができる必要があります。
一般的なルーターを介している場合、UDP ポート 40000 － 50000 を使った通信は許可されていないので、PC とインターネット回線の間で通信が許可される様に、ルーターへ設定を行う必要があります。

◎ルーター使用時の UDP ポートによる通信を許可する設定の方法

UDP ポートの 40000 － 50000 ポートを使った通信を許可する為の、ルーターへの設定方法は、お手持ちのルーターの取扱説明書をご覧下さい。
なお、ルーターのメーカーにより、「アドレス変換」「NAT」等、設定項目の呼び方が異なる場合があります。
各ルーターの設定方法に関するお問い合わせは、各メーカーサポートへお問い合わせ下さい。
なお、DMZ による設定は、全てのポートが解放され、セキュリティ上お勧めできません。
また正常に動作しない事もありますので、ご注意ください。

◎ルーターの UDP ポート（40000-50000）の通信許可設定の例（Buffalo 社製 BBR-4MG の場合）

1. ブラウザーソフト(Internet Explorer、Firefox など)から、ルーターの IP アドレスへアクセスし、ルーターへログインします。



2. トップメニューが表示されたら、アドバンスト(詳細設定)をクリックします。







付録

3. 詳細設定画面が表示されたら、ネットワーク設定をクリックし、その中にあるアドレス変換をクリックします。
4. アドレス変換設定を「使用する」に設定します。
5. アドレス変換テーブルの所にある、[アドレス変換ルールの入力]ボタンをクリックします。

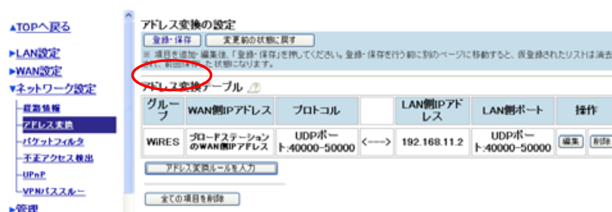


6. アドレス変換テーブルの追加 画面が表示されるので、下記の様に入力します。
   ・**グループ**: 新規追加を選び､適当なグループ名を入力します。
   ・**WAN 側 IP アドレス**: 初期値(ブロードステーションの WAN 側 IP アドレス)のままとする。手動設定は空欄にします。
   ・**プロトコル(WAN 側)TCP/UDP ポート**: 任意の UDP ポートを選択し、任意のポートの所に 40000-50000 を入力する。
   ・**LAN 側 IP アドレス**: WiRES software を動かす PC の IP アドレスを入力する。(例では 192.168.11.2)
   ・**プロトコル(LAN 側)TCP/UDP ポート変換**: 任意のポートの所に、40000-50000 を入力する。



   全て入力したら､[ルールを追加] ボタンを押します。

7. 表示される確認画面の内容が正しい事を確認し､[登録・保存]ボタンを押して確定します。



8. WiRES-II リモコン＆音声モニターソフトを使う場合、Web monitor 用のアドレス変換ルールも追加します。
   ・**グループ**: 新規追加を選び、UDP ポートと異なるグループ名を入力します。
   ・**WAN 側 IP アドレス**: 初期値(ブロードステーションの WAN 側 IP アドレス)のままとする。手動設定は空欄にします。
   ・**プロトコル(WAN 側)TCP/UDP ポート**: 任意の TCP ポート を選択する。任意のポートの所に、46080※を入力する。
   ・**LAN 側 IP アドレス**: WiRES software を動かす PC の IP アドレスを入力する。(例では 192.168.11.2)
   ・**プロトコル(LAN 側)TCP/UDP ポート変換**: 任意のポートの所に、46080※を入力する。



※：File - Personal settings の中にある Remote 設定の Port の番号と同じ番号を入力します。

付録

全て入力したら、[ルールを追加] ボタンを押し、確認画面で[登録・保存]ボタンを押します。



9. 設定が完了したら、設定されたアドレス変換テーブルの内容を確認します。
(画像はモニタソフトの設定も行った場合の画面)



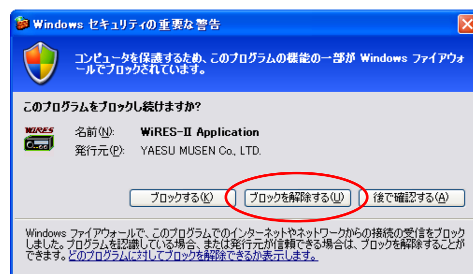
Q14 ファイアウォールソフトの設定方法はどのようにすればよいですか？

A ファイアウォールソフトを使用している場合には、プログラムに合わせて UDP ポート 40000 から 50000 の開放設定が必要になります。最近のファイアウォールソフトはアプリケーションソフトごとにポートの設定ができるようになり、設定も簡単になりました。
下記の設定例はOS標準のWindowsファイアウォールの説明です。各社ファイアウォールソフトの設定方法については、各ファイアウォールソフトの取扱説明書をご覧になるか、各ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

◎ Windows ファイアウォール設定例（Windows XP SP2 以降）

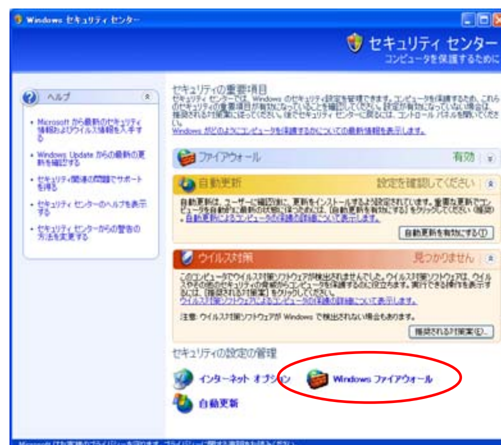
1. 初めて WiRES-II.exe を起動すると、右記のような「Windowsセキュリティの重要な警告」画面が現れます。
2. “ブロックを解除する”を選択します。
“ブロックする”を選択すると、WiRES-IIによる通信ができなくなりますのでご注意ください。

※ Windows7は“アクセスを許可する”を選択します
(各OS毎の設定は画面は16ページ参照)。



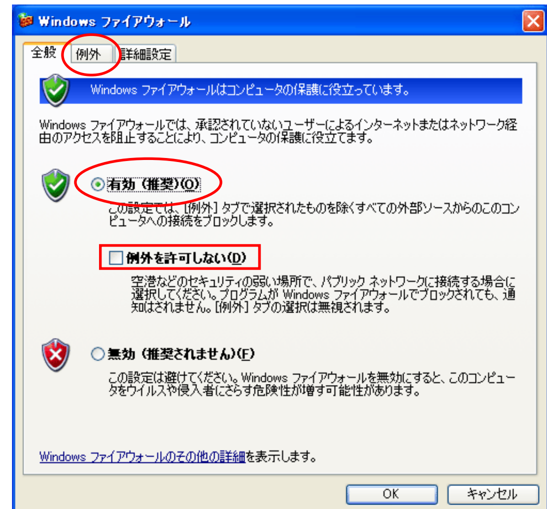
◎“ブロック設定の回避方法（Windows XP SP2 以降）

1. 「セキュリティセンター」の画面を開き、“Windowsファイアウォール”をクリックします。

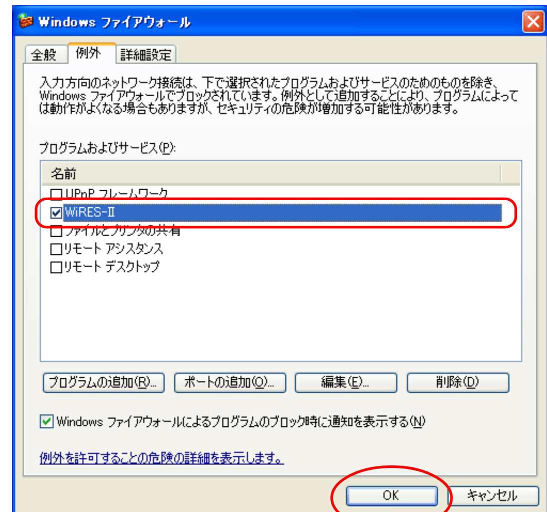


付録

2. 「Windows ファイアウォール」の全般画面を開き、“ 有効 ” に “ ・ ” を入れます。
“ 例外を許可しない ” にレ点が入っていないことを確認してください。



3. 「Windows ファイアウォール」の例外画面を選択します。
4. 「WiRES-II」にレ点を入れます。
5. 「OK」をクリックして設定は終了です。



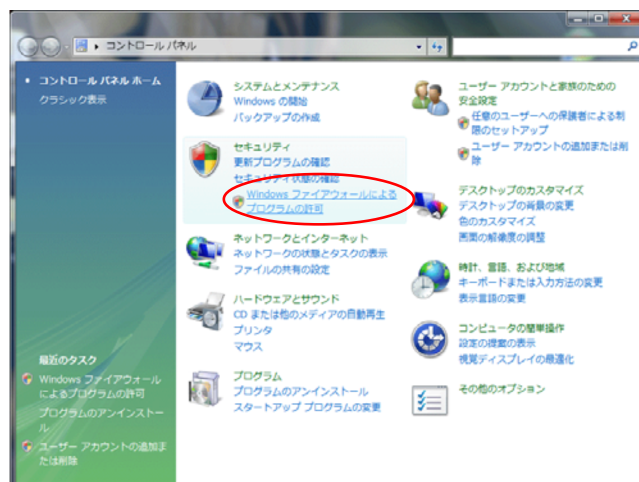
付録

Q & A（つづき）

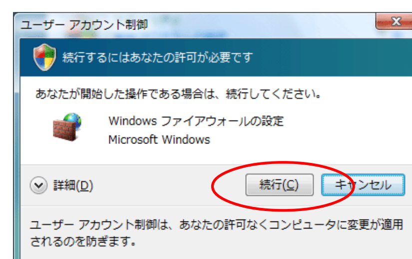
◎ブロック設定の回避方法（Windows Vista）

1. コントロールパネルを開きます。

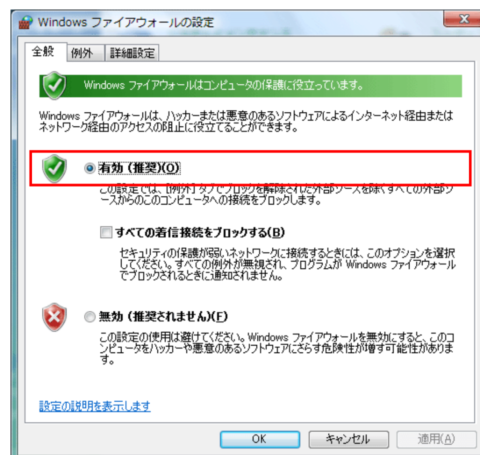
2. セキュリティの所にある、“Windows ファイアウォールによるプログラムの許可”をクリックする。



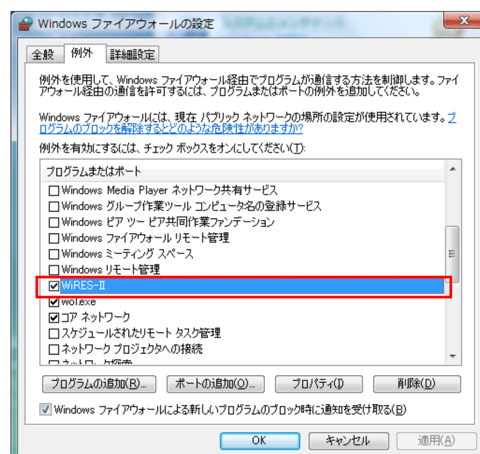
3. ユーザーアカウント制御画面が出たら、[続行]ボタンをクリックする。



4. 「Windows ファイアウォール画面の全般タブをクリックし、“有効(推奨)”を選択します。



5. 例外タブをクリックし、WiRES-II を探し、チェックを入れ、[OK]をクリックする。



付録

◎ブロック設定の回避方法（Windows 7）

1. コントロールパネルを開きます。

2. システムとセキュリティをクリックします。



3. 「Windows ファイアウォールの所にある、“ファイアウォールの状態の確認” をクリックします。

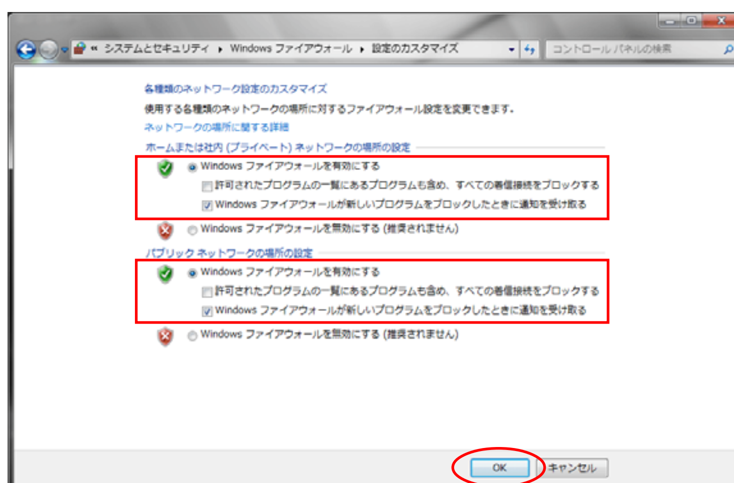


4. 中程にある“「Windowsファイアウォールの状態”が、“有効" である事を確認します。(有効の場合、各ネットワークが緑色表示となり、無効の場合は赤色表示になります)。



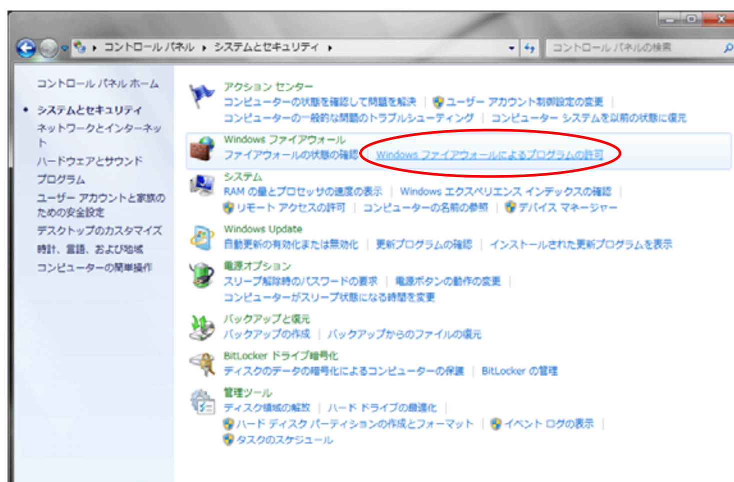
付録

もし、無効だった場合には、左にある、“ Windows ファイアウォールの有効化または無効化 ”をクリックし、“ Windows ファイアウォールを有効にする ” に設定を変更します。（WiRES software は、“ パブリックネットワークの場所の設定 ”が関係しますが、画面上にある２つの設定は両方とも有効にする事を推奨します。）

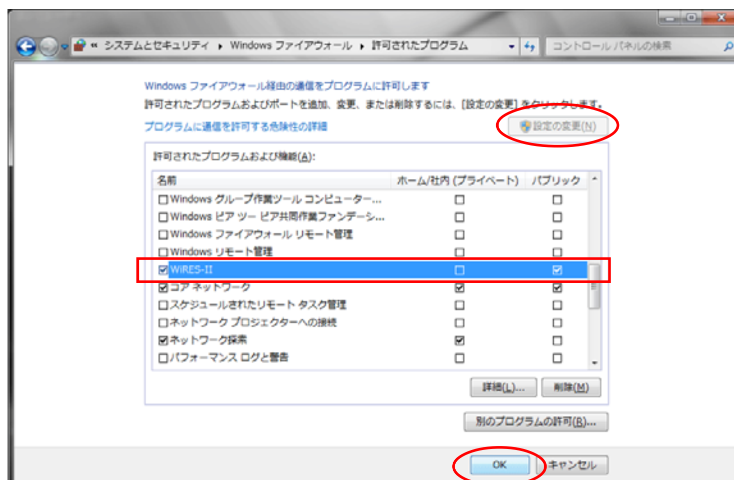


5. 「OK」をクリックして設定を終了です。

6. システムとセキュリティの画面へ戻り、“ Windowsファイアウォールによるプログラムの許可 ” をクリックします。



7. 許可されたプログラム画面が出るので、[設定の変更]ボタンをクリックする。
8. リスト内から、WiRES-IIを探し、名前の左側と、右側のパブリックの所にチェックを入れ、[OK]をクリックして設定は終了です。



Q15 ルーターを設定しても使用できません。

A WAN 側の IP はグローバル IP になっている必要があります。

Q16 ケーブルテレビでも使用できますか？

A プロバイダーからグローバル IP が付与されていれば使用できます。

Q17 固定グローバル IP は必要ですか？

A グローバル IP は固定である必要はありません。

運用編

Q18 通話中、相手局からの電波が切れてします。

A WiRES-II では、２種類のタイマー機能があります。

■リンクの制限時間

これは、各 WiRES-II 局がそれぞれ設定している Time Out Timer により他の WiRES-II 局とリンクしている時間を制限するものです。 設定できる時間は、5 分から 60 分です。リンクしている 2 局の WiRES-II 局のうち、設定時間が短い局が優先されます。 そのため、制限時間になると自動的にリンクが切断されます。

■ HRI-100 による連続送信 3 分制限

HRI-100 には、連続送信時間をカウントして約 3 分で送信を停止（PTT を OFF）にするハードウェアタイマーがあります。そのため、1 局が約3分以上連続で話を続けるとリンク先のWiRES-II 局の送信が自動的に停止します。これにより、 ノイズなどにより誤動作で送信状態が続いたときなどの安全対策にもなります。なお、リンク先の WiRES-II 局からの送信命令が切れるまでは、リンク中の送信は行われません。 一旦、送信が停止すれば、その後は正常動作に戻ります。

Q19 頻繁に通話の後ろが途切れます。

A General setting タブの TX-off delay time の値を上げてみてください。
初期値は 500msec です。 また、サウンドカードのサンプリングレートが 8kHz に対応しているか確認してください。詳細は、サウンドカードの取扱説明書をご覧下さい。

Q20 音声が途切れてしまう、または声が聞こえません。

A ルーターをご使用の場合 , ルーターの IP マスカレード、バーチャルサーバー、ファイアーウォールなどの設定を確認してください。IP マスカレード、バーチャルサーバーの設定では、UDP のポートの 40000-50000 にて通信を許可する必要があります。詳しくは、Q13 の説明や各ルーターの取扱説明書をご覧ください。
また、PC のファイヤーウォール機能により、通信が制限されている場合もありますので Q14 等を確認して、通信を許可してください。
それでも聞こえない場合は、サウンドカードの仕様によりまれに付属のモノラルピンで接続できないことがあります。ステレオピンへの変換プラグ等をお使い下さい。

Q21 A さんから B さんへは呼び出し可能、しかし B さんから A さんを呼び出すことができません。

A セキュリティソフトのインターネット接続制御を中または OFF にすると解決する事があります。

Q22 呼び出し時に、相手からの応答が無く [No Entry ON ILS Server] というメッセージが表示される。

A 相手がオフラインになっている可能性があります。

Q23 呼び出し時に、相手からの応答が無く [Socket Connection Canceled[ ]Code=0] というメッセージが表示される。

A 相手が BUSY 状態の可能性があります。

Q24 呼び出し時に相手からの応答が無く [No Answer from called PC] と表示されます。

A 相手局の PC で WiRES-II のソフトが正常に動作していない可能性があります。例えば , 相手側のセキュリティーソフトのファイアウォールやインターネット接続制御が ON または高になっていて、通信が遮断されている場合があります。Q14 の対応を行うことにより解決することがあります。

Q25 相手局から音が小さいまたは過変調になっていると言われました。

A 画面右下のスライドMIC/LINE-IN LEVELのバーを左(小さく)/右(大きく)にスライドして適正なレベルに調整してください。ただし、相手局の受信音の調整が最適な状態に限ります。相手局が適正で無い場合は、他のWiRES-II局とリンクしたとき正常なレベルで無くなることがあります。音量の調整は「WiRES-II取扱説明書」の「ボリュームコントロールの設定」をご覧になり、同梱されているWiRES Voice Checkのソフトをインストールして、適性レベルに調整してください。

Q26 相手局の音が小さいまたは大きすぎる。

A 画面右下のスライドSP LEVELのバーを左（小さく）/右（大きく）にスライドして適正なレベルに調整してください。ただし、相手局の送信音の調整が最適な状態に限ります。音量の調整は「WiRES-II取扱説明書」の「ボリュームコントロールの設定」をご覧になり、同梱されているWiRES Voice Checkのソフトをインストールして、適性レベルに調整してください。

Q27 他のWiRES- II局同士のQSOがそのままそのまま聞こえてきます。

A WiRES-IIでは、Round QSO Roomで複数の局とラウンドQSOをしたり、一斉呼び出し（SRG(A)または、FRG(B,C,D)に登録してある局）でラウンドQSOを楽しむことができます。そのため、Round QSO Roomへ接続中だったり、DTMFでAからDまでの信号でリンクを開始した場合は、リンクされているWiRES-II局すべてに接続され、それぞれのWiRES-II局から一斉に音声が流れます。この状態では、リンクされている局のどこから送信してもすべてのリンク局へ音声が送信されます。
ラウンドQSOや不特定多数の局と交信する時には、とても便利な機能です。
しかしながら、リンクした局のいずれかの周波数で、WiRES-II利用者以外の局がQSOしていた場合、その音声もすべて聞こえてしまいます。そのため、WiRES-II利用者に次のような運用をお薦めください。
Round QSO Roomでは交信が終了したらすみやかに#99999または#9999Dの切断信号を送るようにしてもらいましょう。また、一斉呼び出しのときはFRG B,C,Dで呼び出し、応答してきた局があれば、相手局がアクセスしているID番号を聞いて、ここで一度切断してもらいます。
その後で、相手局から聞いたID番号へ接続しなおしてQSOすることをお薦めしてください。また、交信が終了したらすみやかに#99999または#9999Dの切断信号を送るようにしてもらいましょう。

Q28 WiRES- IIを使用していない局が勝手に一斉呼び出しをしてしまいます。

A 一般にQSOしている局の中には、DCSなどDTMF信号を利用して個別呼び出しをしている局があります。たまたま、WiRES-IIを運用している周波数で、数字やA-DのDTMF信号をWiRES-II局が受信してしまった場合、SRGの1-0または、A-Dに登録してあるID局へそのままリンクされてしまいます。これを回避する方法は、SRGまたはFRGを受け付けないように設定することはできます。これを解決するには、周波数を変えるかまたは、FRG一斉呼び出しを中止する方法があります。FRG　B,C,D一斉呼び出しを中止する方法は、以下の通りです。
[**File**]→[**Property**]→[**Call options**]にある、FRG group dispatchのチェックを外すことで、B,C,DのFRG一斉呼び出しを中止することができます。便利な機能なので、問題がなければ中止にしないようにしておきたいものです。

Q29 交信途中でリンクが切れてしまいます。

A WiRES-IIには、タイムアウトタイマーの機能があります。 デフォルトでは、10分となっており、自由に設定することが可能です。[**File**]→[**Property**]→[**General setting**]にある、TOT(Time out Timer)の数字を変更すると自動的に切断される時間を設定することができます。ただし、リンクしている2局間で、設定してある時間が短いほうを優先します。 自分が10分にしていても、相手局が5分ならば、5分で切断されます。
なお、WiRES-II局利用以外の局も運用している周波数を使用していることもあるため、簡潔な交信を心がけるためにも、TOTの時間はあまり長くしないようにしましょう。

Q30 Comment 欄に日本語は使用できますか？

A [**File**]→[**Personal ID**]の Comment 欄に日本語入力することはできますが、海外局が画面を見ると文字が化けてしまいます。そのため、半角英数字のみを使用するようにしてください。

Q31 WiRES-IIの運用周波数はどこにすれば良いのでしょうか？

A WiRES-II は、FM の音声を使用しています。

WiRES-II が運用できる VOIP 専用周波数が平成 21 年 3 月 30 日にバンドプランが総務省より施行されました。Nodeを設置する場合はバンドプランを守りローカルのVOIP局と混信しないよう十分注意して設置及び運用をしてください。

VOIP 専用周波数は下記の周波数になります。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報は JARL のホームページや JARL ニュース等でご確認ください。

● VOIP 専用周波数のバンドプランは下記のようになります（平成 21 年 3 月 30 日施行)。

50MHz 帯	52.00 ― 52.30MHz
144MHz 帯	144.50 ― 144.60MHz
433MHz 帯	430.70 ― 431.00MHz
1200MHz 帯	1294.60 ― 1294.90MHz

アマチュア無線バンド内の使用区分における下限および上限の周波数の扱いについては、

・上限(数値の大きい方)は当該周波数の区分に含み、

・下限(数値の小さい方)は含みません(呼出周波数は除く)

と規定されています（無線局運用規則 258 条の 2、平成 21 年総務省告示第 179 号)。

無線局運用規則第 257 条により、アマチュア無線バンドの上限および下限の周波数は利用できず、発射する電波の帯域幅によるはみ出しも禁止されていますが、アマチュア無線バンド内の使用区別ついては上記の規則が適用されます。

よって、上記範囲内であっても下限の周波数ではVoIP無線の電波を発射することはできません。

例えば 430MHz 帯の場合、下限周波数の 430.70MHz FM で送信を行うと、占有周波数帯幅の関係から 430.70MHz より低い周波数にも電波が発射され問題となります。

上限周波数の431.00MHzでは区分上は送信できる事になっていますが、隣接の周波数使用区分で運用する無線局とのトラブルが発生する可能性が高くなりますので、十分注意して運用を行ってください。

● 移動先の Node 局を使用する場合は、あらかじめ Node 局の情報（設置場所や周波数等）を調べておきましょう。

Node 局の情報は、八重洲無線のホームページ（http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html）WiRES-II ID リストで調べることができます。

付録

Q32 ローカルのWiRES- II局と同じ周波数で運用することはできますか？

A ローカルの２局がお互いに受信できる範囲にあり、この２局間でリンクが確立すると、同じ周波数でお互いに電波を受信するため、ループ状態になりタイムアウトになるまで送信し続けます。そのため、この２局間同士のリンクで使用することはできません。
それでは、ローカルの２局間のリンクでなければどうなるでしょうか？
２局のWiRES-II局にアクセスすることができる環境で、遠くのWiRES-II局へ接続する場合、最初にDTMFを受信しリンクした側のWiRES-II局が相手のWiRES-II局に接続します。そのため、ローカルにあるもう１局のWiRES-II局では、相手側がBUSYとなるため、リンクされません。

上記のことから、利用者がローカルのWiRES-II局同士のIDを送信しなければ問題なく使用できることになります。また、SRG,FRGに同じ周波数のローカル局を設定しておくと、一斉呼び出しのときに上記のような問題が生じますので、ご注意ください。
ローカル局とWiRES-IIを設置するときには、よく相談の上、トーンスケルチやDCS等を入れたりして、周波数を決めることをおすすめします。

Q33 リモコン＆音声モニターソフトver1.402(wiresmon.exe)以前は、最新版のWiRES-IIソフト(wires-II.exe ver3.510以上)に使用することができますか？ また、旧VerのWiRESソフトで運用できますか？

A 将来使用出来なくなります。

Ver3.510のリリースに併せ、新しいサーバーを稼動させています。
旧サーバーは2012年11月15日をもって停止いたしますが、停止後は新しいサーバー経由で運用することができます。
なお、新しいサーバーに対応していない旧バージョンのソフトでは、運用することができなくなりますのでご注意下さい。

新しいサーバーへ対応した最新版ソフトは以下の通りです(2012年２月現在)。

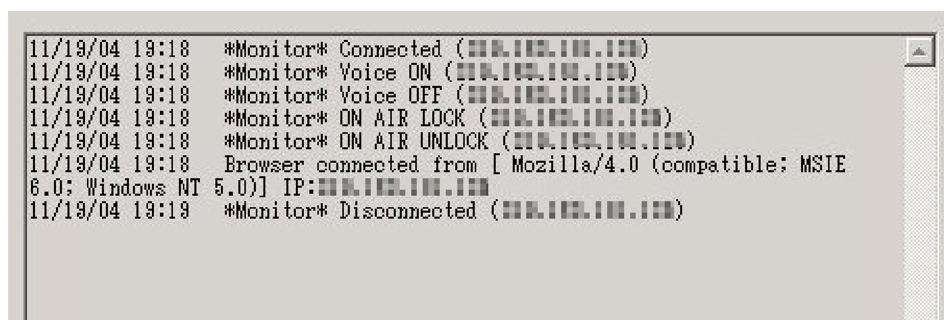
WiRES-II ソフト(WiRES-II.exe)	Version 3.510
Round QSO Room 認証ソフト(ROUNDQSO.exe)	Version 1.100
リモコン＆音声モニターソフト(WIRESMON.exe)	Version 1.500

付録

Q & A（つづき）

Q34 リモコン&音声モニターソフト(wiresmon.exe)でWiRES-IIへアクセスしたら，WiRES-IIのログ画面に新しいメッセージが追加されました。詳細は？

A リモコン＆音声モニターソフト(wiresmon.exe)で WiRES-II へアクセスすると、WiRES-II のログ画面に出てくるメッセージとして追加されます。



```
11/19/04 19:18   *Monitor* Connected ([redacted])
11/19/04 19:18   *Monitor* Voice ON ([redacted])
11/19/04 19:18   *Monitor* Voice OFF ([redacted])
11/19/04 19:18   *Monitor* ON AIR LOCK ([redacted])
11/19/04 19:18   *Monitor* ON AIR UNLOCK ([redacted])
11/19/04 19:18   Browser connected from [ Mozilla/4.0 (compatible; MSIE
6.0; Windows NT 5.0)] IP:[redacted]
11/19/04 19:19   *Monitor* Disconnected ([redacted])
```

(xxx.xxx.xxx.xxx)の部分は、リモコン＆音声モニターソフトで遠隔監視している端末の IP アドレスです。

- **Monitor* Connected**（xxx.xxx.xxx.xxx）:
  リモコン＆音声モニターソフトから[Connect]ボタンで接続して、監視を開始された時。
- **Monitor* Voice ON**（xxx.xxx.xxx.xxx）:
  リモコン＆音声モニターソフトから[SOUND MONI]ボタンを押して、青反転表示になった時(音声モニタ機能が動作開始をした時)。
- **Monitor* Voice OFF**（xxx.xxx.xxx.xxx）:
  リモコン＆音声モニターソフトから青反転した[SOUND MONI]ボタンを押して、グレー表示に戻した時(音声モニタ機能の動作を停止した時)。
- **Monitor* ON AIR LOCK**（xxx.xxx.xxx.xxx）:
  リモコン＆音声モニターソフトから[PTT ACTIVE]ボタンを押して、PTT LOCK(赤反転)表示にした時。(PTT が LOCK 状態になり、ON AIR を禁止した時)。
- **Monitor* ON AIR UNLOCK**（xxx.xxx.xxx.xxx）:
  リモコン＆音声モニターソフトから PTT LOCK(赤反転)ボタンを押して、PTT ACTIVE (グレー表示)に戻した時(PTT の LOCK 状態を解除し、ON AIR を許可します)。
- **Browser connected from**
  [Mozilla/4.0（compatible; MSIE 6.0; Windows NT 5.0)] IP:xxx.xxx.xxx.xxx :
  リモコン＆音声モニターソフトからweb monitor機能を使ってアクセスされた場合の表示。
  [ ]内は，アクセス中PCのwebブラウザーソフト(Internet Explorer 等)の version 情報が表示されます。
- **Monitor* Disconnected**（xxx.xxx.xxx.xxx）:
  リモコン＆音声モニターソフトから[DisConnect]ボタンを押して，監視を終了した時(Disconnect 時は，ボタン操作後，十数秒たってからログ画面に表示されます)。

登録編

Q35 自宅と転勤先でそれぞれ ID 登録を行いたいのですが可能ですか？

A クラブコールサインでは可能です。個人コールサインでは複数の ID 登録は出来ません。

付録

お問い合わせについて

WiRESについてのお問い合わせは，あらかじめ八重洲無線のWiRES-IIホームページ（http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html）で、「登録およびお問合せ」をクリックして、メールアドレス入力画面によりメールアドレスを登録してください。

登録すると、各種申請を行うサイトのアドレスが書かれたメールが届きます（下図参照)。

「5. その他（お問い合わせフォーム）」のアドレスへアクセスし、お問い合わせ内容をご記入いただきお送りください。

※本メールは、送信専用アドレスから自動送信されています。
直接ご返信いただいてもお問い合わせにはお答えできませんので、
あらかじめご了承ください。

WiRES webのご利用ありがとうございます。
申請したい項目のURLへアクセスしていただきますようお願い申し上げます。

＊メールアドレス：

1. WiRESの新規IDの取得申請(新規開局申し込み)
https://www.yaesu-

2. Round QSO Room IDの取得申請
https://www.yaesu-

3. WiRESの登録済IDの内容変更申請
https://www.yaesu-

4. WiRES IDの廃止申請
https://www.yaesu-

5. その他(お問い合わせフォーム)
https://www.yaesu-

※メールにお心当たりのない方は、お手数ですが、
下記、WiRESカスタマーサポートまでご連絡下さい。

八重洲無線株式会社　WiRESカスタマーサポート
〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル11F
TEL: 03-6711-4045　FAX: 03-6711-4272
受付時間　9:00-12:00/13:00-18:00　土日祝日、年末年始を除く
ホームページ: http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html
Mail address: wires@yaesu.com

八重洲無線株式会社では，お客様の意見をもとに，常によりよいサポート体制をめざしておりますが，お問い合わせ内容により，ご返事に多少時間がかかる場合があります．ご理解とご協力をお願いいたします．

定格（HRI-100 インターフェースボックス）

電源電圧:	直流 12V ± 10%，マイナス接地
SP ジャック（最大入力）:	500 mVrms @ 600 Ω
MIC ジャック（最大出力）:	500 mVp-p @ 600 Ω
RADIO ジャック:	TX AF IN：500 mVrms @ 600 Ω， DISC OUT：500 mVp-p @ 600 Ω， PTT：+5 V，マイナス接地
本体寸法:	111 mm（幅）x 25.4 mm（高さ）x 133 mm（奥行）
本体重量:	約 300g

付録



八重洲無線株式会社
〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル